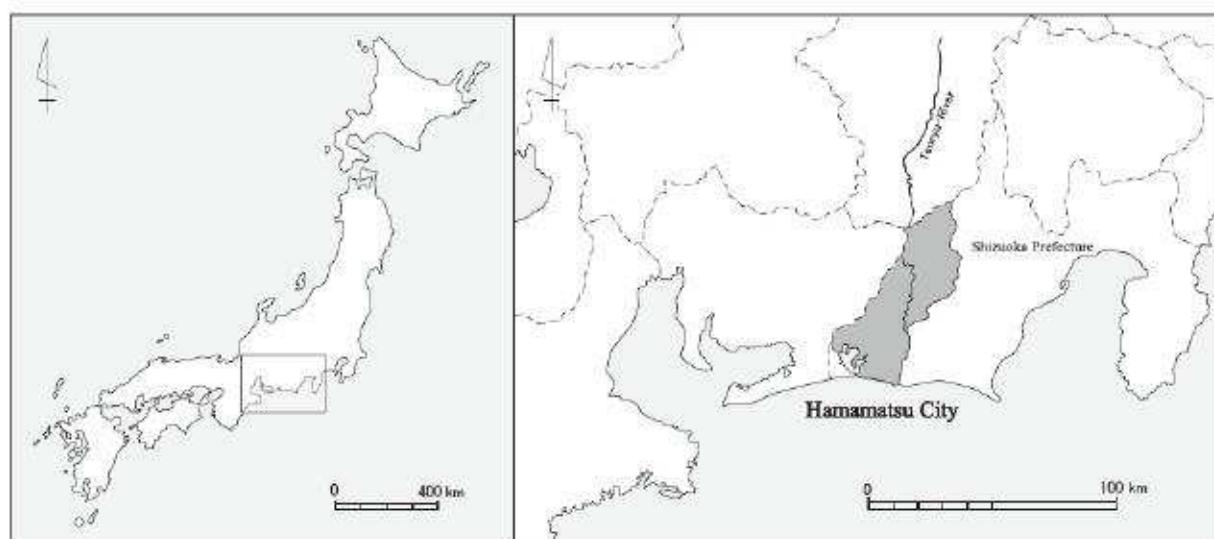


例　　言

1. 本書は、浜松市教育委員会(市民部文化財課が補助執行)が平成29(2017)年度に実施した市内文化財調査の報告集である。
2. 試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、本書には工事立会に伴う成果も含めた。
3. 本書は、第1部第1章に文化財保護事業報告、第2章に市内指定文化財等の動向、第3章に浜松市地域遺産センター年報、第2部第1章に埋蔵文化財調査の概要、第2章に本発掘調査概要、第3章に試掘・確認調査報告、第4章に工事立会報告、第5章に詳細報告を掲載した。第1部では、平成29(2017)年度に実施した市内文化財の保護、活用事業について報告しており、第1章には、市内文化財の保護事業報告、第2章には、平成29(2017)年度に新たに指定、登録された文化財の概要、平成29(2017)年度に実施した文化財の主な保存修復事業、平成29(2017)年度に認定された浜松地域遺産の一覧、第3章には浜松市地域遺産センターの概要及び平成29(2017)年度に実施した業務内容を掲載している。
4. 本書の編集は、北澤志織(浜松市文化財課)が行い、安川あや(浜松市文化財課)が補佐した。本書執筆は浜松市文化財課職員が分担して行い、第2部第5章のみ文責を文末に記した。ただし、第5章9の執筆は木村淳氏(東海大学)が行った。
5. 本書にかかわる遺跡の調査記録と出土遺物は、浜松市地域遺産センターで保管している。



浜松市の位置

平成 29 年度 浜松市文化財調査報告

目 次

例 言

平成 29 年度の文化財保護・活用事業の要点 1

【第 1 部 文化財年報】

第 1 章 文化財保護事業報告	3
第 2 章 市内指定文化財等の動向	11
1. 新指定	11
2. 新登録	13
3. 文化財の主な保存修復事業	16
4. 浜松地域遺産の認定	21
第 3 章 浜松市地域遺産センター年報	25

【第 2 部 埋蔵文化財調査報告】

第 1 章 埋蔵文化財調査の概要	33
調査位置図	33
調査一覧表	35
第 2 章 本発掘調査概要	37
第 3 章 試掘・確認調査報告	43
第 4 章 工事立会報告	75
第 5 章 詳細報告	85
1. 恒式西宮遺跡 18 次調査報告	85
2. 篠原町仲村遺跡 4・5 次調査報告	89
3. 陣座ヶ谷古墳群 1 次調査報告	97
4. 笠井若林遺跡 14 次調査報告	101
5. 中屋遺跡 12・13 次調査報告	104
6. 萩本遺跡踏査報告	110
7. 正樂寺岡遺跡分布調査報告	114
8. 宿蘆寺大澤家墓所 2 次調査報告	116
9. 浜松市北区三ヶ日町佐久米沖浜名湖内「高屋の瀬」第 1 次水中考古学調査報告	122
10. 浜松市内採集の陶馬	128

平成 29 年度の文化財保護・活用事業の要点

1 大河ドラマを契機とした歴史文化の掘り下げ

平成 29 年 1 月から 12 月まで放送された N H K 大河ドラマ「おんな城主 直虎」により、本貫地とした北区引佐町だけでなく、市内はじめ県内外の関係する土地が注目を集めた。井伊家と関わる史跡や名勝などの文化財のほか、奥山家、松下家や近藤家、大澤家などに関わる文化財、さらには主家となる今川家や徳川家に関わる城跡や古記録が再度注目された。文化財課では、前年から実施していた井伊谷城跡や、二俣・烏羽山城跡のレーザー測量、浜松城跡での発掘調査の成果を公開するなど、新たな史実によって、地域の戦国時代を明らかにした。地道な調査の積み重ねがフィクションにも厚みを増し、またフィクションも含めて地域の歴史への関心が増して、さらに歴史文化を深めるという相乗効果を実感した。さまざまな場面で「歴史を活かしたまちづくり」が提唱されるようになった年度と総括する。

2 新指定とまちづくりの機運

28 年度末に「二俣城跡・烏羽山城跡総合調査報告書」を刊行するなど準備を進めてきた二俣城跡及び烏羽山城跡が 29 年度中に答申を経て国史跡に指定された。これを受け、浜松市も「歴史まちづくり法」の適用を目指し、歴史的風致維持向上計画の策定に向けて胎動した。議会や天竜区でも関心の高い課題であり、「両城跡の国指定を契機に歴史まちづくり法の認定をめざす」と回答している。なお、文化財課では、歴史まちづくり法に向けた府内協議に参画するほか、両城跡の保存活用計画の策定に向けて事前準備に着手している。また、国の文化財保護法改正の動きを受けて、文化財保存活用地域計画の策定も進めている。この点は、静岡県が策定を明言した県の文化財保存活用大綱の準備と連携することを申し合わせている。

3 新たな国登録有形文化財

現ご当主のご理解を得て、東区有玉南町の高林家住宅 5 棟が新たに国登録文化財となった。高林家は、江戸時代には浜松藩の独礼庄屋を務めた旧家である。歴代当主のうち方明は賀茂真淵門下の内山真龍に国学を学び本居宣長に師事した。方明は時の浜松藩主・水野忠邦にも国学を進講している。また、近代の当主・兵衛は和時計のコレクターとしても知られていた。柳宗悦らと親交を深め、浜松における民芸運動に参画し、芹沢銈介らが集った。登録されたうちの 1 棟「田舎家」は、兵衛が邸内に建てた常設としては日本初の民芸美術館だったものである。

現ご当主の生活空間であり、邸内の見学はできないが、国登録への答申を受けて、地区の自治会と東区役所が協力して歴史展示会でも連報するなど、地域で新たな関心を呼んでいる。

4 認定文化財

28年度にひきつづき、地域の団体からの推薦を受け、浜松地域遺産を認定した。29年度は、新たに101件を認定し、2年間の合計では192件となった。指定文化財や国登録文化財以外で市内の文化財を広く顕彰していく制度として、策定に向けて準備している文化財保存活用地域計画や歴史的風致維持向上計画にも寄与するものである。また、将来的にはこれらの中から将来の指定文化財を見出す予備群としての性格ももつ。2年間の192件を例示として、今後もさらなる推薦を期待している。文化財課としての補助対象にはならないが、認定文化財を核として、地域力向上事業を提案し実現した例が生まれている。今後は、地域遺産センターでの情報開示をはじめ、認定文化財を広く知らせていくところが課題である。

5 埋蔵文化財

二俣・鳥羽山城跡の調査成果はもちろん、浜松城跡天守曲輪での石墨の検出、光明山古墳での葺石の検出など、新知見を得、現地見学会にはその都度大勢の方々にご来場いただいた。JR東海浜松工場内にて継続していた梶子遺跡（伊場遺跡群）の発掘調査が現地では一旦完結した。もとより浜松市を代表する遺跡群での継続調査は、従前の発掘成果も含めた再評価をうながしている。古代文字の集積や古代官衙のありよう、周辺環境など、広い視野に立った検討が求められる。

遺跡・遺物の再整理を含めた調査も、研究の進捗とともに地域の個性を際立たせている。

6 地域遺産センター

大河ドラマ開催に合わせた開館記念特別展の観覧者は、10万人となった。大河終了後には、井伊谷関連の展示空間を残しながら、名称どおり地域遺産を調査、紹介する施設として機能していく。静岡県立湖北高等学校ほか地元団体との連携事業、へりさんぽなどの参加型事業も好評である。

29年度の第4四半期には、奈良国立博物館との考古資料相互活用促進事業により、北区三ヶ町から出土し同博物館が所蔵する瓦塔と銅鐸を里帰り展示した。またこの間、同博物館にて浜松市内出土の馬形埴輪、鹿形埴輪、水鳥装飾付須恵器蓋という古代の動物意匠が紹介された。

第1部 文化財年報

第1章 文化財保護事業報告

1 文化財の調査と顕彰

(1) 浜松地域遺産の認定

地域での貴重な文化資源を指定文化財とは別の枠組みで「浜松地域遺産」として認定し顕彰することで、後世への保存継承と地域活性化への活用により、個性ある地域の創造への寄与を期待するもの。平成29年度は推薦131件のうち101件を認定した。区別及び分類別の認定数は右記のとおり。

※詳細は第2章(21頁)に掲載。

区別		分類別		
中区	12	建造物	21	名勝
東区	28	絵画	6	天然記念物
西区	3	彫刻	22	有形民俗
南区	7	工芸品	1	無形民俗
北区	1	書籍・典籍	4	伝承地
浜北区	18	古文書	3	伝統的建造物群
天竜区	32	歴史資料	8	近代化遺産
合計	101	史跡	6	合計
				101

(2) 指定文化財等の現状調査

適切な保護事業の推進及び新たな文化財指定の検討材料とするため、下記の指定文化財及び指定文化財候補等について調査、情報収集を行った。

区 部	種 別	文化財の名称	所在地
県指定	名勝	浜名湖	西区・北区
国指定	天然記念物	北浜の大カヤノキ	浜北区本沢合
市指定	天然記念物	妙相寺のイヌマキ	西区志都呂町
市指定	天然記念物	宝林寺のエンコウスギ	北区細江町中川
市指定	天然記念物	宇布見のイヌマキ	西区雄踏町宇布見
国指定	無形民俗	川名のひよんどり	北区引佐町川名
国指定	無形民俗	寺野のひよんどり	北区引佐町波川
国指定	無形民俗	横山のおくない	天竜区横山
国指定	無形民俗	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家
県指定	無形民俗	真松の大念仏	西区庄内町
県指定	無形民俗	流沢の放歌踊	北区流沢町
県指定	無形民俗	川合花の舞	天竜区佐久間町川合
県指定	無形民俗	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾、白岩
市指定	無形民俗	遠州大念仏	中区鹿谷町ほか
市指定	無形民俗	妙功庵鍼音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町甲川
未指定	無形民俗	水窪の念仏踊〈神原の虫送り〉	天竜区水窪町
未指定	無形民俗	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
未指定	無形民俗	神沢のおくない	天竜区神沢
未指定	無形民俗	雄踏歌舞伎方入講	西区雄踏町

2 文化財の保護と継承

(1) 文化財保護審議会の開催

文化財保護法第190条第1項の規定に基づき設置する附属機関（浜松市文化財保護条例第43条）。教育委員会の諮問に応じて、浜松市内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会に建議した。

審議会委員 任期：平成 29～30 年の 2 箇年

分野	氏名	所属・役職等	備考
社会学	榎原 恵	静岡大学情報学部教授	会長 1期目
歴史(文献史学)	坪井 俊三	浜松市史編纂執筆委員	副会長 2期目
天然記念物(植物)	塚本 こなみ	浜松市花みどり振興財团理事長	2期目
有形文化財(建造物)	中村 利夫	静岡県文化財建造物監理士	2期目
教育・文化財活用	野尻 謙	元天竜市教育委員会教育長	2期目
民俗	中山 正典	県立磐田南高等学校副校長	1期目
歴史(考古学)	篠原 和大	静岡大学人文社会科学院教授	1期目
歴史(文献史学)	小木 香	元春野町史執筆委員	1期目

審議会開催状況

回	開催日	内 容
第1回	平成29年8月21日	平成28年度の実績報告、平成29年度の事業計画ほか
第2回	平成29年12月11日	二俣城跡・鳥羽山城跡視察、地域遺産制度の申請状況ほか
第3回	平成30年2月16日	浜松城発掘調査の報告、日本遺産の申請、国指定による市指定史跡の解除、浜松地域遺産の認定に関する意見聴取

(2) 文化財の管理

文化財等の維持管理・整備 市内の文化財等の保存状態や見学の環境を整えるため、草刈り・清掃・設備の保守点検など日常的な維持管理を行ったほか、臨時の修繕や整備等を実施した。主な事業は以下の通り。

区	実施状況
中区	追分一里塚（市史跡）・往吉南古墳（市史跡）の草刈清掃
東区	簗子森古墳（市史跡）の草刈清掃
南区	米津台場（市史跡）の草刈清掃
西区	入野古墳（市史跡）の樹木伐採、宿廬寺天澤家墓所（市史跡）へ説明板設置、東海道の松並木（市史跡）の清掃、中村家住宅（国有形）付帯施設の修繕、舞坂脇本陣（市有形）付帯施設の修繕、火穴古墳（市史跡）、東大山一里塚（市史跡）
北区	滝峯才四郎谷遺跡（県史跡）の史跡公園維持管理、三岳城跡（国史跡）、千頭ヶ峯城跡（県史跡）、潤伊神社境内遺跡（県史跡）、波川ツツジ群落（県天然記念物）、北岡大塚古墳（市史跡）、馬場平古墳（市史跡）、宇志北大里遺跡（市史跡）、西山古墳（市史跡）、郷ヶ平4号墳（市史跡）、見徳古墳（市史跡）、恩塚山古墳（市史跡）等の草刈・清掃
浜北区	山の神古墳（市史跡）の樹木伐採、内野古墳群バシラレット刊行、「北浜の大カヤノキ」（県天然記念物）の樹幹部治療・土壌改良、二本ヶ谷積石塚群（県史跡）の史跡公園維持管理、赤門上古墳（県史跡）、向野古墳（市史跡）等の草刈・清掃
天竜区	旧王子製紙製品倉庫（県指定）、高根城跡（市史跡）やビラジロ遺跡（市史跡）史跡公園の維持管理、高潮のニッケイ（市天然記念物）の草刈・清掃

現状変更等への対応 指定文化財及びその指定地内で行われる現状変更や所在地変更などの各種申請・届出等については、法令に基づき事務処理を行った。件数等は以下のとおり。

区分	種 別	内 容	件数	文化財名称
国 指 定	記念物	現状変更	2	ニホンカモシカ、北浜の大カヤノキ
		滅失	8	ニホンカモシカ8
	有形文化財	所在地変更 き損	1 1	刺繡不動明王二童子像掛幅 宝林寺写真
県 指 定	記念物	現状変更	13	光明山古墳、浜名湖7、長栄寺庭園、米沢諏訪神社のイチイガシ、竜川のホソバシャクナゲ、法橋のマツ、天台鳥薬
		損傷	1	赤門上古墳
	有形文化財	所在地変更 損傷 修理	5 2 2	辯子囃の兜、馬場平古墳出土品、猪久保鏡輝、舌面（意神社）、蟲魚帖繪 旧王子製紙製品倉庫、舌面（意神社）
市 指 定	記念物	現状変更	10	浜松城跡2、アカウミガメ4、御堂平遺跡、宿廬寺天澤家墓所、姫街道の松並木、妙相寺のマキ
	有形文化財	所在地変更 修理	9 1	寿量院文書、鰐口（井伊谷大日堂）、伝青葉の笛、鎌前神社文書2、中の甲遺跡出土品、金銅莊神輿、白陰懸鶴墨跡、紙本墨画布袋 金銅裝神輿

(3) 文化財保存事業に対する補助金

文化財の管理者が修理や保護、維持管理等に必要とする費用について、国や県とともに補助金を交付したほか、国や民間の補助・助成制度の活用についても促した。

文化財の保存修理に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	宝林寺仏殿保有修理事業	宗教法人宝林寺	2,286千円
県指定	建造物	宝林寺山門保存修理事業	宗教法人宝林寺	2,417千円
県指定	美術工芸品	木像達磨大師坐像・伝武帝倚像ほか保存修理事業	宗教法人宝林寺	1,598千円
県指定	美術工芸品	木造阿弥陀如来坐像保存修理事業	宗教法人摩訶耶寺	296千円
市指定	建造物	瑞雲院鐘楼保存修理事業	宗教法人瑞雲院	14,415千円
市指定	建造物	実相寺庚申堂保存修理事業	宗教法人実相寺	642千円
市指定	史跡	宿禰天澤家墓所保存修理事業	宗教法人宿禰寺	2,381千円

記念物の保護に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
県指定	史跡	光明山古墳保存事業	宗教法人光明寺	198千円
県指定	名勝	長楽寺庭園保護事業	宗教法人長楽寺	57千円
県指定	天然記念物	妙相寺のイスマキ保護事業	宗教法人妙相寺	489千円
県指定	天然記念物	米沢諏訪神社のイナガシ保護事業	宗教法人諏訪神社	214千円
県指定	天然記念物	法橋のマツ保護事業	宗教法人妙恵寺	265千円

指定文化財の管理事業に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	宝林寺仏殿・方丈管理事業	宗教法人宝林寺	62千円
国指定	建造物	方広寺七草薙堂管理事業	宗教法人方広寺	10千円
国指定	建造物	清名懇社神明宮本殿管理事業	宗教法人清名懇社神明宮	30千円
県指定	史跡	陣屋ヶ谷古墳管理事業	管理者	30千円
県指定	名勝	実相寺庭園管理事業	宗教法人実相寺	22千円
市指定	史跡	伝福進勢墓管理事業	本坂自治会	30千円
市指定	史跡	伝井伊黄保出生并管理事業	宗教法人龍潭寺	30千円

無形民俗文化財の保存伝承・活用に対する補助金

区分	事業名	交付先	市交付額
国指定	寺野のひよどり保存伝承・活用等事業	寺野伝承保存会	70千円
国指定	川名のひよどり保存伝承・活用等事業	川名ひよどり保存会	70千円
国指定	礪山のおぐない保存伝承・活用等事業	礪山おぐない保存会	70千円
国指定	西浦の田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	120千円
県指定	電汎の狂歌踊保存伝承・活用等事業	電汎狂歌踊保存会	70千円
県指定	川合花の舞保存継承・活用等事業	川合花の舞保存会	212千円
県指定	今田花の舞保存伝承・活用等事業	今田花の舞保存会	40千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	399千円
市指定	勝坂神樂保存伝承・活用等事業	勝坂神樂保存会	70千円
市指定	大居つなん叟保存伝承・活用等事業	大居自治会龍勢社	69千円
市指定	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存伝承・活用等事業	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	70千円
その他	天竜地域無形民俗文化財後継者養成事業	清竜中学校郷土芸能伝承活動実行委員会	70千円

国・民間からの補助金・助成金

補助・助成元の名称	事業名	補助・助成先	補助・助成額
国（文化芸術振興費補助金）	浜松市中山間地域の文化遺産活用推進事業	浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会	6,630千円
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団（文化財修理保存等助成事業）	宝林寺山門保存修理事業	宗教法人宝林寺	150千円
瑞雲院鐘楼保存修理事業	宗教法人瑞雲院	150千円	
公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金	第24回三遠南信ふるさと歌舞伎交流浜松大会	三遠南信ふるさと歌舞伎交流浜松大会実行委員会	200千円
公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団助成	宝林寺山門保存修理事業	宗教法人宝林寺	500千円

(4) 特別天然記念物ニホンカモシカの食害対策

森林資源と特別天然記念物ニホンカモシカの双方を保護するため、幼齢造林木の周囲にニホンカモシカの食害を防止するための防護柵設置を国庫補助事業として実施した。

3 文化財等の公開

(1) 文化財建造物の公開

以下の文化財建造物を公開し、必要な維持管理等を実施した。

区分	施設名	所在地	事業内用	入場者数
国指定有形文化財	鈴木家住宅	北区引佐町釣場	燃蒸、消防設備保守点検等	418人
国指定有形文化財	中村家住宅	西区雄踏町宇布見	警備、植栽管理、施設修繕等	1,474人
市指定有形文化財	舞坂宿駅本陣	西区舞阪町舞阪	警備、消防設備保守点検等	7,142人
国登録有形文化財	田代家住宅	天竜区二俣町北鹿島	耐震工事に先立つ地盤調査等	2,001人

(2) 賀茂真淵記念館の運営

国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を紹介するため、展示や講座等を開催した。なお、(一社)浜松史蹟調査顕彰会が指定管理者として施設の運営を行った。入館者数：6,384人。

(3) 内山真龍資料館の運営

国学者内山真龍の業績を紹介するため特別展1回、常設展3回を開催したほか、施設の維持管理を行った。入館者数：1,793人。

(4) 浜松市地域遺産センターの運営

埋蔵文化財をはじめとする市内の文化財に関する保存・活用事業を行う施設である浜松市地域遺産センターの運営・管理を行った。入館者数78,971人。※詳細は第3章（31頁）に掲載。

4 文化財の災害対策

(1) 普及啓発

将来予想される災害に際して文化財の被災の可能性や減災、救済の必要性を案内する講座や講演会、フィールドワーク等を開催した。

文化財防災ボランティア養成講座 修了者は静岡県文化財等救済支援員に登録することができる講座を開催し、修了した13名が登録した。開催状況は以下のとおり。

回	日	内 容	受講者数
1	2月17日	県文化財等救済支援員の活動内容について、市内の災害古記録の紹介等	18人
2	2月24日	文化財の梱包方法（実技）	19人
3	3月3日	文化財の修復方法（実技）、市内の文化財保護の課題について	17人

講演会 外部講師を2名招聘し、以下の内容で講演会を開催した。

日	内 容	講 師	受講者数
3月10日	天竜川の災害に学ぶ 被災地支援の実際	三浦弘慎氏（国土交通省浜松河川国道事務所） 小田木恵介氏（浜松市社会福祉協議会）	18人

フィールドワーク ボランティア養成講座のフォローアップとして以下のとおり開催した。

日	タ イ プ	内 容	受講者数
5月14日	実相寺と金指のまちなみ	実相寺の文化財の状況や古い建物の残るまちなみを調査	3人
6月3日	津波と高潮跡を探る	南区の熊野神社や高塚遺跡を歩き水害の痕跡を調査	7人

(2) その他の災害対策

文化財防火デー訓練 文化財防火デーである1月26日とその前後で重要文化財中村家住宅、大福寺（重要文化財紙本墨書瑠璃山年録残篇等）、徳泉寺（市指定有形文化財木造十王坐像、木造葬頭河婆半跏像等）等で消防訓練を実施した。

文化財防災物品の備蓄 災害発生時の文化財救済作業で使用する中性紙封筒などの物品を購入し、地域遺産センター等へ備蓄した。

5 地域と連携した文化財の保存と活用

(1) 市指定天然記念物「アカウミガメ」の保護

遠州灘海岸でアカウミガメの保護に努めているNPO法人サンクチュアリとの相互連携や業務委託によって、以下の事業を実施した。

保護監視と生態調査 指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及び産卵状況の調査等を行い、62箇所の産卵巣を確認し、7,239個の卵を保護した。

親と子のウミガメ教室 文化財や自然保護への理解を深めるため、講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査、子ガメの観察会等の教室を開催した。実施状況は右記のとおり。

開催日	大人	子ども	合計
7月15日	118人	106人	224人
7月22日	116人	109人	225人
8月20日	110人	110人	220人
合計	344人	325人	669人

(2) 地域資源散策コース「遠州山辺の道」の整備と活用

浜北区内で設定している地域資源散策コース「遠州山辺の道」について、地域住民が参加している市民団体「遠州山辺の道の会」との相互連携や業務委託により、月1回のワークショップの開催、案内看板の設置、ベンチの設置、ボランティアガイドの派遣等を行った。

(3) 無形民俗文化財の活性化

市内各所で無形民俗文化財を伝承している各地域の保存団体の自主的な取組を支援することにより、民俗芸能の確実な伝承と地域の活性化を図った。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局の運営 各保存団体の相互連携や情報交換を図るために設置されている連絡会の事務局として運営補助・調整等を行った。

- ・理事会 平成29年5月16日（火）会場：北区役所
- ・総会 平成29年8月20日（日）会場：勝坂神楽伝承館
平成30年3月25日（日）会場：熊ふれあいセンター

参加団体

団体名称	文化財名称	所在地	指定区部
寺野伝承保存会	遠江のひよんどりとおくない（寺野のひよんどり）	北区引佐町	国指定
川名ひよんどり保存会	遠江のひよんどりとおくない（川名のひよんどり）	北区引佐町	国指定
懐山おくない保存会	遠江のひよんどりとおくない（懐山のおくない）	天竜区懐山	国指定
西浦田楽保存会	西浦の田楽	天竜区水窪町	国指定
遠州大念仏吳松組	吳松の大念仏	西区吳松町	県指定
瀧沢放歌踊り保存会	瀧沢の放歌踊	北区瀧沢町	県指定
横尾歌舞伎保存会	横尾歌舞伎	北区引佐町	県指定
川合花の舞保存会	川合花の舞	天竜区佐久間町	県指定

西浦の念仏踊保存会	西浦の念仏踊	天竜区水窪町	県指定
遠州大念仏保存会	遠州大念仏	中区鹿谷町	市指定
妙功庵観音堂の百万遍 念仏と念仏講保存会	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町	市指定
犬居自治会	犬居つなん曳	天竜区春野町	市指定
勝坂神楽保存会	勝坂神楽	天竜区春野町	市指定
神沢おくない保存会	神沢のシシウチ行事	北区神沢町	国選択
今田花の舞保存会	今田花の舞	天竜区佐久間町	県選択
神沢おくない継承同好会	神沢おくない	天竜区神沢	未指定
東久留女木地区	東久留女木のおくない	北区引佐町	未指定
雄踏歌舞伎保存会万人講	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町	未指定
浦川歌舞伎保存会	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町	未指定

*No.1 ~ No.3 は「遠江のひよんどりとおくない」として一括指定

情報の発信 無形民俗文化財広報誌「山と里の民俗」を年2回（第9号・第10号）発刊し、関係各所にて配布した。発行部数：各4,000部

出場激励金の交付 大会やイベント等へ参加した団体に以下のとおり激励金を交付した。

団体名称	大会等名称	開催地	金額
寺野伝承保存会	東栄フェスティバル 2017	愛知県東栄町	150千円
寺野伝承保存会	ザ・山フェス	市内	100千円
川名ひよんどり保存会	市制施行106周年記念式典	市内	100千円
遠州大念仏 寺島組	第55回文化財指定庭園保護協議会	市内	100千円
横尾歌舞伎保存会	第2回井の国直虎まつり	市内	100千円
川合花の舞保存会	さくま伝統芸能フェスティバル	市内	100千円
川合花の舞保存会	三遠南信自動車道佐久間第2トンネル貫通式	市内	100千円
勝坂神楽保存会	HGU三遠南信民俗芸能フェスティバル	市内	100千円
勝坂神楽保存会	次世代継承伝統民俗芸能公演	市内	100千円
雄踏歌舞伎保存会「万人講」	静岡県民俗芸能フェスティバル	市内	100千円
浦川歌舞伎保存会	さくま伝統芸能フェスティバル	市内	100千円

三遠南信ふるさと歌舞伎交流浜松大会の開催 平成30年1月28日（日）に雄踏文化センターにおいて開催した。入場料は無料で約600人の入場者があった。出演団体は以下のとおり。

団体名	地域	演目
大鹿歌舞伎保存会	長野県下伊那郡大鹿村	神靈矢口渡 頼兵衛住家の段
下條歌舞伎保存会	長野県下伊那郡下條村	普原伝授手習鑑 寺子屋の段
豊橋素人歌舞伎保存会	愛知県豊橋市	假名手本忠臣蔵七段目 俄闇一方茶屋の場
湖西歌舞伎保存会	静岡県湖西市	釣女
雄踏歌舞伎保存会万人講	浜松市西区雄踏町	寿式三番叟
浦川歌舞伎保存会	浜松市天竜区佐久間町	鬼一法眼三略巻 一条大藏卿

次世代への継承 無形民俗文化財の保存継承に関わっている地域のNPO等への業務委託により、学校と地域の連携による次世代への継承事業（民俗芸能の体験等）を実施した。

地域団体名	学校名	内容
NPO法人川名の里 ほぐせんば	井伊谷小学校 引佐南部中学校 浜松学院大学ほか	川名のひよんどり、横尾歌舞伎の歴史についての学習、所作や演奏などの練習、楽器や道具類の管理や手入れについての学習などを行い、その成果を本番で披露した。
清竜中学校郷土芸能 伝承活動実行委員会	清竜中学校	横山のおくない、神沢のおくない、遠州大念仏について、歴史についての学習、所作や演奏などの練習、楽器や道具類の管理や手入れについての学習などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。

(4) 城跡等史跡の整備活用

「徳川・武田争奪の城」として全国的に知られる天竜川流域の戦国時代城郭群を歴史・文化資源、観光資源として有効に活用するため、調査研究を進めるとともに、市民向けの城跡関連のイベントを開催した。また、二俣城跡、鳥羽山城跡の国指定史跡に関わる事務手続きを進めるとともに、光明山古墳の発掘調査など、二俣地区の歴史情報を広く収集し、両城跡の保存活用計画策定の基礎作業を行った。

発掘調査 二俣城跡と同じ地域に所在する市内最大の前方後円墳である光明山古墳の墳丘確認調査を実施し、詳細な構造の探索を行った。

国指定化に向けた手続き 二俣城跡及び鳥羽山城跡を国指定史跡にするよう、調査報告や図面、土地所有者の一覧、地権者の同意書等をまとめた意見具申書を文部科学大臣に提出した。その内容は、国の文化審議会において審議がなされ文部科学大臣に国史跡にするよう答申、平成30年2月13日付けの官報告示をもって、国史跡に指定された。

保存活用計画の策定準備 二俣城跡及び鳥羽山城跡の保存活用計画策定を円滑に進めるため、平成30年2月13日に保存活用計画策定事前検討会を開催し、事務局と参加者による討議を行った。外部参加者は以下のとおり。

分野	氏名	所属等
考古学	北野 博司	山形芸術工芸大学歴史遺産学科教授
歴史地理学	山村 並希	京都大学大学院准教授
公園活用	山下 治子	株式会社アム・プロモーション常務取締役・「ミエゼ」編集長
文献史学	坪井 復三	市文化財保護審議会委員

環境整備 二俣城跡・鳥羽山城跡の石垣や堀切、曲輪を見学しやすくするために草刈や伐採を行った。また、光明山古墳の墳丘の一部についても草刈・伐採を行った。

6 埋蔵文化財の調査と活用

(1) 開発との調整と発掘調査

調整業務 埋蔵文化財包蔵地の有無の照会への回答や開発者等との調整、埋蔵文化財包蔵地範囲の把握と周知、文化財保護法第93条に基づく届出（民間開発）や同第94条に基づく事前通知（公共事業）の事務処理等を行った。

調査業務 開発に伴う本発掘調査や試掘確認調査及び工事立会いのほか、史跡の保存を目的とした光明山古墳の確認調査や亀塚古墳の測量調査を行った。※詳細は第2部参照。

(2) 調査成果の公開・活用

出土品の再整理 前年度より引き続き、郷ヶ平6号墳（北区都田町）から出土した埴輪の公開に向けた整理作業（接合、実測作業等）を進めた。

展示会 考古資料を活用した展示会を開催した。地域遺産センターの企画展「折り～発掘された奥浜名湖の至宝～」では、奈良国立博物館が所蔵する瓦塔、銅鐸（いずれも北区三ヶ日町出土）を考古資料相互活用促進事業にて借用し（浜松市からは郷ヶ平3号墳出土の馬形埴輪と、辺田平1号墳の鹿形埴輪を貸与）、併せて北区の信仰関係の出土品を集めて展示した。

会期	名称	会場	来場者数
5月13日～6月25日	宮口の遺跡群発掘調査速報展	市民ミュージアム浜北	未計測
7月13日～7月31日	鏡子遺跡発掘調査速報展	地域遺産センター	4,299人
10月1日～10月30日	遺跡が語る都田の原始・古代	都田図書館	未計測
1月27日～3月25日	折り～発掘された奥浜名湖の至宝～	地域遺産センター	3,833人

見学会 発掘調査の現地説明会や遺跡の見学会を実施して、調査成果の公開に努めた。浜松城跡天守曲輪における発掘調査では、作業の状況も公開した。

開催日	名 称	来場者数
6月 20日	鈴木家屋敷（万斛西遺跡）見学会	100人
8月 5日	見学会「宿蘆寺大澤家墓所をめぐる」	30人
1/20・27、2/4	浜松城跡公開発掘調査（全3回）	920人
2月 10日	浜松城跡発掘調査現地説明会	870人
2月 25日	恒武西宮遺跡発掘調査現地説明会	80人

講 座 外部から講師を招いて実施したほか、外部から依頼があった場合には市担当者を講師として派遣した。主催する講座の場合では、実施している展示会と日程や内容をあわせて開催することで観覧者がより展示への理解を深められるように努めた。

開催日	講座名称	講 師	会 場	来場者数
5月 12日	浜松の遺跡	市担当者を派遣	五島協働センター	20人
5月 13日	宮口の遺跡群 発掘調査報告会	渥美賢吾氏（静岡県考古学会）・ 坂下俊介氏（同）・市担当者	市民ミュージアム浜北	80人
5月 20日	ふじのくに子ども観光 大使認定講座	市担当者を派遣	地域遺産センター・ 井伊谷城跡	80人
6月 10日	井伊谷の歴史	市担当者を派遣	曳馬協働センター	35人
7月 22日	戦国の井伊谷と浜松の城	市担当者を派遣	鹿児島大学総合研究博物館	40人
10/7・24・31	郷土の歴史講座（全3回）	市担当者を派遣	引佐多目的研修センター	10人
10月 21日	都田地区の歴史	市担当者を派遣	都田図書館	22人
11月 5日	ふじのくにの原像を さぐる 浜松城跡	市担当者を派遣	静岡県立美術館	110人
12月 14日	二俣城跡の調査成果	市担当者を派遣	二俣協働センター	22人
2月 3日	古代東海地域における 三ヶ日町宇志出土瓦塔	永井邦仁氏 (愛知県埋蔵文化財センター)	引佐協働センター	53人
2月 17日	浜松市の銅鏡出土物語	栗原雅也（浜松市博物館）	引佐協働センター	62人
3月 12日	浜松の遺跡	市担当者を派遣	富塚協働センター	40人

ワークショップ 幅広い層に考古学の魅力を知っていただくため、若年層や女性を主なターゲットとしてクラフトやスイーツ作りとコラボレーションしたワークショップを実施した。実施にあたっては当該事業の考案者等を講師に招いて実施した。

開催日	名 称	講 師	概要・趣旨	参加者数
9月 24日	前方後円墳形キーホルダーをつくろう！	福田和浩氏（八尾市立し おんじやま古墳学習館）・ 市担当者	古墳の形や築造方法を学びながらキーホル ダーを作る。	40人
10月 1日	ドッキーワークショッ プ講習会	下島綾美氏（お菓子作り 考古学者）・市担当者	土器片そっくりなクッキー「ドッキー」 作りから、土器の文様や胎土などの 特徴を学ぶ。	20人
1月 18日	ドッキーをつくろう！	市担当者	湖北高校の授業に出向き、「ドッキー」 作りによって、地域の土器の特徴を学ぶ。	42人
1月 28日	三角縁神獣鏡チョコレ ートをつくろう！	藤川明宏氏（福井市文化 財保護課）・市担当者	三角縁神獣鏡の型にチョコレートを流し 込み、銅鏡の鋳造技術や文様などを学ぶ。	18人
2月 24日	瓦塔ショコラをつくろ う！	伊藤暢洋氏（三ヶ日製菓） ・市担当者	瓦塔の部材に見立てたフィナンシェやねり きりの菓子を組立て、瓦塔の構造や製作技 法を学ぶ。	20人

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定

(1) 二俣城跡及び鳥羽山城跡

区分 国指定
種別 史跡
所有者 浜松市外
所在地 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 983番1外 175筆及び道路敷8本
年代 戦国時代～安土桃山時代
指定日 平成30年2月13日

概要

二俣城跡と鳥羽山城跡にみられる顕著な特徴は、中世的な土づくりの山城に、近世的な石垣が導入された初期の姿が良好に遺存していることである。また、堀尾氏が両城の石垣の整備をした際、二俣城を戦時用の施設として整備したことに対して、鳥羽山城は居住・政治空間としての機能をもたせたものとみられ、両城は別城一郭と呼ぶべき密接な関係を有しているといえる。両城は、戦略拠点と居館・御殿という機能分化が顕在化した16世紀末葉の城郭のあり方を具体的に伝えるものであり、戦国期から近世にかけての城郭の変遷・政治・軍事のあり方を知る上で重要な遺跡である。

二俣城跡・鳥羽山城跡周辺の地形

二俣城跡・鳥羽山城跡は、天竜川扇状地の扇頂である天竜区鹿島のすぐ北側に面した丘陵に所在している。二俣城跡は西を天竜川、東から南を二俣川旧流路に挟まれた南北に細長い台地状の丘陵南端部に立地している。丘陵の南端に突出し、三方向を河川と急峻な崖に囲まれているこの土地は、防御性に優れ、周囲の眺望も確保された築城の適地であったといえる。鳥羽山城跡は、二俣城跡から二俣川旧流路を挟み約500m南側の丘陵に立地する。丘陵は東西に細長く、二俣城跡の立地する丘陵と同様に、河川に面した部分は非常に急峻な崖面が形成されている。また、丘陵の南側は扇状地が広がり、非常に眺望に優れている。以上のように、二俣城跡・鳥羽山城跡は、天竜川や二俣川の流れと、南河川がもたらした自然の地形を城の防御に取り入れた天然の要害といえる。



二俣城跡・鳥羽山城跡 遠景



二俣城跡と鳥羽山城跡の位置

二俣城跡の主な遺構

二俣城は越原の地から南に伸びる自然丘陵の先端を利用して築城されている。二俣城には南北に連なる5つの曲輪と本丸の西側に続く3つの曲輪があり、その間に堀切や横堀、帯曲輪などが展開している。

本丸西側中央部には、天守台が構築されている。自然石を用いた野面積みの石垣で、ほぼ東西南北の軸線に合わせた方形を呈する。基底部の規模は南北15.5m、東西14.5mであり、見かけ上の高さは4.2mである。現状では天守台上面に基礎などの構造物は認められていない。

二の丸から本丸に至る境界には、中仕切門が設けられ、現状では土塁の壁面には石垣が見られる。2009年～10年にかけて発掘調査を実施し、礎石をもつ建物跡が確認されている。石垣と一緒にになった構造であることから、堀尾氏在城期（1590～1600年）の建物と考えられる。比高差がある土塁が両側に迫っていることから、この中仕切門は櫓門であった可能性が高いと考えられる。



二俣城跡 天守台



二俣城跡 中仕切門 磂石

鳥羽山城跡の主な遺構

鳥羽山城は東西1kmにおよぶ独立丘陵を利用して築城されている。堀尾氏の領有期間中に整備された鳥羽山城は、最大9mの幅を持ち石垣で莊厳化された大手道や、本丸内に設けられた枯山水式庭園の存在から、迎賓機能を備えた特別な空間として整備されたと考えられる。

大手道は本丸の南東部に連接し、東西30mほどの長さがある。大手道の北側と南側には石垣が遺存しており、特に北側の石垣が良好に遺存している。大手道の幅は東側で6m、西側で9mと本丸に向かってハの字形に広がり、開放的な空間が形成されていた。

庭園遺構は、本丸の西側土塁内側に構築された枯山水庭園である。枯滝石組や築山、数石の景石により構成されている。庭園遺構の西側（背後）には土塁があり、庭園遺構の背景になる部分にのみ円碟を用いた石積が見られる。



鳥羽山城跡 大手道



鳥羽山城跡 庭園遺構

2 新登録

(1) 明治屋醤油店舗兼主屋／明治屋醤油離れ／明治屋醤油醸造所

区分 国登録有形文化財

種別 建造物

員数 3棟

所有者 個人

所在地 静岡県浜松市浜北区小松 2276

年代 店舗兼主屋：明治前期・大正6年増築、平成27年改修／
離れ：昭和8年／醸造所：明治前期・大正前期改修

登録日 平成29年5月2日

明治屋醤油店舗兼主屋

店舗と居住部分である主屋から成る。主屋は醸造所と同時に建てられ、大正6年に木造平屋建の店舗が増築された。その後もさまざまな改変を経て、平成27年に耐震上の配慮から店舗2階部分を解体し、道路側外観を堅格子付の腰窓、押縁付杉下見板張りにするなど大正6年の店舗落成時の外観に回復する改修工事が行われた。木造平屋建を2棟並べた構成をとるが、平面は3列構成（3間が並ぶ構成）となっているところが特徴的。

明治屋醤油離れ

主屋の南西に雁行して建つ、建ちの高い外観が特徴的な2階建ての近代和風建築。事業に伴う社交活動に用いられた。1、2階とも間仕切り建具を黒漆緑とし、小窓の組子や欄間など各所に趣向を凝らした造形のあとがみられ、主屋とは趣が異なる接客用のもてなし空間となっている。

屋根は2階は切妻屋根、1階は寄棟屋根、玄関はムクリの付いた切妻屋根が掛けられ「招き」の構えとなっている。外壁は押縁付下見板張り、一部漆喰塗とモルタル塗仕上げで、開口部には霧除けが設けられ、水廻りの窓には格子が打たれている。

内部は、来客用玄関に続き8畳和室は棹縁天井で、違い棚が設けられた書院造りとなっている。床柱に鉄刀木（たがやさん）、床框に紫檀、落ち掛けや床板、違い棚には水目桜、違棚の筆返しや棚束等の小物使いにも鉄刀木が用いられるなど、随所に高級材を使用している。また、黒色や茶色の織維壁とし、天井羽目板は全て柾目を用いている。南西と南東を檜板張りの広縁が開む。西には、杉柾板の矢羽根張りや網代張りを組み込んだ意匠天井を持つほか、タイル張りの廻りがあり、北の玄関脇にはタイル張りの洗面・浴室が設けられている。

明治屋醤油醸造所

増築を繰り返して複雑な構成を取り、醸造業の歴史を今に伝えている。この地は、北の赤石連峰に連なる山地の南端に位置し、古くから畠作を中心とした農業が盛んで醤油原料となる大豆や小麦も豊富であった。今でも赤石山脈の伏流水を工場内の井戸で汲み上げ、使用している。建築は、道路沿いの木造2階建の部分（＊1）が創業当時のもの。その西側に、後から建てられた工場（＊2）が続く。工場は、大正初期に改修が行われているようである。また、麹菌や塩分、湯気等の影響と思われる腐食に対応したとみられる補強工事の跡も、随所に伺われる。木造建築だが、醸蔵（もろみぐら）の部分は鉄筋コンクリート造、麹室はコンクリートブロック造である。

*1 1階／小ロットの醤油製造ライン、自然搾りの隔離室、2階／圧搾・火入れ後の安置場

*2 1階／圧搾・火入れ室、味噌製造室 2階／穀物の釜茹で場

(2) 高林家住宅主屋・隠居／高林家住宅田舎家／高林家住宅蔵／高林家住宅長屋門／高林家住宅給水塔

区分 国登録有形文化財

種別 建造物

員数 4棟1基

所有者 個人

所在地 静岡県浜松市東区有玉南町

年代 高林家住宅主屋・隠居：昭和4年

田舎家：昭和6年・昭和前期曳家、昭和60年代改修

長屋門：大正期

給水塔：昭和初期

登録日 平成30年3月27日

主屋・隠居

主屋は切妻造で、妻に曲財の梁と千鳥配置の束を意匠的にみせている。玄関東側はサンルーム付の12畳、西側は幅広の棚をもつ座敷、その西に隠居を付ける。ナグリ仕上げの梁を現し、建具に卍崩を用いるなど柳宗悦らが提唱した民芸運動につながる意匠を示している。

田舎家

主屋の南に渡廊下を介して東西棟で建つ。茅葺き型銅板葺きの屋根を持つ、南側の8畳2室のほか、小部屋、土間を配する。主室は床を備え、長押を廻す。次室は竹天井や手斧はつりの梁組を現すなど野趣に富んだ造りとなっている。昭和初期の古民家活用の好例で、我が国初の常設民芸展示場としても歴史的価値が認められる。

蔵

主屋の背面に東西棟で建つ。主屋とは渡廊下で接続する。桁行12m、梁間4.6m。切妻造棧瓦葺の蔵の南面に下屋を設ける。東西2室で、西側は2階建、東側は上部吹き抜けとなっている。外壁は黒色の簾子下見板張（ささらこじたみいたぱり）となっている。

長屋門

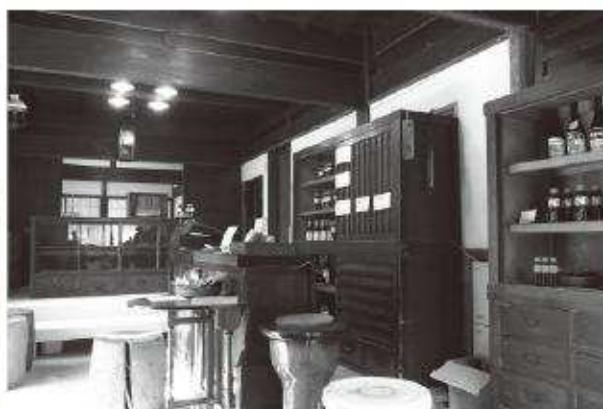
敷地の南入口に構える寄棟造銅板葺の門。門口に板扉を開き、東側に潜戸を設ける。門口の左右を長屋として漆喰壁の南面に与力窓をうがつ。腰は簾子下見板張、及び、堅板張。趣のある屋敷構えをつくる表門となっている。

給水塔

主屋東側に建つ、高さ3.7mの鉄筋コンクリートの給水塔。25cm角の柱4本の上部に1.5m四方の貯水槽を載せ、モルタル塗りで仕上げる。旧家の生活様態を伝え、類例がまれな昭和初期の鉄筋コンクリート造の住宅用給水塔。



明治屋醤油 店舗兼主屋



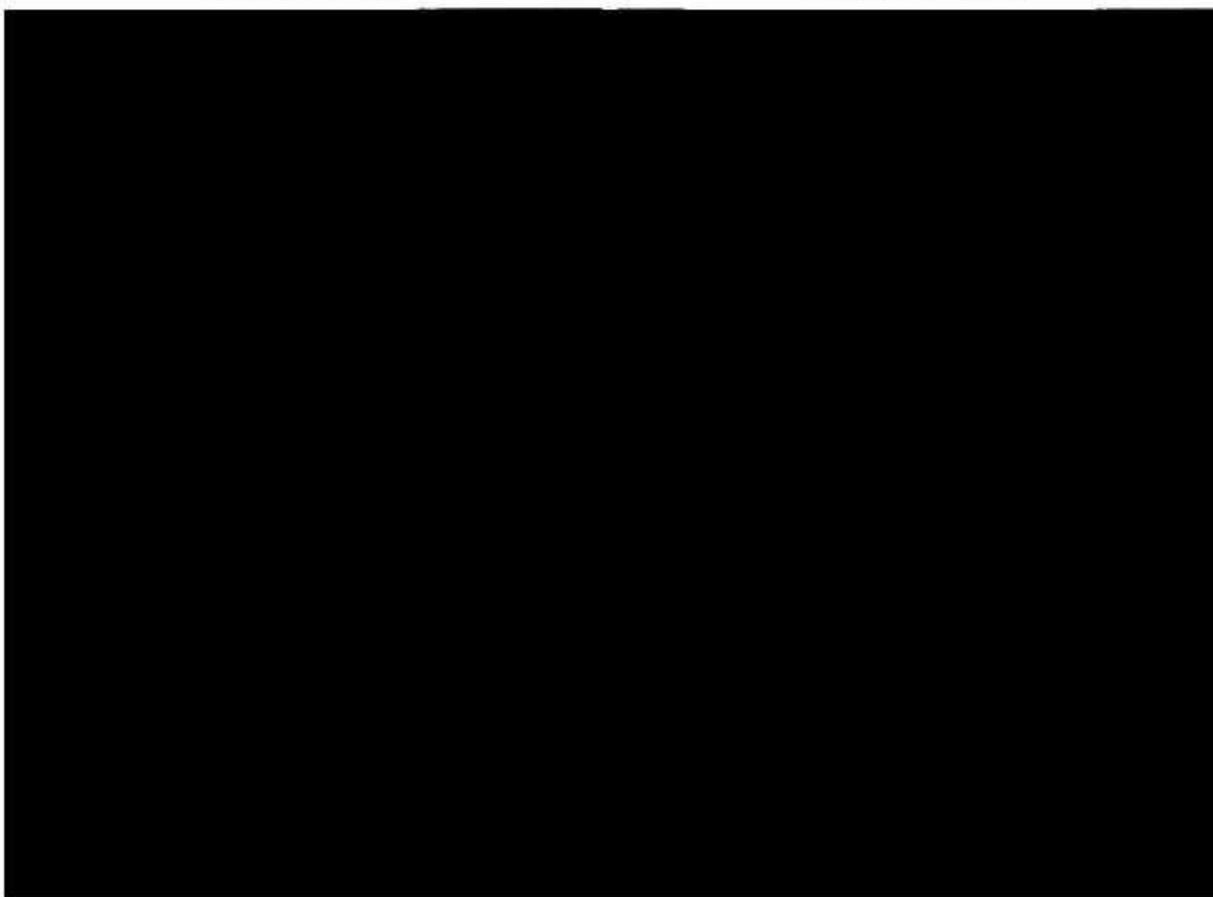
明治屋醤油 店舗兼主屋内部の店舗部分



明治屋醤油 離れ



明治屋醤油 製造所



明治屋醤油 写真：伊藤哲郎

高林家住宅 写真：N P O 静岡県伝統建築技術協会

※高林家住宅の写真につきましてはプライバシー保護のため、削除させて頂きました。

3 文化財の主な保存修復事業

(1) 宝林寺山門

区分 静岡県指定有形文化財

種別 建造物

指定日 平成2年3月20日

補助事業者 宗教法人 宝林寺

所在地 静岡県浜松市北区細江町中川65-2

施工期間 平成28年11月1日から平成29年10月31日まで

設計監理 NPO静岡県伝統建築技術協会

施工 田中社寺株式会社

保存修理の経緯 17世紀後半に建立され、過去にも保存修理が行われたが、経年劣化による腐朽等が著しく、平成27年度に実施した調査・耐震診断において耐震性能が不足すると判定されたため、良好な状態で後世に伝え、見学者の安全を確保するために保存修理を実施した。

概要 半解体修理。全ての柱の根継を行い、柿葺屋根の葺替えを行った。また、耐震補強として、金物による仕口補強を行った。

行事 現場説明会 一般公開 平成29年8月23日(水) 参加30人

見学会 浜松市立中川小学校 平成29年7月19日(水) 参加60人



施工前 屋根の腐朽



現地説明会



施工前



竣工後

(2) 木造達磨大師坐像

区分 静岡県指定有形文化財

種別 彫刻

指定日 平成 23 年 12 月 2 日

補助事業者 宗教法人 宝林寺

所在地 静岡県浜松市北区細江町中川 65-2

施工期間 平成 29 年 5 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日まで

(事業期間は平成 29 年 4 月 19 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

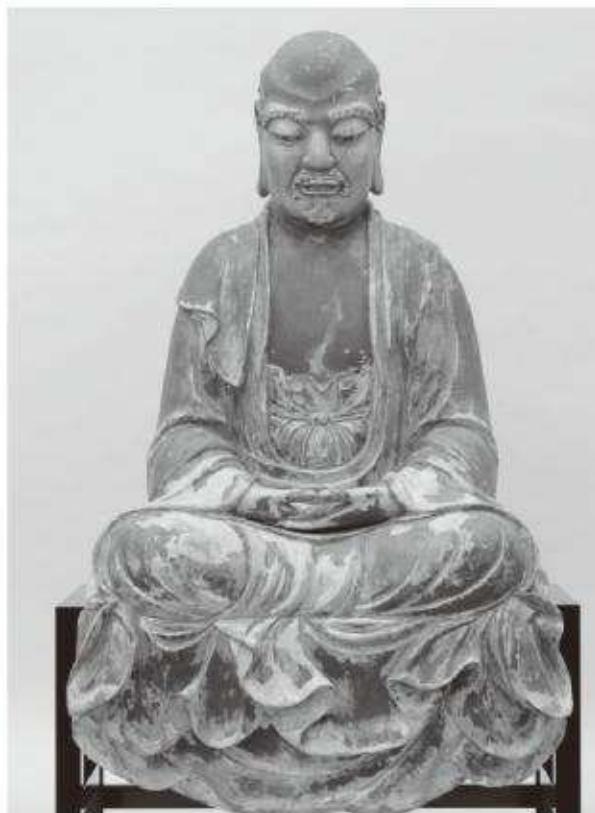
施工 公益財団法人美術院 国宝修理所（京博工房）

保存修理の経緯 経年劣化により、各所で漆箔の浮きや剥落が進行中であり、彩色箇所の剥落や矧ぎ目の緩みがみられたほか、台座が不安定であったため、良好な状態で後世へ伝えるため、保存修理を行った。

概要 指定文化財「木造釈迦如来坐像及び両脇侍像 木造達磨大師坐像・伝武帝倚像 木造二十四善神立像」のうち「木造達磨大師坐像」の保存修理を行った。埃の除去後に、漆箔の浮きを膠・樹脂等で剥落止めを行い、尊容を著しく害している眉毛上部、右目瞼、鼻、頬は検討の上、漆箔を施し整えた。彩色がある部分は樹脂で剥落止めを行った。また、鉄製の錠（かすがい）や釘の腐食により表面層に浮きがみられる箇所は、防錆処置をした上で状態により新・旧の錠・釘を使用し、表面は木犀漆で整えた。欠損箇所は桧材で補足し、漆で接合した。矧ぎ目の緩みは、場所により桧材等を差しこみ、漆の注入や麦漆による接合を行い木犀漆で整えた。椅子は、桧材、黒漆塗の椅子を新補し安定をはかった。修理箇所はすべて古色仕上げとした。



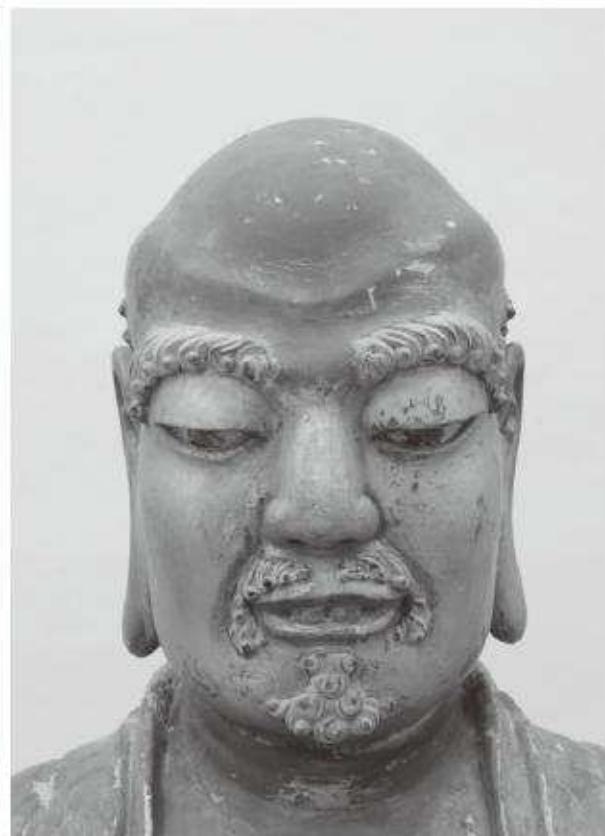
修理前



修理後



頭部修理前



頭部修理後



剥落止め作業



右手首の補足



像底隙間への薄板差し込み作業

写真：公益財團法人美術院

(3) 宿蘆寺大澤家墓所

区分	浜松市指定
種別	史跡
指定日	平成 24 年 11 月 30 日
補助事業者	宗教法人宿蘆寺 代表役員
所在地	浜松市西区庄内町
施工期間	平成 29 年 4 月 13 日～7 月 31 日
施工	株式会社 リンク

保存修理の経緯 宿蘆寺大澤家墓所は、大澤家歴代の石塔が造営されており、高縁旗本層が領地に営んだ墓所の具体像を伝えている。近年、史跡周辺が開発・造成され樹木が減少したことで、石塔が風雨の影響を受けやすくなり基礎部の土砂が流出するようになった。このような環境の下、平成 27 年 7 月、11 基ある石塔のうち 1 基が倒壊した。倒壊を免れた石塔も経年劣化が著しく倒壊する可能性が極めて高い状況であり、将来にわたって史跡を適正に管理するため、早急な修理が必要であった。

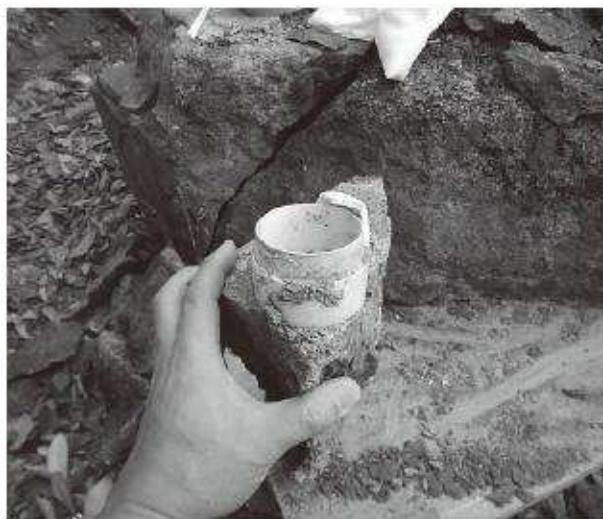
解体修繕 歴代石塔のうち 4 代、5 代、7 代の石塔について、地盤改良と石材の修繕、硬化処理を行うため、石塔の解体を行った。併せて 2 代、3 代の石塔については、過去に積み直しが行われた際、誤った順に積み直された相輪部を正しい順に積み直した。

倒壊した 4 代石塔について、以前から石材の劣化が顕著であった基壇の石材については、修復が困難であったため同系色の石材に交換した。また、同石塔解体中、反花からモルタルで捲き込まれた蔵骨器を確認した。内容物は確認できず、埃のようなものが微量存在するのみであった。同石塔は、過去に何度も倒壊しており、反花にはモルタルで修復した痕跡が残る。蔵骨器もこの修復の際、納入されたと思われる。反花は石材の劣化が激しく、修繕・補強したとしても、直ぐに崩壊する危険性があることから、基壇の石材と同様に同系色の石材へ交換した。

7 代石塔の基壇中から半胴甕が確認された。基壇内は褐色粘土が充填されており、中央部に甕が正位置で設置されていた。半胴甕の開口部は自然石で塞がれており、明確な内容物は確認できず、盛土から流入したと思われる土が存在するのみであった。5 代、6 代石塔の基壇内には円礎が詰められていた。



4代石塔 倒壊状況



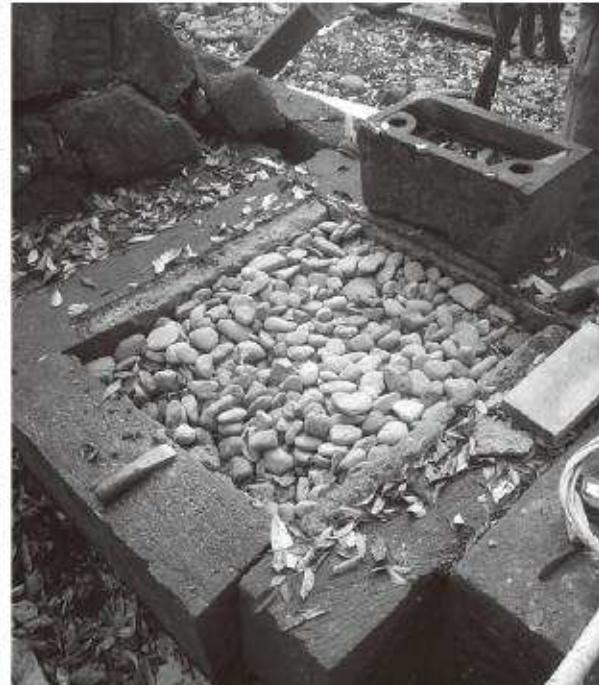
4代石塔 石材に納入された蔵骨器

石材硬化処理 4代・5代・7代石塔については全石材（交換した石材を除く）、3代・2代については相輪の石材に石材強化剤（T.O.T）を塗布した。また4代については、破損部の接着等による修復を行った。

地盤改良 史跡周辺が開発・造成され樹木が減少したこと、石塔が風雨の影響を受けやすくなり基礎部の土砂が流れ出る状況であったため、4代・5代・7代石塔周辺の地盤について改良工事を行った。石塔直下の地盤は約30mmをセメント系固化材で固め、石塔周囲は、サバ土にセメントを混合したものを入れ土壤の流出を防止する処理を行った。



7代石塔 藏骨器出土状況



5代石塔 基壇内状況



石材強化剤塗布状況



施工後

4 浜松地域遺産の認定

浜松市認定文化財制度の概要

浜松市は平成28年度から、これまでの国・静岡県・浜松市指定文化財や国登録文化財という従来の文化財保護制度とは別に、地域で大切にされてきた歴史・文化・自然などの資源を、「浜松地域遺産」として認定する、ゆるやかな保護・活用制度を導入した。

地域遺産認定制度では、まだ国・静岡県・浜松市指定文化財や国登録文化財ほど知られていないとしても、市内のそれぞれの地域で、長く慣れ親しまれ、継承されてきた貴重な文化資源を、地域から推薦いただくことで認定し、郷土の宝として顕彰する。さらに、後世へと末永く継承されることを期待するとともに、地域遺産を活用した地域活性化事業が展開されることで、個性ある地域の創造に寄与することを目的とする。

文化財に指定されると所有者のみなさまによっては、将来に渡り過大な制約を受けるという印象があるが、認定制度では改変等に制約を設けていない。時限付の認定や、申出による解除も可能としている。なお、指定文化財と異なり、補助金の対象とはならない。

手続きとしては、地域の組織や研究会などの団体からの推薦書に、所有者からの同意書を添付したものとを教育委員会が受理し、市文化財保護審議会の審議を経て認定する。認定された文化財の所有者には認定書を交付する。認定された文化財を積極的に公開する責務はないが、認定文化財を核として、地域を改めて見直すようなイベントや文化財の維持復元に取り組む地域連携事業が提案されれば、浜松市の地域力向上事業（市民協働・地域政策課）やみんなの浜松創造プロジェクト（創造都市・文化振興課）の助成対象になりえる。

平成28年度（第1期）認定

平成28年度は、同年7月1日から10月31日まで募集し、市内各地域から96件の申請が寄せられた。そのうち、開始された年代がまだ若いもの、新たに創作されたものなどを除き、点数をとりまとめるなどして91件を浜松市教育委員会定例会で報告し、平成29年3月22日付で認定した。有形文化財・記念物・民俗文化財をはじめ、まだ市内では指定文化財が無い伝統的建造物群などの種別も認定することができた。なお、「伝承地」という種別を設けて、詳細な調査経歴をもたない遺産も認定するようつとめた。

平成29年度（第2期）認定

平成29年度も、7月1日から10月31日まで募集し、28年度を上回る133件の推薦をいただいた。それらのうち同一施設内の個別申請をひとつにまとめるなどして101件を浜松市教育委員会定例会で報告し、平成30年3月22日付で認定した。これにより、制度導入後2か年の認定文化財は192件となった。

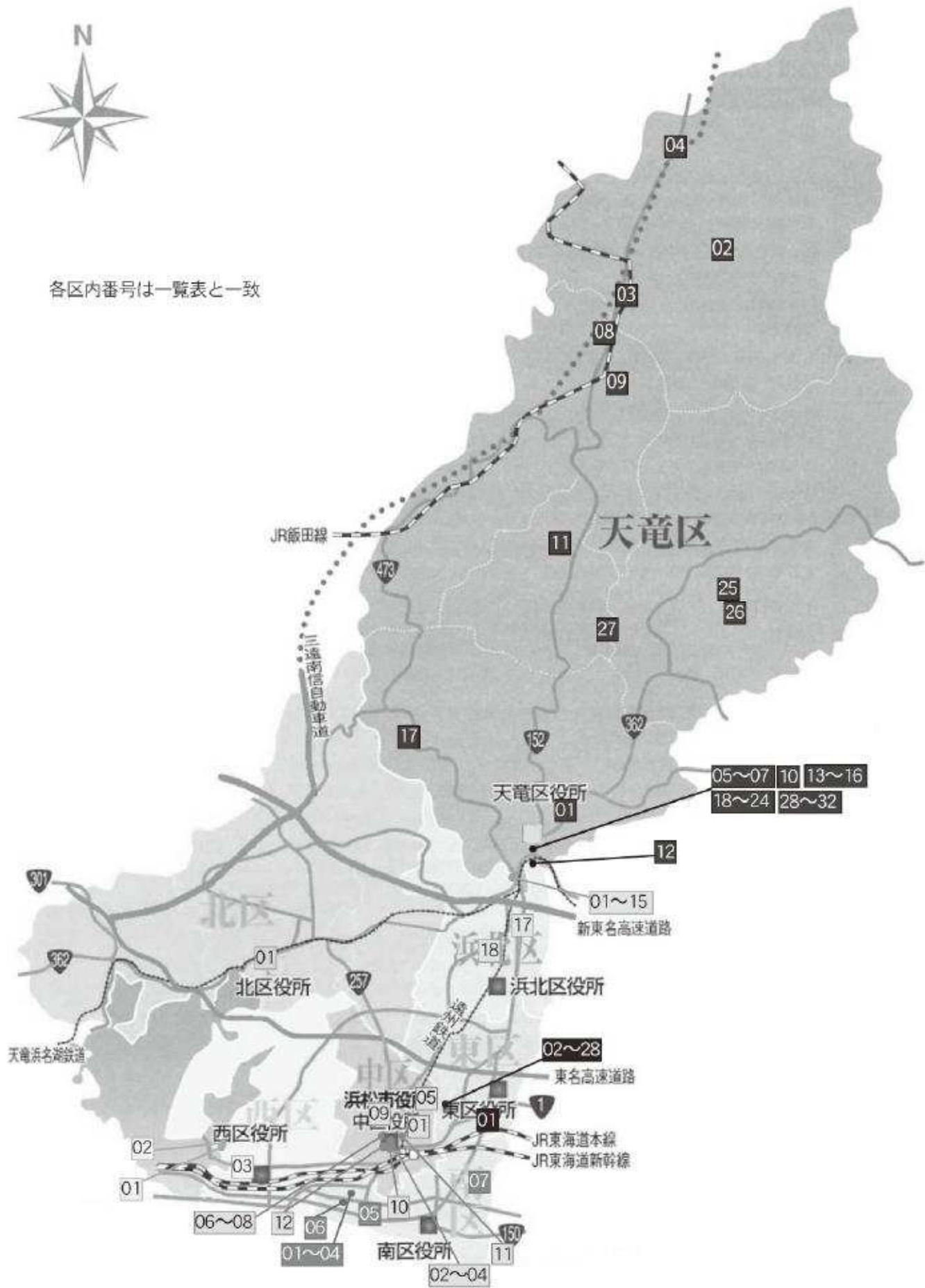
認定後の効果

上述したように文化財補助金等の対象とはならないため、所有者に直接の利点があるわけではないが、地域推薦ゆえに、認定を契機とした事業が実施された事例が生まれている。

無形民俗文化財のうちでは、認定された文化財の保護団体がそれを契機に浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会に加入された。さらに、祭礼での祭文を収録した詞章集を地域力向上事業を利用して刊行した例がある。今後も、地域遺産センターや所管施設での展示公開、広報はままつ各区版での紹介記事掲載などを予定し、30年度以降も募集を継続する。



各区内番号は一覧表と一致



「浜松地域遺産」(浜松市認定文化財)概略位置図 (平成29年度認定)

平成 29 年度 「浜松地域遺産」認定一覧

区	所在地等	名 称	種 別	説 明
中 01	早出町	早出薬師講信仰資料	有形民俗	明治初期造立の西国三十三觀音像ほか。
中 02	蔚屋町	蓮華寺松尾芭蕉句碑	有形民俗	松尾芭蕉が吟行した縁から天明 8 年頃建立。
中 03	細屋町	心造寺賀茂真淵句碑	有形民俗	浜松出身の国学者、見学は寺の許可が必要。
中 04	細屋町、心造寺	小沢仁庵の墓	史跡	浜松城主の御典医、見学は寺の許可が必要。
中 05	曳馬四丁目	三浦神社拝殿	建造物	大正 13 年(1924)年建立。
中 06	三組町	浜松秋葉神社の管納祭	無形民俗	毎年 1 月 28 日に、五穀の豊作を占う。
中 07	三組町	浜松秋葉神社境内	史跡	奥平信昌屋敷跡、信玄衆誓詞奉納などの場所。
中 08	三組町	浜松秋葉神社のオガタマノキ	天然記念物	戦災を免れた巨木。樹齢不詳。
中 09	住吉二丁目	元亀靈神社境内	史跡	住吉町開発に際し、三方原合戦の將兵を祀る。
中 10	利町、五社公園	誠忠碑	建造物	大正 8 年(1919)建設の戦勝碑。現在地に移設。
中 11	元城町、東照宮	引間城跡	史跡	家康旧跡のうち、東照宮境内を認定。
中 12	鶴江町	旧浜松市鶴江別館	建造物	昭和 3 年(1928)年、浜松警察署として竣工。
東 01	安間町	安間町会所の幕	歴史資料	弘化 5 年(1848)製、八柱神社の会所で使用。
東 02	上新屋町	宝珠寺六地蔵と立念仏供養塔	有形民俗	文化 2 年(1805)建立と推定。
東 03	上新屋町	宝珠寺子安地蔵菩薩像	彫刻	宝珠寺の本尊、厨子を含む。
東 04	上新屋町	宝珠寺延命地蔵菩薩像	彫刻	無縁の靈を供養する像、厨子を含む。
東 05	上新屋町	宝珠寺聖德太子孝養像	彫刻	袈裟姿に柄香炉を持つ立像、厨子を含む。
東 06	上新屋町	宝珠寺岩戸觀世音菩薩像	彫刻	厄除け觀音、厨子は明和 6 年(1769)京都製。
東 07	上新屋町	宝珠寺觀音堂天井絵	絵画	觀音堂兼位牌堂の格子天井に描かれる。
東 08	上新屋町	宝珠寺觀音札の版本	有形民俗	江戸時代から版本として使用。
東 09	上新屋町	宝珠寺のおみくじ箱	有形民俗	寛政 5 年(1793)と書かれた竹製みくじ箱。
東 10	上新屋町	宝珠寺の念仏数珠	有形民俗	毎月 17 日の縁日で信者が念仏を唱えた。
東 11	上新屋町	宝珠寺法華経	典籍	文化 4 年(1807)の記載がある奉納經典。
東 12	上新屋町	上新屋岩戸觀音堂の諸仏	彫刻	旧岩戸觀音堂の什器等を一括。
東 13	上新屋町	宝珠寺涅槃図	絵画	明和 2 年(1765)新添の裏書きがある。
東 14	上新屋町	宝珠寺出山軌迦図	絵画	年代不詳、画贊は妙心寺寧山(~1838)と伝。
東 15	上新屋町	宝珠寺の頂相群	絵画	歴代住職の頂相。
東 16	上新屋町	宝珠寺達磨図	絵画	白隱禪師筆と伝。
東 17	上新屋町	宝珠寺庚申図	有形民俗	庚申信仰の隆盛を示すもの。
東 18	上新屋町	宝珠寺十六善神図	絵画	不詳。大般若經軒読や岩戸觀音大祭に掛ける。
東 19	上新屋町、宝珠寺	蒲二葉会日曜学校旗	歴史資料	大正 3 年(1914)に開校した児童座桜会の旗。
東 20	上新屋町	宝珠寺日本左衛門供養塔	有形民俗	歌舞伎のモデルとなった盜賊、処刑後に建立。
東 21	上新屋町	宝珠寺半僧坊大権現の碑	有形民俗	奥山半僧坊の分身として信仰された。
東 22	上新屋町	宝珠寺秋葉山常夜灯	有形民俗	明和 7 年(1770)建立。
東 23	上新屋町	宝珠寺手水桶	有形民俗	明和 6 年(1769)の刻字がある。
東 24	上新屋町	宝珠寺通応和尚墨跡一円相	書跡	弘化 2 年(1845)、大通院に招かれた通応の書。
東 25	上新屋町	宝珠寺大般若経	典籍	貞享 2 年(1685)版。
東 26	上新屋町	宝珠寺聖徳太子損政像	彫刻	本堂須弥壇に置かれた損政像。
東 27	上新屋町	宝珠寺達磨大師像	彫刻	椅子に掛けた達磨大師像。
東 28	上新屋町	宝珠寺山岡鉄舟の書跡群	書跡	山岡鉄舟が滞在した時の書。
西 01	雄踏町	雄踏町西ヶ崎自治会文書	古文書	天保 3 年「若者掟」、慶応 3 年「御蔵寄付」。
西 02	雄踏町	雄踏町山崎の百万遍念仏	無形民俗	毎年 8 月 1 日川施餓鬼とともに開催される。
西 03	雄踏町	雄踏町領家の金館車	有形民俗	息神社祭典で領家地区が使用する山車。
南 01	新橋町	大通院山門	建造物	宝曆 4 年(1754)建立、昭和 27 年移築。
南 02	新橋町	大通院禁革酒標石	有形民俗	文化 12 年(1815)、馬繋ぎ石を兼ねる。
南 03	新橋町	大通院釈迦如来像	彫刻	天明 5 年(1785)造立と伝わる。
南 04	新橋町	大通院舍利容器	工芸品	宝曆 14 年(1764)に大通院に拝請された。
南 05	堤町	堤町馬頭觀音像	有形民俗	明応年間(1492~1500)勅請と伝えられる。
南 06	倉松町	倉松町のいのち藏信仰資料	有形民俗	村の火葬場に通じる野辺の入口に置かれていた。
南 07	金折町	金折津島神社御開祭(ヨイトー)	無形民俗	8 月 4 日の夜、大松明を運ぶ虫送りと天王祭。
北 01	細江町気賀	日本基督教团氣賀教会礼拝堂	建造物	大正 4 年(1916)の木造建築。日曜礼拝見学可。
浜北 01	根堅	岩水寺阿弥陀如来像	彫刻	平安時代の作と伝わる木造坐像。

浜北 02	根堅	岩水寺仁王門	建造物	元禄ころと伝わる境内最古の建造物。
浜北 03	根堅	岩水寺大日如来像	彫刻	鎌倉時代の作と伝わる大型の木造坐像。
浜北 04	根堅	岩水寺聖徳太子像	彫刻	江戸時代の作と伝わる木製立像。
浜北 05	根堅	岩水寺青銅阿弥陀如来像	彫刻	正徳4年(1714)、京都の仏師による铸造坐像。
浜北 06	根堅	岩水寺不動明王像	彫刻	安土桃山時代の作と伝わる木造立像。脇本尊。
浜北 07	根堅	岩水寺毘沙門天像	彫刻	室町時代の作と伝わる木造立像。
浜北 08	根堅	岩水寺愛染明王像	彫刻	室町時代の作と伝わる木造坐像。脇本尊。
浜北 09	根堅	岩水寺藥師如来像	彫刻	白山神社の秘仏。江戸時代の作と伝わる立像。
浜北 10	根堅	岩水寺十一面觀音像	彫刻	安土桃山時代の作と伝わる木造立像。
浜北 11	根堅	岩水寺千手觀音像	彫刻	太子堂の秘仏。安土桃山時代作と伝わる立像。
浜北 12	根堅	岩水寺妙見菩薩像	彫刻	秘仏。星祭りを司る仏。江戸時代の作と伝わる。
浜北 13	根堅	岩水寺袖ヶ浦千水記	古文書	江戸時代。本尊子安地藏(重文)の由来を記す。
浜北 14	根堅	岩水寺地安坊大権現像	彫刻	天保2年(1831)神名帳に記載される立像。
浜北 15	根堅	岩水寺十二神将像	彫刻	秘仏。薬師堂の厨子に収まる。江戸時代の作。
浜北 16	(個人蔵)	浜松城主井上正直屋敷図	古文書	江戸の井上家屋敷の図面が現存する。
浜北 17	道本	道本中村家の石蔵	建造物	昭和12年(1937)建築。伊豆石の蔵。
浜北 18	小林	心宝寺山門	建造物	寛永9年(1632)、青山忠俊が寄進したと伝。
天竜 01	山東	旧光明村立山東尋常小学校門柱	建造物	大正14年(1925)の大正天皇銀婚を祝して建設。
天竜 02	水窪町奥領家	大野一本桜	天然記念物	旧大野分校の校庭にある。樹齢172年(H29)。
天竜 03	水窪町奥領家	水津まつり	無形民俗	大正9年(1920)開始、三社合同の祭礼。
天竜 04	水窪町奥領家	足神神社境内	史跡	青崩峠に向かう信州街道沿いの「足の神様」。
天竜 05	二俣町二俣	わんやの蔵	建造物	明治40年(1907)建設、総2階建ての土蔵。
天竜 06	二俣町二俣	藤井陶器店の蔵	建造物	慶応4年(1868)建設、2棟。見学不可。
天竜 07	二俣町二俣	天龍橋料金入箱	歴史資料	明治44年から鹿島橋の通行料を徴収した箱。
天竜 08	佐久間町奥領家	芋割神楽	無形民俗	日月神社秋季例祭で奉納される。
天竜 09	佐久間町相月	松島神楽	無形民俗	明和4年(1767)開始、御嶽神社で12演目。
天竜 10	二俣町二俣	二俣新町南 追屋台	有形民俗	明治期の製作。二俣諏訪神社の祭礼の屋台。
天竜 11	龍山町瀬尻	龍山町瀬尻の不動の滝	名勝	幾重がある滝のひとつ、落差32m。
天竜 12	二俣町	鹿島の花火	無形民俗	明治8年(1875)頃、椎ヶ駒神社奉納として開始。
天竜 13	二俣町二俣	マルカワの蔵	建造物	大正15年以前建設。店舗兼住宅と連結。
天竜 14	二俣町二俣	旧鐵田商店のガソリン計量器	歴史資料	昭和2年(1927)に設置。高さ240cm。
天竜 15	二俣町二俣	旧鐵田屋商店	建造物	昭和16年以前の商家。見学不可。
天竜 16	二俣町二俣	袴田喜長翁顕彰碑	歴史資料	二俣川の掘削を建設した袴田喜長を顕彰する。
天竜 17	熊	六郎沢の水辺空間	文化的景観	六郎沢の山間地稲作の景観とホタルの生息地。
天竜 18	二俣町	二俣まつり	無形民俗	諏訪神社の祭礼、13台の屋台を曳きまわす。
天竜 19	二俣町二俣	明治乳業天竜営業所	建造物	昭和初期。本島亥三郎の設計。見学不可。
天竜 20	二俣町二俣	二俣医院	建造物	大正期の木造建築を残す医院。
天竜 21	二俣町二俣	二俣医院の蔵	建造物	明治30年に移築、座敷蔵として使用された。
天竜 22	二俣町二俣	旧米徳酒店	建造物	昭和の看板建築がある旧酒店。立入は不可。
天竜 23	二俣町二俣	旧陣屋旅館	建造物	木造3階建ての旅館として営業した。立入不可。
天竜 24	二俣町二俣	鈴木徳十商店の蔵	建造物	明治20年代に建設。茶業を営んだ蔵。
天竜 25	春野町宮川	旧熊切小学校木造校舎玄関彫刻	彫刻	明治17年に製作され、小学校の玄関を飾った。
天竜 26	春野町長藏寺	出征兵士歓送迎台	歴史資料	昭和13年に旧熊切村が建設、兵士を見送った。
天竜 27	春野町	秋葉山表参道	史跡	春野町坂下から秋葉寺を経由し上社への参道。
天竜 28	二俣町二俣	藤屋醤油店	建造物	明治10年頃建築。店舗部分のみ見学可。
天竜 29	二俣町二俣	小沢義助像台座	歴史資料	昭和8年、碑文は犬養毅。当時の銅像は供出。
天竜 30	二俣町	鳥羽山洞門	近代化遺産	明治31年竣工の隧道。坑道はレンガづくり。
天竜 31	二俣町二俣	旧和田医院の蔵	建造物	昭和8年上棟の檜札がある道具蔵。
天竜 32	二俣町	下阿多古の消防手曳ガソリンポンプ	歴史資料	大正12年製造、下阿多古村で寄贈された。

第3章 浜松市地域遺産センター年報

1 施設の概要

(1) 施設の概要

地域遺産センターは、埋蔵文化財の調査や整理事業を行うほか、歴史・文化的資料の保管、文化財全般の公開普及、情報発信などを担う文化財保護の拠点施設である。市施設の再編によって空きが生じることとなった3階建ての建物の1・2階を改修して、平成29年1月にリニューアルオープンしており、市文化財課の職員の一部が常駐している。

折しも平成29年1～12月には、施設の所在する北区引佐町井伊谷が舞台となるNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」が放映されたため、大河ドラマの内容に関連する展示やイベントを展開するなど観光・地域振興的な役割も担っている。

(2) 施設の構造・設備

構造 本体：鉄筋コンクリート造 地上3階建

トラックヤード棟：鉄骨造 平屋建

面積 建築面積 1,239.91m²、延床面積 3,115.71m²

収蔵庫 24時間の温湿度管理を行い、資料を安定的に保管する。

トラックヤード・荷捌場 4t トラックが入庫可能である。

展示室 各種資料の展示を行う。開館時間中の温湿度管理を行うことができる。

ガイダンスコーナー 大型スクリーンを備えており、映像の放映、講座、小～中規模の展示等多目的な事業を行うことができる。

ロビー 休憩スペース、案内カウンター、ショップ、キッズコーナー、図書閲覧コーナー、VR体験コーナー等を備え、夏休み等には期間限定でクラフト等の体験スペースにも利用される。

エントランスホール 頭出しボードや紙製甲冑を常設したフォトコーナーのほか、飲料自動販売機、コインロッカー、アンケートコーナー等を備える。

事務室・作業室 職員が常駐して施設運営業務と埋蔵文化財保護業務を行うほか、埋蔵文化財の整理作業（遺物の復元、実測、写真撮影等）を行う。

駐車場 64台（隣接する引佐協働センターと共に）

エレベーター 1基

便所 1階に1箇所、2階に2箇所（うち1箇所は多目的トイレ）

授乳室 おむつ交換台、給湯可能な洗面台を備える。



施設外観



展示室



ガイダンスコーナー



ロビーのキッズコーナー

2 管理運営業務

(1) 運営体制

浜松市地域遺産センターの運営は、文化財課の職員が常駐し、埋蔵文化財業務を行なながら直営で実施した。なお、展示公開エリアの案内・販売・日常清掃等は（公社）浜松市シルバー人材センターへ委託し、設備の保守管理や機械警備等は、それぞれ民間業者へ委託した。



展示公開エリアの案内・販売業務

(2) 開館日時・観覧料等

開館時間 午前9時から午後5時（最終入館午後4時30分）

休館日 平成29年4月1日～平成30年1月14日の間は、年末年始（12月29日～1月3日）のみの休館としたが、以降は、毎週月曜日（祝日の場合翌日）を休館日に設定した。

観覧料 無料。ただし、体験事業等で材料を必要とする場合には、参加料を徴収した。

(3) 建物・設備の保全

8月～10月には、2階ロビーや作業室等で雨漏りが頻発したため、その対策として3階テラスの防水加工工事等を実施した。また、消防設備にも不具合が発生したため修繕工事を実施した。

(4) 図書やグッズの販売

2階の受付カウンター付近に販売コーナーを設け、文化財課で制作した刊行物のほか、旧引佐町時代に発行された刊行物、浜松市博物館の図録など図書を販売した。また、浜松の伝統産業である綿織物製品や注染染めの手ぬぐい、歴史関連の文具や雑貨などもあわせて販売した。

3 埋蔵文化財保護業務

(1) 調整業務

事業者からの直接、FAX、メール等による埋蔵文化財有無の照会への回答を行い、文化財保護法第93条に基づく届出の指導や、設計内容の協議、試掘・確認調査、本発掘調査に向けた調整を行った。また、市の各部局とも公共工事の調整を行った。

(2) 調査業務

開発事業予定地や保存目的の史跡における試掘・確認調査、本発掘調査、工事立会い調査を実施した。なお、本発掘調査の一部は民間発掘調査会社へ業務委託し、その監理を行った。

(3) 資料整理業務

現地調査によって得られた出土遺物や記録類の整理を行い、埋蔵文化財包蔵地の範囲の把握を行うとともに、調査の成果を周知するために発掘調査報告書等の編集作業を行った。

4 公開普及業務

(1) 展示

開館記念特別展「戦国の井伊谷」（平成 29 年 1 月 15 日～平成 30 年 1 月 14 日）

平成 28 年度から引き続き展示室にて開催した。期間中の観覧者数 96,364 人。

なお、展示室は特別展終了後も当面の間の常設展示として主な資料を残した。

企画展「祈り～発掘された奥浜名湖の至宝～」

（平成 30 年 1 月 27 日～3 月 25 日）

奈良国立博物館との考古資料相互活用促進事業により、北大里遺跡（北区三ヶ日町宇志）出土の瓦塔と、荒神山 2 号銅鐸（同町釣出土）を借用し、奥浜名湖地域の遺跡から出土した祭祀や宗教、埋葬等「祈り」にまつわる資料を集め、ガイダンスコーナーで展示した。

銅鐸・瓦塔以外の展示資料は、石棒・石劍（岡の平遺跡等）、画文帶神獸鏡（馬場平古墳）、手づくね土器（天白磐座遺跡等）、土製模造品（中津坂上遺跡等）、埴輪（狐塚古墳等）、屋根瓦（楠木遺跡）、藏骨器（摩訶耶寺等）である。また、関連事業として講座や体験などを実施した。期間中の観覧者数 3,833 人。



企画展のチラシ

その他の小規模展示 ガイダンスコーナー等で考古資料の速報展や地元の団体・学校などが企画・制作した資料・作品等の小規模な展示を実施した。

(2) 講座

平成 29 年度は現地見学会や企画展に関連して外部より講師を招き、計 4 回の講座を開催した。



瓦塔の展示公開状況

(3) 現地見学会

市内の文化財等の地域遺産を訪ねて歩く見学会「へりさんぼ～Heritage Walk～」を平成 29 年度に 7 回開催した。「へりさんぼ」の「へり」は、Heritage（ヘリテージ＝遺産）と縁（へり）を掛けたもので、地域の片隅に残されている地域遺産をわかりやすく紹介する目的で実施した。また、「さんぼ」と名の付くとおり、あまり堅苦しくなくのんびりしたペースで、幅広い年代層に楽しく見学していただくことを意識した。

また、見学先では地元の詳しい方に案内していただいたほか、事前準備や地元との調整などで市民の協力を得ながら実施した。



ミニ展示「旧西楽寺の五輪塔」



見学会「井伊氏ゆかりの石塔」

平成29年度の小規模展示開催状況

No.	月日	トピックス	内容
1	6月3日 ～7月9日	ミニ展示「旧西楽寺の五輪塔」	井伊谷の上野地区の旧西楽寺墓地に残されている中世の五輪塔を展示しながら、地域の石塔について紹介
2	7月9日 ～10月31日	映像展「棚田の四季」	久留女木の棚田(北区引佐町東久留女木)における1年間の景観や営みを撮影した写真を個人から借用して、スクリーンでスライドショー展示
3	7月13日～31日	ミニ展示「梶子遺跡出土遺物速報展」	梶子遺跡(中区南伊場町)の発掘調査で出土した陶馬や墨書き土器等を展示しながら、最新の調査成果を紹介
4	11月1日 ～30日	映像展「井の国空中散歩」 写真展「今に生きる川名の隠れ里」	「浜松山里いきいき応援隊」隊員が撮影した引佐町川名地区の写真展示や、ドローンで撮影した引佐町内各所の風景映像をスクリーンで放映
5	11月18日 ～1月14日	ミニ展示「二俣城跡・鳥羽山城跡」	両城跡の国指定史跡の答申を記念して、三次元レーザ測量の成果で作成したジオラマやパネルの展示
6	12月1日 ～1月14日	映像展「遠江のひよんどりとおくない」	当地域で正月に行われる国指定重要無形民俗文化財「遠江のひよんどりとおくない」の映像をスクリーンで放映
7	12月9日 ～1月14日	ミニ展示「地元の小学生が伝えた郷土の歴史」	井伊谷小学校の6年生や郷土クラブ員が制作したパンフレットや郷土かるた等の展示
8	1月27日～	大河ドラマ館メモリアル展示	市観光シティプロモーション課による、大河ドラマ館に展示されていた出演者のサインや題字の原書、ポスター等の展示
9	2月10日 ～12日	ミニ展示「昆虫標本展」	奥浜名湖地域を中心に理科教育に尽力された方の昆虫標本コレクションをボランティアの協力を得て実施。

平成29年度の講座開催状況

No.	月日	演題・講師	参加者数・内容
1	6月 3日	「井伊氏ゆかりの石塔」 本間岳人氏(池上本門寺靈宝殿)	60人。井伊谷に残されている井伊氏に関連のある石塔についての解説。現地見学会と同日開催。
2	7月 9日	「久留女木の棚田」 鈴木一記氏(久留女木竜宮小僧の会)	100人。久留女木の棚田の営みや地域の歴史・民俗についての紹介。現地見学会と同日開催。
3	2月 3日	「古代東海地域における三ヶ日町宇志瓦塔」 永井邦仁氏(愛知県埋蔵文化財センター)	53人。東海地域の瓦塔の出土例から三ヶ日町宇志出土の瓦塔の特徴等を解説。企画展関連事業。
4	2月17日	「浜松の銅鐸出土物語」 栗原雅也氏(浜松市博物館)	62人。浜松市内における銅鐸出土地の立地や埋納状況などを解説。企画展関連事業。

平成29年度現地見学会「へりさんぽ～Heritage Walk～」開催状況

No.	月日	開催次数、行き先	参加者数・内容
1	4月 2日	第3回「井伊谷城跡でお花見」	30人。井伊氏居館跡や井伊谷城跡を見学しながら、城跡で地元のお茶や鉢巣を味わって桜の花見を楽しむ。
2	5月14日	第4回「金指のまちなみと実相寺」	36人。実相寺伽藍が市指定文化財となったことを記念して開催。近世～近代の雰囲気が残る金指の町並みと、実相寺の伽藍内部や県指定枯山水庭園を先代住職の案内で見学。
3	6月 3日	第5回「井伊氏ゆかりの石塔」	60人。石塔研究者の案内で、井伊谷の龍潭寺や井伊氏居館跡等に残る井伊氏ゆかりの石塔を見学。
4	7月 9日	第6回「久留女木の棚田」	100人。現地で耕作されている方の案内で、棚田百選に選定され、大河ドラマのロケ地にもなった棚田を見学。
5	8月26日	第7回「たそがれの井伊谷城跡」	10人。井伊直虎命日の夜にミニ灯籠を作り、井伊氏居館跡や二宮神社等をめぐりながら井伊谷城跡で灯籠を飾る。
6	11月23日	第10回「浜川・寺野」	40人。地元の歴史に詳しい方の案内で、井伊氏ゆかりの東光院や井伊氏墓所、寺野の宝蔵寺観音堂などを見学。
7	3月23日	第11回「馬場平古墳とその周辺」	70人。馬場平古墳をはじめ、周辺に残る中世石塔や道標、近代の石灰工場引込線跡に残る橋などを見学。

※第8回、第9回は天候不良や講師都合により中止

(4) 体験事業・その他イベント

こども向けのプログラム ゴールデンウィークや夏休み期間中には、こども向けのクラフト体験や館内クイズラリー、土器の発掘模擬体験、夜間のバックヤードツアーなどを実施した。

クラフト体験は、大河ドラマにあわせて、戦国時代の井伊氏にまつわる資料（かぶと、陣羽織、扇）を題材に実施した。また、近隣に所在する馬場平古墳をモチーフとした古墳キーホルダーブルーバーのワークショップも開催した。

クイズラリーは、館内の展示物にちなんだ設問を解いてもらいながら、地域の歴史について知識を深めてもらうことを目的に実施した。また、館内のスタッフに聞かないと答えられない設問を用意することで、スタッフと来場者のコミュニケーションを促進する効果も狙った。

土器の発掘・接合体験は、各時代の土器の小破片を活用して実施した。発掘調査の方法や、時代による土器の違いなどを、土器に直接さわりながら学んでもらった。

夜間のバックヤードツアー「探検！ナイトミュージアム」は、照明を落とした館内で懐中電灯を頼りに見学するほか、普段は非公開の作業室等を公開した。施設で普段行われている業務や役割などを知ってもらい、文化財保護事業に対する理解を深めていただくことができた。

考古学×スイーツ体験事業 幅広い層にその魅力を知っていただくため、若年層や女性をターゲットとしたスイーツを用いた体験事業を実施した。「ドッキーワークショップ」講習会は、土器片に酷似したクッキー（通称：ドッキー）づくりを通して、土器の製作技法についての理解を深めるワークショップの運営を学ぶため実施した。

「三角縁神獣鏡をつくろう！」は、鏡のレプリカから起こした型にチョコレートを流し込み、銅鏡の鋳造を疑似体験するもので、古墳時代の銅鏡についての解説を交えながら実施した。

「瓦塔ショコラをつくろう！」は、実物の瓦塔の観察後に各部材を模した菓子を作り、それを組み上げていくことで瓦塔の設置を疑似体験し、瓦塔の構造や意匠について理解を深めるものである。菓子の製作については、瓦塔出土地である三ヶ日町の和菓子店の協力を得た。

その他イベント 引佐地域で生産される渋川茶やいなさ牛乳等の地場産業を紹介するイベントを開催した。これらは地元の団体が中心となって運営しており、地域との連携を深めることができた。

平成29年度の体験事業・イベント

No.	月日	名称	参加者数・内容
1	4月1・2日	お茶でのおもてなし	施設入口にて地元産のお茶のふるまい（地元団体による）
2	5月3～7日	GWイベント	約835人。土器発掘・接合体験、クイズラリー、かぶと等のクラフト体験
3	7月22日～8月27日	夏休みキッズイベント 「井伊谷夏の陣」	約2,097人。土器発掘・接合体験、クイズラリー、扇や陣羽織等のクラフト体験
4	8月6日	探検!ナイトミュージアム	18人。夜間開館してバックヤードツアーや、照明を落とした中で懐中電灯を持っての展示見学
5	8月12日	涼み処 井伊ノ屋	773人。地元の牛乳のアイス販売、おしづりや冷茶サービスなど
6	9月24日	前方後円墳形キーホルダーをつくろう！	40人。八尾市立しおんじやま古墳学習館館長福田和浩氏と、同館のキャラクター「ハニワこうてい」を招き、古墳の築造方法を学びながらキーホルダーを作るワークショップを開催
7	10月1日	ドッキーワークショップ 講習会	20人。お菓子作り考古学者下島綾美氏を招き、土器片形クッキー「ドッキー」を作るワークショップの方法を学ぶ
8	1月28日	三角縁神獣鏡チョコレートをつくろう！	18人。福井市文化財保護課の藤川明宏氏を招き、三角縁神獣鏡の型にチョコレートを流し込み、銅鏡の鋳造方法や文様について学ぶワークショップを開催
9	2月17日	銅鐸デー	148人。銅鐸のレプリカを実際に鳴らす体験や、細江町の銘菓「銅鐸最中」を販売
10	2月24日	瓦塔ショコラをつくろう！	20人。瓦塔の部材に見立てた菓子を組立てたり装飾したりすることで、瓦塔の構造や製作技法を学ぶワークショップを開催



かぶとや扇等のクラフト体験



土器の接合体験



探検！ナイトミュージアム



ドッキーワークショップ講習会



三角縁神獣鏡チョコをつくろう！



瓦塔ショコラをつくろう！

（5）情報発信事業

チラシ・広報誌等の紙媒体 展示やイベント等の開催を周知するためにポスター・チラシを作成し、市内外の公共施設や学校、宿泊施設、観光施設、店舗等に掲出を依頼したほか、旅行代理店や観光系の企業にも送付した。また「広報はままつ」も有効に活用した。

インターネットの活用 市のホームページにて、イベント等の周知を実施したほか、フェイスブックのページを立ち上げ、記事の一部を湖北高等学校の生徒にも執筆してもらった。また、外部のウェブサイトにも施設やイベント等の情報の掲載を依頼した。

各種メディアへの出演等 大河ドラマの効果もあり、TV（4件）、ラジオ（3件）への出演のほか、新聞・雑誌等に取り上げられる機会に多数恵まれた。

（6）複製品作成事業

地域遺産センター周辺の文化財に関する資料の複製品を製作した。対象は、画文帶神獣鏡（馬場平古墳出土、静岡県指定有形文化財）、川名のひよんどり（国指定重要無形民俗文化財）に伝承する翁面、寺野のひよんどり（同）に伝承する鬼面の3点である。

複製品の制作に際しては、脆弱な資料も含まれるため非接触の方法で行った。まず、資料の三次元計測を行い、そのデータを3Dプリンターで出力したものからシリコンで型を取って、FRP製の複製品を作成した。

今後、複製品は展示や体験事業に活用していく予定であるほか、取得した三次元データは、民俗芸能の面を万が一作り直さなければならなくなったら際に活用することも想定している。



(左:計測、右上:データ処理、右下:彩色作業)



複製品(左から画文帶神獣鏡、翁面、鬼面)

5 利用状況

(1) 入館者数の推移

平成 29 年度には 78,971 人の入館者があった。大河ドラマ関連の特別展を開催していた平成 29 年 1 月から平成 30 年 1 月までの期間は毎日平均 200 ~ 300 人程度の入館者数であったが、それ以降の平成 30 年 2 ・ 3 月期はいずれも 2 衍の入場者数となった。

(2) 入館者の傾向と意見・要望

傾向の把握方法 入館者の年代・性別・居住地等の情報や、意見・要望を把握するため、性別・年代別に色や形をわけたシールを用意し、アンケートボードに貼る方式を採用した。また、木を描いた大きなシートに葉や実をつけるように意見・要望等を記入した付箋を貼ってもらうようにした。

年代ごとの比率 歴史系の講座に多くみられる 60 代以上の比率が高くなると予測していたが、40 ~ 50 代が男女とも最も多く、他の年代もまんべんなく来館していることが判明した。

地域別の比率 市内の来館者は 20% 強に留まり、愛知県を中心とした中部圏を中心に関東圏・関西圏から比較的多くの来館者がみられた。

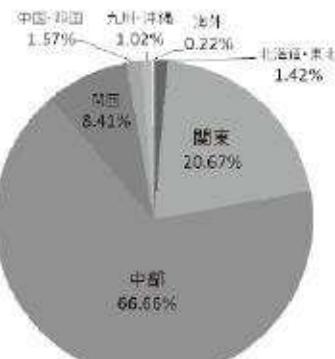
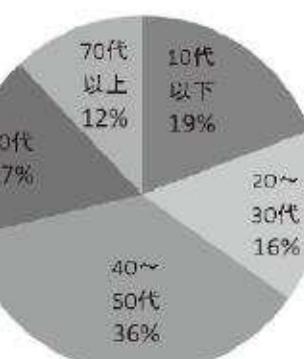
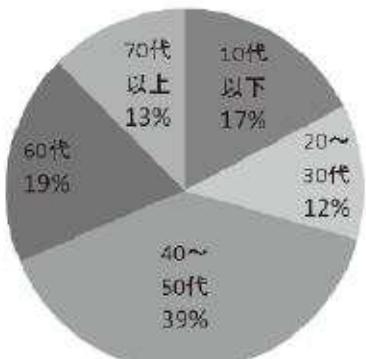
意見・要望 234 件のご意見・ご要望をいただいた。大半は好意的な感想であったが、ご要望・叱咤も頂いた。主なものを以下に記す。

- ・展示品が少ない。
- ・施設の P R が足りない。
- ・レンタサイクルを扱うと良い。
- ・トイレに洋式便器が少ない。
- ・展示が外国人の見学に対応していない。

平成 29 年度月別入館者数の推移 単位(人)

	H28年度		H29年度		前年比	
	入場者	1日平均	入場者	1日平均	入場者	1日平均
4月			8,201	273		
5月			10,860	350		
6月			8,388	280		
7月			6,249	202		
8月			10,035	324		
9月			7,777	259		
10月			6,705	216		
11月			8,822	294		
12月			4,506	161		
1月	4,440	261	3,959	264	-481	3
2月	7,031	251	1,589	66	-5,442	-185
3月	9,989	322	1,880	70	-8,109	-253
計	21,460	278	78,971	230	-57,511	-48
累計	21,460		100,431			

男性来館者の世代別比率



(3) 観察・団体利用など

学校をはじめ他自治体、歴史愛好団体等の利用や観察があり、説明等の対応を行った。

平成29年度の主な観察・団体利用

No.	月日	団体名・人数・目的等	No.	月日	団体名・人数・目的等
1	4月11日	三遠南信地域を語る会 54人	24	6月26日	直虎女子会 25人
2	4月11~13日	奥浜名湖観光ガイドの会 63人	25	6月30日	市立篠原小学校 52人
3	4月26日	御前崎市・新野左馬助公顕彰会 10人	26	7月1日	静岡県文化財保存協会 38人
4	5月10日	きらっと引佐 12人	27	7月17日	新野左馬助公顕彰会 50人
5	5月19日	豊橋市歴史研究会 11人	28	7月24日	高森町教委 20人
6	5月20日	静岡県こども観光大使 40人	29	7月26日	市立引佐南部中学校 10人
7	5月21日	富士宮市芝川郷土史研究会 32人	30	8月4日	静岡鉄道 22人
8	5月23日	湖原歴史研究会 36人	31	9月8日	浜松西部商工会 60人
9	5月25日	初倉郷土研究会 44人	32	10月6日	豊明市文化財保護審議会 10人
10	6月1日	三ヶ日まちづくり協議会 27人	33	10月12日	市立北浜南小学校 61人
11	6月2日	市立城北小学校 77人	34	10月18日	静岡県博物館協会 21人
12	6月3日	長野県高森町教委・高森中学校 32人	35	10月23日	豊川市商工会 15人
13	6月5日	市立金指小学校 20人	36	10月24日	市立穂志小学校 139人
14	6月6日	市立井伊谷小学校 15人	37	11月19日	甲府城下町を語る会 39人
15	6月13日	市立伊佐見小学校 52人	38	11月25日	戦国武将ゆかりの地を行く会 31人
16	6月13日	金沢城研究会 30人	39	11月28日	豊川市役所 21人
17	6月16日	市立神久呂小学校 36人	40	12月19日	市立花川小学校 14人
18	6月17日	三ヶ日郷土を語る会 31人	41	2月10日	奥浜名湖観光ガイドの会 20人
19	6月21日	飯田市商工会 14人	42	2月25日	三ヶ日町郷土を語る会 45人
20	6月22日	市立泉小学校 100人	43	3月6日	明日香村文化協会 6人
21	6月23日	市立竜塙小学校 94人	44	3月11日	祭祀考古学会 16人
22	6月24日	長久手市役所 10人	45	3月18日	世界遺産の会 20人
23	6月26日	彦根城博物館友の会 50人	46	3月25日	志段味の自然と歴史に親しむ会 40人

※説明を要しない観光ツアー等は除く

6 今後の課題と展望

平成29年度は、大河ドラマの影響で想定以上の入館者数を記録した。市内の文化財や歴史を広く認知してもらう良い機会となったものの、市外からの入館者が多かったこともあり、まだ市民全般に施設が認知されたとはいえない状況である。

今後は、次世代を担う若年層を主なターゲットにしながら、異なるジャンルとのコラボレーション事業や積極的なアウトリーチなどによって、幅広い層の文化財への興味・関心を掘り起こすような取り組みが必要である。

また、施設の内外で活躍するボランティアの拡充や、学校・各種団体等と連携した事業などを通じて地域とのつながりをさらに深め、多くの市民に気軽に立ち寄ってもらいながら、市民と共に文化財の保存・活用を図ることのできる施設としていくことが望まれる。

第2部 埋蔵文化財調査報告

第1章 埋蔵文化財調査の概要

平成29年度に浜松市が実施した、埋蔵文化財発掘調査に係る事業は以下のとおりである。

(1) 埋蔵文化財発掘調査事業

①市内遺跡所在照会：5,254件（昨年比98%）（中区：1,598件（97%）、東区：958件（94%）、西区：659件（94%）、南区：674件（98%）、北区：545件（108%）、浜北区：666件（103%）、天竜区：154件（139%）

②遺跡内における土木工事の事前届出、通知の処理

法93条（民間開発）届出：169件（88%） 法94条（公共事業）通知：34件（97%）

③開発に伴う試掘確認調査、保存目的の確認調査 49件

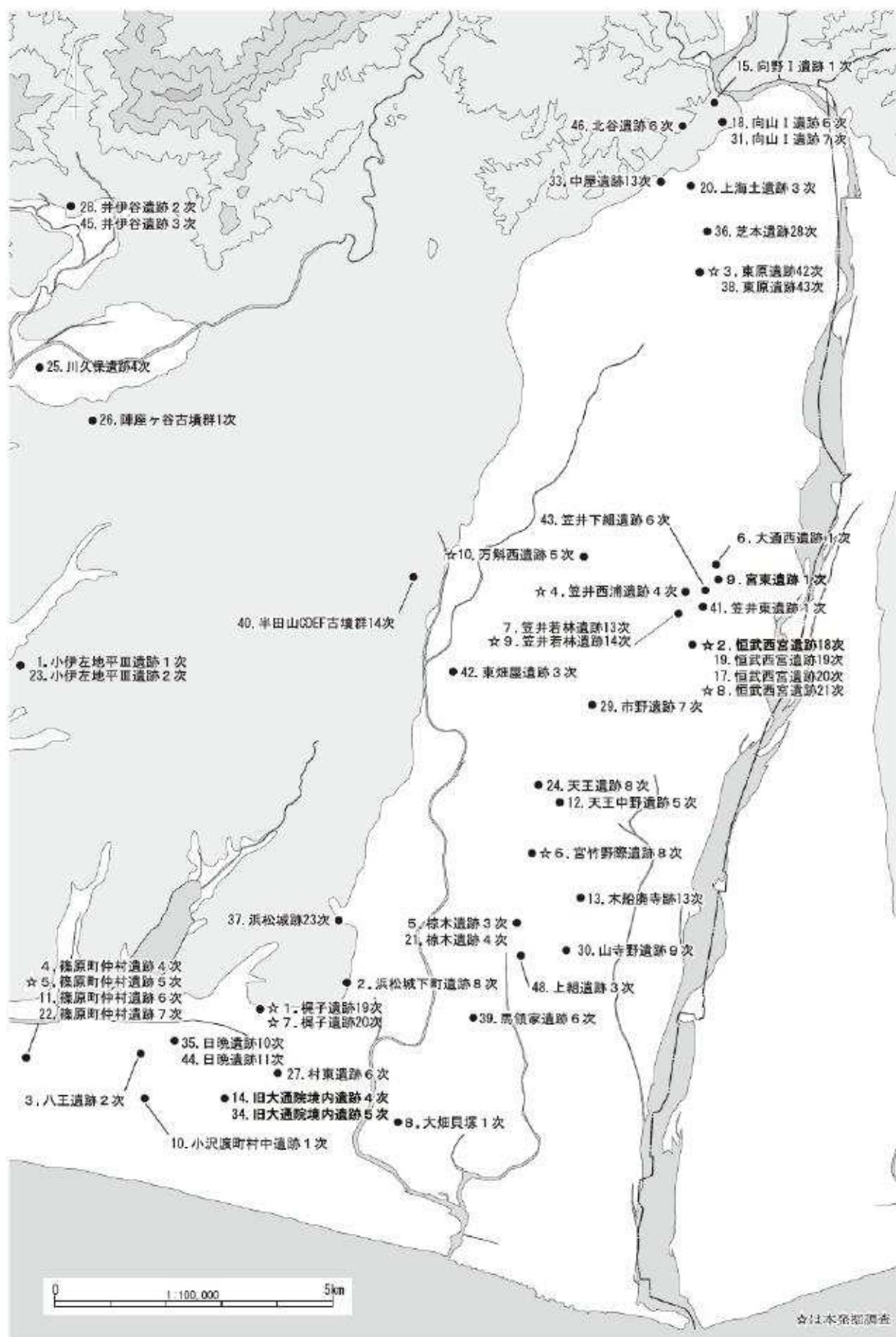
恒武西宮遺跡 19次（東区恒武町）ほか

(2) 埋蔵文化財本発掘調査事業

開発に伴う事前の発掘調査 8件 梶子遺跡 19・20次（中区南伊場町）ほか



調査位置図（1）



調査位置図 (2)

平成29年度本発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	調査月日	調査原因	区分	調査面積(約m ²)	掲載頁
1	梶子遺跡19次	中区南伊場町	2016年4月1日～2017年6月30日	工場建替	現地調査	6,566	37
2	恒武西宮遺跡18次	東区貴平町	2017年4月19日～30日	工場新築	現地調査	36	37
3	東原遺跡42次	浜北区於呂	2017年4月27日	浄化槽設置	現地調査	3	38
4	笠井西浦遺跡4次	東区笠井町	2017年5月23日～9月29日	店舗建替	整理作業	—	39
5	篠原町仲村遺跡5次	西区篠原町	2017年6月12日～15日	個人住宅建築	現地調査	80	39
6	宮竹野際遺跡8次	東区宮竹町	2017年7月6日～2018年3月23日	道路整備	整理作業	—	40
7	梶子遺跡20次	中区南伊場町	2017年10月～12月・2018年1月	工場建替	現地調査	70	40
8	恒武西宮遺跡21次	東区恒武町	2017年12月11日～2018年3月16日	事務所建築	現地調査	1,704	41
9	笠井若林遺跡14次	東区笠井町	2017年11月27日～12月1日	個人住宅兼賃貸住宅建築	現地調査	144	42
10	万斛西遺跡5次	東区中部町	2017年12月5日～15日	公園整備	現地調査	36	42

平成29年度試掘・確認調査・範囲確認調査一覧

No	遺跡名	所在地	調査月日	調査原因	対処	区分	調査面積(約m ²)	掲載頁
1	小伊左地平面遺跡1次	西区伊左地町	2017/4/5	土砂採取	破壊地点	先方負担事業	141	43
2	浜松城下町遺跡8次	中区塙町	2017/4/10・12/13	道路改良	剖面調査	先方負担事業	16	43
3	八王遺跡2次	南区高柳町	2017/4/24	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	12	44
4	篠原町仲村遺跡4次	西区篠原町	2017/5/10	個人住宅建築	設計変更検討	国庫補助事業	12	44
5	椋木遺跡3次	東区子安町	2017/5/16	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	4	45
6	大通西遺跡1次	東区豊町	2017/5/18	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	13	45
7	笠井若林遺跡13次	東区笠井町	2017/5/29	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	12	46
8	大畑貝塚1次(隣接地)	南区白羽町	2017/6/1	個人住宅建築	範囲外	国庫補助事業	9	46
9	宮東遺跡1次	浜北区寺島	2017/6/5	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	9	47
10	小沢渡町村中遺跡1次	南区小沢渡町	2017/6/19	集合住宅建築	範囲変更	国庫補助事業	8	47
11	篠原町仲村遺跡6次	西区篠原町	2017/6/22	分譲住宅建築	範囲変更	国庫補助事業	24	48
12	天王中野遺跡5次	東区天王町	2017/6/24・7/7	店舗建設	保護可能	先方負担事業	7	48
13	木船廢寺跡13次	東区和田町	2017/6/26	事務所新築	希薄地点	国庫補助事業	24	49
14	旧大通駅南内遺跡4次(隣接地)	南区新橋町	2017/7/10	個人住宅建築	範囲外	先方負担事業	9	50
15	向山I遺跡1次	浜北区根堅	2017/7/20	個人住宅建築	範囲変更	国庫補助事業	16	50
16	三分町堂平遺跡1次	北区三分町下尾原	2017/7/28	浄化槽設置	希薄地点	先方負担事業	3	51
17	恒武西宮遺跡20次	東区貴平町	2017/8/1・2	浄化槽設置	調査済	先方負担事業	4	51
18	向山I遺跡6次	浜北区於呂	2017/8/9	宅地造成	希薄地点	国庫補助事業	19	52
19	恒武西宮遺跡19次	東区恒武町	2017/8/17	集合住宅建築	保護可能	国庫補助事業	12	52
20	上海土遺跡3次	浜北区於呂	2017/8/22	保育園建設	範囲変更	国庫補助事業	20	53
21	椋木遺跡4次	東区子安町	2017/8/24	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	12	54
22	篠原町仲村遺跡7次	西区篠原町	2017/8/29	宅地分譲	希薄地点	国庫補助事業	24	55
23	小伊左地平面遺跡2次	西区伊左地町	2017/8/31・9/1	土砂採取	破壊地点	先方負担事業	343	56
24	天王遺跡8次	東区天王町	2017/9/20	鉄塔建替	剖面調査	国庫補助事業	8	57
25	川久保遺跡4次	北区細江町中川	2017/10/2	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	11	57
26	陣屋ヶ谷古墳群1次	北区細江町中川	2017/10/24・26・27	太陽光発電所設置	保護可能	国庫補助事業	61	58
27	村東遺跡6次	南区若林町	2017/10/27	個人住宅建築	希薄地点	先方負担事業	24	59
28	井伊谷遺跡2次	北区引佐町井伊谷	2017/11/2	個人住宅建築	希薄地点	先方負担事業	4	59
29	市野遺跡7次	東区市野町	2017/11/3	事務所新築	範囲変更	先方負担事業	36	60
30	山寺野遺跡9次	南区三和町	2017/11/20	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	5	61
31	向山I遺跡7次	天竜区二俣町鹿島	2017/11/29・30	宅地造成	範囲変更	国庫補助事業	48	61
32	深萩古墳群1次	西区深萩町	2017/12/4	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	15	62
33	中屋遺跡13次	浜北区根堅	2017/12/6	個人住宅建築	保護可能	国庫補助事業	11	62
34	旧大通院境内遺跡5次	南区新橋町	2017/12/18	寺院本堂建替	保護可能	国庫補助事業	18	63
35	日晚遺跡10次	南区増塙町	2017/12/25	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	5	64
36	芝本遺跡28次	浜北区於呂	2018/1/9	倉庫建設	範囲変更	国庫補助事業	6	64
37	浜松城跡23次	中区元城町	2018/1/9～3/7	公園整備	公園整備	市単独事業	33	65
38	東原遺跡43次	浜北区新原	2018/1/11	個人住宅建築	希薄地点	国庫補助事業	12	65
39	馬頭冢遺跡5次	中区領家二丁目	2018/1/15	集合住宅建築	範囲変更	国庫補助事業	5	66
40	半田山CDE古墳群14次	東区半田山丁目	2018/1/18・19	駐車場造成	希薄地点	国庫補助事業	89	66
41	笠井東遺跡1次	東区恒武町	2018/1/22	個人住宅建築	保護可能	国庫補助事業	7	68
42	東根塚遺跡3次	東区有玉南町	2018/1/31	宅地造成	剖面調査	先方負担事業	56	68
43	笠井下組遺跡6次	東区笠井町	2018/2/2	携帯基地局設置	保護可能	先方負担事業	1	70
44	日晚遺跡11次	南区増塙町	2018/2/4	店舗新築	剖面調査	国庫補助事業	44	70
45	井伊谷遺跡3次	北区引佐町井伊谷	2018/2/6	個人住宅建築	希薄地点	市単独事業	4	72
46	北谷遺跡6次	浜北区根堅	2018/2/19	浄化槽設置	希薄地点	先方負担事業	5	72
47	龟冢古墳1次	西区真松町	2018/2/19・20	保存目的	保護	市単独事業	325	73
48	上組遺跡3次	南区渡瀬町	2018/2/22	ガス管理設工事	希薄地点	先方負担事業	2	73
49	深萩古墳群2次	西区深萩町	2018/3/2	個人住宅建築	希薄地点	市単独事業	21	74
50	光明山古墳群7次	天竜区山東	2018/3/12～5/25	保存目的	保護	市単独事業	284	74

平成29年度工事立会一覧

No	遺跡名	所在地	調査月日	調査原因	検出遺構	調査担当者	掲載頁
1	上取古墳群	浜北区宮口	2017/4/28	地下埋設管試掘	なし	井口智博	75
2	五反田遺跡	東区丸塚町	2017/5/19	側溝改良	なし	井口智博	75
3	芝本遺跡	浜北区於呂	2017/5/24	浄化槽設置	なし	峰木京太郎	75
4	北谷遺跡	浜北区根堅	2017/5/24	排水設置	なし	峰木京太郎	75
5	高塚町村西遺跡	南区高塚町	2017/6/7	建物解体工事	なし	井口智博	75
6	宮竹野原遺跡	東区上西町	2017/6/20	店舗建設	なし	井口智博	76
7	吉沢古墳群	北区三ヶ日町日光沢	2017/6/22	立木伐採	古墳1基	井口智博	76
8	駒東遺跡	中区西浅田一丁目	2017/7/5	建物解体工事	なし	井口智博	76
9	井村遺跡	南区若林町	2017/7/10	店舗建設	なし	和田達也	76
10	村裏遺跡	南区東若林町	2017/7/13	ガス管埋設工事	なし	井口智博	76
11	東堀屋遺跡	東区有玉南町	2017/7/24	個人住宅建築	なし	井口智博	77
12	神ヶ谷町山の神遺跡	西区神ヶ谷町	2017/8/1	土水道管敷設	なし	井口智博	77
13	西細屋遺跡	東区有玉南町	2017/8/16	浄化槽設置	上水器、須恵器	和田達也	77
14	天王中野遺跡	東区天王町	2017/8/18・25・28	建物解体工事	なし	井口智博	77
15	北門遺跡	北区引佐町井伊谷	2017/9/5	土水道管敷設	なし	和田達也	77
16	高塚町村西遺跡	南区高塚町	2017/9/10・10/5・12・20・25・27	建物解体工事	なし	井口智博	78
17	笠井西浦遺跡	東区笠井町	2017/9/25	建物解体工事	なし	山中美歩	78
18	恒武西浦遺跡	東区恒武町	2017/9/29	排水設置	土師質土器	和田達也	78
19	梶子遺跡	中区南伊場町	2017/10/3	地下埋設物撤去	なし	峰木京太郎	78
20	浜松城跡	中区元城町	2017/10/4・11/1	店舗建設	なし	峰木一有	78
21	村裏遺跡	南区東若林町	2017/10/10	ガス管埋設工事	なし	峰木一有	79
22	中屋遺跡	浜北区根堅	2017/10/18	浄化槽設置	かわらけ	山中美歩	79
23	宮竹野原遺跡	東区上西町	2017/11/15・12/7	建物解体工事	なし	井口智博	79
24	浜松城下町遺跡	中区松城町	2017/11/20	建物解体工事	なし	井口智博	79
25	諸園遺跡	西区舞阪町弁天島	2017/11/22	屋外便所新築	なし	山中美歩	79
26	陶国遺跡	東区笠井上町	2017/11/27	鋪装修繕	なし	井口智博	80
27	笠井若林遺跡	東区笠井町	2017/11/28	建物解体工事	なし	井口智博	80
28	特監名遺跡	東区神立町	2017/12/5・2018/1/10	側溝設置	なし	峰木一有	80
29	祝田遺跡	北区綾江町中川	2017/12/11	浄化槽設置	須恵器、山差碗、瀬美灰瓦	井口智博	80
30	山寺野遺跡	南区飯田町	2017/12/14	下水道工事	なし	峰木一有	81
31	板屋坂遺跡	西区伊左地町	2017/12/22	浄化槽設置	なし	和田達也	81
32	別当遺跡	西区馬郡町	2018/1/9	駐輪場整備	なし	峰木京太郎	81
33	上新屋遺跡	東区上新屋町	2018/2/9	ガス管理設工事	なし	峰木京太郎	81
34	駒東遺跡	中区森田町	2018/2/23	ガス管埋設工事	なし	和田達也	81
35	古名古窯跡群	浜北区宮口	2018/2/26	個人住宅建築	なし	峰木京太郎	82
36	山寺野遺跡	南区飯田町	2018/3/1	ガス管埋設工事	なし	和田達也	82
37	中嶋遺跡	北区三ヶ日町上尾奈	2018/3/6	浄化槽設置	なし	峰木京太郎	82
38	恒武西宮遺跡	東区賛平町	2018/3/7	浄化槽設置	古式土器、灰釉陶器	和田達也	82
39	梶子遺跡	中区南伊場町	2018/3/7	配水管埋設	赤生土器	井口智博	83
40	石岡遺跡	北区綾江町三和	2018/3/12	浄化槽設置	土器器、内耳鍋、陶器	峰木一有	83
41	別所東遺跡廣接地	東区市野町	2018/3/14	汚染土除去	なし	井口智博	83
42	浜地遺跡	西区入野町	2018/3/20	店舗建設	なし	井口智博	84
43	柏木遺跡	東区子安町	2018/3/22	ガス管埋設工事	なし	峰木一有	84
44	増葉町村中塚跡	南区増葉町	2018/3/30	個人住宅建築	なし	井口智博	84

平成29年度内容変更遺跡一覧

	遺跡名	所在地	登録番号	内容変更	登録面積 (sq)	登録日
1	小沢郷町村中遺跡	南区小沢郷町	4-03-7	範囲変更	53,530	2017/7/11
2	藤原町仲村遺跡	西区藤原町	3-06-5	範囲変更	95,300	2017/7/24
3	大明神山古墳群	北区三ヶ日津々崎	5-05-68	範囲変更	9,000	2017/8/8
4	向野Ⅰ遺跡	浜北区根堅	6-03-22	範囲変更	1,500	2017/8/8
5	正乗寺岡遺跡	北区引佐町井伊谷	5-04-18	範囲変更	25,195	2017/10/5
6	上海土遺跡	浜北区於呂	6-03-40	範囲変更	28,000	2017/10/5
7	市野遺跡	東区市野町	2-03-8	範囲変更	123,000	2017/12/5
8	向山Ⅰ遺跡	浜北区於呂	6-03-24	範囲変更	79,700	2018/1/4
9	宮竹野原遺跡	東区宮竹町、上西町	2-05-4	範囲変更	110,500	2018/1/22
10	芝本遺跡	浜北区於呂芝本	6-03-30	範囲変更	253,500	2018/1/22
11	鷦鷯家遺跡	中区鷦鷯家二丁目	1-06-1	範囲変更	13,200	2018/1/22
12	東細屋遺跡	東区有玉南町	2-01-37	範囲変更	35,700	2018/3/16

第2章 本発掘調査概要

1 梶子遺跡 19次（かじこいせき）

所在地 中区南伊場町

調査期間 平成28年4月～平成29年6月

調査原因 工事建替

調査面積 6.566m²（平成28年から継続）

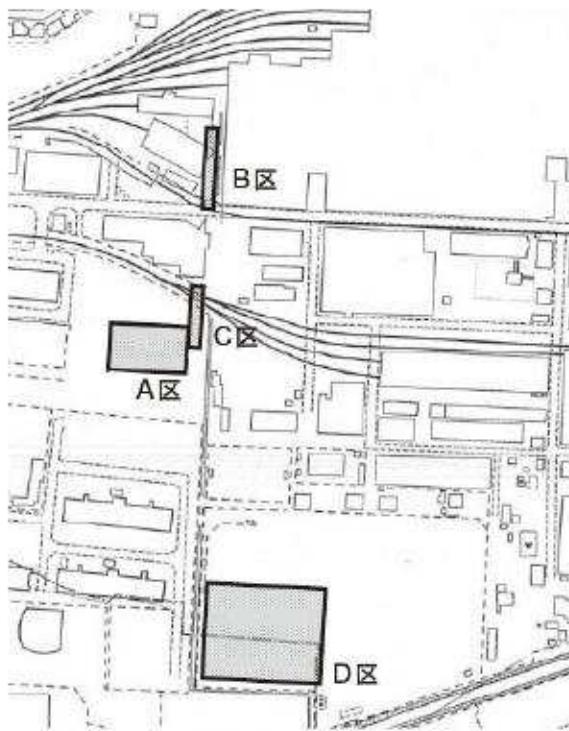
7月以降は資料整理作業

調査概要 平成29年度はD調査区において伊場大溝の調査を継続して実施した。

検出した伊場大溝の規模は、幅約18m、検出面からの深さ約2.9mである。大溝は古墳時代から鎌倉時代の自然流路であり、埋土中から多数の土器や木製品、金属製品等が出土した。特に奈良・平安時代の木簡が13点と、800点近くにも及ぶ墨書き土器が出土したことは特筆される。いずれも古代の敷智郡家に関わる文字資料である。

※調査成果の詳細は、20次調査の成果とともに「梶子遺跡19・20次」（2019年刊行）に掲載する。

調査担当 井口智博



位置図(5,000分の1)

2 恒武西宮遺跡 18次 (つねたけにしみやいせき)

所在地 東区貴平町

調査期間 平成29年4月19日・20日

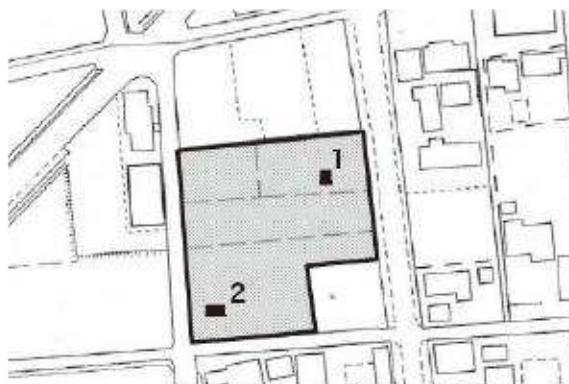
調査原因 工事建築

調査面積 36.2m²

調査概要 調査区2において竪穴建物を検出した。建物内からは古式土師器（S字壺C類）が出土しており、3世紀後半の遺構と考えられる。また、調査区1・2の上層において5世紀代の土師器・須恵器が出土した。平成28年度の予備調査で、西側に高位面、東側に湿地状の堆積がみられる低位面を確認しており、3世紀後半には西側が集落の中心地になっていたとみられる。また、5世紀には東側の流路は埋没したようである。当該地北西で実施した1次調査、6次調査箇所で5世紀の建物跡が検出されていることから、当該地は3世紀～5世紀の間人々の活動が及ぶ場所であったと考えられる。

※詳細は、第5章1（85頁）に掲載。

調査担当 山中美歩



位置図(2,500分の1)



調査区2完掘状況

3 東原遺跡 42 次

(ひがしばらいせき)

所在 地 浜北区於呂

調査期間 平成 29 年 4 月 27 日

調査原因 清化槽設置

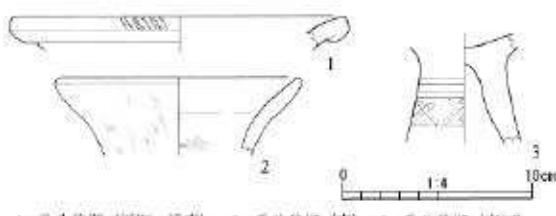
調査面積 2.5m²

調査概要 本調査区は、弥生時代後期の方形周溝墓を検出した 39 次調査区の南西隣接地に位置する。遺構は確認できなかったが、地表や表土・搅乱土中には多くの弥生土器がみられた。本調査区は、方形周溝墓の空白地にあたると捉えられる。

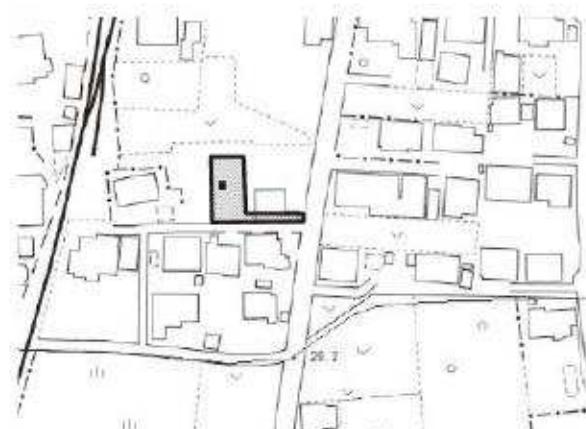
調査担当 和田達也



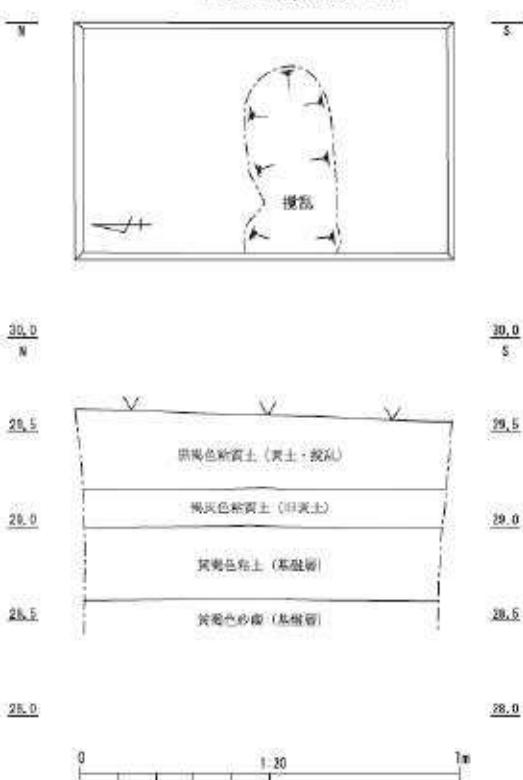
42 次調査とその周辺の調査位置図



出土遺物実測図(S = 1/4)



位置図(2,500分の1)



調査区平面図及び土層断面図



調査区全景



主要出土遺物・採集遺物

4 笠井西浦遺跡 4次 (かさいにしうらいせき)

所在 地 東区笠井町
調査期間 平成 29 年 5 月～9 月
調査原因 店舗建築
調査内容 資料整理・報告書刊行作業
調査概要 2 条の溝と複数の土坑、小穴を確認した。遺物は奈良・平安時代のものが多く、中でも灰釉陶器の獸脚付壺の脚部が一点出土したことが注目される。
※詳細は『笠井西浦遺跡』(2017 年刊行) に掲載。
調査担当 井口智博、山中美歩



位置図 (2,500分の1)



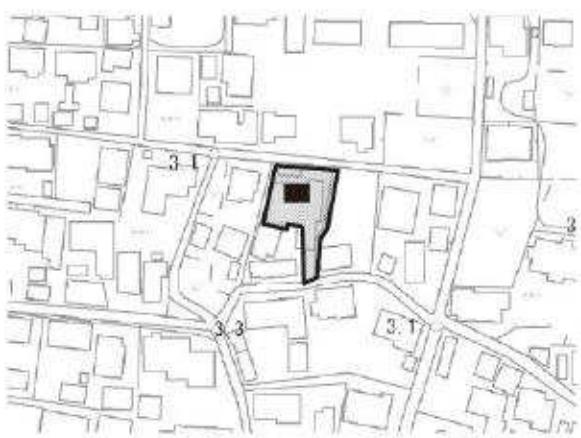
主要出土遺物



獸脚付壺の脚部

5 篠原町仲村遺跡 5 次 (しのはらちょうなかむらいせき)

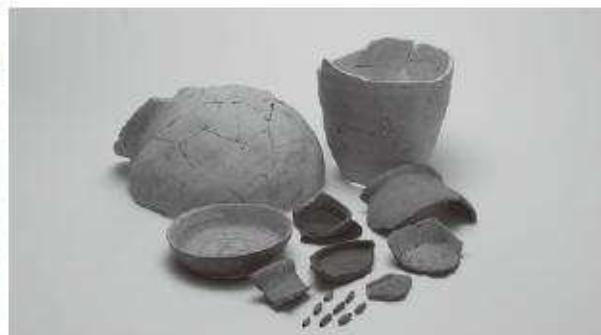
所在 地 西区篠原町
調査期間 平成 29 年 6 月 12 日～15 日
調査原因 個人住宅建築 調査面積 80m²
調査概要 古代を中心に数多くの遺構・遺物を確認した。古代を中心とした時期の集落が展開していることが明らかになった。
※詳細は、第 5 章 2 (89 頁) に掲載。
調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



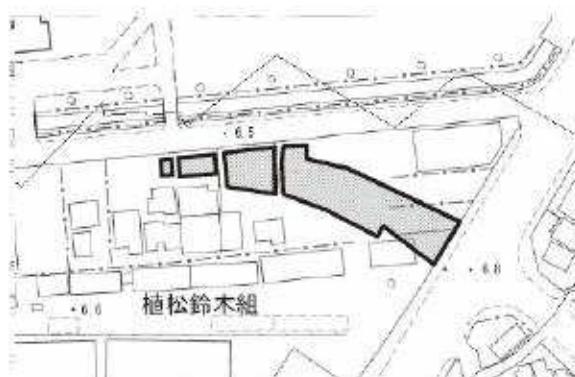
調査区全景



主要出土遺物

6 宮竹野際遺跡 8次 (みやたけのぎわいせき)

所在地 東区宮竹町
調査期間 平成29年7月～平成30年3月
調査原因 高林芳川線改良
作業内容 資料整理・報告書刊行作業
調査概要 古代と鎌倉時代の遺構と遺物が豊富に出土した。
※詳細は「宮竹野際遺跡7」(2018年刊行)に掲載。
調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



主要出土遺物



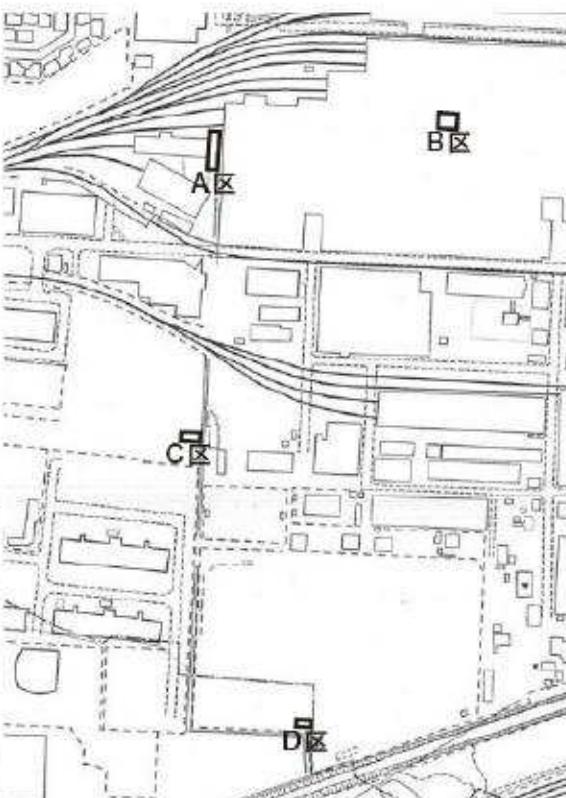
古代の主要出土遺物

7 梶子遺跡 20次 (かじこいせき)

所在地 中区南伊場町
調査期間 平成29年10～12月・平成30年1月
調査原因 工場建替
調査面積 70m²
調査概要 調査区は4箇所に分散しており、各地点で様相が異なった。B調査区では、奈良・平安時代の落ち込みから墨書き土器が出土した。C調査区では弥生時代後期の遺構と遺物を検出した。
調査担当 井口智博



調査区 (B区) 実掘状況



位置図 (5,000分の1)

8 恒武西宮遺跡 21次 (つねたけにしみやいせき)

所在 地 東区恒武町

調査期間 平成 29 年 12 月 11 日～平成 30 年 3 月
16 日

調査原因 事務所建築

調査面積 1,704m²

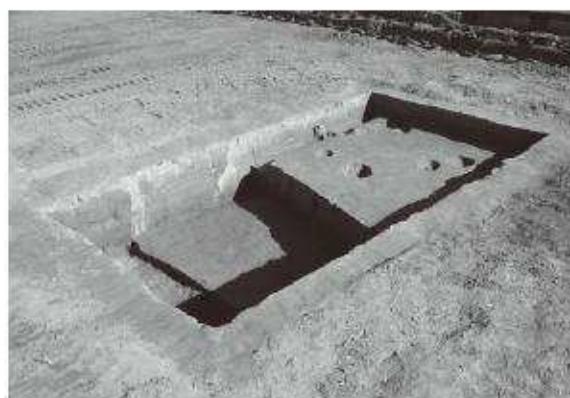
調査概要 古墳時代中期～後期の遺構・遺物を確認した。隣接する浜松環状線道路では、平成 8 年に（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所が発掘調査を実施しており、その際に確認された溝が今回の調査区でも確認できた。溝内からは土師器・須恵器のほか、滑石製模造品と耳環が 1 点ずつ出土した。一部、古墳時代中期の時期の遺物も混ざっているが、主に古墳時代後期に存在した溝であると考えられる。また、掘立柱建物跡とみられる小穴群を複数確認した。今回の調査箇所の周辺では、複数の掘立柱建物跡や祭祀の痕跡が検出されており、当該地にも周辺の調査で確認出来たような古墳時代の集落域が広がっていたとみられる。

* 詳細は『恒武西宮遺跡 6』(2018 年刊行) に掲載。

調査担当 山中美歩



位置図 (5,000分の1)



調査区Ⅱ全景



調査区Ⅴ全景

9 笠井若林遺跡 14次 (かさいわかばやしいせき)

所在 地 東区笠井町

調査期間 平成 29 年 11 月 27 日～12 月 1 日

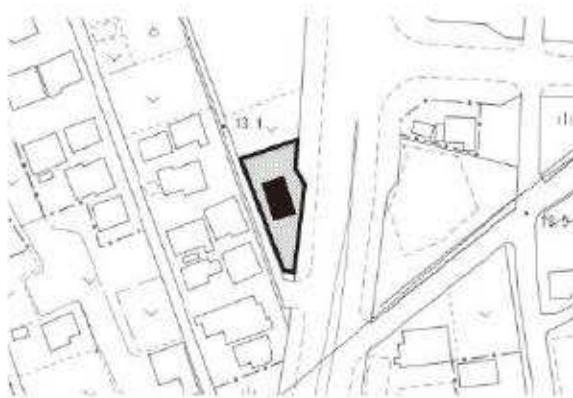
調査原因 個人住宅兼賃貸住宅建築

調査面積 144m²

調査概要 当該地の東側では、浜松環状線道路工事に伴う本発掘調査（5次調査）が行われており、古代の建物跡・溝・中世の溝などが検出されている。今回の調査では、中世（第1面）と古代（第2面）の2面で遺構・遺物を確認した。中世では、溝を1条検出し、溝内からは13世紀の甕類の破片や、近世以降の陶器が出土している。古代では溝3条と土坑1基を検出し、遺物は8世紀の須恵器や10世紀の灰釉陶器が出土している。これらの検出した溝は古代から中世、近世にかけて複数回掘り直されており、当該地は長い間使用され続けていた場所と考えられる。

※詳細は、第5章4（101頁）に掲載。

調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



調査区第2面全景

10 万斛西遺跡 5次 (まんごくにしいせき)

所在 地 東区中郡町

調査期間 平成 29 年 12 月 5 日～15 日

調査原因 公園整備

調査面積 36m²

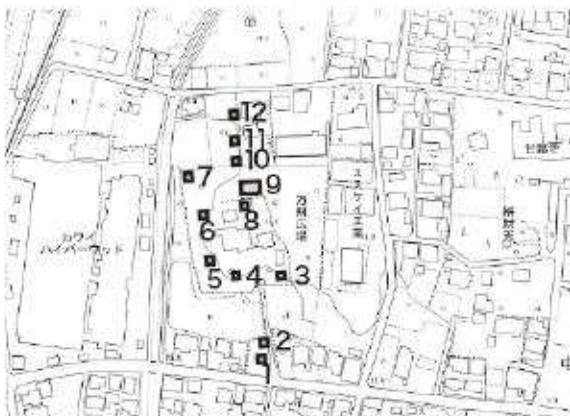
調査概要 万斛西遺跡は、戦国時代から江戸時代の庄屋敷であった鈴木家屋敷跡が範囲の大部分を占める。調査区が狭小であるため、明確な遺構が検出できた箇所は少ないが、土蔵北側の調査区において、溝や小穴を検出した。

※詳細は、今後発掘調査報告書を刊行予定。

調査担当 井口智博



調査区 (9区) 完掘状況



位置図 (5,000分の1)

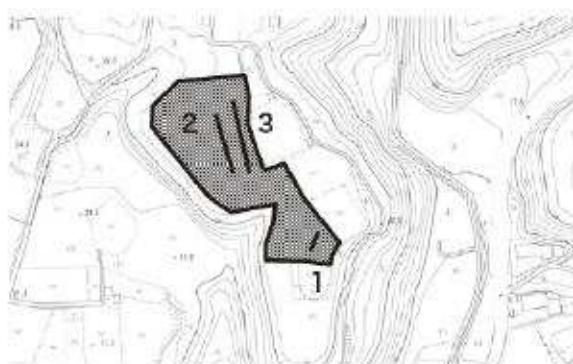


主要出土遺物

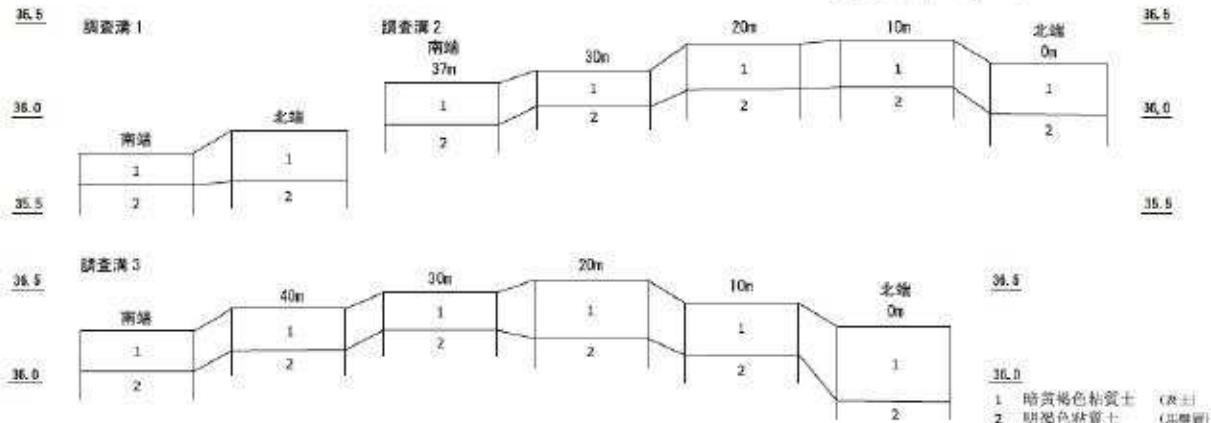
第3章 試掘・確認調査報告

1 小伊左地平Ⅲ遺跡1次 (こいさぢひらさんいせき)

所在地 西区伊左地町 7835 外
調査期間 2017/4/5 調査原因 土砂採取
調査面積 141m² (調査溝3箇所)
検出遺構 なし 出土遺物 なし
調査結果 遺物・遺構とともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。
調査担当 井口智博



位置図 (5,000分の1)



土層柱状図 (S = 1/40)

2 浜松城下町遺跡8次 (はままつじょうかまちいせき)

所在地 中区旅籠町地内・塩町地内
調査期間 2017/4/10・12/13
調査原因 道路改良
調査面積 16m² (調査溝4箇所)
検出遺構 小穴
出土遺物 須恵器、陶器、刀子、かわらけ、瓦、
内耳鉢
調査結果 対象地北半において、中・近世を中心とした城下町の形成時期が、16世紀後半に遡る可能性が追認できた。包含層からは小片が出土し、中世の遺物と考えられる。当該地は中世以前の遺構が良好な状態で残存していることが確認できた。
※詳細は、「浜松城下町遺跡2」(刊行年未定)に掲載予定。

調査担当 和田達也



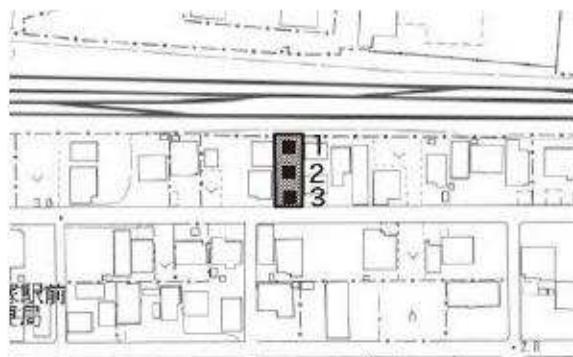
位置図 (5,000分の1)



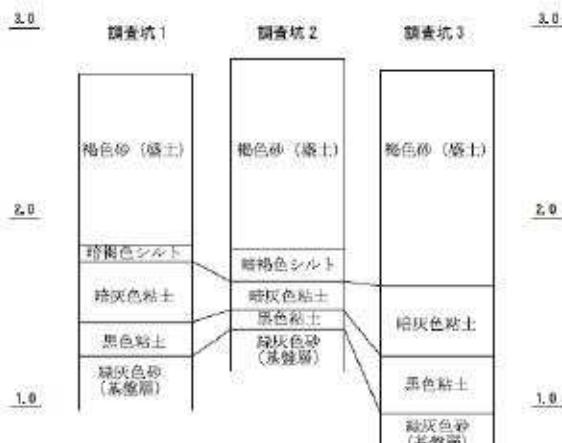
出土遺物

3 八王遺跡 2次 (はちおういせき)

所在地 南区高塚町 112番1、133番3
 調査期間 2017/4/24 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 12m² (調査坑3箇所)
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構とともに確認できなかった。
 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑3 土層堆積状況

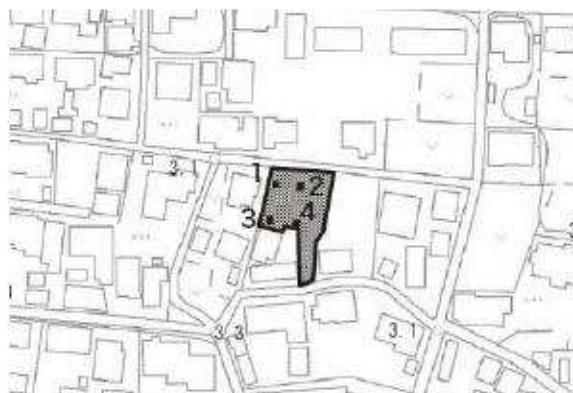
4 篠原町仲村遺跡 4次 (しのはらちょうなかむらいせき)

所在地 西区篠原町 9218
 調査期間 2017/5/10 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 12m² (調査坑4箇所)
 検出遺構 小穴
 出土遺物 土師器、須恵器、山茶碗
 調査結果 調査坑3・4では、遺物包含層からまとまった量の土器が出土した。このことから、調査対象地南側を中心に8~9世紀の遺構・遺物が残存していると考えられる。
 ※詳細は第5章2(89頁)に掲載。

調査担当 鈴木一有



調査坑4 完掘状況



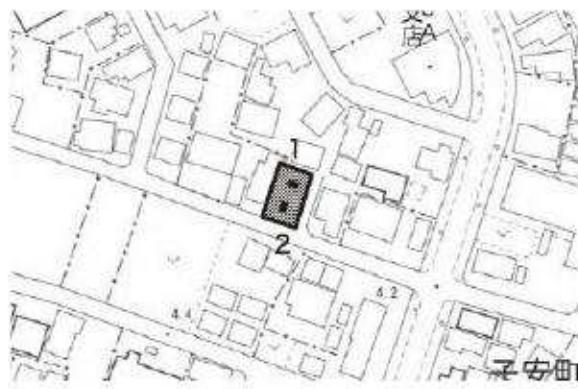
位置図 (2,500分の1)



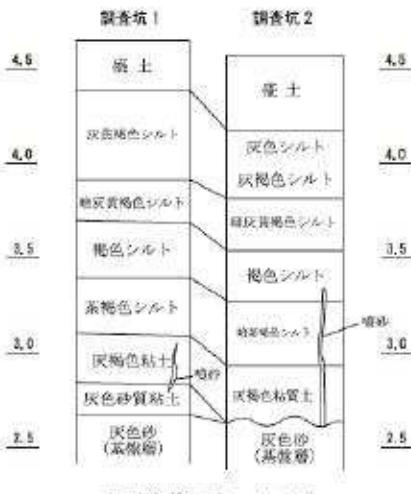
出土遺物

5 榎木遺跡3次（むくぎいせき）

所在地 東区子安町318-29
 調査期間 2017/5/16
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 4m²（調査坑2箇所）
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



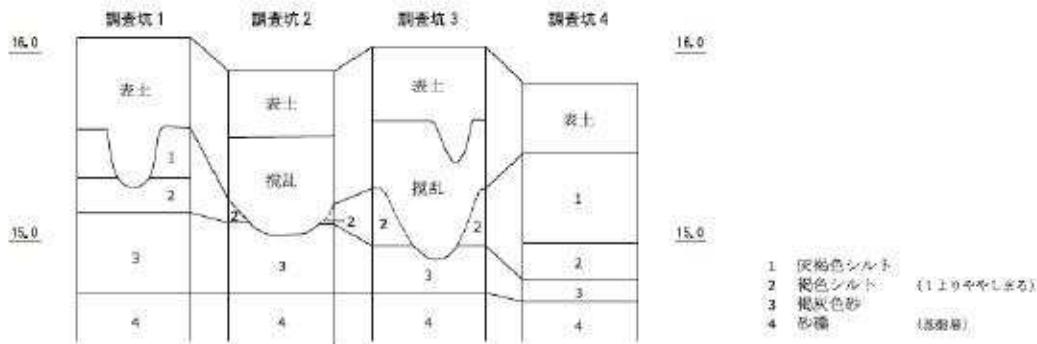
調査坑1 土層堆積状況

6 大通西遺跡1次（おおどおりにしいせき）

所在地 東区豊町2654
 調査期間 2017/5/18
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 13m²（調査坑4箇所）
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

7 笠井若林遺跡 13次(かさいわかばやしいせき)

所在地 東区笠井町 1527-2

調査期間 2017/5/29

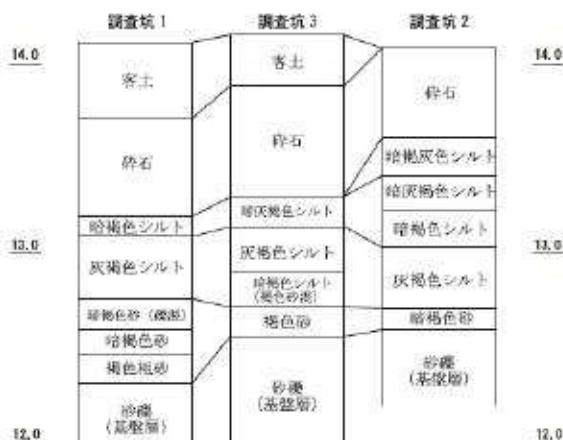
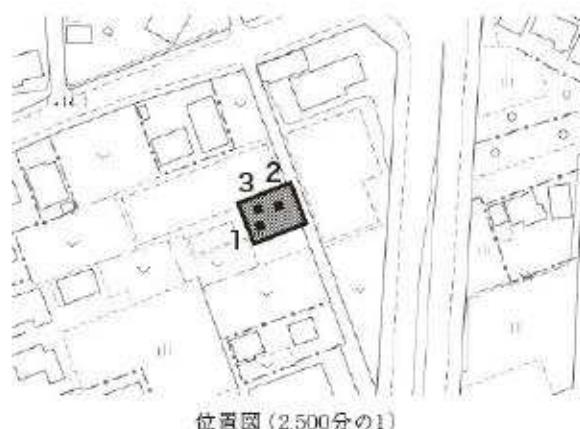
調査原因 個人住宅建築

調査面積 12m² (調査坑3箇所)

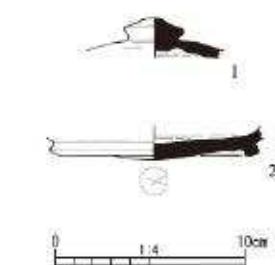
検出遺構 なし 出土遺物 須恵器・土師器

調査結果 遺跡東側の包含層からわずかに遺物が出土した。1次調査で検出した遺構・遺物が及んでいるとみられる。西側は遺物・遺構が希薄な地点とみられる。

調査担当 鈴木京太郎



土層柱状図 (S=1/40)



出土遺物実測図 (S = 1/4)

8 大畑貝塚 1次 (おおはたかいづか)

所在地 南区白羽町 753-1、746-1、746-3 の各一部

調査期間 2017/6/1

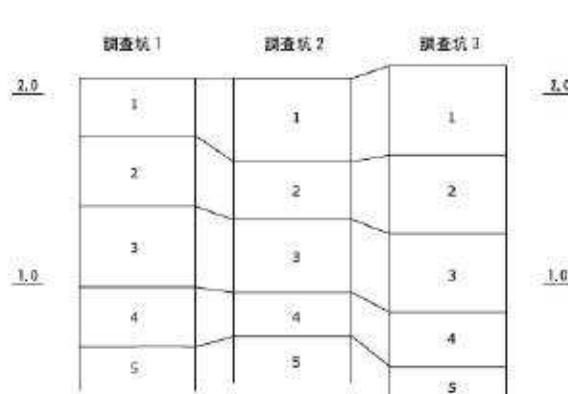
調査原因 個人住宅建築

調査面積 9m² (調査坑3箇所)

検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構とともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 鈴木一有



1: 暗褐色砂
2: 暗茶褐色砂
3: 茶褐色砂
4: 暗褐色粘土
5: 灰色砂砾 (基盤層)

土層柱状図 (S=1/40)

9 宮東遺跡1次（みやひがしいせき）

所在地 浜北区寺島 327-1

調査期間 2017/6/5

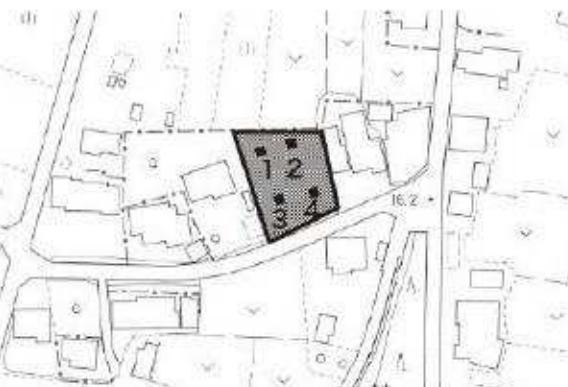
調査原因 個人住宅建築

調査面積 9m² (調査坑4箇所)

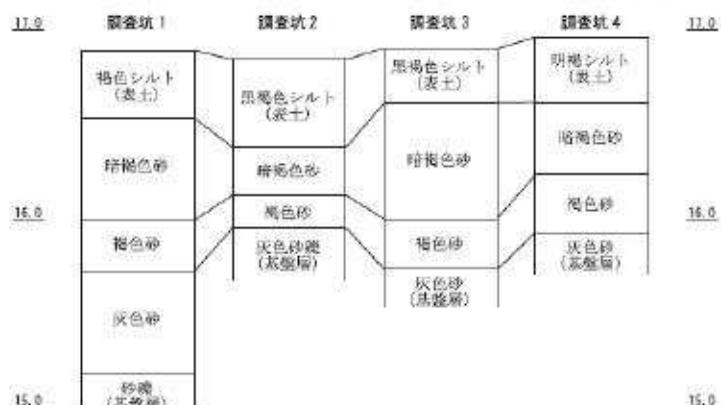
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。

調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

10 小沢渡町村中遺跡1次

(こざわたりちょうむらなかいせき)

所在地 南区小沢渡町 365-1

調査期間 2017/6/19

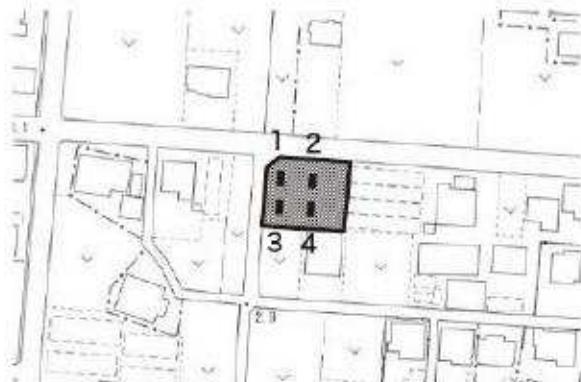
調査原因 集合住宅建築

調査面積 8m² (調査坑4箇所)

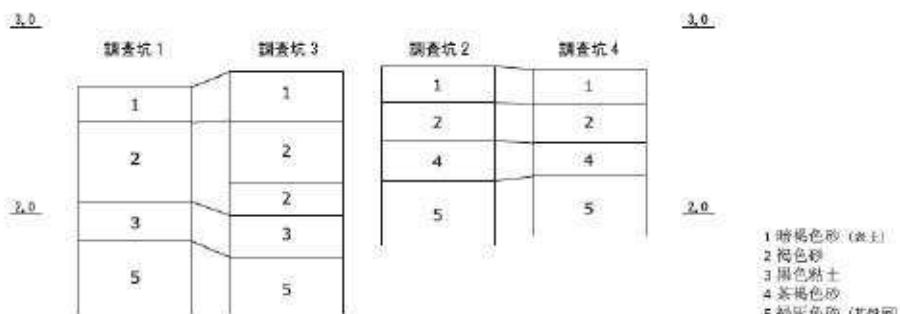
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

11 篠原町仲村遺跡6次
(しのはらちょうなかむらいせき)

所在 地 西区篠原町 2128-9 外

調査期間 2017/6/22

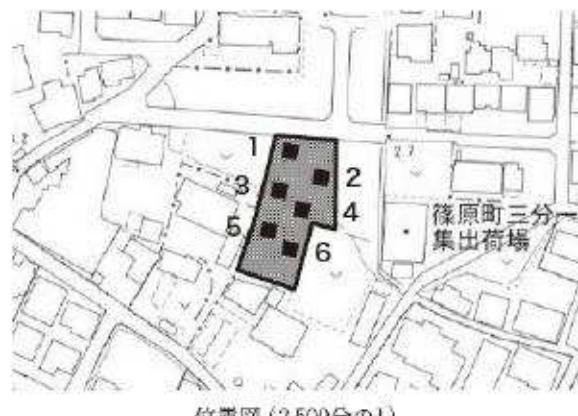
調査原因 宅地分譲・分譲住宅建築

調査面積 24m² (調査坑6箇所)

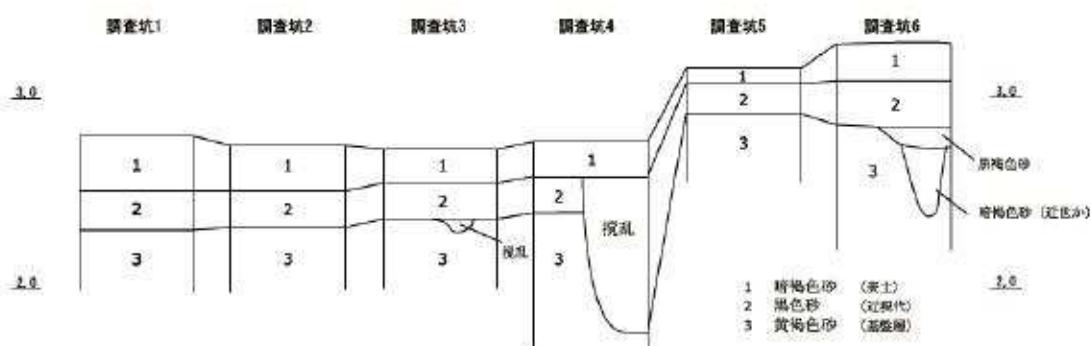
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構とともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

12 天王中野遺跡5次 (てんのうなかのいせき)

所在 地 東区天王町 1513-1 外

調査期間 2017/6/24・7/7

調査原因 店舗施設建設

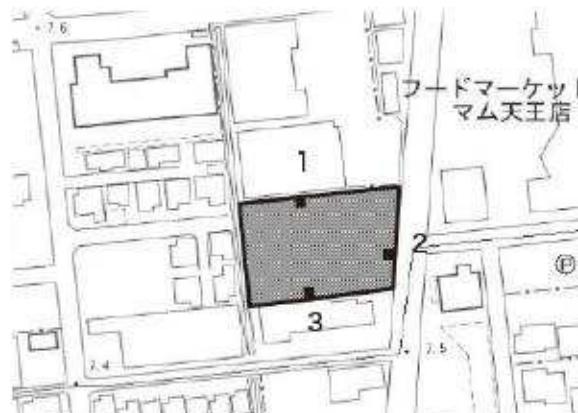
調査面積 7m² (調査坑3箇所)

検出遺構 なし

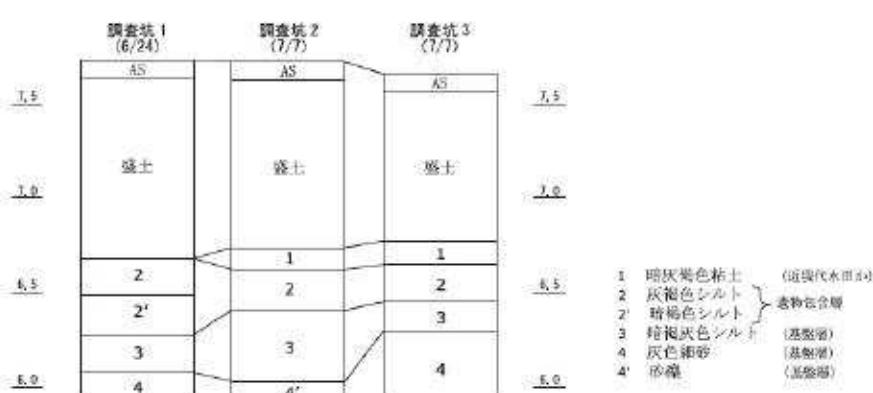
出土遺物 弥生土器・土師器・須恵器

調査結果 北側で比較的多くの遺物を確認したが、南側ではほとんど出土しなかった。よって、遺跡の範囲外ではあるが、南側の縁辺部に近いと考えられる。

調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

13 木船廃寺跡 13次（きぶねはいじあと）

所在 地 東区和田町 340-1、340-2

調査期間 2017/6/26

調査原因 事務所新築

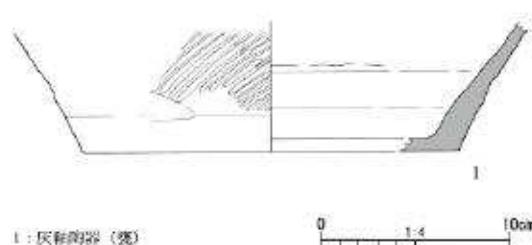
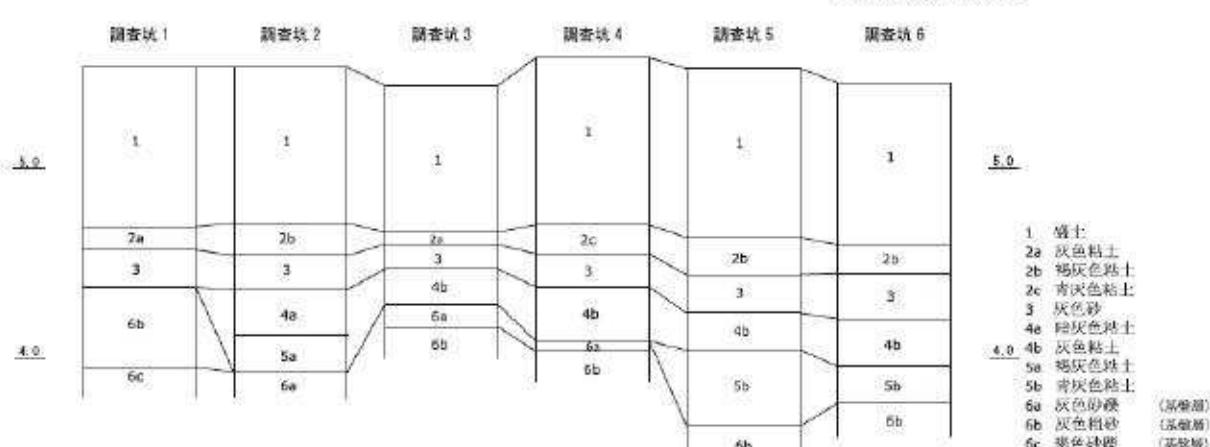
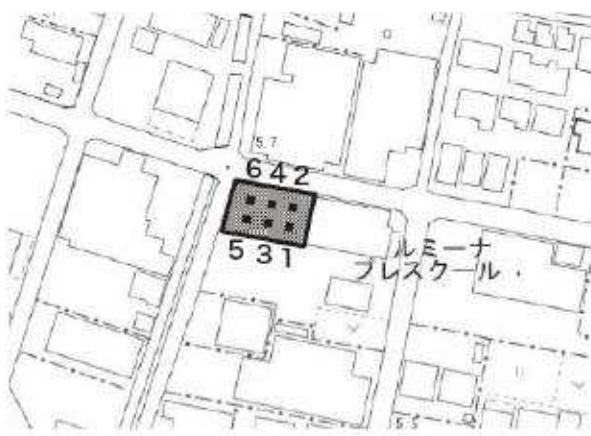
調査面積 24m² (調査坑6箇所)

検出遺構 なし

出土遺物 灰釉陶器

調査結果 遺物・遺構が希薄な地点とみられる。

調査担当 和田達也



14 旧大通院境内遺跡4次 (きゅうだいとういんけいだいせい)

所在地 南区新橋町 720 番地

調査期間 2017/7/10

調査原因 個人住宅建築

調査面積 9m² (調査坑4箇所)

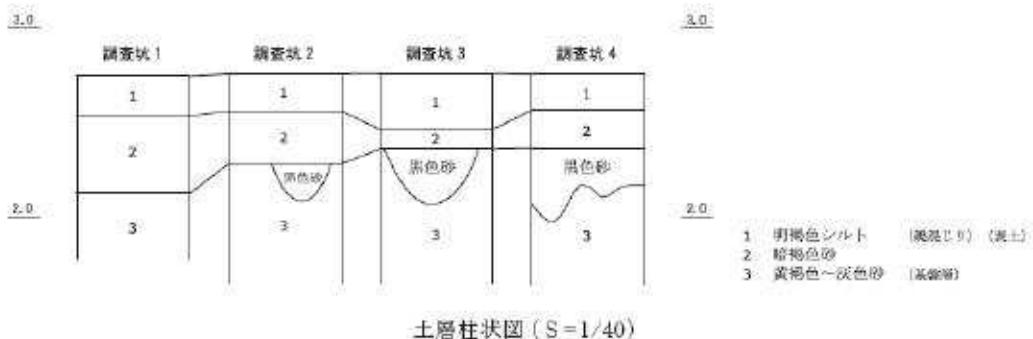
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

15 向野Ⅰ遺跡1次 (むかいのいちせい)

所在地 浜北区根堅 2503-2

調査期間 2017/7/20

調査原因 個人住宅建築

調査面積 16m² (調査溝2箇所)

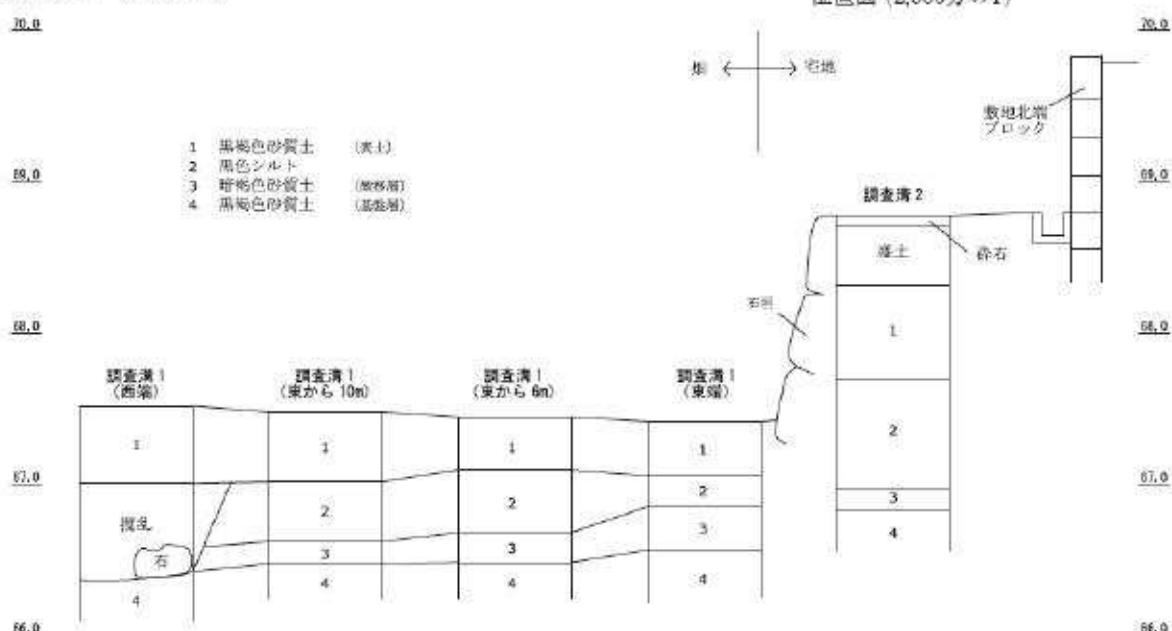
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/50)

16 三ヶ日町堂平遺跡 1次 (みつかびちょうどうひらいせき)

所在地 北区三ヶ日町下尾奈 2850

調査期間 2017/7/28

調査原因 浄化槽設置

調査面積 3m² (調査坑 1箇所)

検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の希薄地点と考えられる。

調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 1 土層堆積状況

17 恒武西宮遺跡 20次 (つねたけにしみやいせき)

所在地 東区貴平町 687

調査期間 2017/8/1・2

調査原因 浄化槽設置

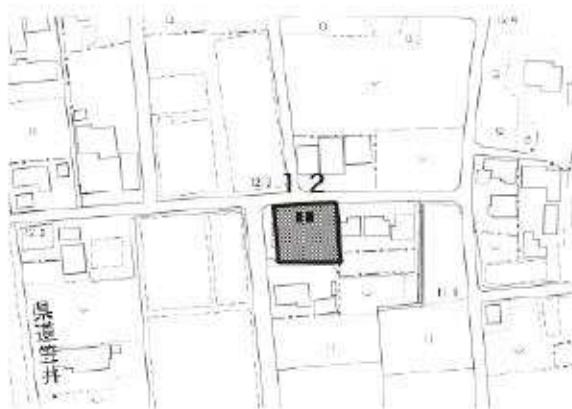
調査面積 4m² (調査坑 2箇所)

検出遺構 なし

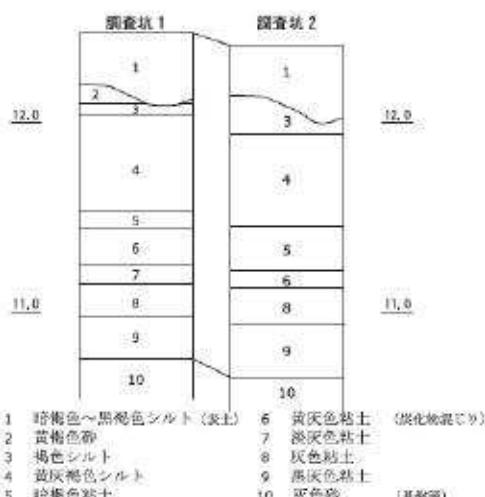
出土遺物 古式土師器・内耳鍋・山茶碗

調査結果 遺構は検出されなかったものの、ある程度の遺物が出土した。よって、当該地は遺跡の端部にあたると考えられる。

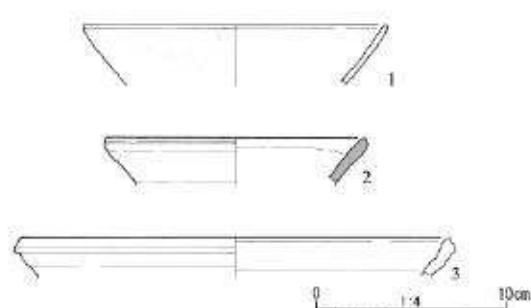
調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



出土遺物実測図 (S=1/4)

18 向山I遺跡6次（むかいやまいちいせき）

所在地 浜北区於呂 3780.7

調査期間 2017/8/9

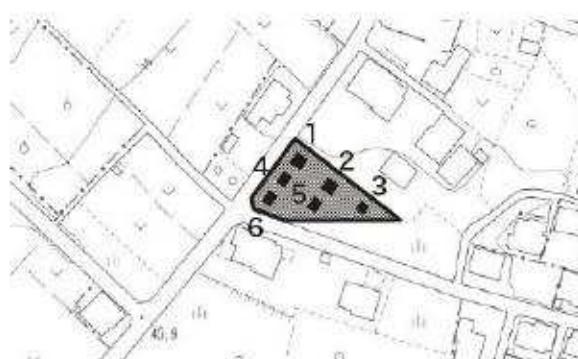
調査原因 宅地造成

調査面積 19m² (調査坑6箇所)

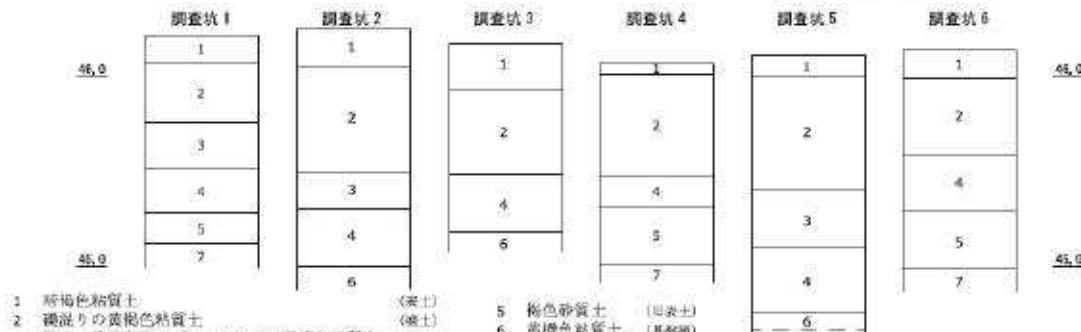
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。当該地は遺跡内の希薄地点と考えられる。

調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

19 恒武西宮遺跡19次（つねたけにしみやいせき）

所在地 東区恒武町 255-1、255-3

調査期間 2017/8/17

調査原因 集合住宅建築

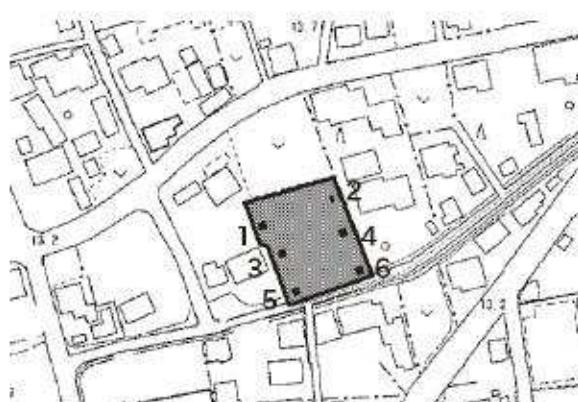
調査面積 12m² (調査坑6箇所)

検出遺構 推定大型遺構

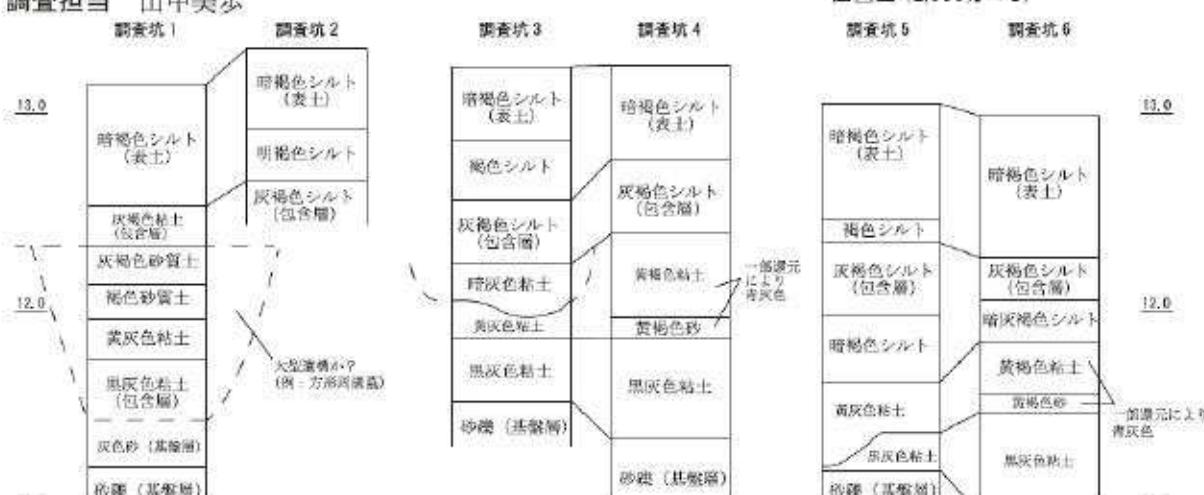
出土遺物 古式土師器、土師器、須恵器、内耳鉢、羽付釜、かわらけ

調査結果 当該地では、古墳時代と戦国時代の遺物が豊富に出土したことから、遺跡の範囲内と捉えられる。

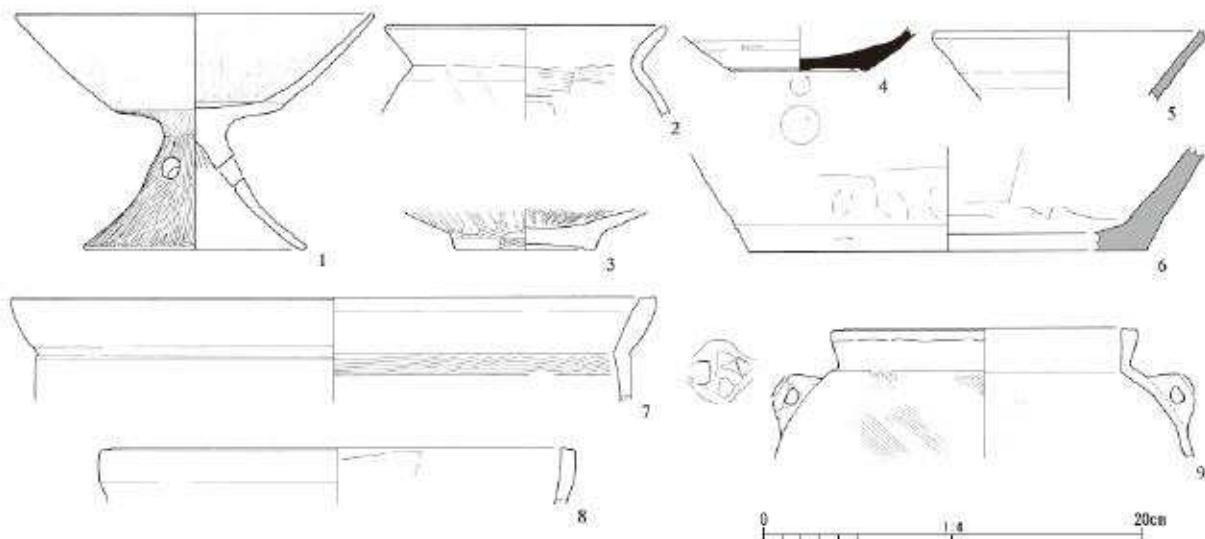
調査担当 山中美歩



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



1: 土器（高杯） 2: 土器（小型壺） 3: 土器（壺） 4: 瓦器（有台柱） 5: 中世陶器（山茶脚）
6: 土器陶器（壺） 7: 内耳器 8: 内耳器 9: 瓷付釜

出土遺物実測図 (S=1/4)



調査坑1完掘状況



出土遺物

20 上海土遺跡 3次 (かみかいといせき)

所在 地 浜北区於呂 2739、2759-1、2759-6、
2759-7、2762-1

調査期間 2017/8/22

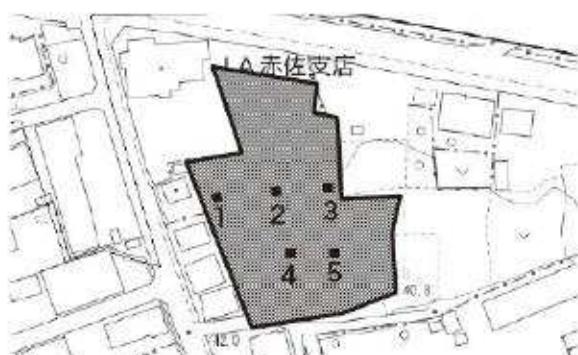
調査原因 保育園建設

調査面積 20m² (調査坑5箇所)

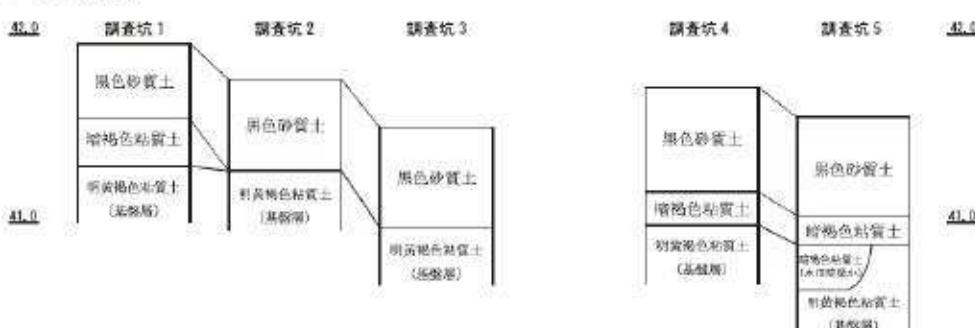
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

21 棟木遺跡 4次（むくぎいせき）

所在 地 東区子安町 320-10

調査期間 2017/8/24

調査原因 個人住宅建築

調査面積 12m² (調査坑 4箇所)

検出遺構 なし 出土遺物 須恵器、山皿

調査結果 遺物が出土したのは調査対象地北西部であるため、この方向に向かって遺跡の中心地があると考えられる。よって、当該地は遺跡縁辺部にあたる。

調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 1 土層堆積状況



調査坑 2 土層堆積状況



調査坑 3 完掘状況



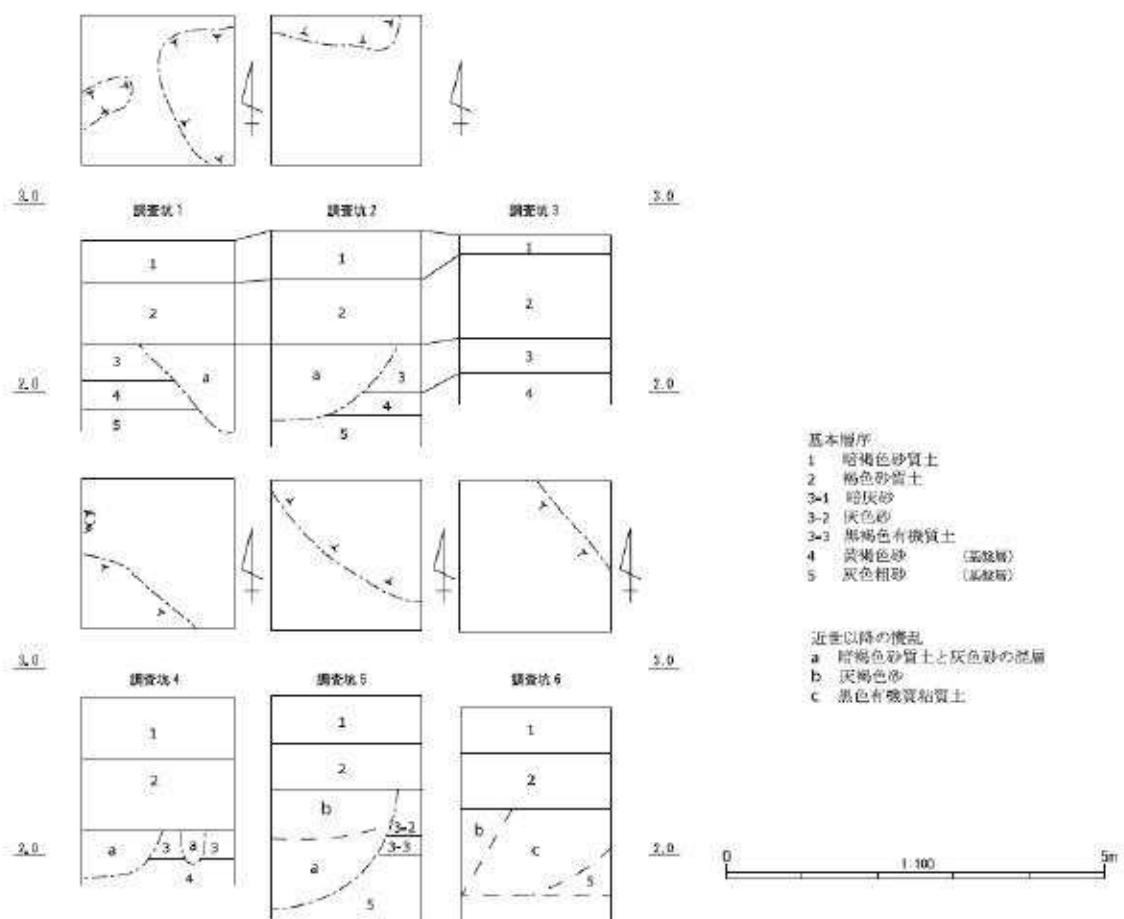
出土遺物

22 篠原町仲村遺跡 7次 (しのはらちょうなかむらいせき)

所在 地 西区篠原町 1944
調査 期間 2017/8/29
調査 原因 宅地分譲
調査 面積 24m² (調査坑 6箇所)
検出 遺構 なし 出土 遺物 土師器、山茶碗
調査 結果 遺物・遺構が希薄な地点とみられる。
調査 担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)、及び平面図 (S=1/100)



調査坑 2 土層堆積状況



出土遺物

23 小伊左地平Ⅲ遺跡 2 次

(こいさぢひらさんいせき)

所在 地 西区伊左地町 7825 外

調査期間 2017/8/31・9/1

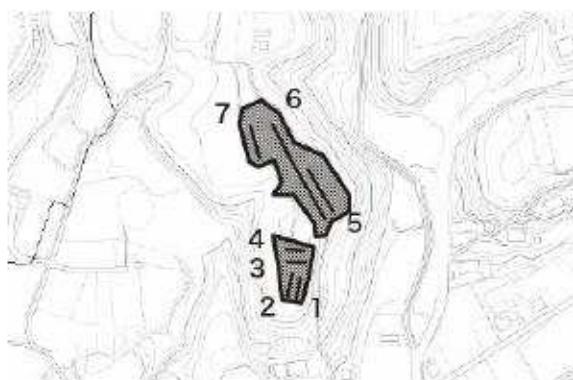
調査原因 土砂採取

調査面積 343m² (調査溝 7 箇所)

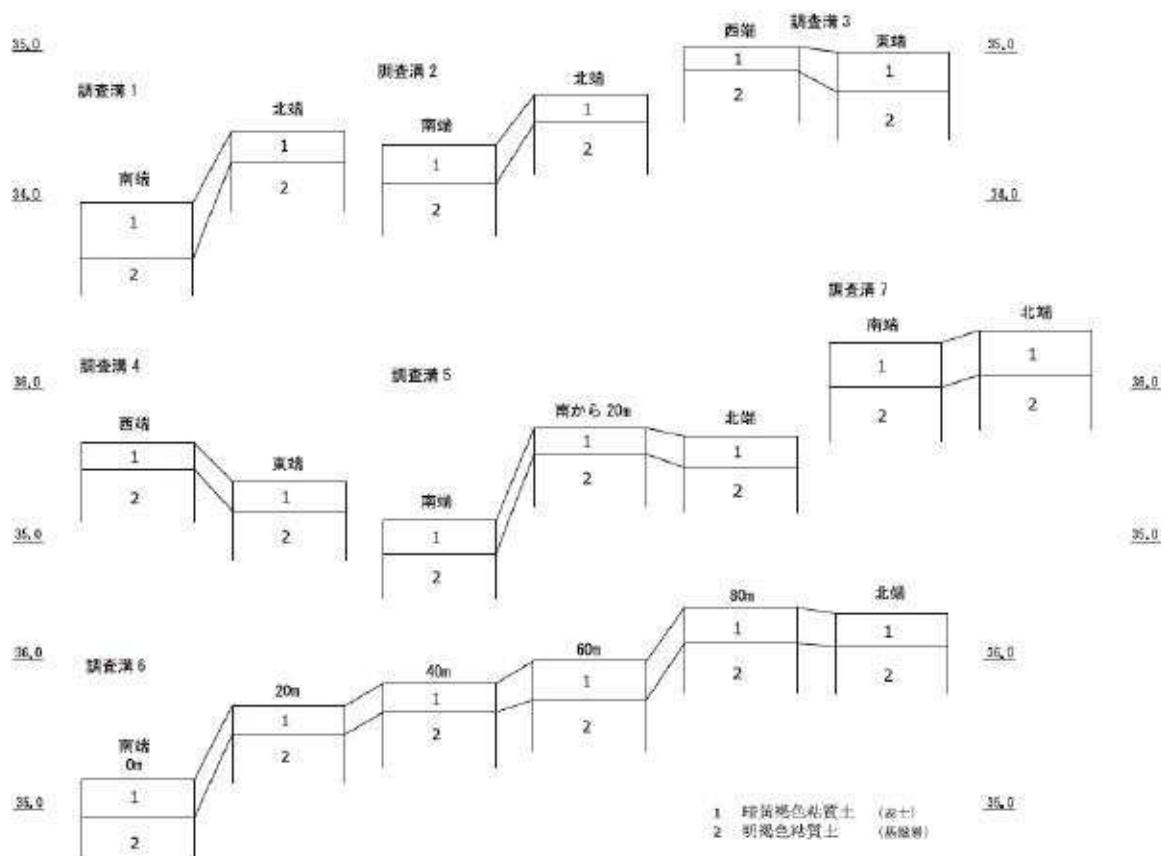
検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 対象地の全域において、深耕による搅乱が顕著であり、耕作の過程で遺跡は消失したと判断できる。

調査担当 井口智博、山中美歩



位置図 (5,000分の1)



土層柱状図 (S=1/50)



調査溝 1 完掘状況



調査溝 6 完掘状況

24 天王遺跡 8次 (てんのういせき)

所在地 東区天王町 1982 番 3

調査期間 2017/9/20

調査原因 鉄塔建替

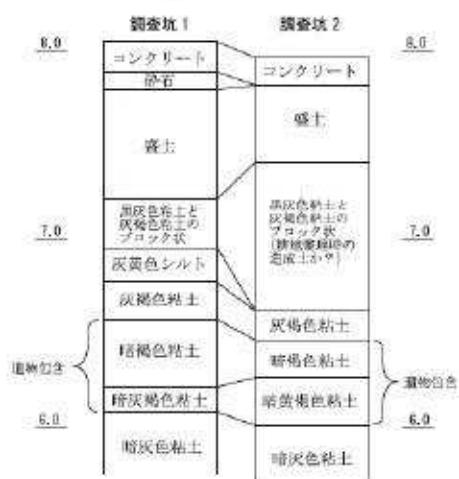
調査面積 8m² (調査坑 2箇所)

検出遺構 なし

出土遺物 弥生土器、須恵器

調査結果 遺物包含層の存在を確認したことから、当該地は遺跡の範囲内と判断できる。

調査担当 井口智博



土層柱状図 (S=1/40)



位置図 (2,500分の1)



出土遺物実測図



出土遺物

25 川久保遺跡 4次 (かわくぼいせき)

所在地 北区細江町中川 4929 番 5 外

調査期間 2017/10/2

調査原因 個人住宅建築

調査面積 11m² (調査坑 3箇所)

検出遺構 なし

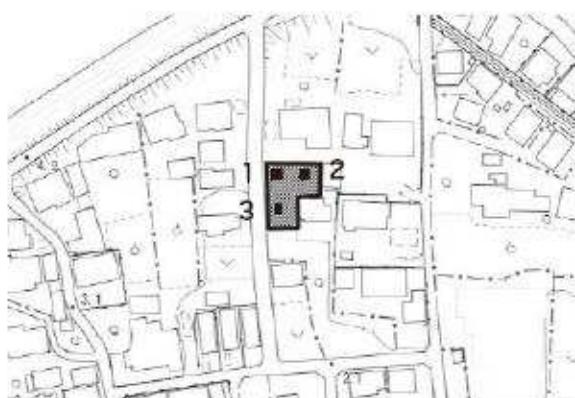
出土遺物 土師器

調査結果 遺物・遺構が希薄な地点とみられる。

調査担当 和田達也



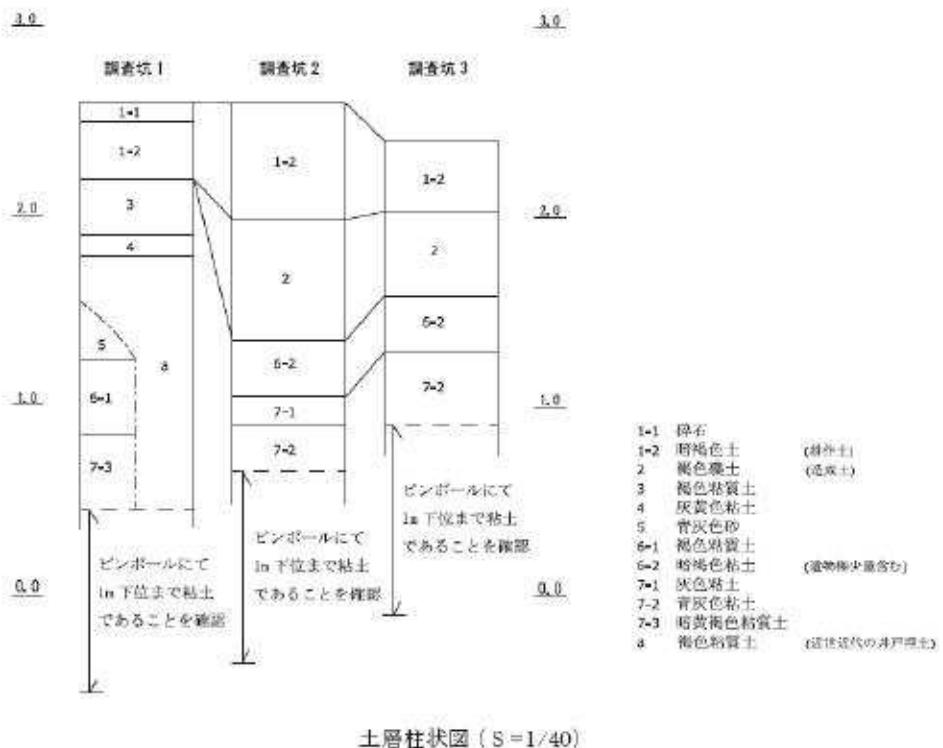
調査坑 1 土層堆積状況



位置図 (2,500分の1)



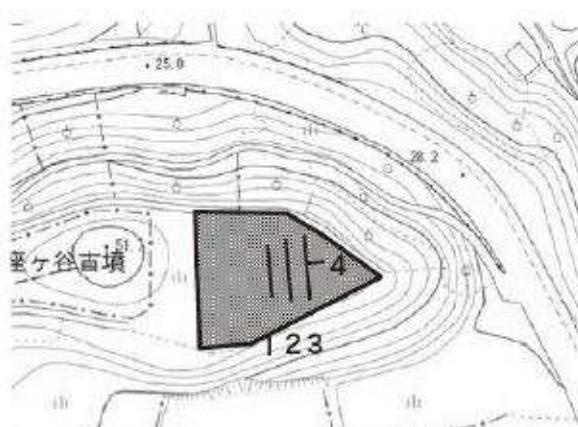
出土遺物



26 陣座ヶ谷古墳群 1次 (じんざがやこふんぐん)

所 在 地 北区細江町中川 5969-10
調査期間 2017/10/24、26、27
調査原因 太陽光発電所設置
調査面積 61m² (調査溝 4 箇所)
検出遺構 墳丘墓、溝、土坑
出土遺物 弥生土器
調査結果 出土遺物から何らかの祭祀が行われていた可能性がある。この発見により、弥生時代末期から古墳時代への過渡期における都田川流域の様子を知る上で重要な成果が得られた。
 ※詳細は第5章3（97頁）に掲載。

調査担当 山中美歩、和田達也



調査溝 2 完掘状況



出土遺物

27 村東遺跡6次（むらひがしいせき）

所在地 南区東若林町 1421-1

調査期間 2017/10/27

調査原因 個人住宅建築

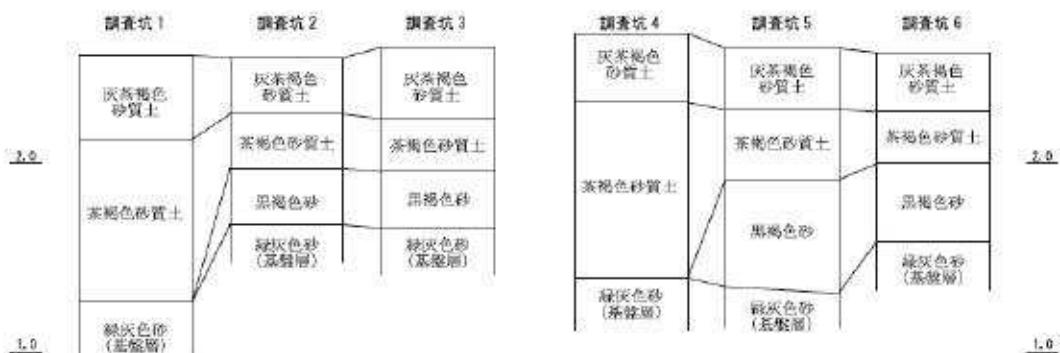
調査面積 24m² (調査坑6箇所)

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡内の希薄地点と考えられる。

調査担当 鈴木一有



土層柱状図 (S=1/40)

28 井伊谷遺跡2次（いいのやいせき）

所在地 北区引佐町井伊谷 4523-2

調査期間 2017/11/2

調査原因 個人住宅建築

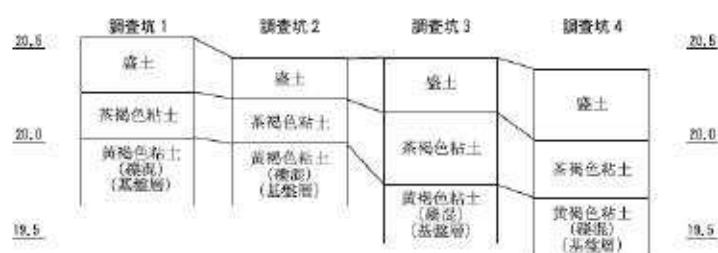
調査面積 4m² (調査坑4箇所)

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡内の希薄地点と考えられる。

調査担当 鈴木一有



土層柱状図 (S=1/40)

29 市野遺跡 7 次 (いちのいせき)

所在 地 東区市野町 1026 番外

調査期間 2017/11/3

調査原因 事務所新築

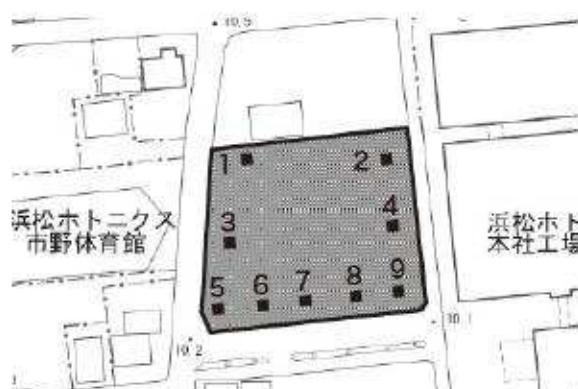
調査面積 36m² (調査坑 9 箇所)

検出遺構 なし

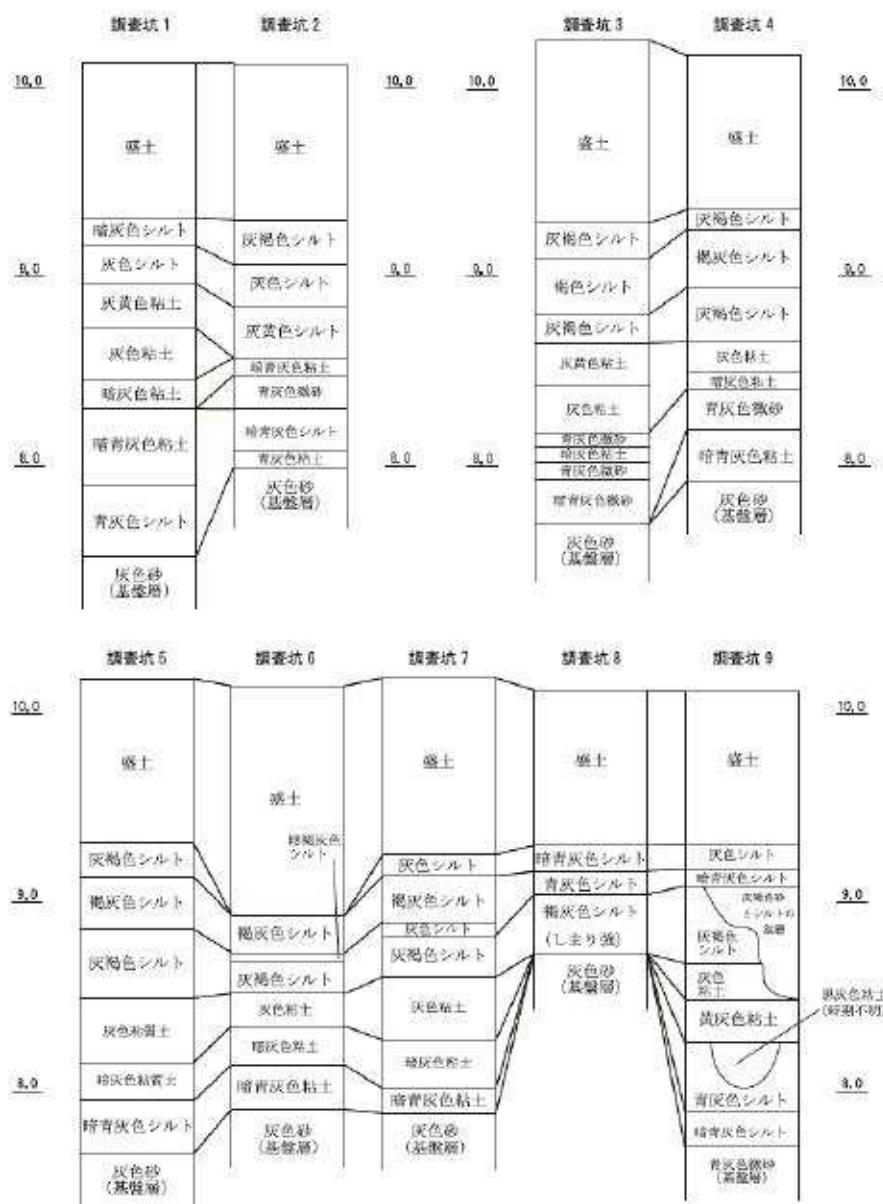
出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡の範囲外と考えられる。

調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

30 山寺野遺跡 9次 (さんじのいせき)

所在地 南区三和町 135-6

調査期間 2017/11/20

調査原因 個人住宅建築

調査面積 5m² (調査坑 2箇所)

検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構が希薄な地点もしくは遺跡範囲外と考えられる。

調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/80)



調査坑 1 完掘状況

31 向山 I 遺跡 7次 (むかいやまいちいせき)

所在地 天童区二俣町鹿島 175 外

調査期間 2017/11/29・30

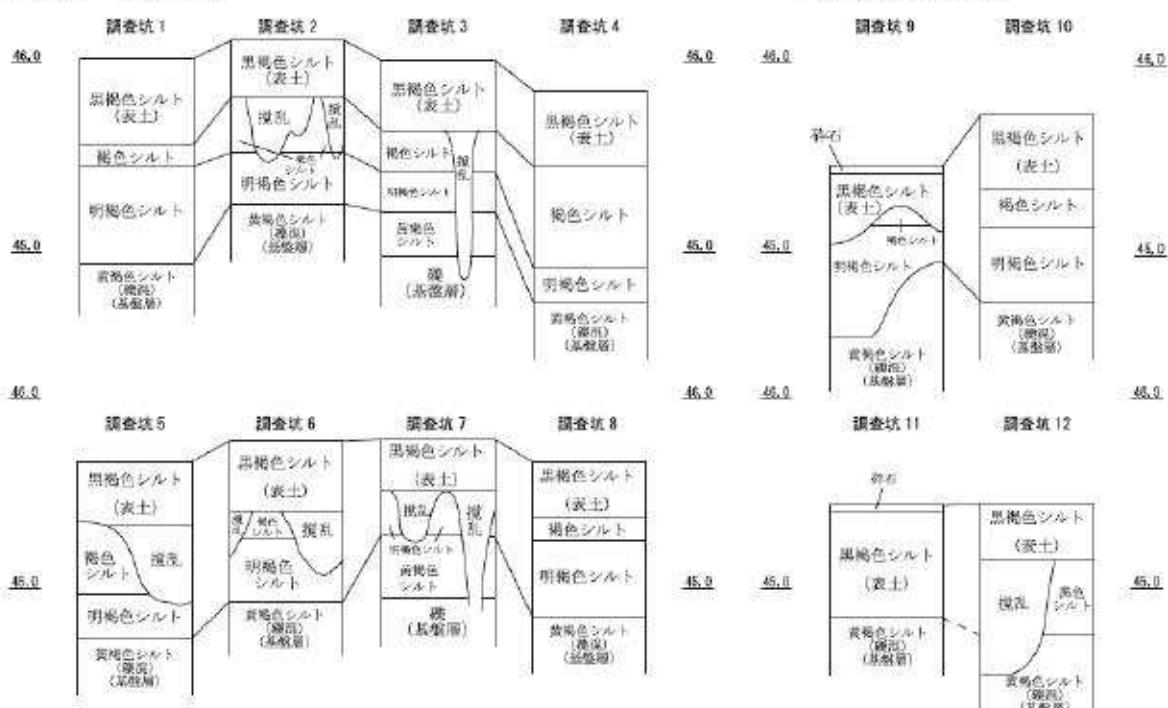
調査原因 宅地造成

調査面積 48m² (調査坑 12箇所)

検出遺構 なし 出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構とともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。

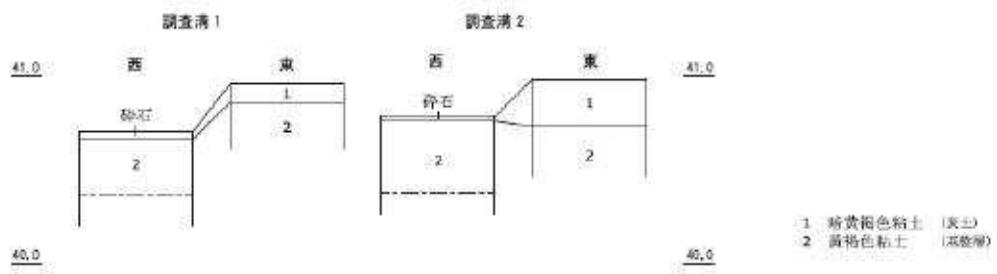
調査担当 山中美歩



土層柱状図 (S=1/40)

32 深萩古墳群 1次 (ふかはぎこふんぐん)

所在地 西区深萩町 306-8 外
 調査期間 2017/12/4
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 15m² (調査溝 2箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木一有

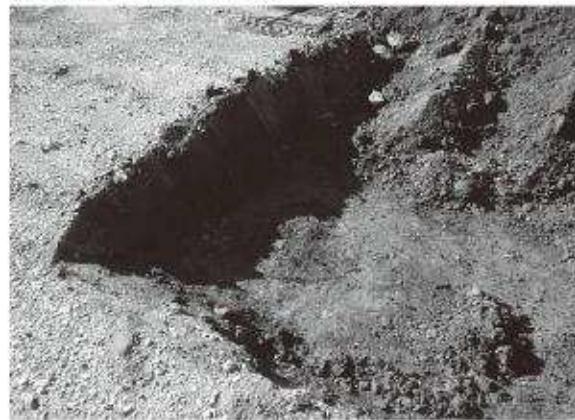


土層柱状図 (S=1/40)

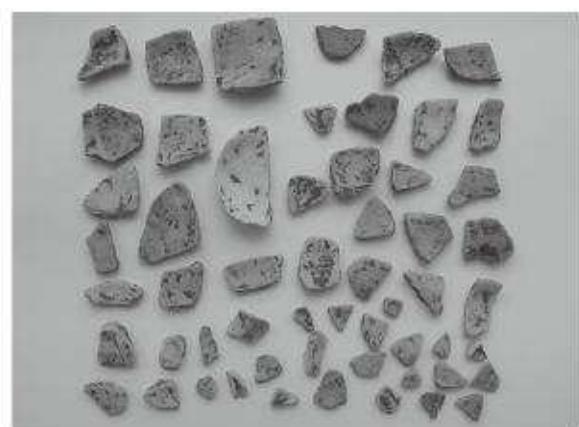
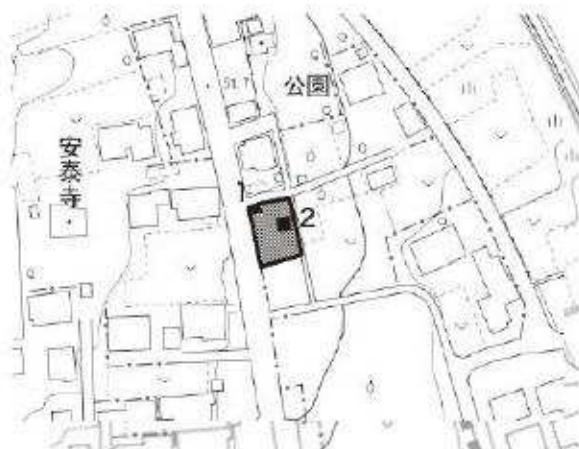
33 中屋遺跡 13次 (なかやいせき)

所在地 浜北区根堅 219 番 1
 調査期間 2017/12/6
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 11m² (調査坑 2箇所)
 検出遺構 小穴
 出土遺物 かわらけ、山茶碗
 調査結果 東側部分は遺構・遺物が濃密に分布しており、過去の調査結果が追認された。西側部分からは、遺物が出土していない。
 ※詳細は第5章5 (104頁) に掲載。

調査担当 鈴木京太郎



調査坑 2 遺構検出状況



出土遺物

34 旧大通院境内遺跡5次
(きゅうだいいつういんけいだいいせき)

所在 地 南区新橋町 747-1

調査期間 2017/12/18

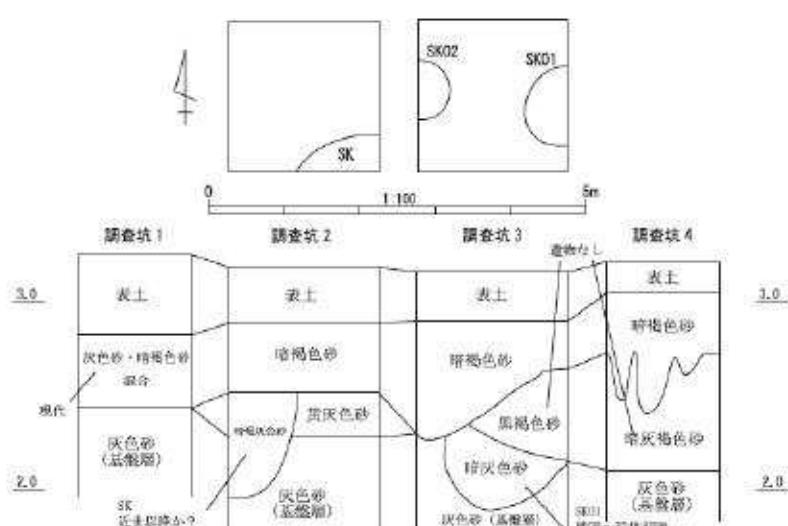
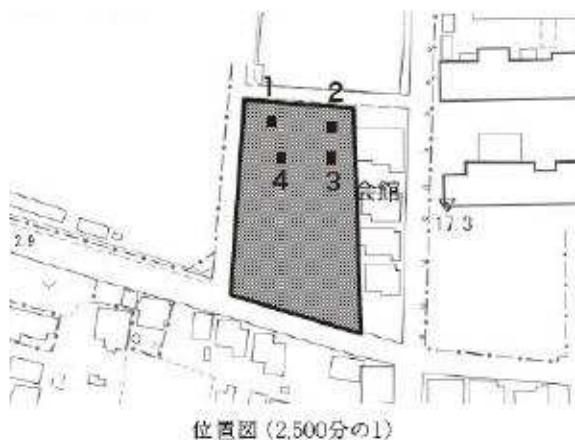
調査原因 個人住宅建築

調査面積 18m² (調査坑4箇所)

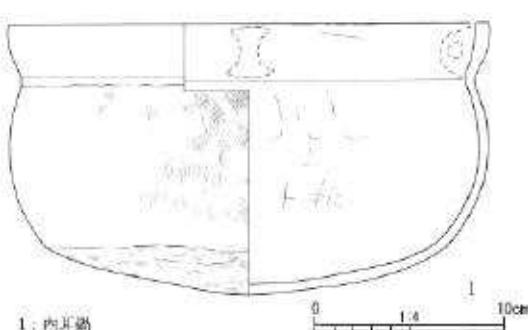
検出遺構 土坑 出土遺物 内湾形内耳鍋

調査結果 全体的に遺物・遺構は希薄な地域だが、南西にあたる箇所では土坑が一基だけ確認できた。

調査担当 鈴木京太郎



土層柱状図 (S=1/40)、調査坑平面図 (S=1/100)



出土遺物実測図 (S = 1/4)



調査坑 2 土層堆積状況



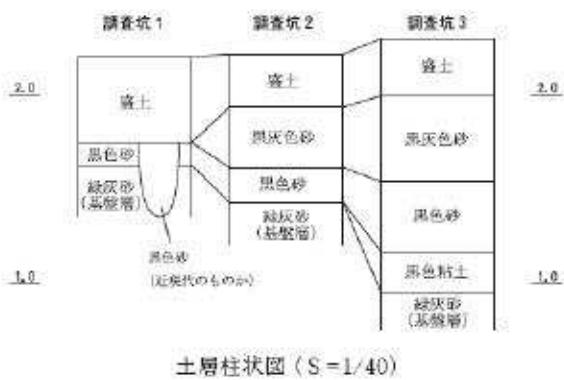
調査坑 3 完掘状況

35 日晩遺跡 10次 (ひばんいせき)

所在地 南区増楽町 1845-1
 調査期間 2017/12/25
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 5m² (調査坑 3箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木一有



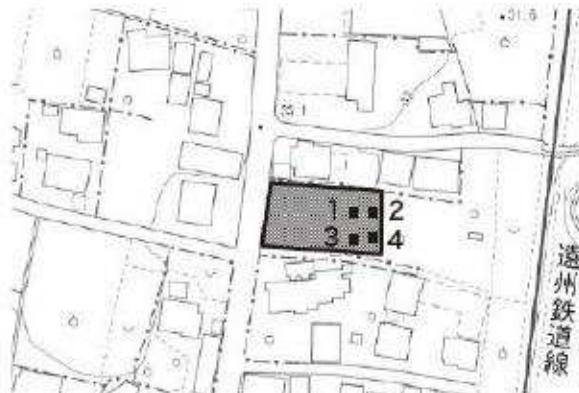
位置図 (2,500分の1)



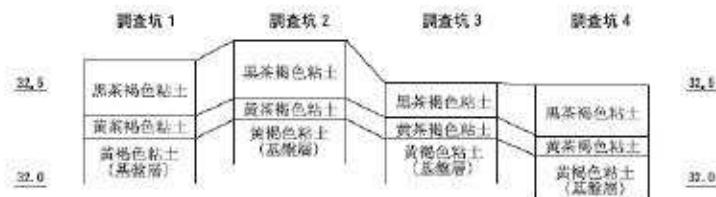
調査坑 1 土層堆積状況

36 芝本遺跡 28次 (しばもといせき)

所在地 浜北区於呂 2994 番地
 調査期間 2018/1/9
 調査原因 倉庫建設
 調査面積 6m² (調査坑 4箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)



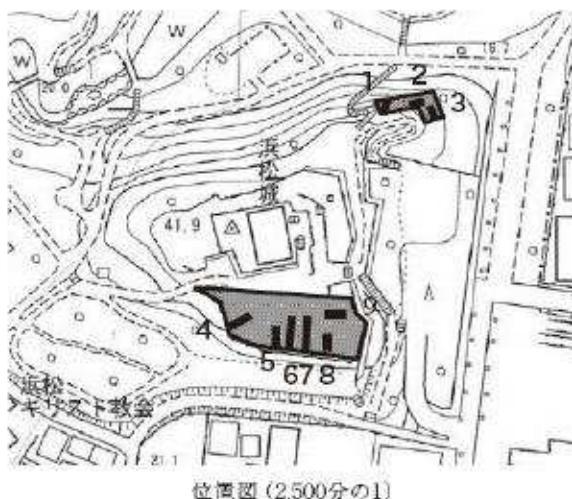
土層柱状図 (S=1/40)

37 浜松城跡 23 次 (はままつじょうあと)

所在地 中区元城町地内
 調査期間 2018/1/9 ~ 3/7
 調査原因 公園整備
 調査面積 33m² (調査溝 9 箇所)
 検出遺構 石垣、石塁
 出土遺物 瓦、かわらけ、鉄製品
 調査結果 富士見櫓からは、新たに埋没している石垣が発見された。天守曲輪からも埋没した石垣が発見され、他にも堀尾吉晴在城期と推定される瓦が出土した。
 ※詳細は『浜松城跡 12』(2018 年刊行)
 調査担当 鈴木一有、井口智博



富士見櫓調査状況 (トレンチ 3)



位置図 (2,500分の1)



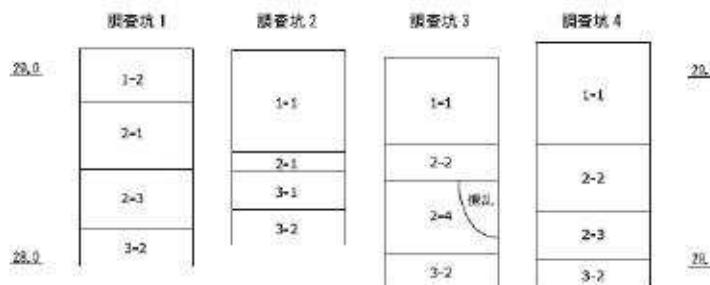
出土遺物

38 東原遺跡 43 次 (ひがしばらいせき)

所在地 浜北区新原 5296 番外
 調査期間 2018/1/11
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 12m² (調査溝 4 箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 和田達也



位置図 (2,500分の1)

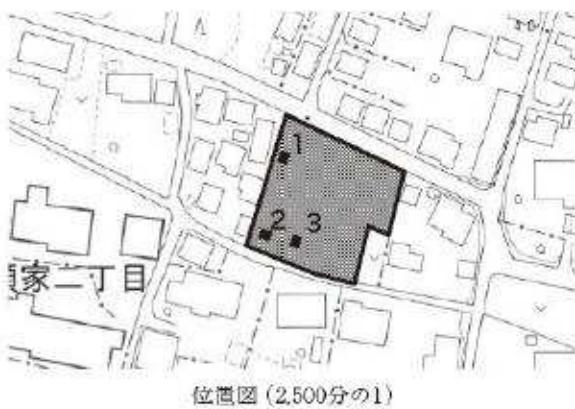


- 1-1 鹽成土
 - 1-2 黒土 培養色粘質土
 - 2-1 黑褐色粘質土
 - 2-2 楊灰色粘質土
 - 2-3 楊色粘質土
 - 2-4 灰黃褐色粘質土
 - 3-1 楊色粘土
 - 3-2 黃褐色砂礫
- (上より古い) (基礎層)
 (基盤層)

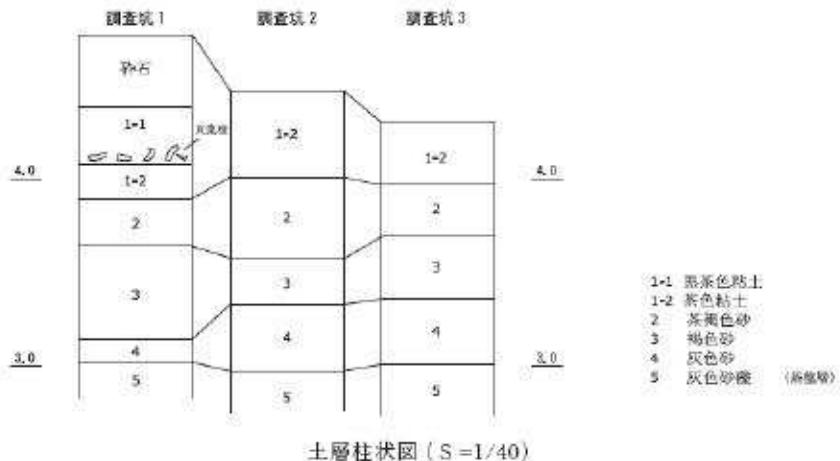
土層柱状図 (S=1/40)

39 馬領家遺跡 6 次 (うまりようけいせき)

所在地 中区領家二丁目 333-1 外
 調査期間 2018/1/15
 調査原因 集合住宅建築
 調査面積 5m² (調査坑3箇所)
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)

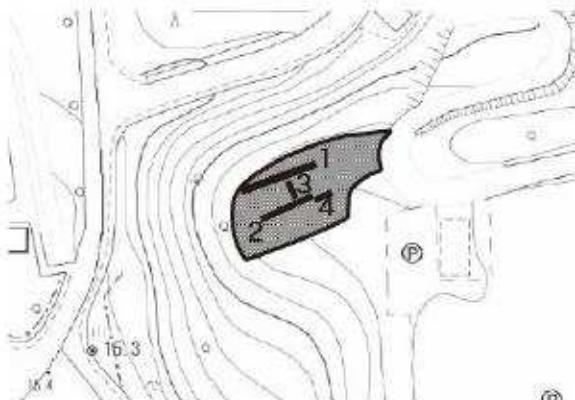


土層柱状図 (S=1/40)

40 半田山 C D E F 古墳群 14 次

(はんだやましーでいーいーえふこふんぐん)

所在地 東区半田山一丁目 20番1号
 調査期間 2018/1/18、19
 調査原因 駐車場造成
 調査面積 89m² (調査溝4箇所)
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認出来なかった。
 古墳群内の古墳が展開していない場所
 と考えられる。
 調査担当 和田達也



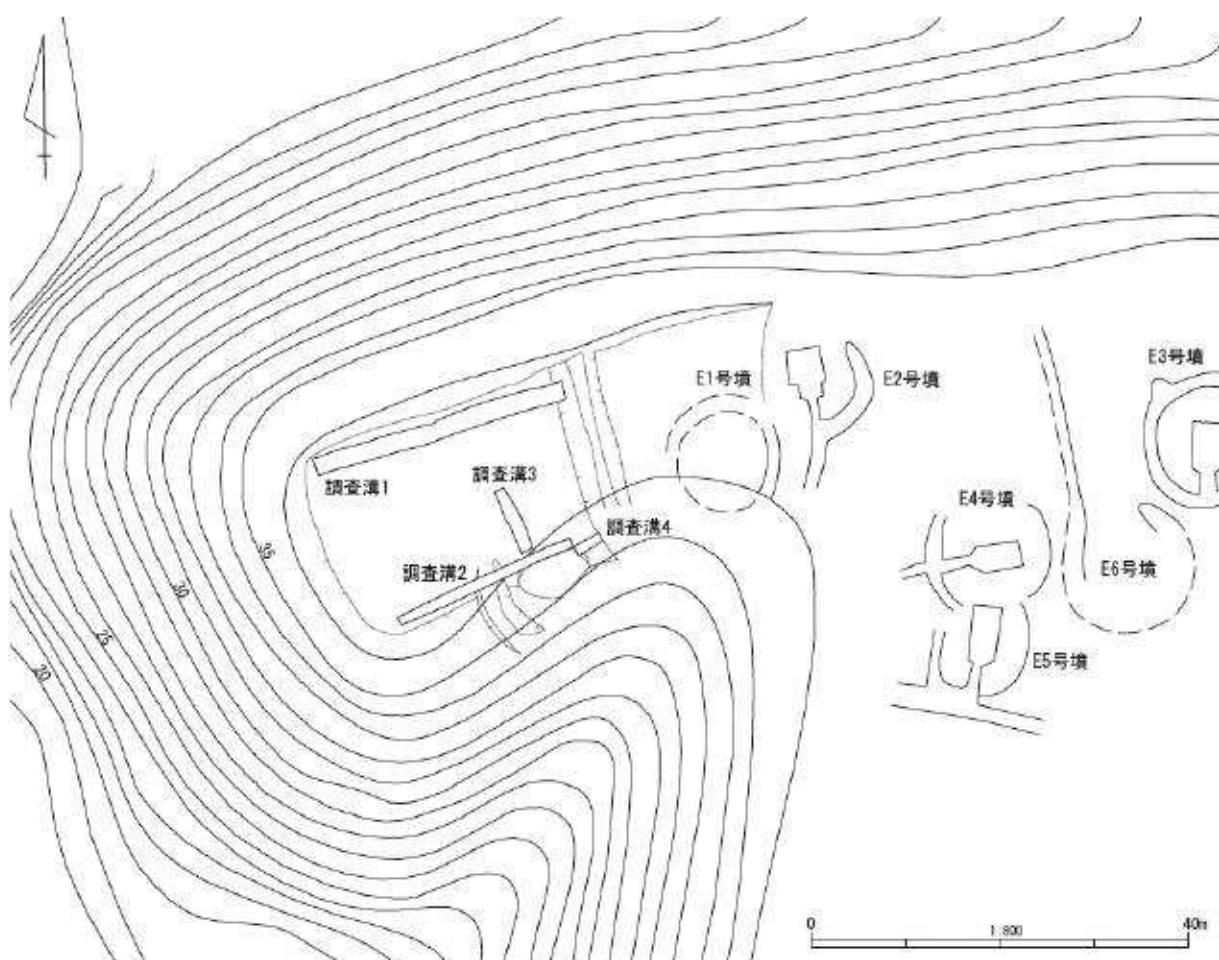
位置図 (2,500分の1)



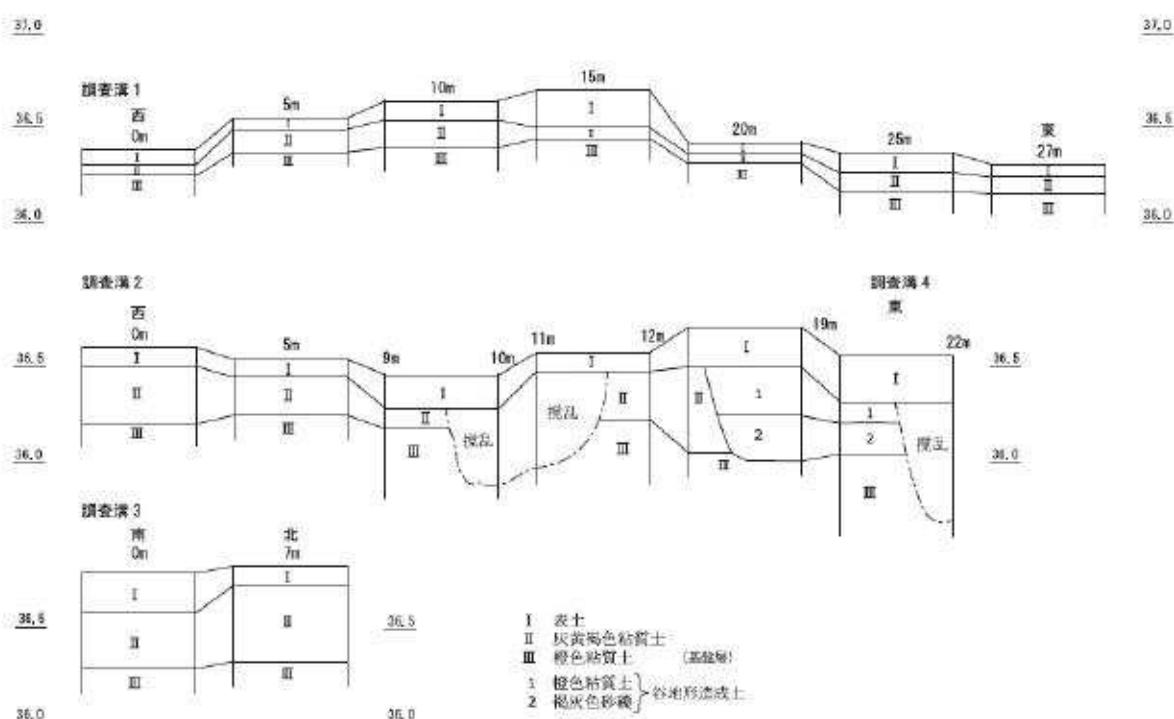
調査溝2完掘状況



E 1号墳現況



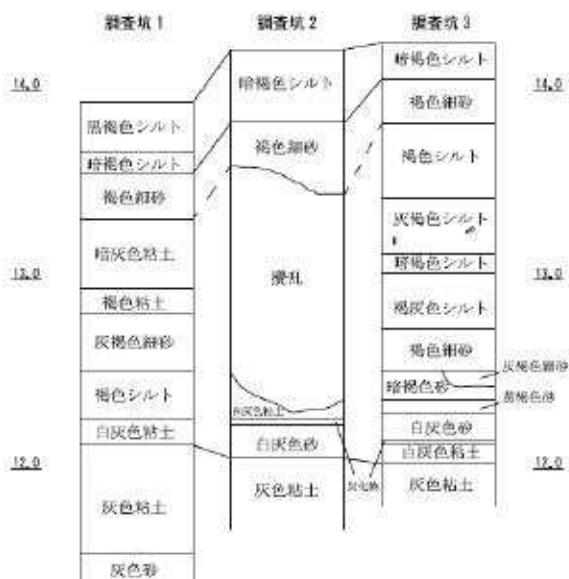
位置図 ($S=1/800$)



土層柱状図 ($S=1/40$)

41 笠井東遺跡 1次（かさいひがしいせき）

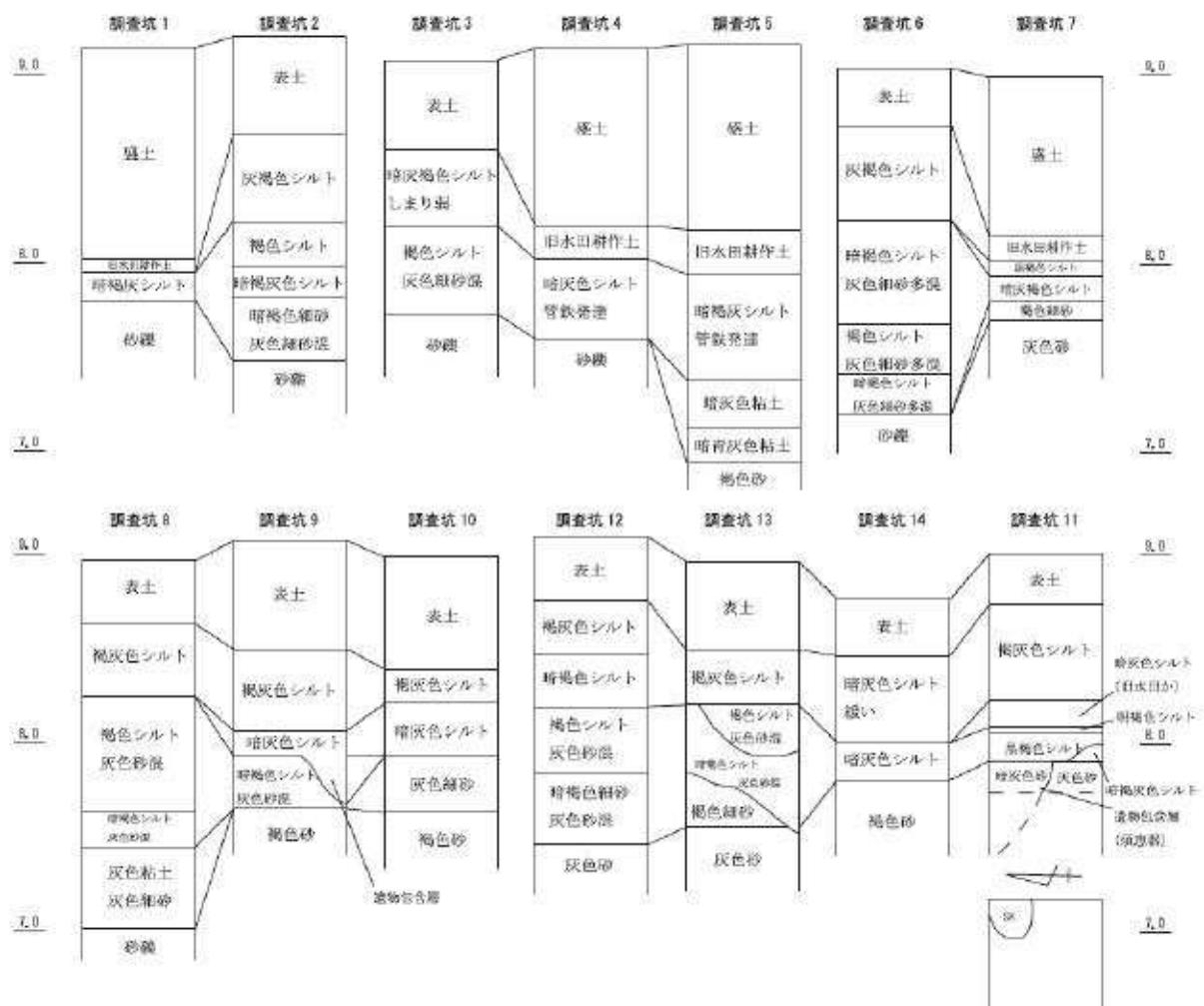
所在 地 東区恒武町 467 番地
調査期間 2018/1/22
調査原因 個人住宅建築
調査面積 7m² (調査坑 3箇所)
検出遺構 小穴
出土遺物 土師器
調査結果 当該地の東側については遺跡が残存しており、西側は部分的に遺構・遺物が希薄な地点にあたると考えられる。
調査担当 山中美歩



42 東畠屋遺跡 3次（ひがしつばやいせき）

所在 地 東区有玉南町 1284-1 の一部、1285-1、1286-1、1287-1、1288、1289、1290、1291
調査期間 2018/1/31
調査原因 宅地造成
調査面積 56m² (調査坑 14箇所)
検出遺構 土坑
出土遺物 須恵器、土師器、山茶碗
調査結果 調査対象地の北部から西部にかけては遺跡の範囲外、南東部については遺跡の端部と考えられる。
調査担当 鈴木京太郎





土層柱状図 ($S=1/40$)



出土遺物実測図 ($S=1/4$)



出土遺物



調査坑2完掘状況



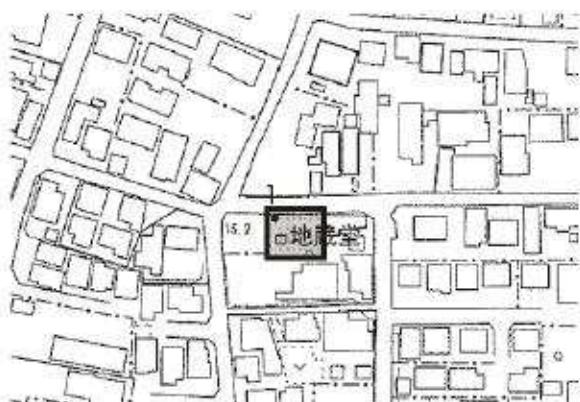
調査坑11遺構検出状況

43 笠井下組遺跡 6次 (かさいしもぐみいせき)

所在地 東区笠井町 353-1
 調査期間 2018/2/2
 調査原因 携帯基地局設置
 調査面積 1㎡ (調査坑 1箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 現況から - 70cm までは、遺物・遺構ともに確認できなかった。
 調査担当 山中美歩



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑 1 土層堆積状況

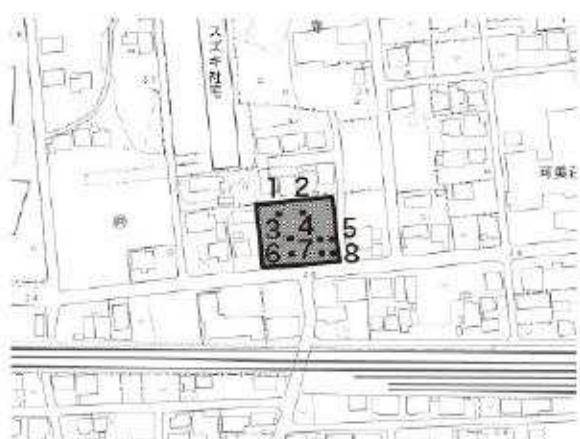
44 日晩遺跡 11次 (ひばんいせき)

所在地 南区増楽町 1803-1, 1803-3, 1803-6
 調査期間 2018/2/4
 調査原因 店舗建設
 調査面積 44㎡ (調査坑 8箇所)
 検出遺構 小穴、溝跡、流路
 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、
土師質土器
 調査結果 奈良時代から鎌倉時代を中心とした、
遺構や遺物が多数検出できた。対象地
域内全域に、奈良時代から鎌倉時代を
中心とした時期の遺構が良好な状態で
残存している。

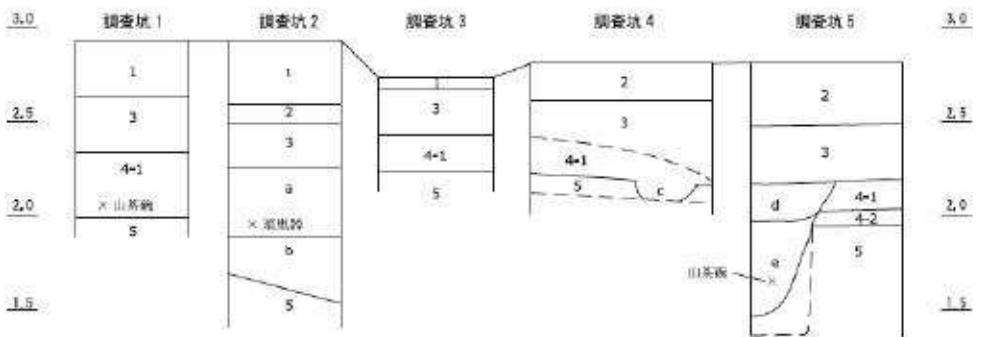
調査担当 和田達也



調査坑 4 遺構検出状況

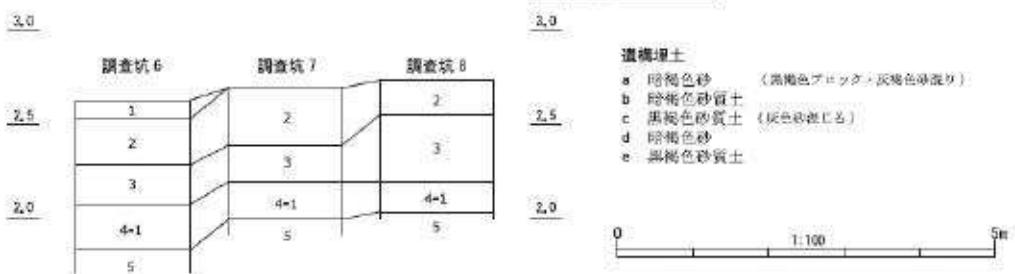
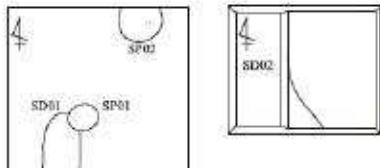


調査坑 5 SD02検出状況



基本層位

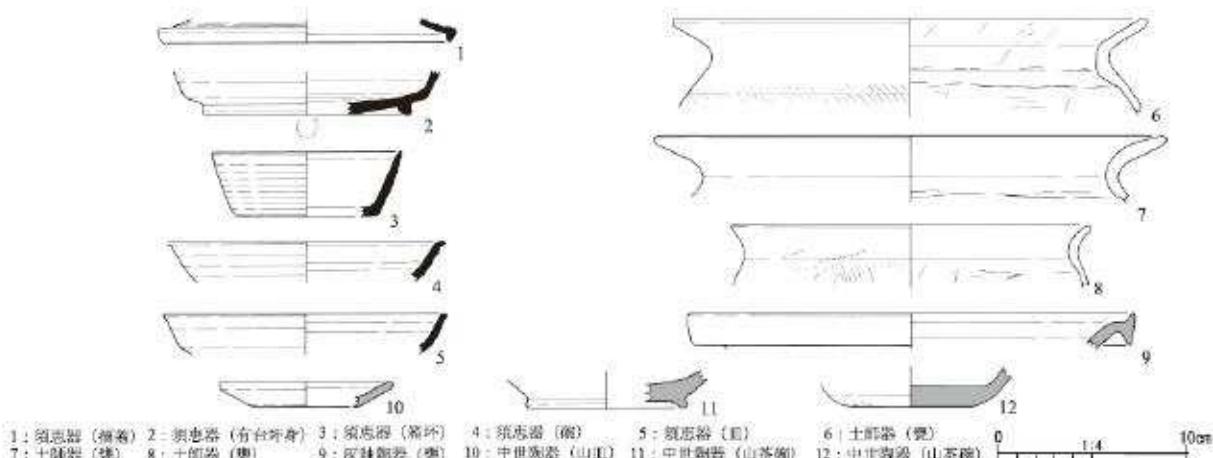
- 1 砕石・造成土 (碎石・造成土)
- 2 暗褐色砂 (耕作土、しまり悪い)
- 3 暗褐色砂 (しまり悪い)
- 4-1 黒褐色砂 (白色シルトブロック多く含む、遺物包含層)
- 4-2 灰色砂 (古代・中世遺物包含層)
- 5 灰色～浅黄色粗砂 (基礎層)



遺構埋土

- a 暗褐色砂 (高褐色アリック・深褐色孕張り)
- b 暗褐色砂質土
- c 黑褐色砂質土 (灰白色底土)
- d 暗褐色砂
- e 黑褐色砂質土

土層柱状図 ($S=1/40$) 及び調査坑平面図 ($S=1/100$)



出土遺物実測図 ($S=1/4$)



調査坑 1 土層堆積状況



出土遺物

45 井伊谷遺跡3次（いいのやいせき）

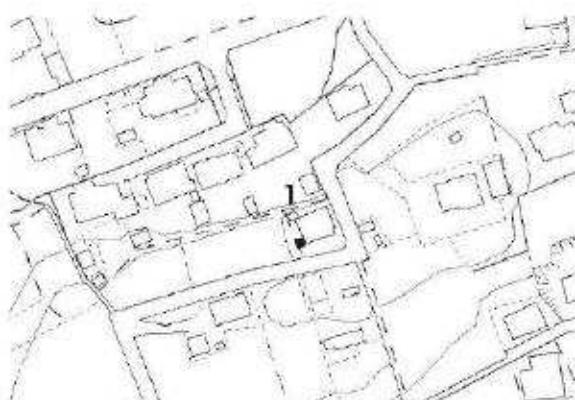
所在地 北区引佐町井伊谷 4251 番地 2
 調査期間 2018/2/5
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 4m² (調査坑4箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺跡内の希薄地点と考えられるが、当該地は遺跡範囲の南西端にあたるので、遺跡範囲外の可能性もある。
 調査担当 鈴木一有



土層柱状図 (S=1/40)

46 北谷遺跡6次（きただにいせき）

所在地 浜北区根堅 21241
 調査期間 2018/2/19
 調査原因 凈化槽設置
 調査面積 5m² (調査坑1箇所)
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



土層柱状図 (S=1/40)



47 亀塚古墳1次（かめづかこふん）

所在地 西区吳松町地内
調査期間 2018/2/19、20 **調査原因** 保存目的
調査面積 325m² **検出遺構** 古墳
出土遺物 打製石斧、須恵器、埴輪、陶器
調査結果 測量調査を行い、古墳の全長を確定した。表面にて採取した遺物から、6世紀前半の築造と考えられる。加えて、古墳の周辺には縄文時代の遺跡や中世墓が展開、造営されていたとも考えられる。
※詳細は『亀塚古墳』（2019年刊行）
調査担当 鈴木一有、和田達也、山中美歩



古墳現況



位置図 (2,500分の1)



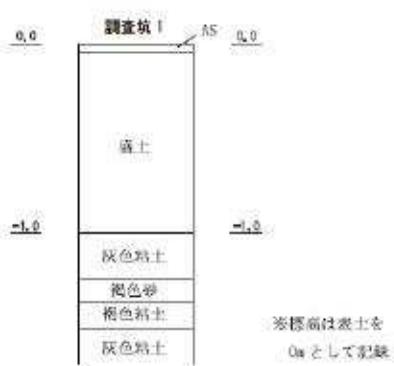
採集遺物

48 上組遺跡3次（かみぐみいせき）

所在地 南区渡瀬町 436-2
調査期間 2018/2/22
調査原因 ガス管埋設工事
調査面積 2m² (調査坑1箇所)
検出遺構 なし **出土遺物** なし
調査結果 遺物・遺構とともに確認できなかった。基盤層まで確認していないため、遺跡の有無は判断できない。
調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



調査坑1 土層堆積状況

49 深萩古墳群2次（ふかはぎこふんぐん）

所在地 西区深萩町 304 番 1593

調査期間 2018/3/2

調査原因 個人住宅建築

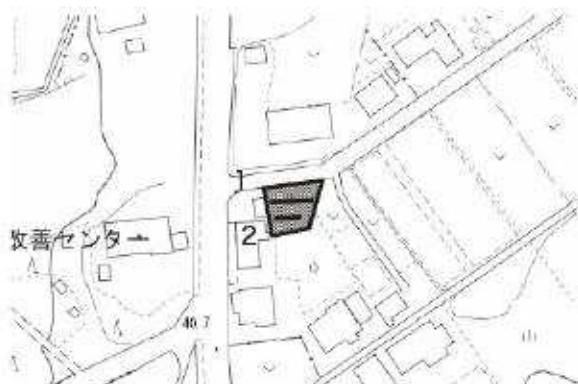
調査面積 21m² (調査溝2箇所)

検出遺構 なし

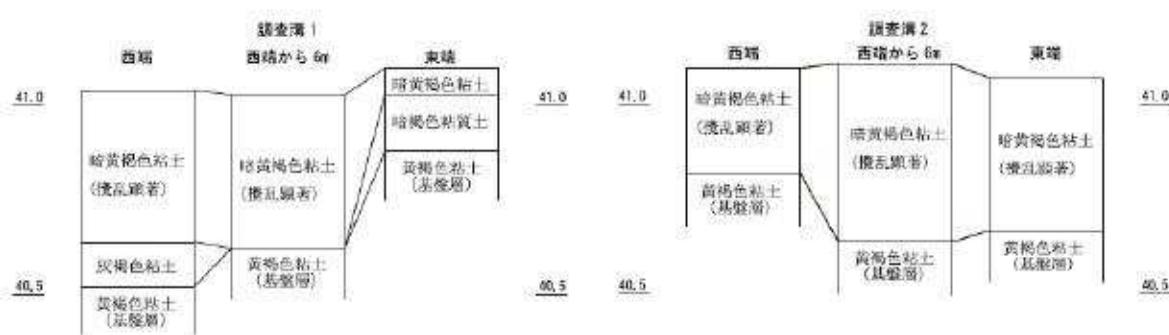
出土遺物 なし

調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。
遺跡内において、古墳などの遺構が存在しない希薄地点と考えられる。

調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S = 1/20)

50 光明山古墳群7次（こうみょうさんこふんぐん）

所在地 天竜区山東

調査期間 2018/3/12～5/25

調査原因 保存目的

調査面積 141m² (調査溝3箇所)

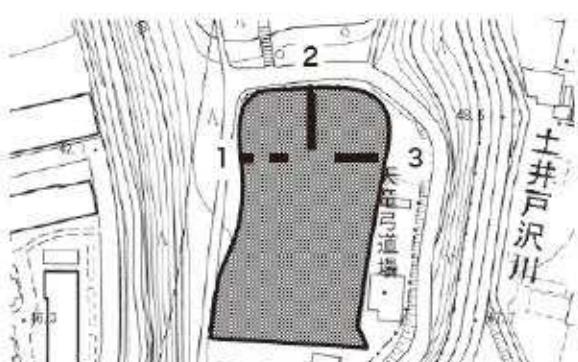
検出遺構 古墳

出土遺物 墓輪、羽無釜、かわらけ

調査結果 墓石等の墳丘の構造を確認できた。また、円筒墓輪、朝顔形墓輪が豊富に出土した。

※詳細は「光明山古墳」(2019年刊行)
に掲載。

調査担当 鈴木一有、山中美歩、和田達也



位置図 (2,500分の1)



後円部北側調査溝（調査溝2）



後円部東側調査溝（調査溝3）

第4章 工事立会報告

立1 土取古窯跡群

(つつとりこようせきぐん)

所在地 浜北区宮口地内

立会日 2017/4/28

調査原因 地下埋設管試掘

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立2 五反田遺跡 (ごたんだいせき)

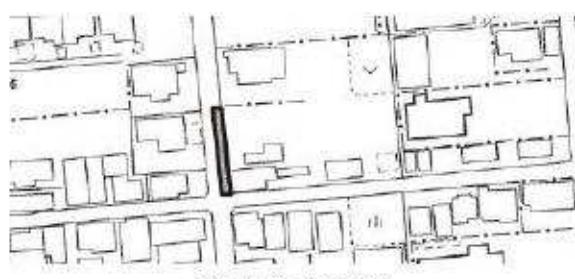
所在地 東区丸塚町 316-2 外

立会日 2017/5/18

調査原因 側溝改良

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立3 芝本遺跡 (しばもといせき)

所在地 浜北区於呂 2830-2

立会日 2017/5/24

調査原因 清化槽設置

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立4 北谷遺跡 (きただにいせき)

所在地 浜北区根堅 2030-14, 2040-6

立会日 2017/5/24

調査原因 擾壁設置

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立5 高塚町村西遺跡

(たかつかちょうむらにしいせき)

所在地 南区高塚町 4572-29 外

立会日 2017/6/7

調査原因 建物解体

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立6 宮竹野際遺跡（みやたけのぎわいせき）

所在地 東区上西町 1020-1 外

立会日 2017/6/20

調査原因 店舗建設

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立7 唐沢古墳群（からさわこふんぐん）

所在地 北区三ヶ日町日比沢本坂国有林

立会日 2017/6/22

調査原因 立林伐採

検出遺構 古墳1基 出土遺物 なし

立会結果 掘削作業は無かったため、古墳への影響は無いと判断した。



位置図 (6,000分の1)

立8 曙東遺跡（なくてひがしいせき）

所在地 中区西浅田一丁目 4-6

立会日 2017/7/5

調査原因 建物解体

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立9 井村遺跡（いむらいせき）

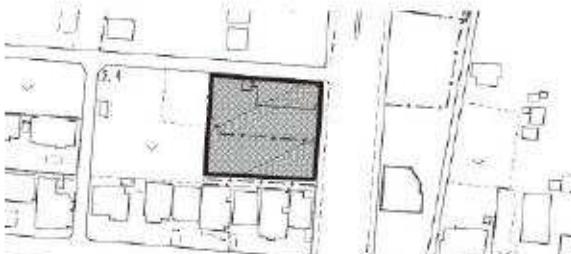
所在地 南区若林町 2744-4 外

立会日 2017/7/10

調査原因 店舗建設

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立10 村裏遺跡（むらうらいせき）

所在地 南区東若林町 710-15

立会日 2017/7/13

調査原因 ガス管理設

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立11 東畠屋遺跡（ひがしはたやいせき）
所在地 東区有玉南町 1305-2
立会日 2018/7/24
調査原因 個人住宅建築
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 挖削深度が浅いため、埋蔵文化財の有無を確認できなかった。



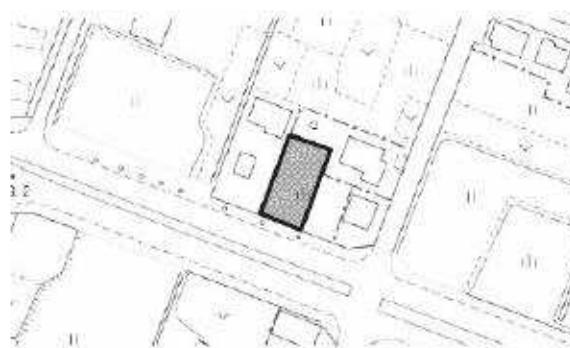
位置図 (2,500分の1)

立12 神ヶ谷町山の神遺跡（かみがやちょうやまのかみいせき）
所在地 西区神ヶ谷町 6228-1 外
立会日 2017/8/1
調査原因 上水道管敷設
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立13 西畠屋遺跡（にしほたやいせき）
所在地 東区有玉南町 768-2
立会日 2017/8/16
調査原因 清化槽設置
検出遺構 水田跡
出土遺物 土師器、須恵器
立会結果 包含層が確認できたため、遺跡の範囲内と考えられる。



位置図 (2,500分の1)

立14 天王中野遺跡（てんのうなかのいせき）
所在地 東区天王町 1523-1 外
立会日 2017/8/18、25、28
調査原因 建物解体
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立15 北岡遺跡（きたおかいせき）
所在地 北区引佐町井伊谷地内
立会日 2017/9/5
調査原因 上水道管敷設
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立 16 高塚町村西遺跡

(たかつかちょうむらにしいせき)

所在 地 南区高塚町 4607-9 外

立会 日 2017/9/19、10/5、12、20、25、27

調査原因 建物解体

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 建物による遺跡の破壊状況を確認した。



立 17 笠井西浦遺跡 (かさいにしうらいせき)

所在 地 東区笠井町 883

立会 日 2017/9/25

調査原因 建物解体

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



立 18 恒武西浦遺跡 (つねたけにしうらいせき)

所在 地 東区恒武町 293-3

立会 日 2017/9/29

調査原因 擾壁設置

検出遺構 なし

出土遺物 土師質土器

立会結果 挖削が包含層上面まであり、基盤層に到達せず。



立 19 梶子遺跡 (かじこいせき)

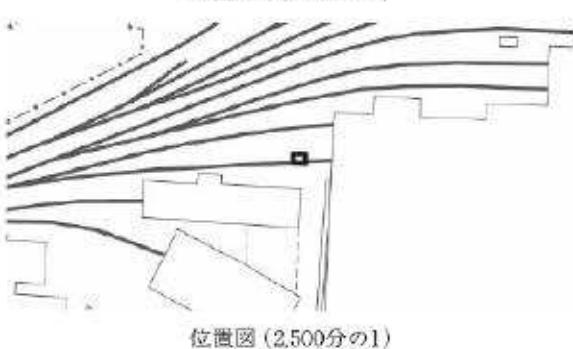
所在 地 中区南伊場町 33-1 外

立会 日 2017/10/3

調査原因 マンホール設置に先立つ地下埋設物
除去

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 基盤層に達せず。



立 20 浜松城跡 (はままつじょうあと)

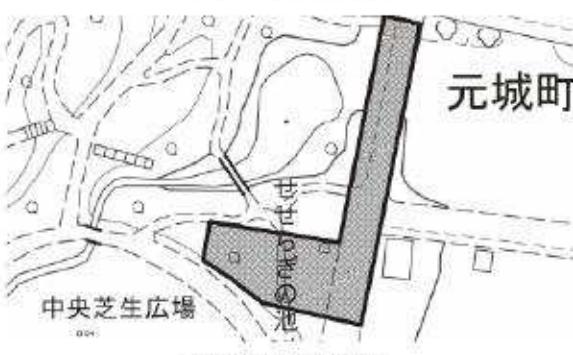
所在 地 中区元城町地内

立会 日 2017/10/4、11/1

調査原因 店舗建設

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 旧プール建設地、既掘削土の再掘削。
遺構・遺物ともに確認できなかった。



立21 村裏遺跡（むらうらいせき）

所在地 南区東若林町 610-5
立会日 2017/10/10
調査原因 ガス管埋設
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 堀削が基盤層に到達せず、遺構・遺物の有無は確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立22 中屋遺跡（なかやいせき）

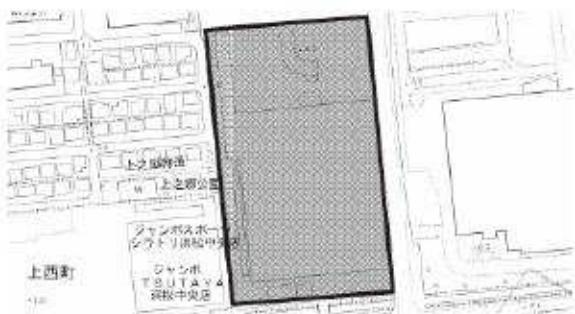
所在地 浜北区根堅 216-1
立会日 2017/10/18
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 かわらけ
立会結果 わずかにかわらけ小片が出土した。



位置図 (2,500分の1)

立23 宮竹野際遺跡（みやたけのぎわいせき）

所在地 東区上西町 985
立会日 2017/11/15、12/7
調査原因 建物解体
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (5,000分の1)

立24 浜松城下町遺跡

(はままつじょうかまちいせき)

所在地 中区松城町 214-39、214-40
立会日 2017/11/20
調査原因 建物解体
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立25 諸園遺跡（なぎさんいせき）

所在地 西区舞阪町弁天島地内
立会日 2017/11/22
調査原因 屋外便所新築
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 開削工法ではなかったため、土層は確認できなかった。



位置図 (5,000分の1)

立26 隋国遺跡（すいごくいせき）

所在地 東区笠井上町地内
立会日 2017/11/27
調査原因 補装修繕
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 掘削深度が浅いため、埋蔵文化財の有無を確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立27 笠井若林遺跡

(かさいわかばやしいせき)

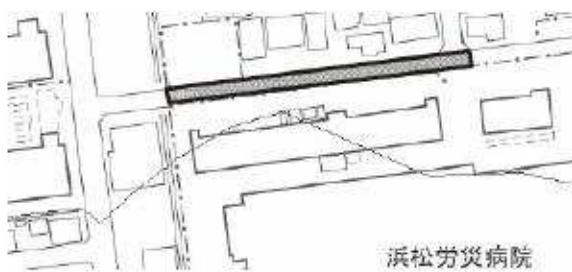
所在地 東区笠井町 1399
立会日 2017/11/28
調査原因 建物解体
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 掘削深度が浅いため、埋蔵文化財の有無を確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立28 将監名遺跡（しょうげんみょういせき）

所在地 東区神立町 293-3 外
立会日 2017/12/5、2018/1/10
調査原因 側溝設置
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立29 祝田遺跡（ほうだいせき）

所在地 北区細江町中川 1638
立会日 2017/12/11
調査原因 净化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 須恵器、山茶碗、渥美産甕
立会結果 遺物包含層を確認した。



位置図 (2,500分の1)



1:須恵器 (基身)
2:中世陶器 (山茶碗)

出土遺物実測図 (S = 1/4)



土層堆積状況

立 30 山寺野遺跡 (さんじのいせき)
所在地 南区飯田町地内
立会日 2017/12/14
調査原因 下水道工事
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 土器小片がわずかに出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡内希薄地点と考えられる。



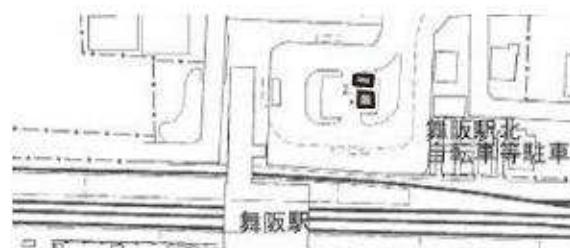
位置図 (2,500分の1)

立 31 仮屋坂遺跡 (かりやざかいせき)
所在地 西区伊左地町 3747-3
立会日 2017/12/22
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 小穴 1 基
出土遺物 なし
立会結果 小穴 1 基検出。遺物は確認できなかつた。



位置図 (2,500分の1)

立 32 別当遺跡 (べとうういせき)
所在地 西区馬郡町地内
立会日 2018/1/9
調査原因 駐輪場整備
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 工事掘削は盛土内に収まっていた。



位置図 (2,500分の1)

立 33 上新屋遺跡 (かみあらやいせき)
所在地 東区上新屋町地内
立会日 2018/2/9
調査原因 ガス管理設
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構面まで工事掘削が及ばなかつた。



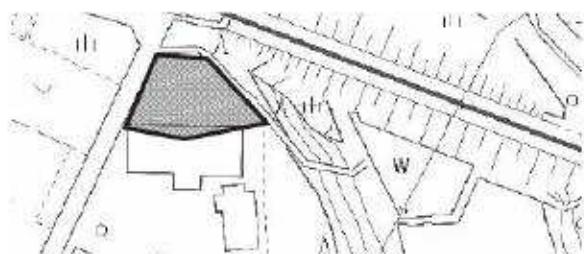
位置図 (2,500分の1)

立 34 曙東遺跡 (なわてひがしいせき)
所在地 中区森田町地内
立会日 2018/2/23
調査原因 ガス管理設
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構面まで工事掘削が及ばなかつた。



位置図 (2,500分の1)

立35 吉名古窯跡群（よしなこようせきぐん）
所在 地 浜北区宮口地内
立会 日 2018/2/26
調査原因 個人住宅建築
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立36 山寺野遺跡（さんじのいせき）
所在 地 南区飯田町地内
立会 日 2018/3/1
調査原因 ガス管理設
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構面まで工事掘削が及ばなかった。



位置図 (2,500分の1)

立37 中嶋遺跡（なかじまいせき）
所在 地 北区三ヶ日町上尾奈 566-1、566-3
立会 日 2018/3/6
調査原因 净化槽設置
検出遺構 なし 出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。

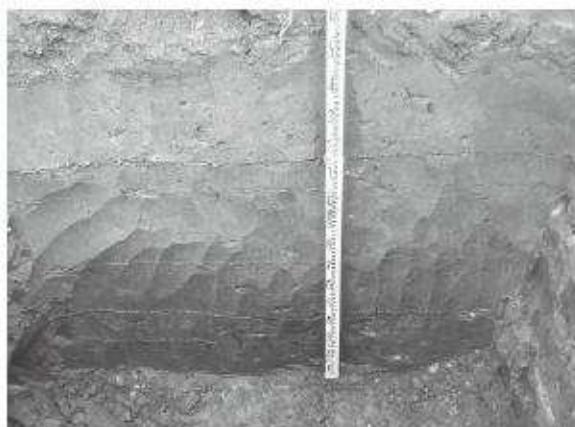


位置図 (2,500分の1)

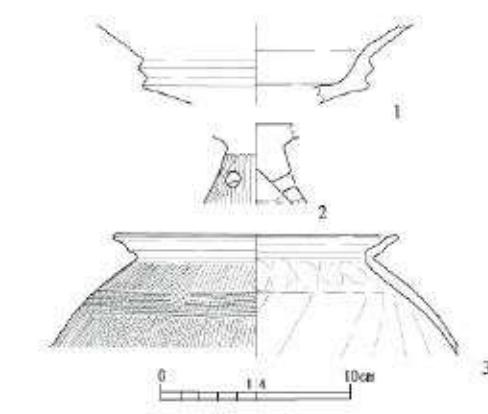
**立38 恒武西宮遺跡
(つねたけにしみやいせき)**
所在 地 東区貴平町 1660-1
立会 日 2018/3/7
調査原因 净化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 古式土師器、灰釉陶器
立会結果 古墳時代前期の大型遺構を検出。古式土師器が出土した。



位置図 (2,500分の1)



土層堆積状況



出土遺物実測図 (S = 1/4)

立 39 梶子遺跡（かじこいせき）
所在 地 中区南伊場町 33-1 外
立会 日 2018/3/7
調査原因 配水管埋設
検出遺構 土坑
出土遺物 弥生土器
立会結果 弥生時代後期の遺構と遺物を確認。

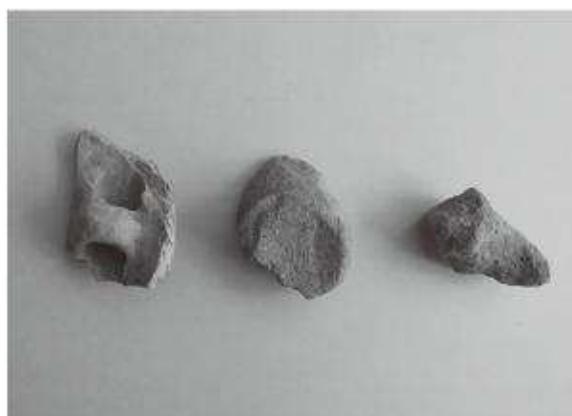


位置図 (5,000分の1)

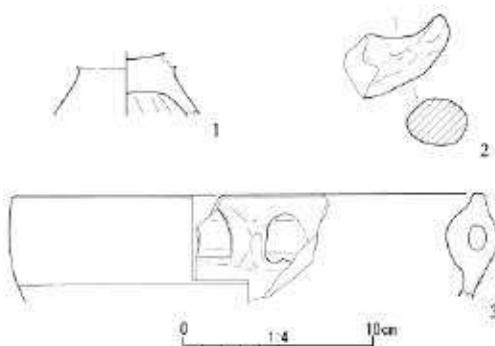
立 40 石岡遺跡（いしおかいせき）
所在 地 北区細江町三和 219-4
立会 日 2018/3/12
調査原因 净化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 土師器、土鍋、中世陶器
立会結果 古墳時代から中世までの遺物が混ざる客土（古い時代の造成土か）を確認した。



位置図 (2,500分の1)



出土遺物



1: 土師器（底跡） 2: 土師器（頸） 3: 内耳鉢

出土遺物実測図 (S = 1/4)

立 41 別所東遺跡隣接地
(べっしょひがしいせきりんせつち)
所在 地 東区市野町 1643、1644
立会 日 2018/3/14
調査原因 汚染土除去
検出遺構 なし　出土遺物　なし
立会結果 遺構・遺物とともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断される。



位置図 (2,500分の1)

立42 浜地遺跡（はまじいせき）

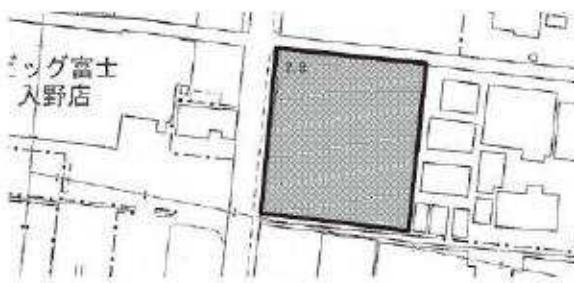
所在 地 西区入野町 284-1 外

立会 日 2018/3/20

調査原因 店舗建設

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

立43 榛木遺跡（ひのきいせき）

所在 地 東区子安町 310-18

立会 日 2018/3/22

調査原因 ガス管埋設工事

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 工事掘削は盛土内に収まる。



位置図 (2,500分の1)

立44 増楽町村中遺跡

(ぞうらちょうむらなかいせき)

所在 地 南区増楽町 436

立会 日 2018/3/30

調査原因 個人住宅建築

検出遺構 なし 出土遺物 なし

立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

第5章 詳細報告

1 恒武西宮遺跡18次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

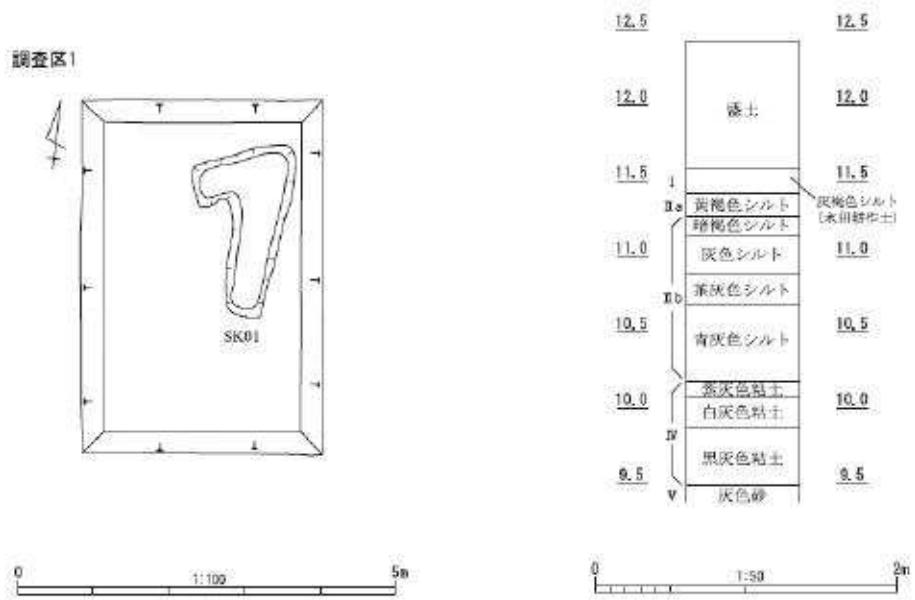
遺跡の立地と概要 恒武西宮遺跡は、東区恒武町から貴平町にかけて分布する古墳時代から中世の集落遺跡である。恒武地区には、恒武西宮遺跡を含め複数の遺跡が分布しており、恒武遺跡群と呼ばれている。これまで恒武西宮遺跡で行われた発掘調査では、古墳時代の掘立柱建物跡や祭祀遺物の集積などが検出されている。また、隣接する山ノ花遺跡の発掘調査では、自然流路（恒武大溝）から古墳時代中期の祭祀に関連した道具が大量に出土している。今回、恒武西宮遺跡の範囲内で、工場新築工事が計画されたため、平成28年度に予備調査を実施した。予備調査では、西側で集落の中心にあたる高位面、東側で湿地状の堆積がみられる低位面を確認している。今年度は、遺跡の保護が図られない作業用ピット部分と浄化槽部分において、記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。調査期間は平成29年4月19日～20日である。調査面積は約36.2m²である。

(2) 調査成果

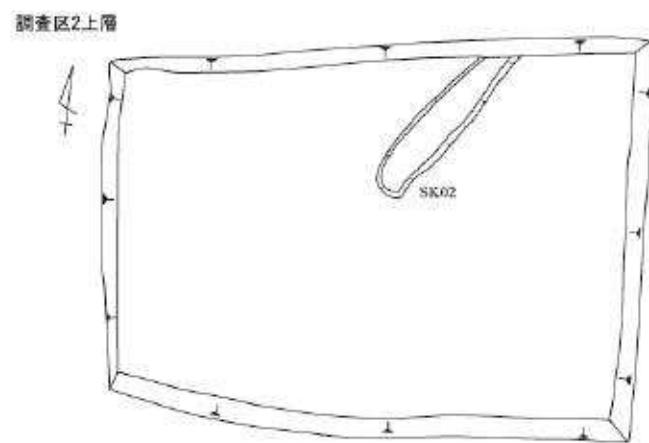
敷地東の浄化槽設置部分を調査区1、西の作業用ピット設置部分を調査区2とする。

土層堆積状況 調査区1は低位面、調査区2は高位面にあたる。各調査区における土層堆積状況は以下の通り整理できる。I層：表土、IIa層：表層堆積土、IIb層：上層遺構基盤層、III層：高位面堆積土、IV層：低位面堆積土、V層：基盤層。IIa層の黄褐色シルト、III層の黒灰色粘土が遺物包含層にあたる。また、III層では一部、炭化物が含まれている。

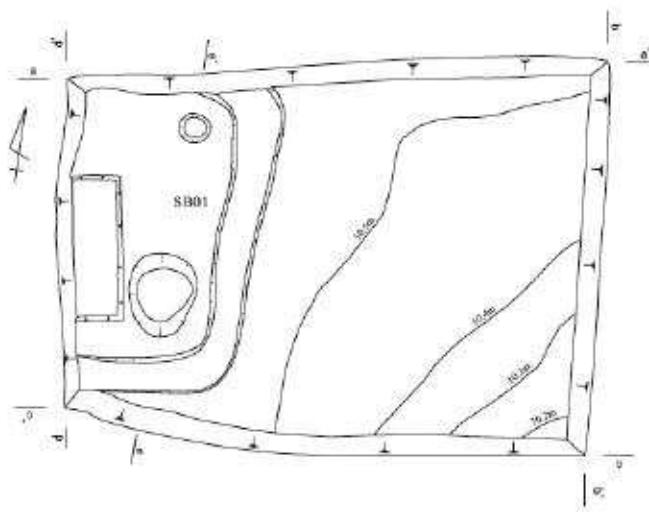




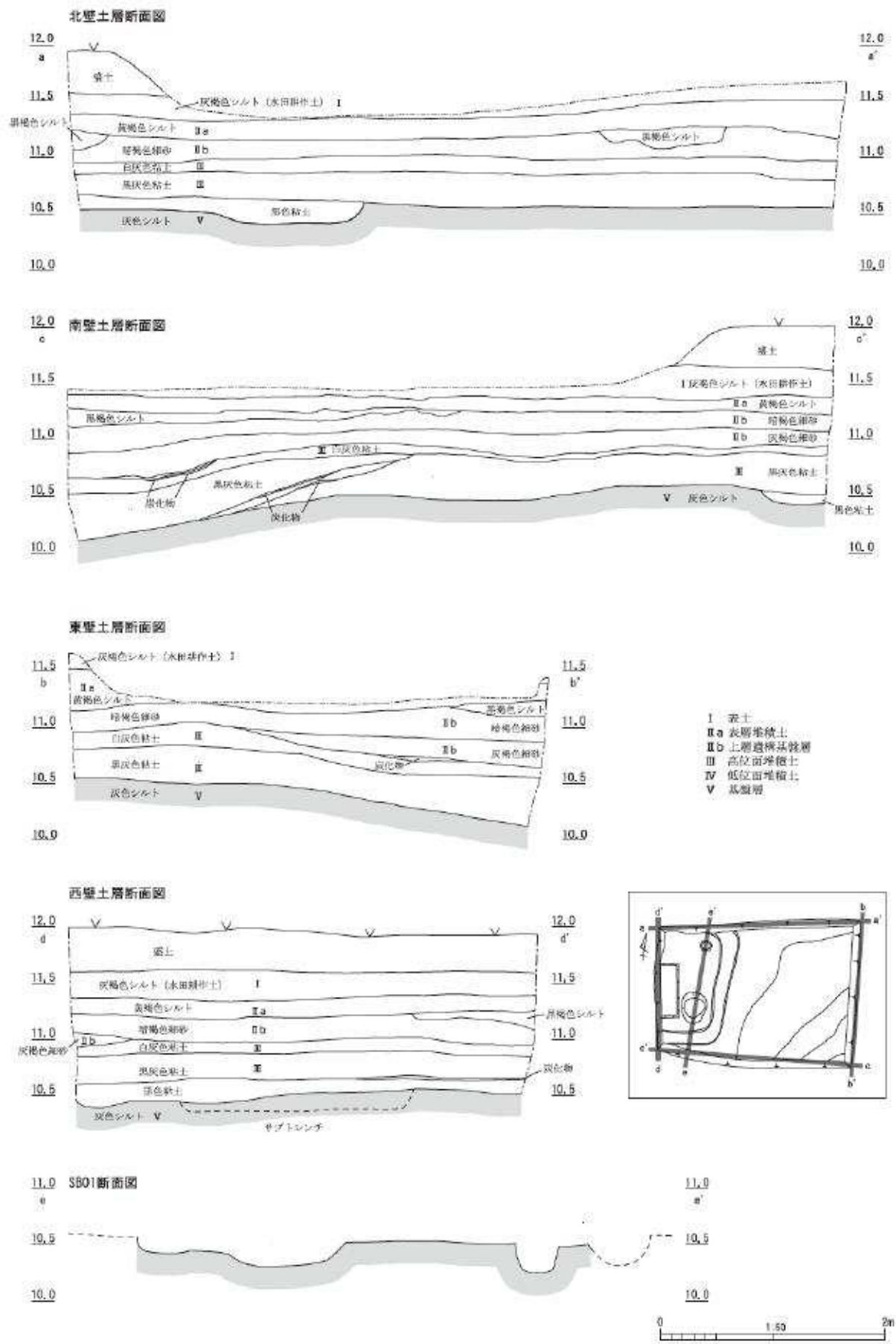
第2図 恒武西宮遺跡18次調査調査区1平面図及び土層柱状図



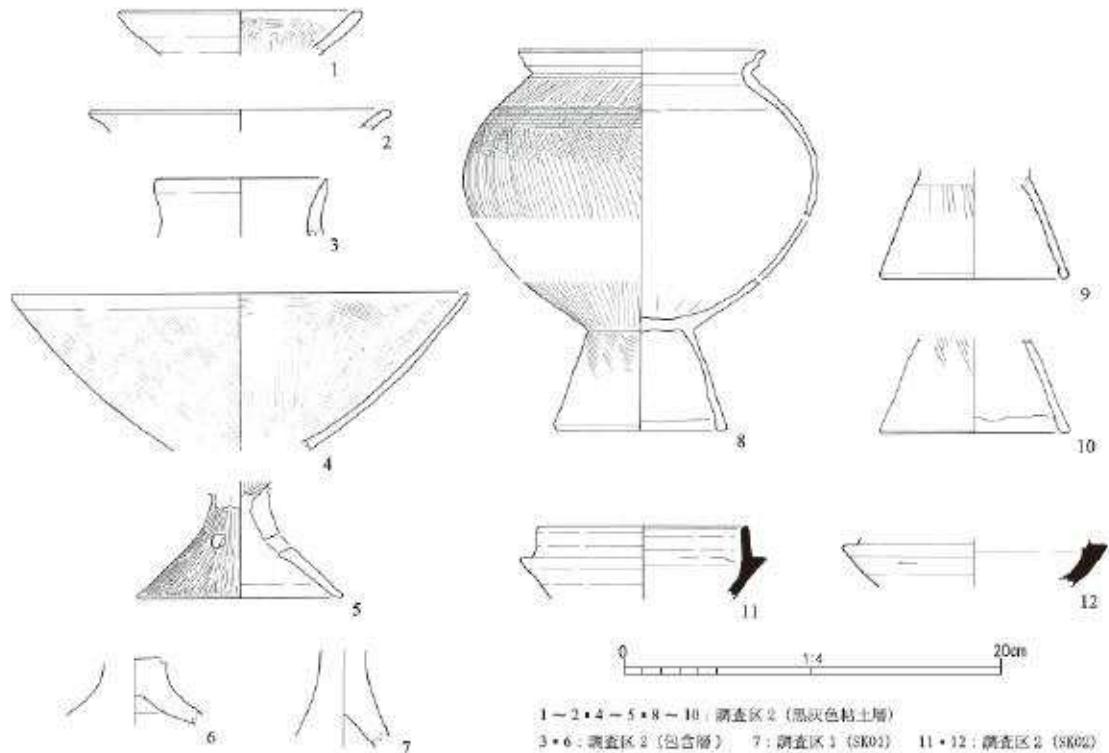
調査区2下層



第3図 恒武西宮遺跡18次調査調査区2上層及び下層平面図



第4図 恒武西宮遺跡18次調査調査区2土層断面図及び遺構断面図



第5図 恒武西宮遺跡18次調査出土遺物実測図

検出遺構 調査区1のII b層において土坑(SK01)を検出した。また、調査区2のII b層で土坑(SK02)、V層で竪穴建物跡(SB01)を確認した。SK02からは少量の須恵器が出土している。SK01からは遺物は出土していないが、SK02と同一の層で検出されており、2つの土坑は同時期(古墳時代中期・5世紀)のものとみられる。SB01は方形で、東側半分が調査区内で検出された。一边の長さは約3.6m、周溝の幅は約1mである。SB01からは古式土師器が検出されており、3世紀後半の遺構と考えられる。

出土遺物 遺物はII b層から5世紀の須恵器と土師器、III層から3世紀後半の古式土師器が出土した。1、2は広口壺の口縁である。口径はそれぞれ約13cm、16cmである。1の外表面はナデ調整で、内面はハケメを施した後にミガキをかけている。3は直口壺の口縁で、口径は約9cmである。4は高壺の壺部で、口径は23cm、ハケ調整の後にミガキを施している。5～7は高壺の脚部である。5の底径は10.8cmで、スカシ孔は3方向に開けられている。8～10はS字甕である。8は口径13cm、底径9.1cmで、表面に煤が付着している。口縁部の特徴からC類に分類できる。9、10は甕の脚台部である。11、12は須恵器の壺身である。器径は11が13cm、12が14cmである。

(3) 結語

当該地では、古墳時代前期と後期の遺構・遺物を確認できた。古墳時代前期(3世紀後半)には、当該地の西半が集落の中心地になっており、東半は低位面であったとみられる。集落に隣接して自然流路もしくは低湿地が広がっていたと考えられる。恒武西宮遺跡の3世紀の様相については、過去に方形周溝墓や溝が確認されていたが、今回初めて竪穴建物跡を確認した。古墳時代中期(5世紀)には東側の自然流路は埋没したとみられる。当該地北西で実施した1次調査、6次調査箇所でも5世紀の建物跡が確認されていることから、この時期においても当該地には人々の活動が及んでいたと考えられる。

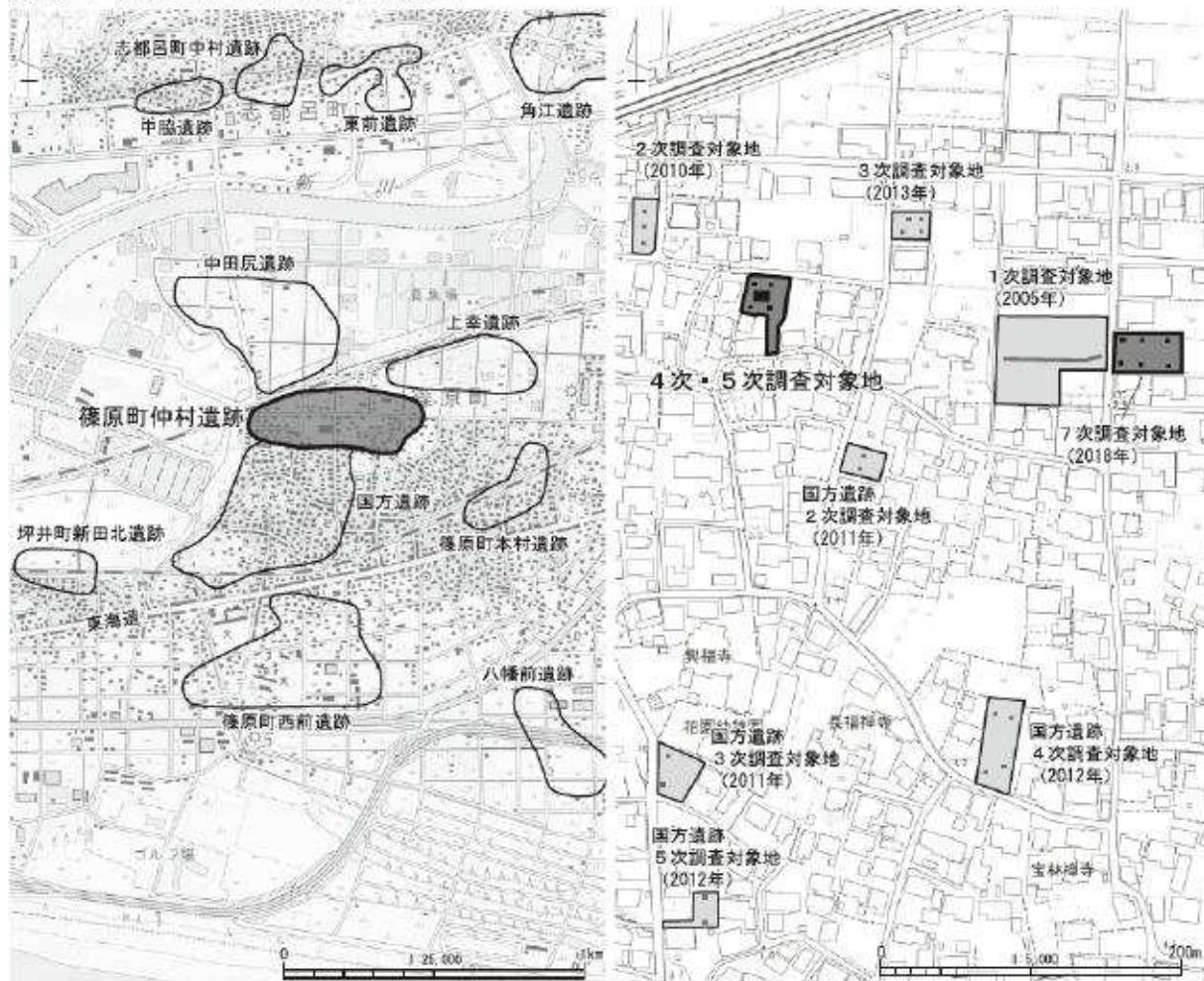
(山中美歩)

2 篠原町仲村遺跡 4・5次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 篠原町仲村遺跡は、浜松市の南西部に位置する西区篠原町内に所在する。遠州灘に面した浜松南部平野を貫く近世東海道北側の砂堤列上に位置する古代から中世にかけての時期を中心とした集落遺跡である。南側に隣接する国方遺跡とは、一連の遺跡と考えられる。これまでに行われた発掘では、鎌倉時代の遺構が少量検出されているが、集落の様相は不明瞭であった。今回報告する4次調査（確認調査）と5次調査（本発掘調査）では、篠原町仲村遺跡においてはじめて、古代や中世のまとまった遺構を確認することができた。

調査経緯 篠原町仲村遺跡の範囲内において個人専用住宅の建築が計画されたため、平成29年（2017）5月10日に遺構や遺物の埋没状況を調べるため、対象地内に4箇所の調査坑を設定し、確認調査（4次調査）を実施した。確認調査は、鈴木一有（浜松市文化財課）が担当し、小杉直孝（浜松市文化財課）が補助した。確認調査の結果、対象地内には奈良時代や鎌倉時代の遺構や遺物が埋没していることが明らかになった。対象地のうち、遺構の保護を図ることができない80mにおいて本発掘調査（5次調査）を行うこととなった。本発掘調査は、和田達也（浜松市文化財課）が担当し、北澤志織（浜松市文化財課）が補助した。現地調査は、平成29年（2017）6月12日から平成29年6月15日にかけて実施した。



第6図 篠原町仲村遺跡とその周辺の遺跡と調査履歴位置図

(2) 基本層序

基本層位は、4次調査・5次調査ともにほぼ共通し、大きく4つの土層に分けることができる。5次調査では、II～IV層を色調や土層の形成の背景をもとに細分した。

I 層 I層は、褐色砂質土で現状の表土である。

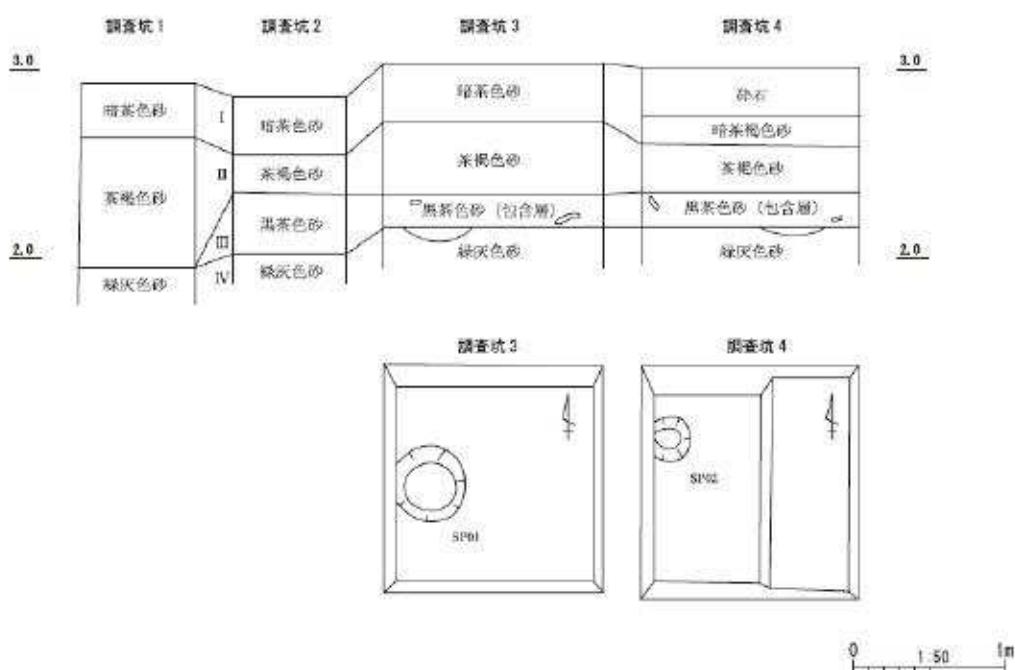
II 層 II層は、褐色系砂質土で、近世以降の土層である。5次調査では、暗褐色砂質土で旧表土や攪乱と判断できる土層をII-1層とし、褐色砂質土で近世以降の盛土と捉えられるものをII-2層とした。

III 層 III層は、暗褐色系砂質土で、古代・中世の遺物を多く含む土層である。5次調査では、有機質な黒褐色砂質土で、古代・中世の遺物を豊富に含む土層をIII-1層とし、暗褐色砂質土で、古代・中世の遺物を含む土層をIII-2層とした。

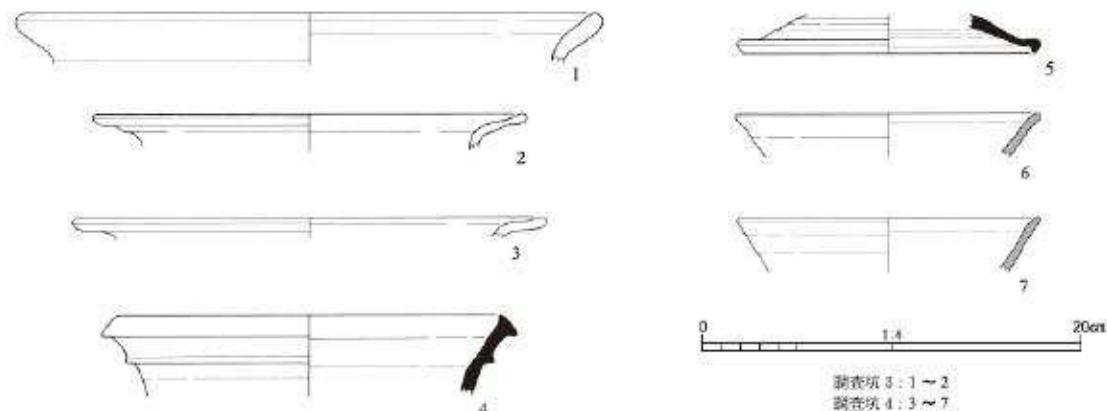
IV 層 IV層は、基盤層である。5次調査では遺構検出面であるIV-1層：緑灰色砂（基盤層）と、さらに下位に堆積したIV-2層：灰色粗砂（下位基盤層）を確認した。灰色粗砂の下層は水分を含んでおり、本調査で検出した2基の井戸はいずれも灰色粗砂（IV-2層）の下位まで掘削されている。

(3) 4次調査

4次調査の概要 対象地内に2m×1.5mの調査坑を4箇所設定し、調査面積は12m²である（第6図）。バックホーで層位的に掘削し、遺物の出土状況を確認したのち、人力で基盤層に掘り込まれた遺構の検出と土層堆積状況の確認を行った。調査終了後は、流用土を用いて埋め戻し、旧状に復旧した。確認調査は、現状復旧を含め平成29年5月10日に実施した。



第7図 箕原町仲村遺跡4次調査平面図及び土層柱状図



第8図 篠原町仲村遺跡4次調査出土遺物

検出遺構（第7図） 調査坑3・4の2つの調査坑において小穴を1基ずつ、計2基検出した。検出面はIV層：緑灰色砂（基盤層）の上面で、検出面の標高は約2.2mである。古代中世の包含層（III層）に基盤層（IV層）が覆われており、中世以前の遺構と捉えられる。

4次調査出土遺物（第8図） 調査坑3・4を中心に7世紀から9世紀の須恵器や土師器が数多く出土した。また、少量であるが、12～13世紀の山茶碗が出土した。このうち、図化可能な7点を図示した。1～3は土師器壺の口縁部である。1は口径31.0cm、2は口径23.0cm、3は口径25.2cmである。4は須恵器壺の口頸部で、口径は20.4cmである。口頸部のやや上部に断面形が三角形の隆帯がみられる。5は須恵器の摘み蓋で、口径は15.4cmである。6・7は山茶碗である。6・7ともに口径は16.0cmである。

（4）5次調査

5次調査の概要 4次調査地において、遺跡を保護することができない建物部分で記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。調査は平成29年6月12日から平成29年6月15日にかけて行った。調査面積は80m²である。バックホーにて表土を掘削したのち、包含層を人力で掘削し、基盤層の上面で遺構の検出を行った。調査終了後は発生土を用いて埋め戻し、復旧した。

検出遺構の概要（第9図） 5次調査において、調査区の全域から古代を中心とした時期の小穴や土坑、溝、井戸等の遺構を数多く検出した。また、わずかではあるが鎌倉時代の遺構も検出した。いずれの時期の遺構も検出面は基盤層（IV-1層）上面である。

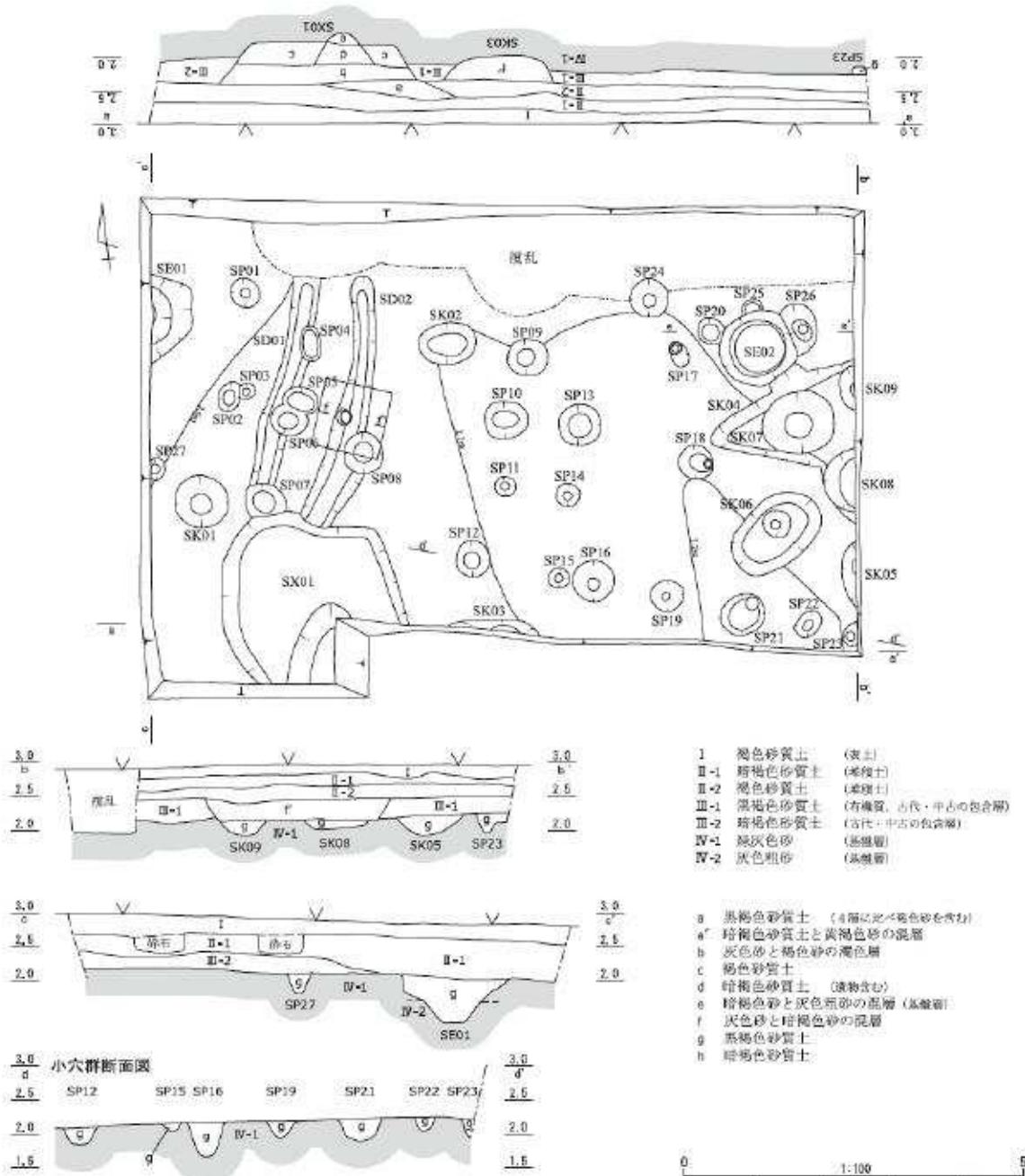
小穴 小穴は、5次調査区全域で26基検出した。埋土はいずれも黒褐色砂質土（g）である。小穴の中には柱痕を認識できるものがあり、掘立柱建物や柵列の一部と想定できる。多くの小穴は8世紀代のものと捉えられる。

SP16とSP23からは山茶碗が出土し、鎌倉時代の遺構が確認できた。このSP16とSP23の周囲では、複数基の小穴が列をなした状態で検出できた。SP16やSP23を含む小穴列を一部として鎌倉時代の掘立柱建物や柵列等が展開している可能性がある。

土坑 土坑は、調査区全域で6基検出した。SK03・SK04は埋土が灰色砂と暗褐色砂の混層（f）であり、古代・中世の包含層を掘削して構築された遺構である。出土遺物は小片のみだが、埋土中から近世や現代の遺物は認められないことから、中世に構築され埋没した遺構と捉えられる。その他の土坑はいずれも黒褐色砂質土（g）が埋土である。埋土中から出土遺物した遺物は小片であり、時期を明確に判断できるものはみられないが、層位から古代もしくは中世の遺構と捉えられる。

井戸 井戸は、調査区の北西端の SE01 と北東端の SE02 の2基を検出した。SE01・SE02 ともに素掘りの井戸で、埋土中から出土した遺物から古代のものと捉えられる。SE01 は、平面形が不整円形で直径約 1.6 m、検出面からの深さは 0.7m、埋土は黒褐色砂質土（g 層）である。SE02 は平面形が直径 1.1 m の円形で、検出面から底面までの深さは 0.7m である。埋土は、上下 2 層に分けて認識でき、上位埋土が黒褐色砂質土（g 層）、下位埋土が暗褐色砂質土（h 層）である。埋土中からは土師器の長胴甕（8・9）や把手付鉢（10）等が出土した。

溝跡 溝跡は、調査区西側で溝跡 SD01 と SD02 の2条を確認した。SD01 と SD02 いずれも幅 0.4 m、検出面からの深さ 0.2m であり、2 条の溝跡は並行した状態で南北方向へと伸びている。北端は攪乱、南端は SX01 によって改変されている。SD01 からは古代の遺物の小片が出土した。また、



第9図 篠原町仲村遺跡5次調査調査区詳細図

SD02 の埋土中からは多くの遺物が出土し、須恵器有台坏身（6）のように残存状態の良い遺物も含まれていた。SD01 と SD02 は、古代の遺構と捉えられる。

不明遺構 SX01 は、鎌倉時代に構築された東西 2.7m の遺構である。SX01 の北壁は奈良時代の SD01・02 と切り合い関係にあり、溝跡に対して新しい遺構である。SX01 は調査区外へと続いており全形は不明である。SX01 の中央部にはさらに深い溝状の部分が存在する。調査区南側の土層断面を確認すると古代・中世の包含層（Ⅲ層）を掘削して構築したことが確認できる。出土遺物の中でも最も新しい遺物の時期から中世に掘削・埋没したものと捉えられる。

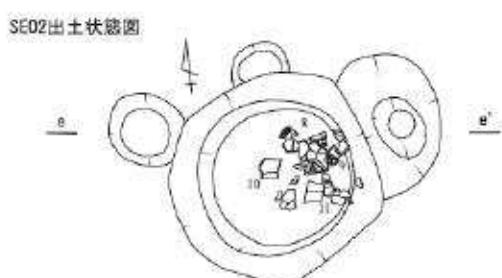
出土遺物の概要 篠原町仲村遺跡 5 次調査では、遺構内や包含層から古代の土師器・須恵器を中心にして数多くの遺物が出土した。鎌倉時代の遺物も少量だが確認できた。遺構や包含層から出土した遺物のうち、時期的特徴を示すものや篠原町仲村遺跡の特徴を考えるうえで重要なものを選択し、図示した。

以下、出土遺構や層位ごとに出土遺物の特徴とその時期について記載する。

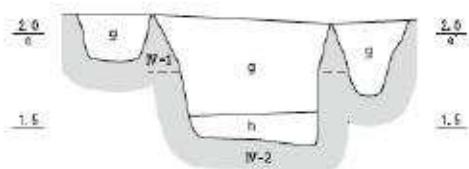
SD02 出土遺物（第 11 図 - 1 ~ 7） SD02 からは土師器（1 ~ 4）と須恵器（5 ~ 7）が出土した。1 ~ 3 は土師器甕の口縁部である。1・2 は口径 34.0cm、3 は口径 25.0cm である。4 は土師器長胴甕の底部で底径は 5.9cm である。5・6 は須恵器有台坏身である。5 は口径 14.2cm である。6 は全形がうかがえるもので底部が高台の下やや突出する形態的特徴を持つ。口径 14.4cm、高台径 11.6cm、器高 3.6cm である。7 は陶臼の口縁部で、口径は 17.0cm である。SD02 の出土遺物はいずれも 7 世紀後葉から 8 世紀代にかけて生産されたものと捉えられ、SD02 の埋没時期を示しているといえる。

SE02 出土遺物（第 11 図 - 8 ~ 11） SE02 からは土師器が出土した。8・9 は、SE02 埋土 g 層と h 層の境界部分から出土した土師器長胴甕である。8 は口縁部で口径は 13.0cm である。また、9 は胴部で最大径は 16.7cm である。8・9 は同一個体の可能性があり、いずれもススやコケなどの使用痕跡は認識できない。10・11 は、SE02 埋土 g 層中から出土した土師器である。10 は土師器把手付鉢で口径 22.0cm、最大径 30.0cm である。11 は土師器台付甕で、脚部接合部径は 7.4cm である。外面にススの付着がみられる。8・9 と 10・11 には出土状態に層位の差が認められるが、いずれも 7 世紀後葉から 8 世紀前半を中心とした時期のものと捉えられる。

SK06 出土遺物（第 11 図 - 12） SK06 からは山茶碗の大平鉢（12）が出土した。12 は口径が 21.6cm あり、口縁部が直線的な形態をしている。13 世紀のものと捉えられる。

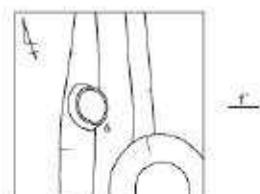


SD02土層断面図 (e-e')

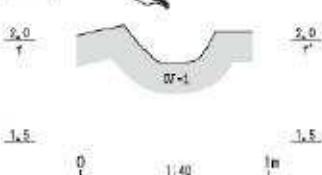


N-1 黒灰色砂 (基礎層)
N-2 水色粗砂 (基礎層)
g 黒褐色砂質土
h 褐褐色砂質土

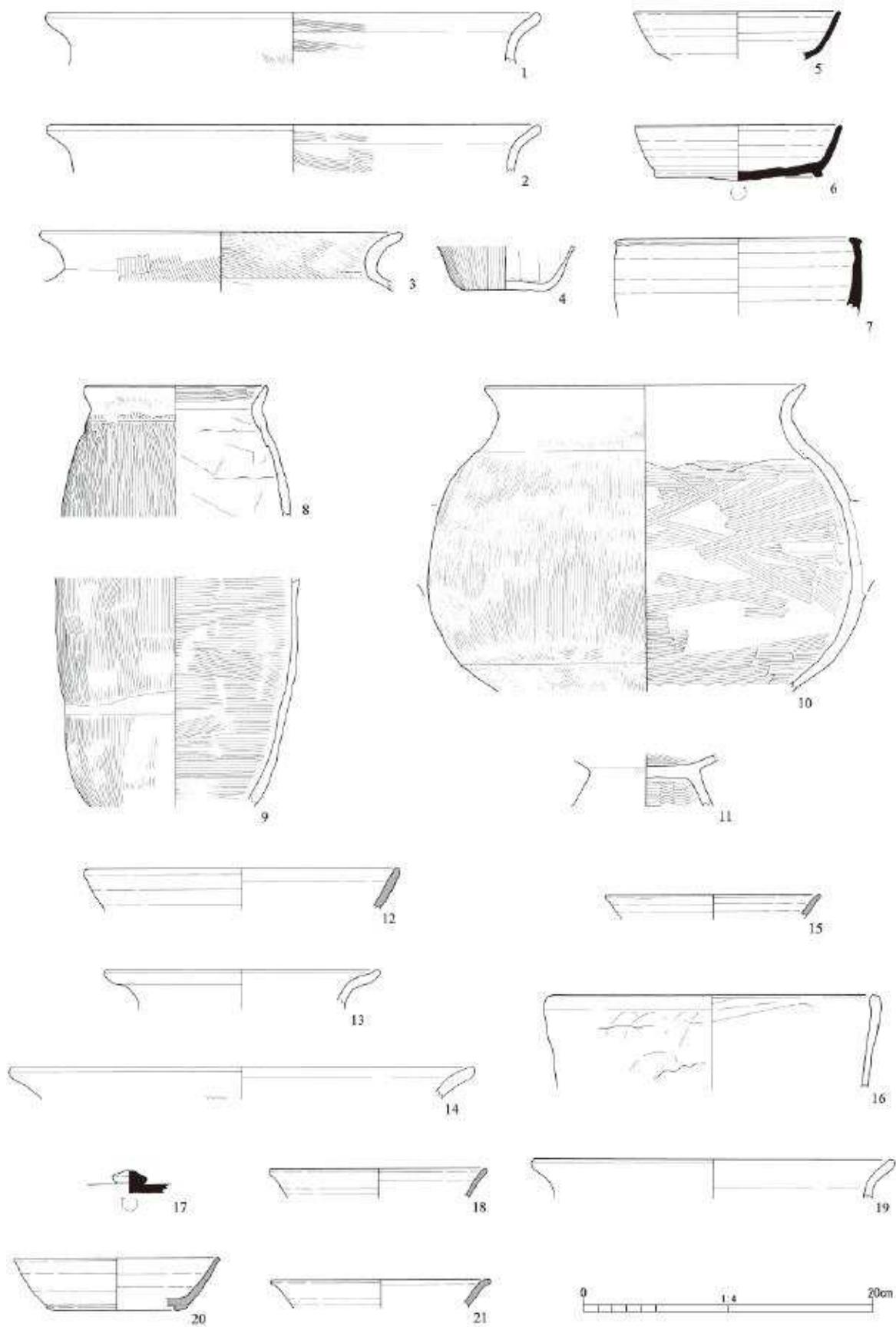
SD02出土状態図



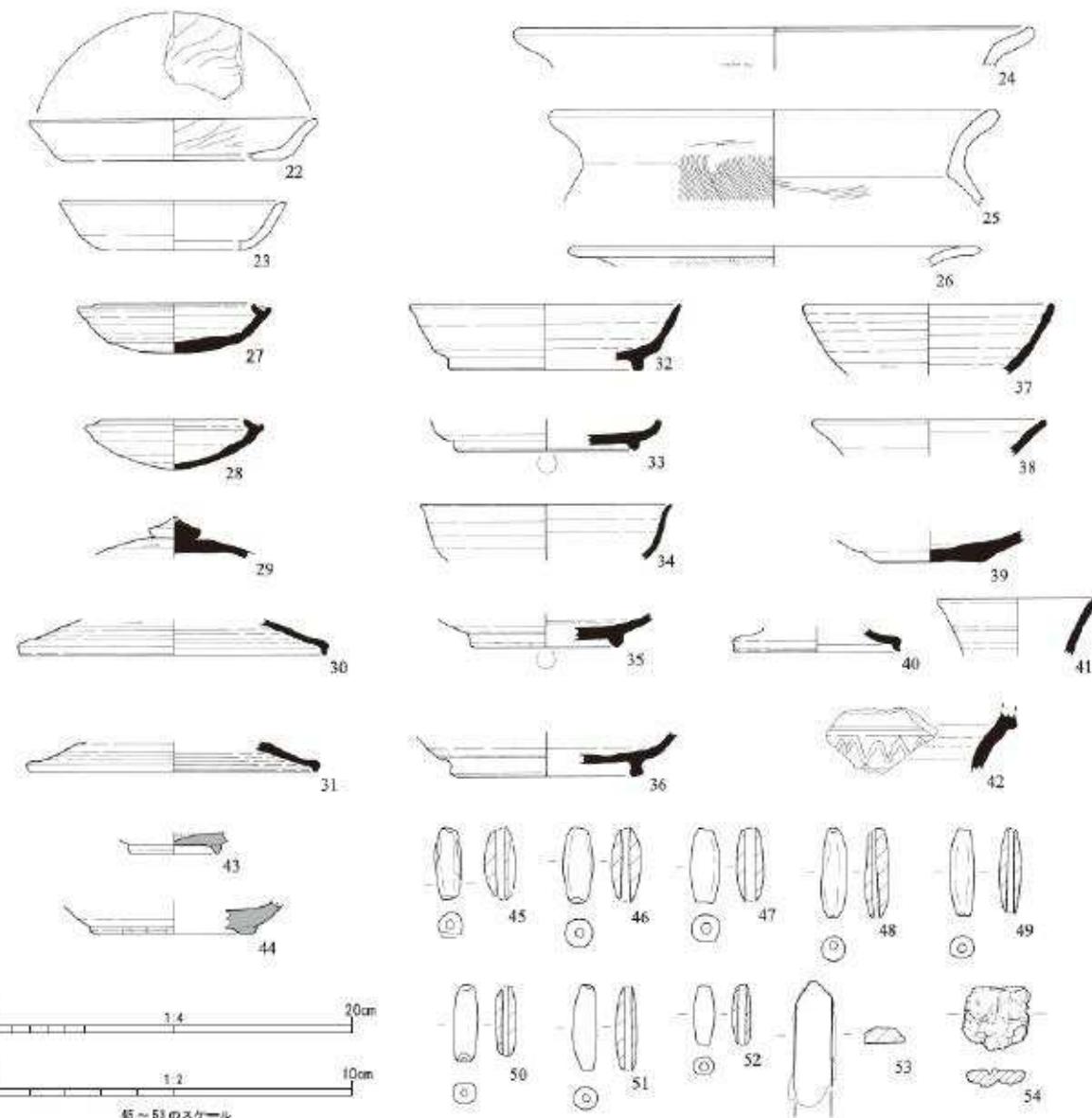
SD02断面図 (f-f')



第10図 5次調査検出遺構詳細図



第11図 篠原町仲村遺跡5次調査における遺構出土遺物



第12図 篠原町仲村遺跡5次調査における包含層出土遺物

SP15 出土遺物（第11図-13・14） SP15からは土師器の甕が出土した。13は口径19.0cmあり、口縁端部がやや受口状に仕上げられている。14は口径32.0cmであり、口縁部は直線的である。いずれも8世紀を中心とした時期のものと捉えられる。

SP16 出土遺物（第11図-15） SP16からは山茶碗（15）が出土した。15は、口径が14.8cmあり、口縁端部がやや外反する。13世紀のものと捉えられる。

SP22 出土遺物（第11図-16） SP22からは土師器の瓶（16）が出土した。口径22.6cmに復元できる。8世紀を中心としたものと捉えられる。

SP23 出土遺物（第11図-17・18） SP23からは須恵器摘み蓋（17）と山茶碗（18）が出土した。17の須恵器摘み蓋は摘みの最大径は2.4cmである。8世紀代のものと捉えられる。18の山茶碗は、口径15.0cmあり、口縁部がやや外反する。13世紀のものと捉えられる。

SX01 出土遺物（第11図-19～21） SX01からは土師器甕（19）と山茶碗（20・21）が出土した。19の土師器甕は口径25.0cmである。8世紀を中心とした時期のものと捉えられる。20・21は山茶碗である。20は、有台碗で口径14.2cm、器高3.6cm、高台径10.0cmである。21は山茶碗の口縁部で

外反する。口径 15.2cm である。

包含層出土遺物（第 12 図－22～54） 包含層からは土師器（22～26）、須恵器（27～42）、山茶碗（43・44）、土製品（45～52）、鉄製品（53）、鉄滓（54）が出土した。

22 は暗文土師器の壺である。口径 16.0cm、底径 10.0cm、器高 2.3cm で、全面に赤彩がみられる。胎土や暗文の施文状況から在地産の暗文土師器と捉えられる。23 は土師器碗で口径 12.6cm、底径 8.0cm、器高 2.7cm である。24～26 は土師器甕である。口径は、24 が 29.0cm、25 が 25.0cm、26 が 23.0cm である。形態的特徴から 24・25 が 8 世紀代、26 が 9 世紀代と捉えられる。

27・28 は須恵器の蓋壺で全形をうかがい知ることができる。27 は口径 9.0cm、最大径 10.8cm、器高 2.7cm である。28 は口径 8.2cm、最大径 10.0cm、器高 2.7cm である。7 世紀後半のものと捉えられる。27・28 が篠原町仲村遺跡の形成開始時期を示す遺物として注目できる。29 は蓋の摘みで、摘み径は 2.9cm である。30・31 は摘み蓋で、口径は 30 が 17.2cm、31 が 16.4cm である。32・33 は有台壺身である。32 は口径 15.0cm、高台径 10.8cm、器高 3.7cm である。33 は底部片で底径は、10.4cm である。34～36 は有台碗で 34 は口径 14.2cm、高台径は 35 が 8.5cm、36 が 10.8cm である。37 は無台碗で口径 14.0cm、38 は 9 世紀の碗で口径 13.0cm である。39 は無台碗の底部で底径は 6.0cm あり、底部外面には糸切り痕がみられる。40 は、高壺の脚部で底径は 9.3cm である。41 は瓶類の口頸部で口径は 9.0cm あり、頸部には 2 条の沈線が認識できる。42 は大壺の頸部である。外面にはヘラ書きの波状文がみられる。

43 は山茶碗の小碗で高台径 5.2cm である。高台の断面形状は低い三角形であり、13 世紀前半のものと捉えられる。44 は山茶碗で、高台径は 9.4cm である。高台が不整形で低いことから 13 世紀後半のものと捉えられる。45～52 は土錘で、全長 1.7cm～2.5cm、直径 0.5cm～0.8cm、重量 0.5g～1.1g である。中世のものと捉えられる。53 は板状の鉄製品である。54 は碗形滓の小片である。調査地とその周辺において鍛冶が行われた可能性を示すものとして注目できる。

（5）結語

4 次・5 次調査によって、篠原町仲村遺跡は、7 世紀後半に造営が開始され、8 世紀代に遺構・遺物が増加、9 世紀を中心とした時期には衰退・消滅する状況が確認できた。その後、13 世紀ころから再開発された様子がうかがえる。これまで不明瞭であった篠原町仲村遺跡において、古代や中世の遺構や遺物が豊富に残存し、集落の変遷と消長が部分的にはあるものの確認できた点が 4 次・5 次調査の成果といえる。

近年、浜松南部平野西側の砂堤列上に所在する遺跡において発掘が行われ、飛鳥時代から奈良時代の初頭に集落形成の画期を認められる傾向が明らかになりつつある。主なものとして新橋町村東遺跡（浜松市教委 2017）や、中田尻遺跡（浜松市教委 2016）の調査成果がある。南部平野の砂堤上に構築された遺跡の消長が類似する点は、地域の動向を反映したものとみられる。考察を行うには情報が不足しており、今後の調査成果の蓄積を待って、集落の造営や終焉の背景を検討する必要がある。
(和田達也)

引用文献

- 浜松市教育委員会 2005『篠原町仲村遺跡』
浜松市教育委員会 2016「中田尻遺跡調査成果報告」『平成 27 年度浜松市文化財調査報告』
浜松市教育委員会 2017「新橋町村東遺跡 1・2 次調査成果報告」『平成 28 年度浜松市文化財調査報告』

3 陣座ヶ谷古墳群 1次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 陣座ヶ谷古墳群は、北区細江町の都田川を臨む台地上に位置する古墳群である。かつては3基の古墳が存在したが、東側の円墳（1号墳）1基は破壊され、現在は中央の前方後円墳（2号墳、陣座ヶ谷古墳）と西側の円墳（3号墳）が残存している。このうち陣座ヶ谷古墳は、1915年に埋葬施設などが掘削されており、5世紀後葉の築造であることがわかっている。また、陣座ヶ谷古墳と3号墳は、1968年に静岡県の史跡に指定されている。今回、陣座ヶ谷古墳群の範囲内において太陽光発電所設置工事が計画されたため、予備調査を実施した。今回の調査箇所は、東側の1号墳があった位置に相当する。耕作によって墳丘は確認できなくなっているが、周溝などが残っている可能性があるため、予備調査を実施した。調査期間は平成29年10月24日、26日～27日である。調査面積は約60.5m²である。

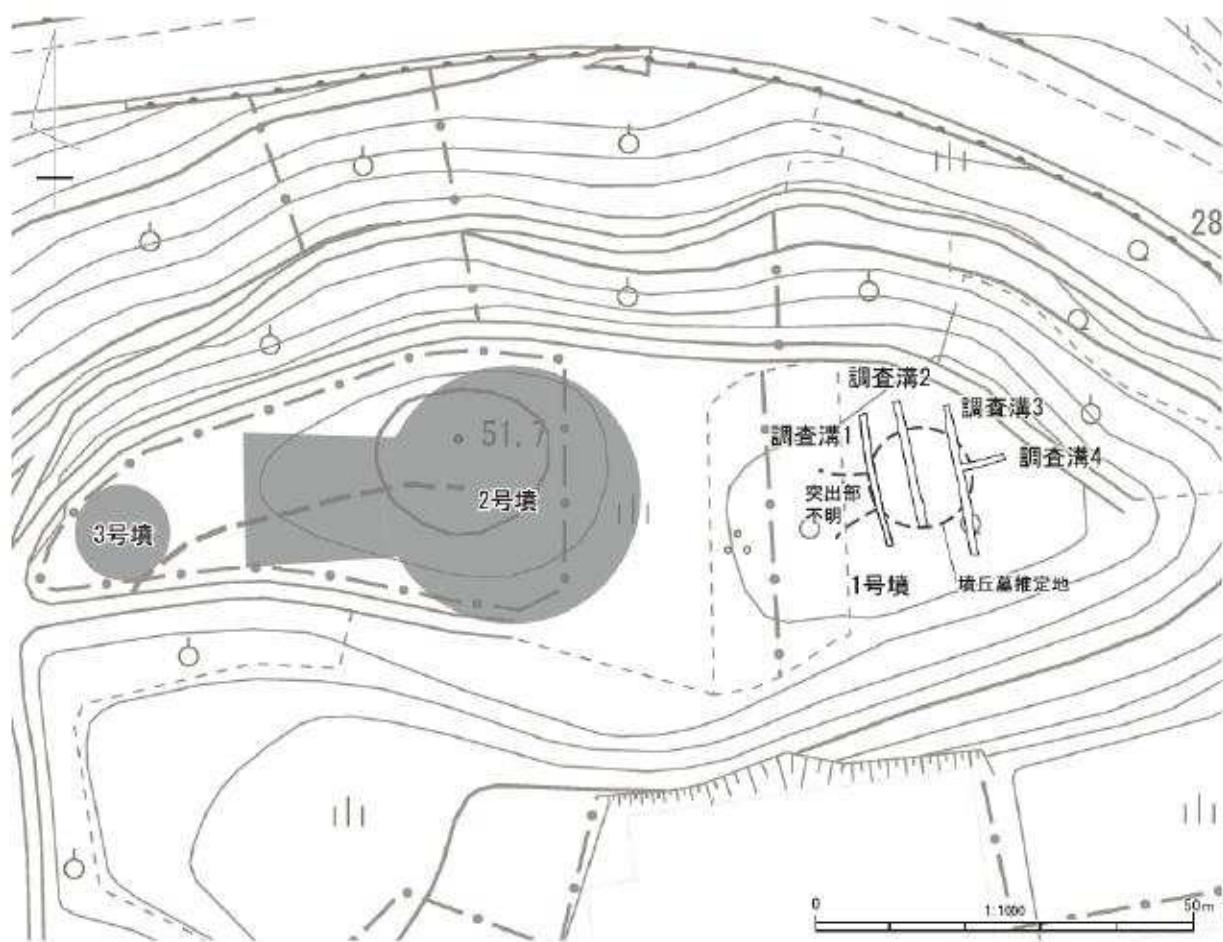
(2) 調査の詳細

開発予定地に調査溝を4か所設定した。西から順に調査溝1、2、3、4とする。

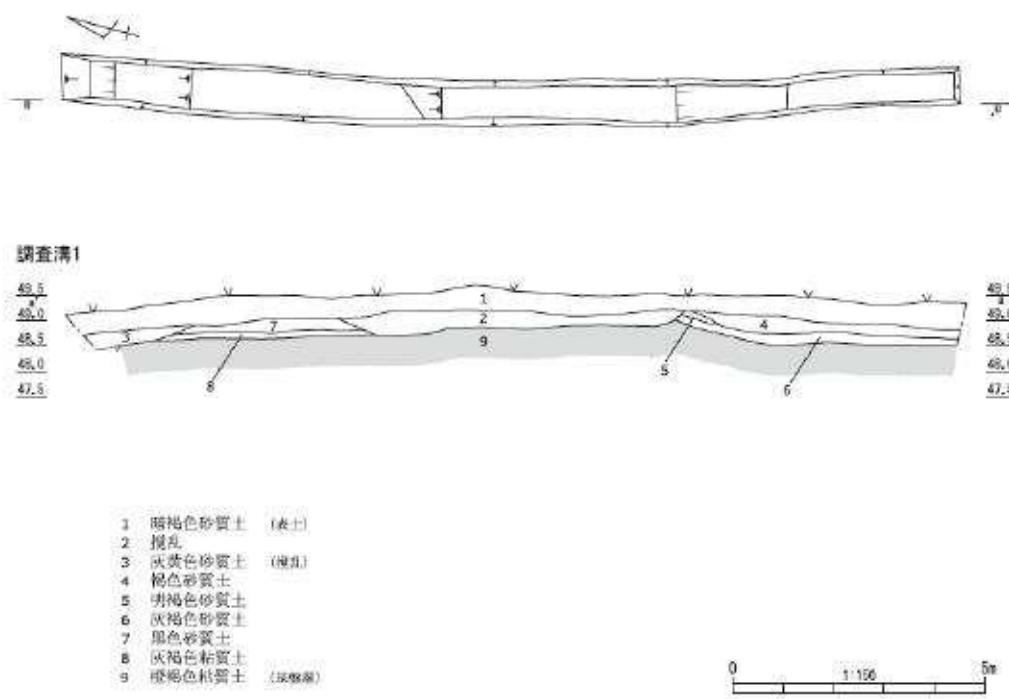
土層堆積状況 各調査溝において、土層堆積状況を確認した。地表から約30cm～50cmまでは耕作による搅乱が及んでいるが、その下に黒色砂質土（遺物包含層）、灰褐色粘質土（初期流入土）、橙褐色粘質土（基盤層）の堆積を確認できた。基盤層の標高は約48.5mを測り、現表土との比高差は約50cm～80cmである。遺物包含層の黒色砂質土層からは、弥生時代終末期の遺物が出土している。



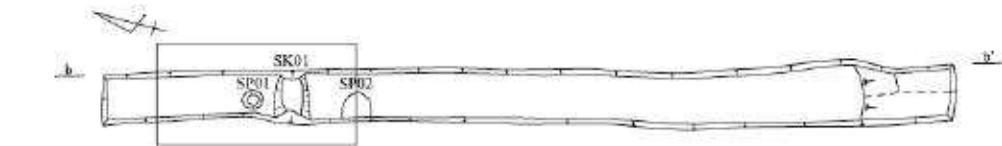
第13図 阵座ヶ谷古墳群とその周辺の古墳位置図



第14図 駒座ヶ谷古墳群1次調査調査溝位置図



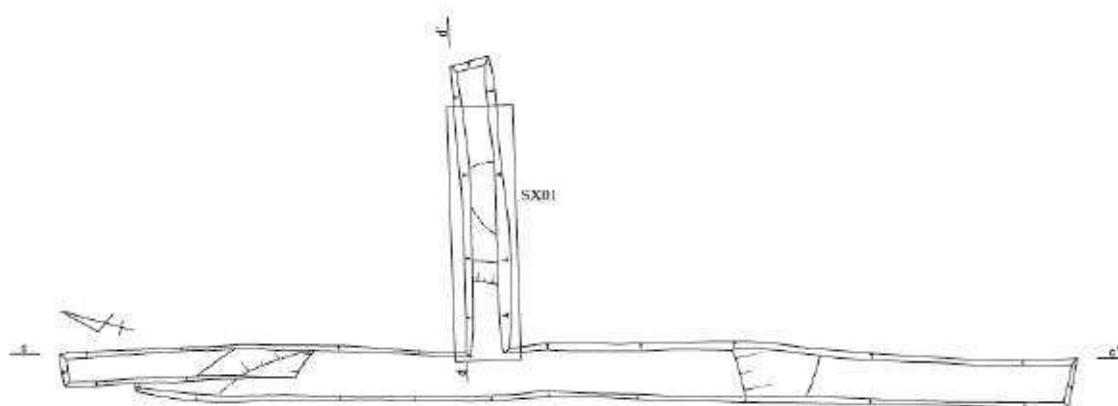
第15図 駒座ヶ谷古墳群1次調査調査溝1平面図及び土層断面図



調査溝2



- | | |
|---------------|------------------|
| 1 暗褐色砂質土 (表土) | 5 黒色粘質土 (SK01出土) |
| 2 振乱 | 6 灰褐色粘質土 |
| 3 灰黄色砂質土 (根付) | 7 棕褐色粘質土 (基盤層) |
| 4 黑色砂質土 | |

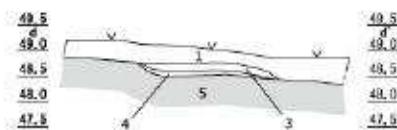


調査溝3



- | | |
|---------------|----------------|
| 1 暗褐色砂質土 (表土) | 4 灰褐色粘質土 |
| 2 振乱・造成土 | 5 棕褐色粘質土 (基盤層) |
| 3 黑色砂質土 | |

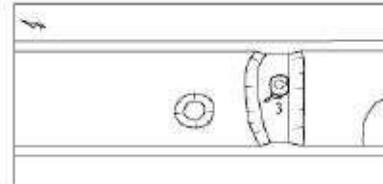
調査溝4



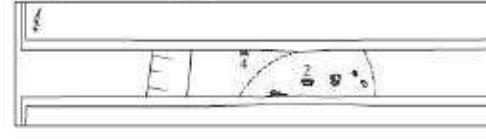
- | |
|----------------|
| 1 暗褐色砂質土 (表土) |
| 2 振乱・造成土 |
| 3 黑色砂質土 |
| 4 灰褐色粘質土 |
| 5 棕褐色粘質土 (基盤層) |

0 1.15m 5m

調査溝2 SK01出土状態図



調査溝4 SX01出土状態図



0 1.80m 2m

第16図 阵座ヶ谷古墳群1次調査調査溝2・3・4平面図及び土層断面図と検出遺構詳細図

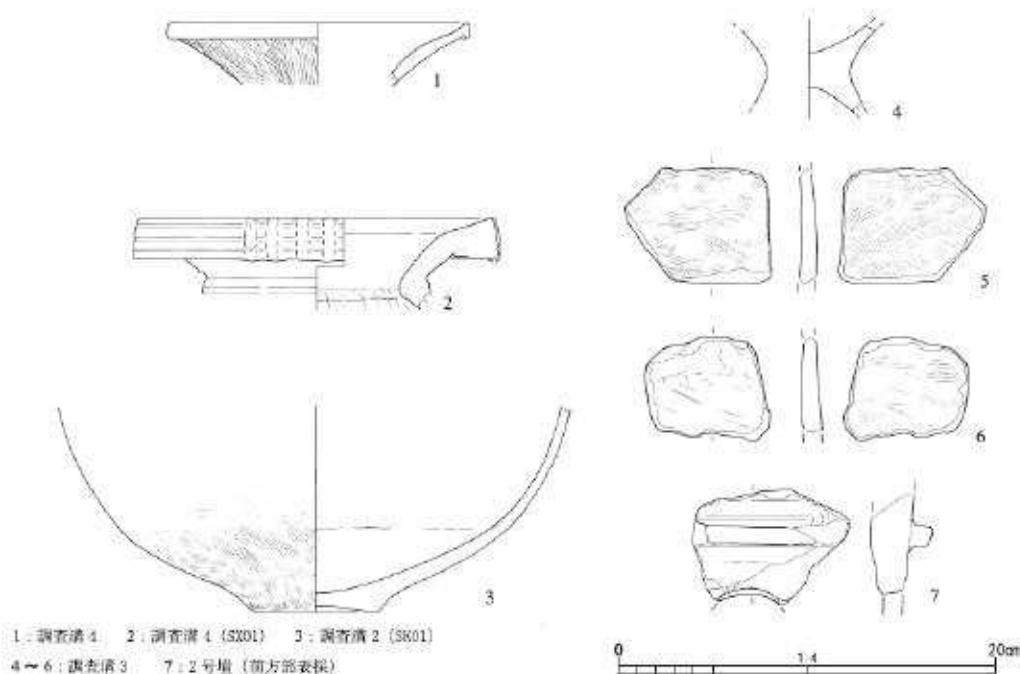
検出遺構 全ての調査溝において、地山を削り出した落ち込みを確認した。この落ち込みは人工的な掘削で形成されたとみられること、削り出された地山は全体的に円形（突出部をもつ可能性がある）を呈すること、地山を削り出した裾の部分から、欠山様式から元屋敷古相様式の加飾壺を含む豊富な土器群が出土したことなどから考えて、弥生時代終末期の墳丘墓である可能性が高いとみられる。主丘部分とみられる箇所は円形を呈し、規模は直径 15m 程度になると思われる。調査溝 1 で確認された地山の形状から判断すると、西側に突出部をもつ前方後円形であった可能性も考えられる。調査溝 2 では、墳裾部分において土坑(SK01)と小穴(SP01)を検出し、その南では小穴(SP02)を確認した。SK01 内には壺が据え置かれていることを確認した。調査溝 4 では、墳裾の東側で焼土を確認し、焼土上面からは遺物が多く検出された (SX01)。

出土遺物 弥生時代終末期の欠山様式から元屋敷古相様式を中心とした遺物が出土した。1 と 2 は壺の口縁部である。1 は折り返し口縁壺で、口径は約 16cm、外面には縦ミガキが施されている。2 は SX01 から出土した壺で、廻間様式にみられるパレススタイル壺の口縁部である。口縁に沈線が 3 本あり、浮文があった痕跡がある。3 は壺の底部である。SK01 内から出土したもので、底径は 6.7 cm である。4 は壺の脚台の接合部である。5 と 6 は土師器で機種は不明であり、調査溝 3 の上層（搅乱土）から出土した。また、陣座ヶ谷古墳（2 号墳）の踏査中に、前方部で埴輪片を採集したので併せて掲載する（7）。胎土はにぶい黄橙色で突堤は高く、スカシは円形とみられる。

（3）結語

今回の調査によって、陣座ヶ谷古墳東側の円墳と考えられていた 1 号墳が弥生時代終末期の墳丘墓である可能性が指摘できるようになった。墳裾の平坦面では壺を据えた土坑や、加飾壺を含む豊富な土器が焼土を伴って検出されたことから、この部分で何らかの祭祀が行われていた可能性が考えられる。市内最古の首長墓と考えられている北岡大塚古墳（北区引佐町）より遡る時期の墳丘墓とみられる遺構が細江町で確認できたことは、弥生時代終末期から古墳時代への過渡期における都田川流域の様子を知る上で重要な成果が得られたものと捉えられる。

（山中美歩）



第17図 陣座ヶ谷古墳群1次調査出土遺物実測図

4 笠井若林遺跡 14 次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の立地と概要 笠井若林遺跡は、東区笠井町に分布する古墳時代から中世の集落遺跡である。過去の発掘調査では、墨書き土器や円面鏡など官衙関連と思われる遺物が出土しており、古代の笠井若林遺跡周辺に官衙的性格を帯びた集落が存在したと推測されている。また、中世の屋敷地を区画する溝も確認されている。今回、笠井若林遺跡の範囲内で個人住宅兼賃貸建物建設が計画されたため、本発掘調査を行った。調査期間は平成 29 年 11 月 27 日～12 月 1 日である。調査面積は約 144m²である。今回の調査箇所の東側では、浜松環状線道路改良工事に伴う発掘調査（5 次調査）が行われており、古代の掘立柱建物と溝、中世の溝などが検出されている。

(2) 調査の詳細

土層堆積状況 調査区における土層堆積状況は、5 次調査の基本土層（1 層～7 層）に対応させると以下の通りである。1 層 = I 層：暗褐色土（表土）、2 層 = II 層：暗灰黄色粘質土、3 層 = III - 1 層：褐色砂質土、III - 2 層：黄褐色粘質土、4 層 = IV - 1 層：にぶい黄褐色粘質土、IV - 2 層：灰黃褐色粘質土、5 層 = IV - 3 層：黒褐色粘質土、6 層 = V - 1 層：灰色粘土層（遺物包含層：古代）、V - 2 層：黒褐色粘質土、7 層 = VI 層：灰色細砂（基盤層）、VII 層：灰色粗砂（基盤層）。5 次調査の結果を考慮して、遺構検出は上面（第 1 面）と下面（第 2 面）の 2 面で実施した。遺構検出面は III - 1 層上面（第 1 面：中世・近世）と、V - 2 層上面（第 2 面：古代）である。また、土層断面を確認すると、III - 2 層や V - 1 層の上面から掘りこむ遺構もみられた。なお、中世の遺物包含層は、近世以降の掘削により失われており、遺構検出面の上に II 層（近世以降）が堆積している。



第18図 笠井若林遺跡14次調査及び過去の調査位置

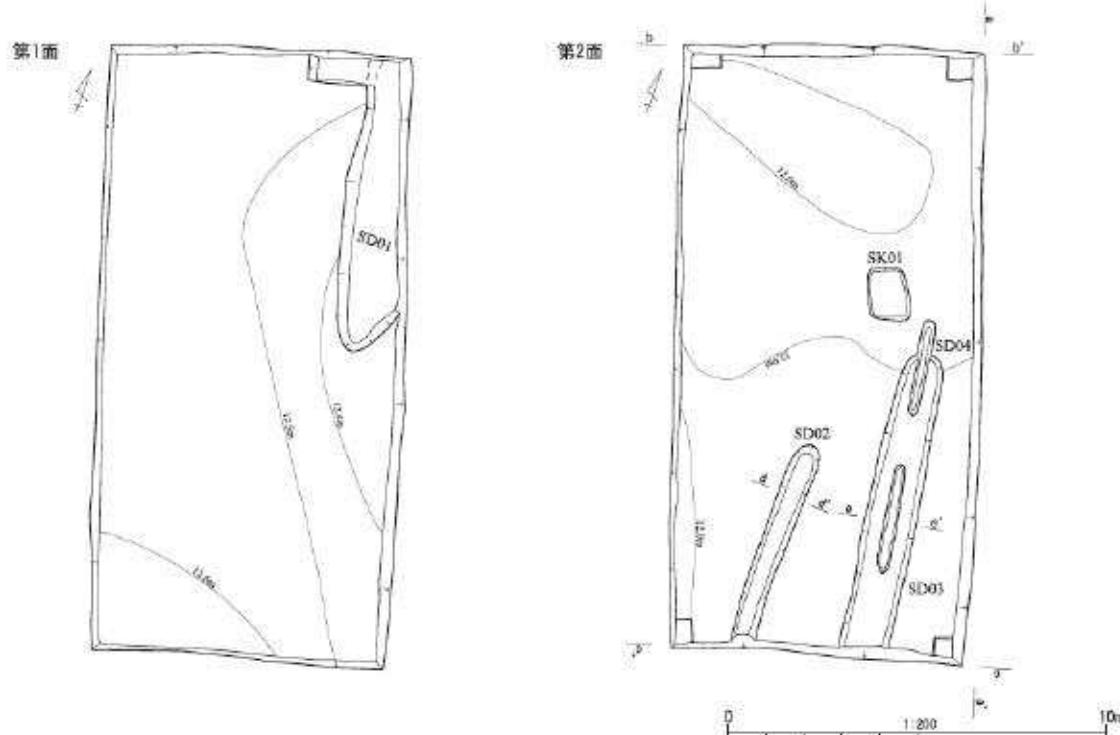
第1面 第1面では、溝（SD01）を確認した。SD01の埋土から13世紀の渥美産の甕類の破片が出土した。また、SD01埋土の上位層からは、近世以降の陶器が出土しており、近世以降にも継続して使用されていたとみられる。東側の土層断面を見ると、溝は中世に掘削された後、近世以降に掘り直されたとみられる。

第2面 第2面では、溝3条（SD02～SD04）と土坑1基（SK01）を検出した。SD02は、V-1またはV-2層上面から掘削した溝とほぼ同じ位置において新たな溝を掘削している。SD02埋土のV-2層以下からは8世紀の須恵器や10世紀の灰釉陶器が出土している。古代に掘削された溝を中世または近世に掘り直しているとみられる。SD03は、土層断面を観察したところ、III-1層上面から掘りこんでいることがわかった。SD03の埋土とIII-1層の判別が困難であったため、第1面での検出はできなかった。SD03内からは、近世の遺物が出土した。SD04は、SD03内で検出された溝である。SD04からは遺物は出土しなかったので年代の特定はできないが、SD03の川底溝もしくはSD03に先立って掘削された溝と考えられる。SK01は方形の土坑で、出土遺物がないため年代などは不明である。また、V-1層（遺物包含層：古代）からは8世紀後半～10世紀を中心とした土師器、須恵器、灰釉陶器が出土した。

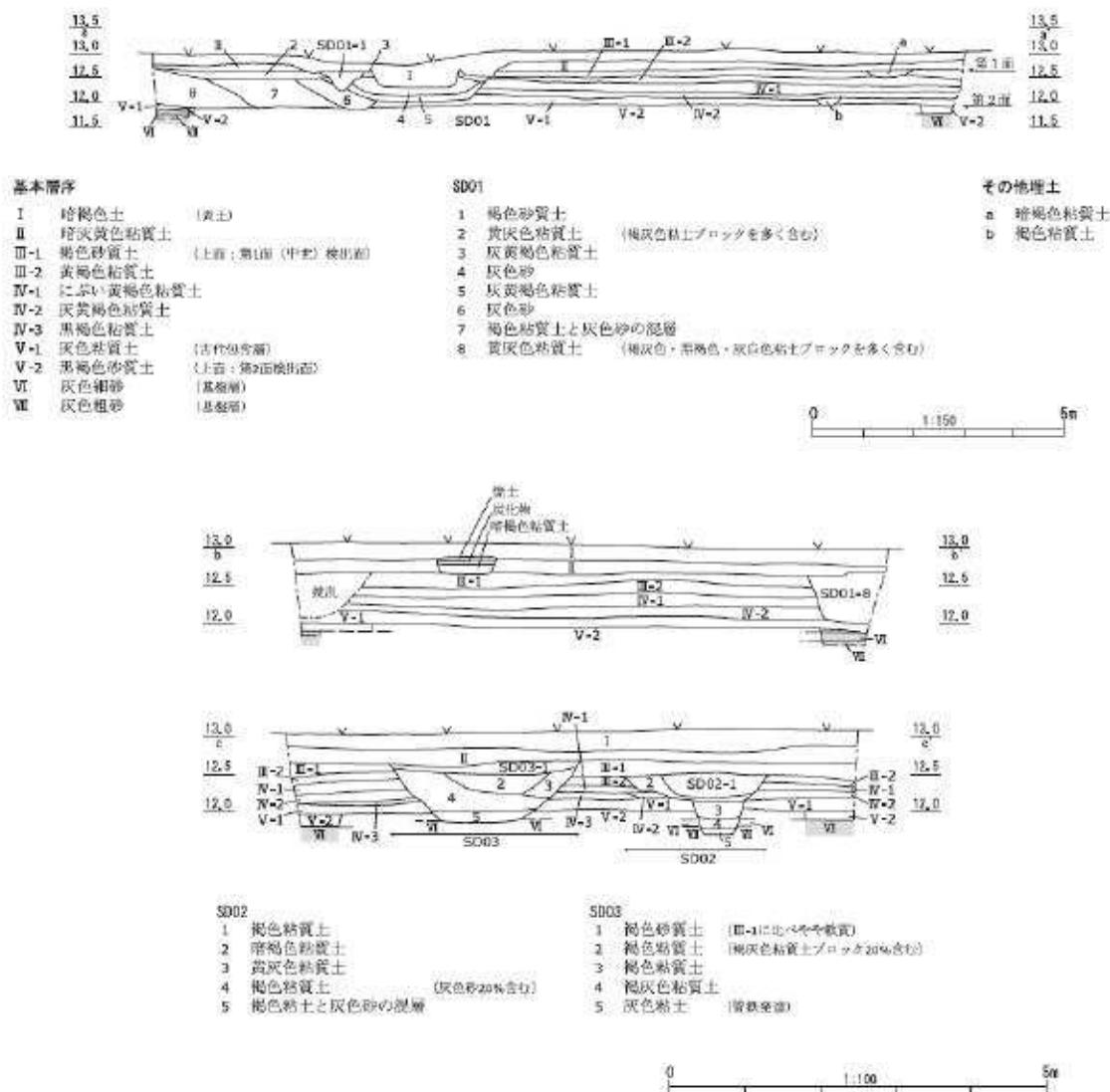
遺物 V-1層（遺物包含層：古代）からは1、2が出土した。1は須恵器の蓋で、口径は約13cmである。2は灰釉陶器の底部で、底径は約7.7cm、貼付け高台である。また、サブトレンチの最下層からは3、4が出土した。3は陶器で内面に赤彩が施されている。口縁の直径は約13cmである。4は土師器の坏身の底部である。高台は貼付け高台である。

(3) 結語

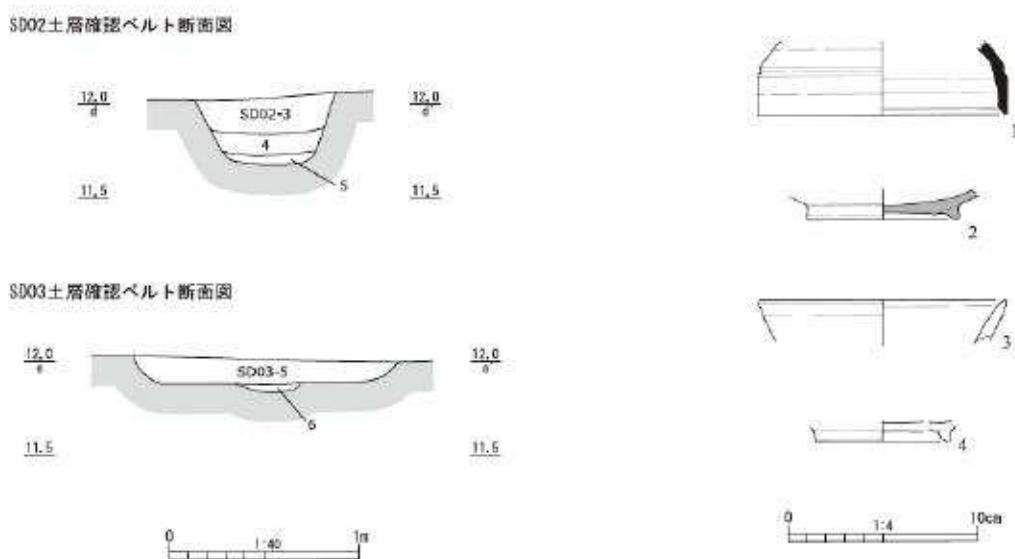
今回の調査箇所では、中世（第1面）と古代（第2面）の2面で遺構、遺物を確認できた。5次調査箇所の西側にも遺跡が広がっていることがわかった。検出した遺構は古代から中世、近世にかけて複数回掘り直されており、当該地は長い間使用され続けていた場所と捉えられる。（山中美歩）



第19図 蓼井若林遺跡14次調査調査区第1面及び第2面平面図



第20図 笠井若林遺跡14次調査土層断面図



第21図 土層確認ベルト断面図

第22図 14次調査出土遺物実測図

5 中屋遺跡 12・13次調査報告

(1) 遺跡の概要

遺跡の位置 浜松市浜北区根堅に所在する中屋遺跡は、天竜川が形成した低平かつ幅の広い低位河岸段丘（浜北面）上に立地している。遺跡の北側の丘陵には後期群集墳が多数分布しているほか、中世墓群も確認されている。また、丘陵の南麓部には当遺跡をはじめ、縄文時代から近世までの遺跡が密に分布しており、当遺跡の北側には、浜名湖北岸と北遠方面とをつなぐ秋葉街道の道筋が残されている。

遺跡の概要 当遺跡では、これまでに新東名高速道路建設に伴う1～7次調査（静埋研 2010）や、範囲確認のための8次調査（浜北市教委 2003）、道路改修に伴う工事立会（浜松市 2014）などの調査が実施されており、東西の長さ約160m、南北の長さ約200mにおよぶ大型の方形区画溝の存在が明らかとなっている。

この区画溝は断面が逆台形を呈し直線的に延びるなど規格性が高く、土壙を伴っている。検出面における幅が3.5m前後、深さが1.4～2.0mを測る。出土遺物の年代から12世紀後半～13世紀代にかけて機能した後に廃絶したと考えられているが、溝の位置や向きは、現在の地割にも反映されている。なお、溝のほぼ全域から少量ながらも瓦が出土していることなどから、中世初頭の寺院に伴う遺構と考えられている。近傍に所在する真言宗の古刹岩水寺との関連も想起されるが、区画溝の内部には調査の手があまり及んでいないことから、その詳細は不明である。

また、方形区画溝の東側で検出された旧河道の護岸施設からは、全国初の出土例である鎌倉時代の木製蝶鉤軸がほぼ完全な形で検出され、その下部からは5枚の呪符木簡やヤダケの束が出土している。13世紀半ば頃の護岸施設の整備に伴い埋納されたとみられており、有力者による水辺の祭祀行為として注目される。



第23図 中屋遺跡における調査の状況

(2) 調査の経緯

12次調査 2014年

12月9日、土地所有者より、畑で大根を育てるための溝を掘削していたところ土器が出土したとの連絡が寄せられた。職員が現地にかけつけたところ、長さ1.3m、幅0.3m、深さ0.7mにわたって溝が掘削されており、すでに多数のかわらけの破片が出土していた。位置は8次調査第2トレンチのすぐ西側である。溝を観察すると、壁面に遺構が確認され多数の

遺物が露頭していたため緊急的に調査を行うこととし、溝の壁面・床面の精査、測量、写真撮影、遺物の取り上げを行った。調査面積は0.39m²である。

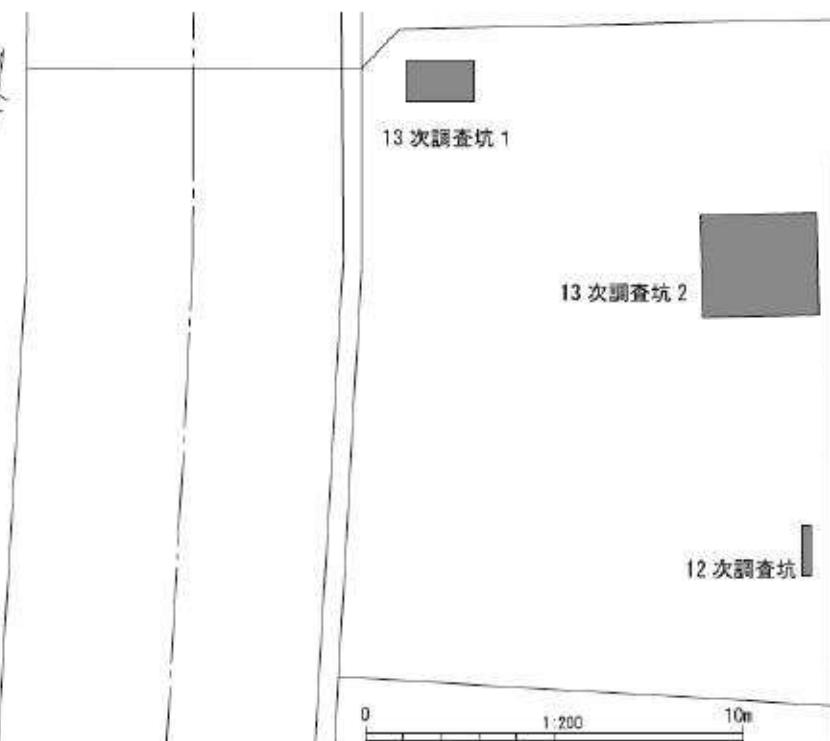
溝の壁面では土坑を2基確認したが、いずれも耕作溝の外側まで及んでいたため完掘することはできなかった。当面はそれ以上の掘削は行わないとの土地所有者の意向であったため、遺構も平面的な検出に留めて一旦調査は終了した。その後は、遺構・遺構が発見された際の連絡を土地所有者に依頼して調査の再開を視野に入れていたが、2017年に当該地が住宅地として開発されることになったため、12次調査は完了とした。整理作業は、洗浄・注記・接合までを2014～2016年度の間で断続的に実施し、遺物実測・復元・写真撮影を2018年度に実施した。

13次調査 12次調査を実施した土地で計画された住宅建設に伴う開発協議の中で、12次調査を実施した箇所は地下に保存される見込みとなったが、遺跡に影響する可能性がある建物建築部分や浄化槽設置部分における確認調査の必要が生じたため、13次調査を実施することとなった。調査は2017年12月6日に行った。調査面積は、浄化槽設置部分で2m×1mの調査坑を1箇所、住宅建築部分で3m×3mの調査坑を1箇所の合計11m²である。整理作業は2017～2018年度で断続的に実施した。

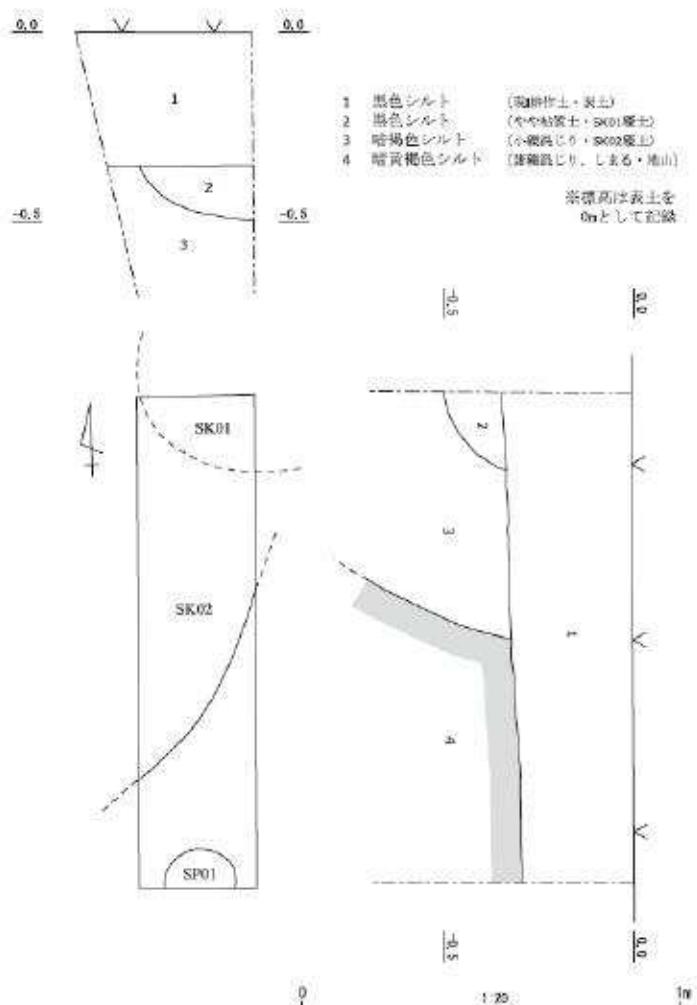
(3) 12次調査の成果

土層堆積状況 耕作土が30～35cmの厚さで堆積し、その下は基盤層（暗黄褐色粘質土）である。遺物包含層は確認できなかった。基盤層を掘り込んでいるSK02の埋土（暗褐色粘質土）と、そのSK02埋土を掘り込む形でSK01の埋土（黒色粘質土）が検出された。

検出遺構 土坑2基、小穴1基を確認した。SK01とSK02は切り合い関係にあり、SK01のはうが新しい。SK01は調査溝の北東角で検出された円形を呈する土坑である。3/4が調査区外にあるとみられ、推定規模は直径60cmである。埋土に大量のかわらけの破片が含まれている。



第24図 12・13次調査区配置図



第25図 中屋遺跡12次調査調査区平面図及び土層断面図



第26図 調査区遠景(南から)



第28図 調査溝全景(南から)



第27図 12次調査の出土遺物

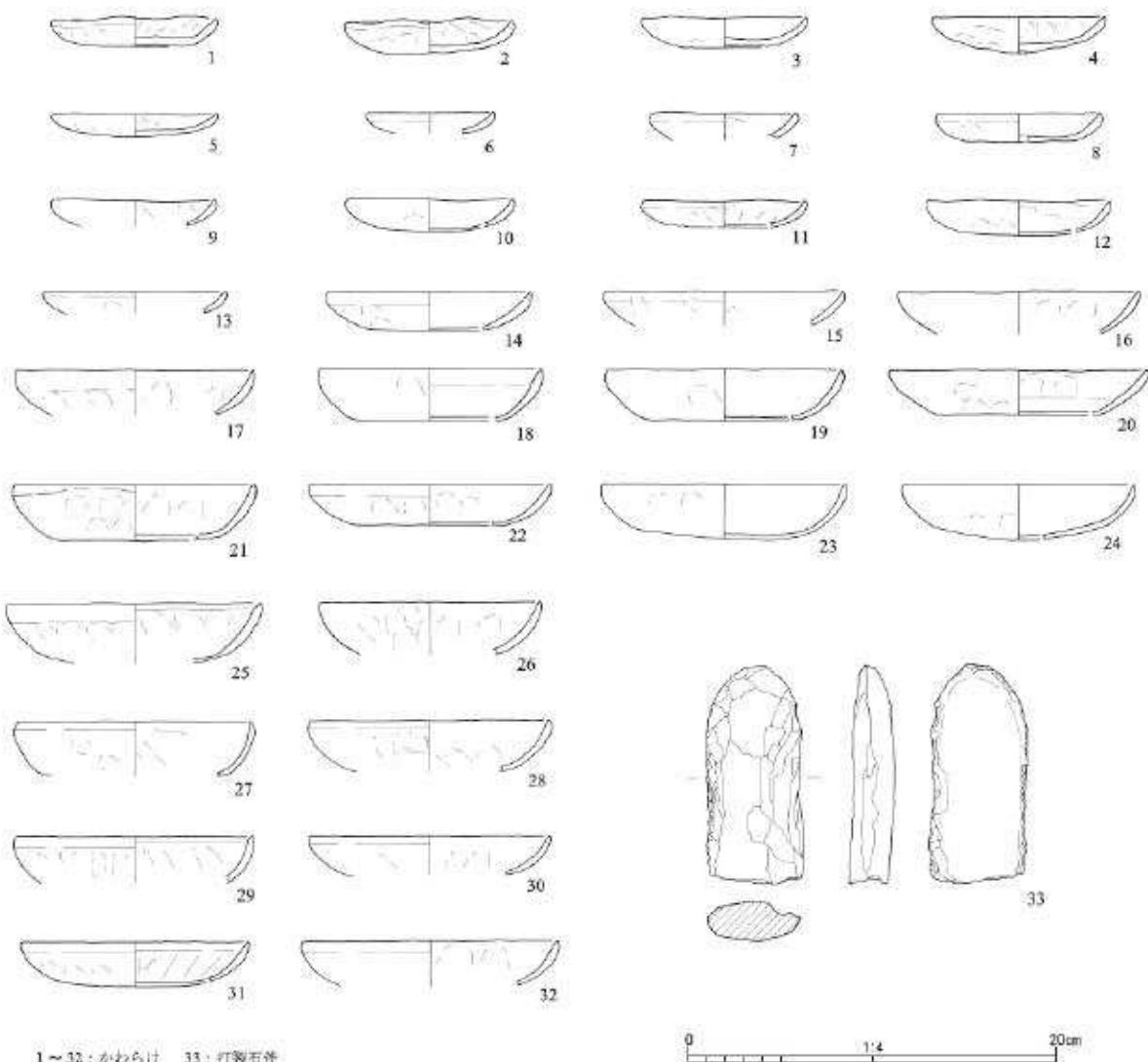
SK02は土坑としたが、大型の遺構で大半が調査区外であるため、溝や井戸などになる可能性もある。確認できる部分だけでも1m以上の幅を有し、深さも基盤層上面から50cm以上を測る。大型の遺構であるが遺物は確認されなかった。

SP01は調査溝の南端で確認された直径20cmの小穴である。

平面検出に留めているが、基盤層上面から40cm下で検出されており深さのある小穴である。遺物は確認されていない。

出土遺物 第29図1~32がかわらけ、33が打製石斧である。かわらけのうち図示できたのは一部である。かわらけは、調査時にすでに取り上げられていたものが含まれるが、土地所有者への聞き取りによれば、溝の北端の狭い範囲からまとまって出土したとのことであり、全てSK01からの出土と判断される。図化できなかったものも

含めて全てが非ロクロ成形であり、ロクロ成形のものは存在しない。口径は6.8~13.8cmで、おおむね小型品と中型品に分けられる。総じて浅黄橙色を呈しており、色調や焼成、胎土は共通している。ほかに共伴遺物が存在しないため、厳密に時期を特定することは難



第29図 中屋遺跡12次調査出土遺物実測図

しいが、12世紀後半～13世紀代にかけてのものと考えられる。

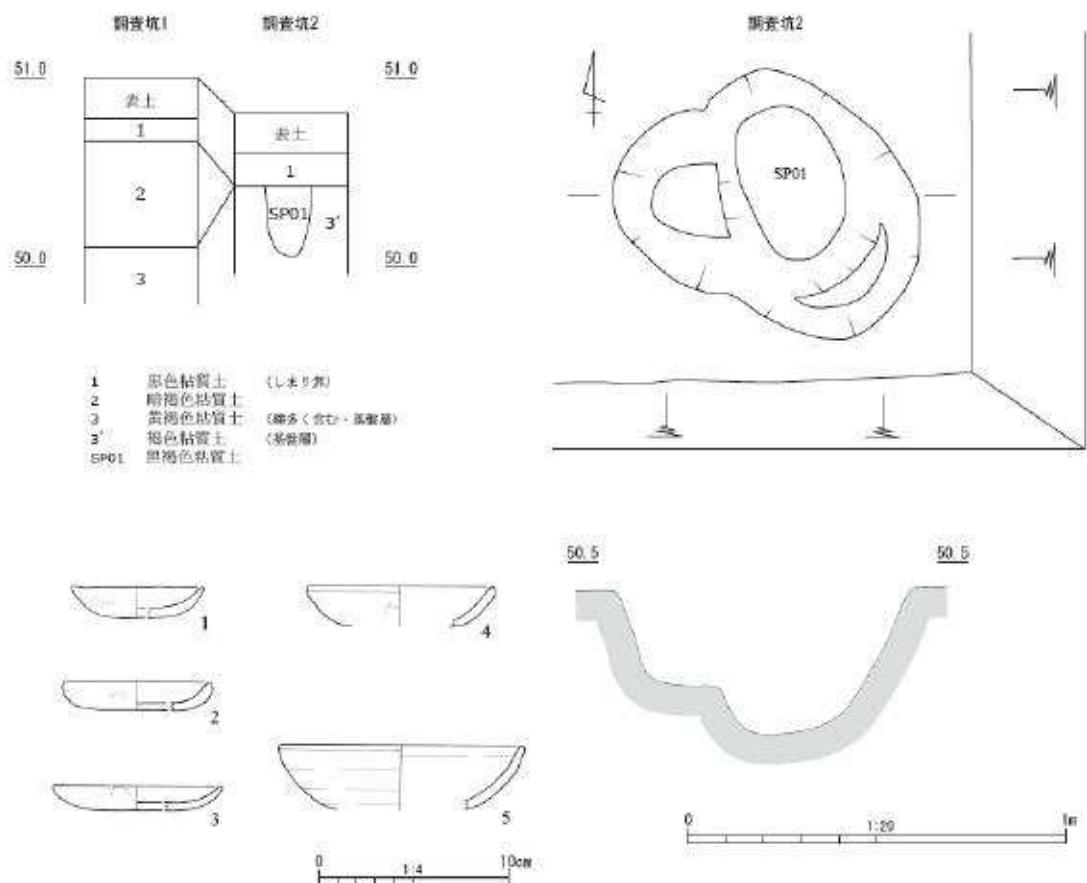
打製石斧は、土地所有者が柵で表面採集したものの提供を受けたものである。緑色片岩製で長さ11.8cmを測る。

(4) 13次調査の成果

土層堆積状況 調査対象地北西隅の調査坑1については、表土の下に暗褐色粘質土が60cm堆積していたが、遺構・遺物は確認されなかった。一方で、調査対象地の東側に設定した調査坑2では、表土直下で基盤層である褐色粘質土が確認され、小穴を1基検出した。

検出遺構 SP01は南北35cm、東西40cmの不整形な小穴で、基盤層から38cm掘り込まれている。埋土からはかわらけの破片が多数と山茶碗の小片1点が出土した。

出土遺物 第30図1～5はSP01から出土したかわらけである。図示できなかった小片も含め、いずれも非ロクロ成形によるものである。なお、図示できなかったが、他に山茶碗の小片も出土しており、これらの遺物の年代は12世紀後半～13世紀代頃と考えられる。



第30図 中屋遺跡13次調査測量図および遺物実測図



第31図 調査坑2全景(北東から)



第32図 SP01(東から)



第33図 SK01出土遺物



第34図 中屋遺跡12・13次調査主要出土遺物

第1表 中屋遺跡12・13次調査 出土遺物観察表

図 遺物 No.	調査 次数	遺構	種別	細別	残存率 (%)	反転	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
29 1	12	SK01	土師器	かわらけ	80		8.7	1.6	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 2	12	SK01	土師器	かわらけ	80		8.8	1.7	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 3	12	SK01	土師器	かわらけ	30	反	8.8	1.6	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 4	12	SK01	土師器	かわらけ	30	反	8.8	1.9	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 5	12	SK01	土師器	かわらけ	60		8.8	1.2	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 6	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	9.4		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 7	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	7.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 8	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	8.2	1.6	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 9	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	8.7		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 10	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	9.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 11	12	SK01	土師器	かわらけ	40	反	8.6		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 12	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	10.0	1.9	密	良	に赤い黄褐色	非ロクロ成形
29 13	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	9.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 14	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	12.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 15	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	12.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 16	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	13.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 17	12	SK01	土師器	かわらけ	20	反	12.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 18	12	SK01	土師器	かわらけ	20	反	12.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 19	12	SK01	土師器	かわらけ	20	反	12.6		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 20	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	14.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 21	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	13.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 22	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	13.0	2.2	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 23	12	SK01	土師器	かわらけ	90		13.2	3.0	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 24	12	SK01	土師器	かわらけ	40	反	12.4		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 25	12	SK01	土師器	かわらけ	30	反	13.6		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 26	12	SK01	土師器	かわらけ	30	反	11.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 27	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	12.6		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 28	12	SK01	土師器	かわらけ	30	反	12.9		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 29	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	12.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 30	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	13.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 31	12	SK01	土師器	かわらけ	10	反	12.4		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 32	12	SK01	土師器	かわらけ	30	反	13.8		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
29 33	12	表面屏風 石器	打製石斧				長11.8 幅5.3 厚2.2 重230g				緑色片岩質	
30 1	13	SP01	土師器	かわらけ	50	反	7.0	1.7	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
30 2	13	SP01	土師器	かわらけ	40	反	8.0	1.5	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
30 3	13	SP01	土師器	かわらけ	20	反	9.0	1.3	密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
30 4	13	SP01	土師器	かわらけ	20	反	10.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形
30 5	13	SP01	土師器	かわらけ	20	反	13.0		密	良	浅黄橙色	非ロクロ成形

(5) 結語

今回の2次にわたる調査では、鎌倉時代前半頃のかわらけを多数出土する2基の遺構を近接した位置で確認することができた。いずれの遺構もかわらけのみが濃密に充填されたような状態で出土しており、一括廃棄されたものと考えられる。また、いずれも非ロクロ成形によるかわらけであり、ロクロ成形がみられないことも特筆される。器形に齊一性はみられないものの、色調や焼成、胎土が同様であることから、同じ場所で製作された可能性をうかがうことができる。

平安時代末から鎌倉時代にかけては、かわらけが一括廃棄される事例が全国的にみられる。その要因としては、かわらけが非日常的空間である儀礼・饗宴の場における使い捨ての器であったとする見方が有力である。今回の調査成果は、溝に囲まれた方形区画の内側でそうした儀礼・饗宴が催されていた可能性を示すものである。未だ遺跡の全容は明らかではないが、こうした調査の積み重ねによって、次第に当遺跡の様相が解明されていくものと期待される。(鈴木京太郎)

参考文献

- 浜北市教育委員会 2002『中屋遺跡 範囲確認調査報告書』
 中日本高速道路(株)東京支社・(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010『中屋遺跡 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 浜松市-2』静岡県埋蔵文化財調査報告第234集
 浜松市教育委員会 2014『平成24年度 浜松市文化財調査報告』

6 萩本遺跡踏査報告

(1) 遺跡の概要と踏査の経緯

遺跡の位置と概要 萩本遺跡は、奥浜名湖を南に臨む小森川と呉石川に挟まれた舌状の段丘上に立地する。本遺跡が立地する舌状丘陵の先端部には、駿河姫（井伊氏の娘で宗良親王の妃と伝わる）を祀る二宮神社が鎮座し、遺跡の範囲内には浜名湖北岸を通る本坂通（姫街道）が東西に横断している。また、周辺の丘陵には後期群集墳が点在している。

当遺跡では、過去に打製石斧が表面採集されている（細江町 1986）ことから、縄文時代の遺跡として認識されてきた。しかし、段丘の南西部は昭和初期の国鉄二俣線（現天竜浜名湖鉄道）敷設工事用の土取りにより大きく削土されていたほか、残された段丘中央～東部も早くから宅地化や畠地化が進行していたため、遺跡の詳細は長らく不明であった。

そうした中で 2011 年 7 月に行われた確認調査（1 次調査）では、表土直下より土坑や小穴等の遺構が確認され、奈良時代の須恵器・土師器が出土した。また、同時に行われた周辺の踏査でも、奈良時代の須恵器・土師器や、平安時代の灰釉陶器が確認され、比較的規模の大きな集落が段丘上に展開していた可能性が指摘されるようになった。

踏査の経緯 2015 年 5 月 15 日、土地所有者より、手作業で自宅敷地西側の斜面を養生している最中に土器が大量に出土したとの連絡が浜松市文化財課に寄せられた。そこで、職員が現場にかけつけ現地を確認したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲のわずかに外側であったものの、遺物包含層と遺物が露頭していたため、土層の堆積状況を記録して出土遺物を採取した。

その後、当面の期間は養生作業の推移を注視したものの、新たな地盤の掘削や遺物の出土はみられなかったため、現地の踏査を完了して 2017 年度に出土遺物の整理作業を実施した。



第35図 萩本遺跡の位置と周辺の遺跡分布状況



第36図 萩本遺跡踏査位置図

(2) 踏査の成果

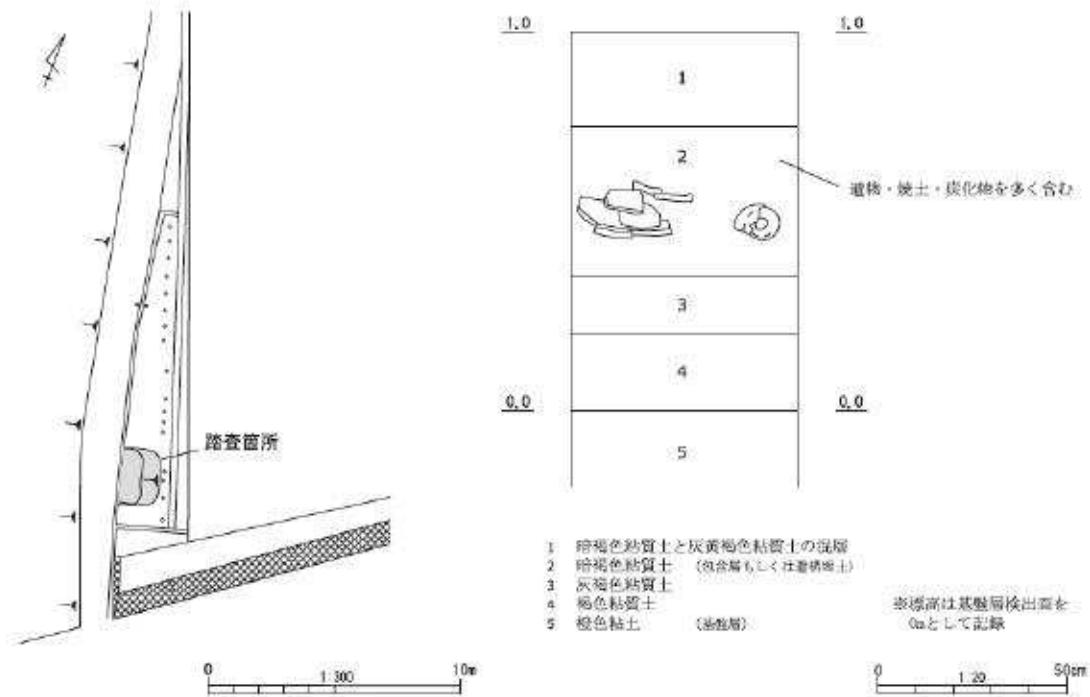
土層堆積状況 養生作業すでに掘削されていた部分において土層の堆積状況を確認したところ、上層から順に、暗褐色粘質土と灰黃褐色粘質土の混層（表土）、遺物を大量に包含する暗褐色粘質土、灰褐色粘質土、褐色粘質土、橙色粘質土（基盤層）を確認した。現地表面から基盤層までの深さは約1mを測る。遺物包含層である暗褐色粘質土は40cmの厚さで堆積しており、焼土や炭化物が多く混じる。遺物の出土量が多いことや、個々の遺物の残存状況が良好で細片化していないことから、大きめの遺構の埋土である可能性も考えられる。一方、暗褐色粘質土の下層に堆積する灰褐色粘質土、褐色粘質土からは遺物は確認されなかった。古代以前の旧表土層とみられるが、当遺跡では過去に打製石斧を出土していることから、縄文時代の遺物を包含している可能性もある。

出土遺物 実測図を第38図に、主要なものの写真を第43～46図に示した。1～7は須恵器である。1～3は踏査時にすでに出土していたもの、4～7は踏査時に遺物包含層中から出土したものである。1～3は壺身、4・5・7は高壺、6は小型の短頸壺である。8～17は土師器である。9・12・15・17は踏査時に遺物包含層中から出土したもの、それ以外はすでに出土していたものである。8～10は小型碗、11・12は高壺、13は長頸壺、14～17は甕である。18～19は灰釉陶器である。18は遺物包含層からの出土で、口径が小さく立ち上がる。19はすでに出土していたもので、碗の底部である。20はすでに出土していた近世以降の壺類の底部で、削り出しの高台がつく。須恵器・土師器はやや年代に幅があるが7世紀後葉～8世紀代に位置づけられる。

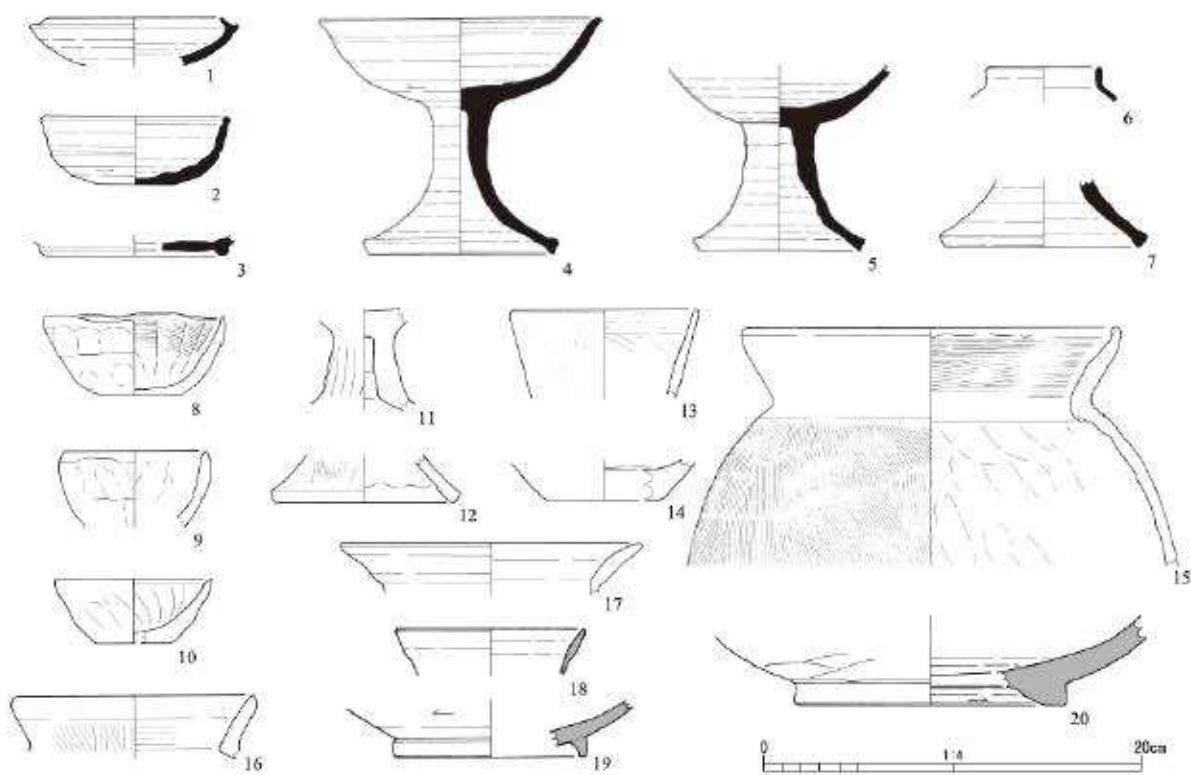
(3) 結語

今回の踏査では、かつて削土された法面に遺物包含層の露頭が確認された。削土された段丘の南西部にもかつては古代の遺跡が広がっていたことは確実であり、遺物の出土量からも地域の中心的な集落が展開していたことがうかがえる。今後は地形の残されている段丘面において、遺跡の慎重な取り扱いが望まれる。

（鈴木京太郎）



第37図 萩本遺跡踏査箇所平面図及び土層柱状図



第38図 萩本遺跡踏査出土遺物実測図

参考文献

細江町 1986 『細江町史』 資料編 6

浜松市教育委員会 2013 『平成23年度 浜松市文化財調査報告』



第39図 踏査箇所遠景(南から)



第40図 踏査箇所遠景(北から)



第41図 踏査箇所全景(南西から)



第42図 須恵器高坏出土状況(北西から)



第43図 萩本遺跡踏査須恵器坏身



第44図 萩本遺跡踏査土師器小型碗



第45図 萩本遺跡踏査須恵器高坏



第46図 萩本遺跡踏査土師器口縁部

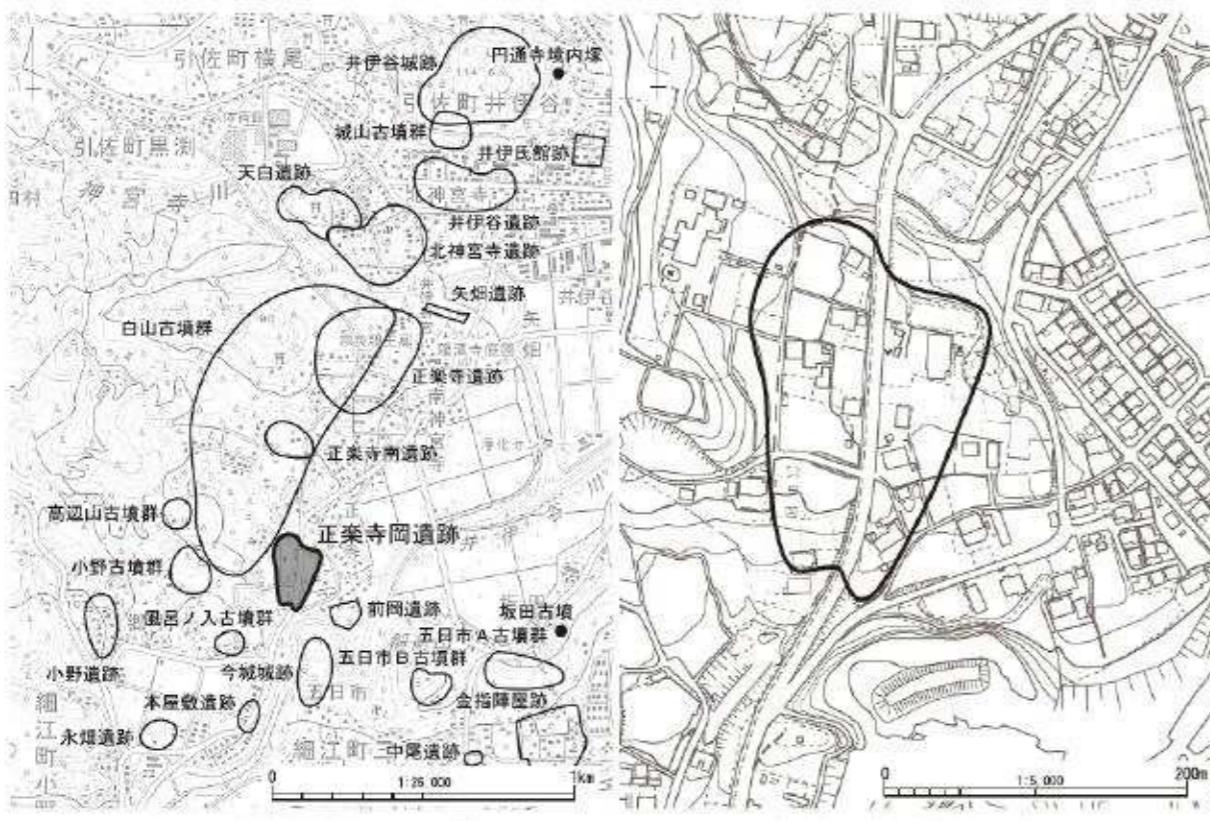
7 正樂寺岡遺跡分布調査報告

(1) 遺跡の概要と踏査の経緯

遺跡の立地と概要 正樂寺岡遺跡は、静岡県浜松市北区引佐町井伊谷と北区細江町小野の境界部にある低い尾根上に所在する。井伊谷川水系によって形成された井伊谷盆地を北東に臨む立地である。正樂寺岡遺跡は、石器や縄文土器が散布し、周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてきた。正樂寺岡遺跡の北には正樂寺遺跡（縄文時代）や北神宮寺遺跡（旧石器時代～近世）などの遺跡がある。遺跡の北西に位置する白山（標高 96.7m）の山腹には、浜松市の史跡に指定されている 6 世紀末～7 世紀前半頃の横穴式石室を内蔵した円墳、白山 1 号墳がある。かつては、周囲に数多くの古墳が存在し、後期群集墳が展開していたことが知られる（引佐町教委 1988）。正樂寺岡遺跡の東側にある低位段丘面に造営された前岡遺跡では、古代の集落が検出されている（静埋研 2005）。

また、正樂寺岡遺跡の南には都田川が形成した都田川水系最大の平野、中川平野がある。正樂寺岡遺跡の東側を流れ中川平野へと注いだ井伊谷川は、正樂寺岡遺跡から南へ 1.7km ほどの地点で都田川と合流する。この合流点付近には引佐郡家が所在したと推定されており、井通遺跡では発掘調査成果から引佐郡津の存在が指摘されている（静埋研 2007）。正樂寺岡遺跡の所在地は、引佐郡家と井伊谷盆地をつなぐ陸上交通や水上交通の要所にある点が特筆できる。

調査経緯 正樂寺岡遺跡では、発掘調査が行われたことはないが、石器や縄文土器が採集され、古くから縄文時代の遺跡が展開していることが知られていた。2016 年 11 月、正樂寺岡遺跡南側の道路脇において須恵器や土師器の破片が数多く散布している状況が確認されたため、周知の埋蔵文化財包蔵地「正樂寺岡遺跡」の範囲をより正確に把握することを目的として、地表面に散布した遺物の分布状況に関わる調査（分布調査）を実施した。



第48図 正樂寺岡遺跡の範囲



第36図 調査位置図

(2) 踏査の成果

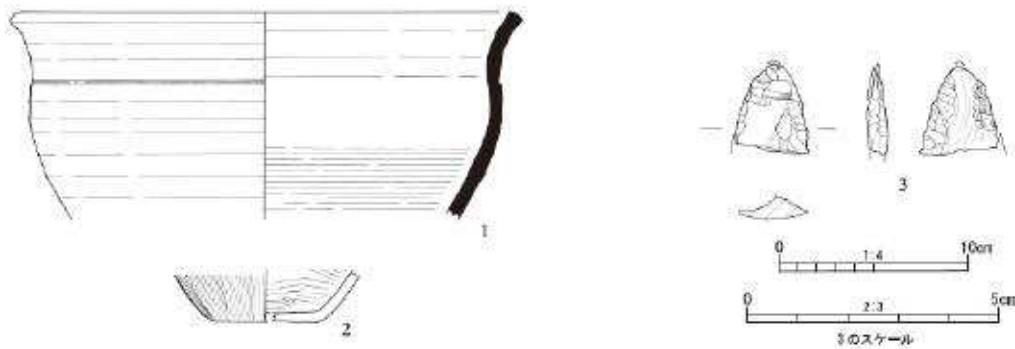
土層堆積状況 養生作業すでに掘削されていた部分において土層の堆積状況を確認したところ、上層から順に、暗褐色粘質土と灰黃褐色粘質土の混層（表土）、遺物を大量に包含する暗褐色粘質土、灰褐色粘質土、褐色粘質土、橙色粘質土（基盤層）を確認した。現地表面から基盤層までの深さは約 1 m を測る。遺物包含層である暗褐色粘質土は 40cm の厚さで堆積しており、焼土や炭化物が多く混じる。遺物の出土量が多いことや、個々の遺物の残存状況が良好で細片化していないことから、大きめの遺構の埋土である可能性も考えられる。一方、暗褐色粘質土の下層に堆積する灰褐色粘質土、褐色粘質土からは遺物は確認されなかった。古代以前の旧表土層とみられるが、当遺跡では過去に打製石斧を出土していることから、縄文時代の遺物を包含している可能性もある。

出土遺物 実測図を第 38 図に、主要なものの写真を第 43 ～ 46 図に示した。1 ～ 7 は須恵器である。1 ～ 3 は踏査時にすでに出土していたもの、4 ～ 7 は踏査時に遺物包含層中から出土したものである。1 ～ 3 は壺身、4・5・7 は高壺、6 は小型の短頸壺である。8 ～ 17 は土師器である。9・12・15・17 は踏査時に遺物包含層中から出土したもの、それ以外はすでに出土していたものである。8 ～ 10 は小型碗、11・12 は高壺、13 は長頸壺、14 ～ 17 は甕である。18 ～ 19 は灰釉陶器である。18 は遺物包含層からの出土で、口径が小さく立ち上がる。19 はすでに出土していたもので、碗の底部である。20 はすでに出土していた近世以降の壺類の底部で、削り出しの高台がつく。須恵器・土師器はやや年代に幅があるが 7 世紀後葉～8 世紀代に位置づけられる。

(3) 結語

今回の踏査では、かつて削土された法面に遺物包含層の露頭が確認された。削土された段丘の南西部にもかつては古代の遺跡が広がっていたことは確実であり、遺物の出土量からも地域の中心的な集落が展開していたことがうかがえる。今後は地形の残されている段丘面において、遺跡の慎重な取り扱いが望まれる。

（鈴木京太郎）



第49図 採集遺物実測図

(2) 調査の詳細

採集遺物 分布調査の結果、17点の遺物を表面採集した。多くの採集遺物は細片であり、図化できないものが多かったが、図化可能な採集遺物3点を図示した。1は須恵器の鉢類で、口径は約26.0cmに復元できる。外面には一条の沈線がみられる。内面下半には横方向へのカキメ状のハケメがみられる。やや砂質の胎土で、焼成具合は良好で弱い還元傾向（灰白色）に焼きあがっている。7～8世紀代に湖西窯で生産されたものと捉えられる。2は土師器壺の底部で、底径は5.6cmである。外面にはススの付着が認められる。8世紀を中心とした時期のものと捉えられる。1・2は残存状態が良く、表面採集の直前まで遺構内に埋没していた可能性が高い。3は、黒曜石製の石鏃である。基部が欠損しているが残存長1.8cm、残存幅1.5cm、重さ0.8gである。このほか、小片であり図化できなかったが、7世紀末から8世紀初頭のものと捉えられる須恵器返り蓋も採集した。

(3) 結語

遺物の分布調査や周辺地形調査によって、正楽寺岡遺跡は、井伊谷川の河岸段丘上に存在する縄文時代と古代を中心とした時期の複合遺跡であることが判明した。井伊谷盆地には北神宮寺遺跡や正楽寺遺跡など数多くの縄文時代の遺跡が展開し、正楽寺岡遺跡も縄文時代の遺跡のひとつであることが追認できた。いっぽう、古墳時代終末期から古代にかけての遺跡が展開することは、今回の分布調査によって初めて確認できた。正楽寺岡遺跡の西側に位置する白山1号墳をはじめ数多くの終末期古墳が築造されている。古墳時代中期初頭に、首長系譜に連なる古墳の築造が途絶えた後、井伊谷盆地の再開発が行われた時期と一致する。正楽寺岡遺跡は、井伊谷盆地から流れ出る唯一の河川である井伊谷川が中川平野へと流れ出す場所に位置し、中川平野と井伊谷盆地をつなぐ南北交通の要衝に造営された遺跡として注目できる。
(和田達也)

参考・引用文献

- 引佐町教育委員会 1988『引佐町の古墳文化IV』
- (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2005『前岡遺跡・今城』
- (財) 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007『井通遺跡』
- (財) 浜松市文化振興財団 2009『北神宮寺遺跡』
- (財) 浜松市文化振興財団 2009『正楽寺遺跡』

8 宿蘆寺大澤家墓所2次調査報告

(1) 遺跡の概要と踏査の経緯

遺跡の立地と概要 宿蘆寺大澤家墓所は、浜松市西区庄内町にある旗本の墓所である。大澤家は江戸時代に遠江国堀江とその周辺3500石を領し、歴代当主は江戸幕府において高家を務めた。その墓は江戸の菩提寺とともに、領地にある宿蘆寺の境内にも造営されている。

宿蘆寺にある墓所には大澤家の当主とその嫡子にかかる石塔11基が造営されており、高祿旗本の墓所にふさわしい風格を伝えている。大澤家墓所は宿蘆寺本堂の南西の丘陵上に造営されている。墓所には長軸11m、短軸8.5mほどの小石を並べた区画がみられ、その中に宝篋印塔3基、五輪塔8基の合計11基の石塔が造立されている。また、墓域内には初代大澤基宿に関連するとみられる石塔の部材もみられる。

墓所は2011年に墓域区画にかかる発掘調査、石塔の実測調査、宿蘆寺に伝わる位牌調査などを経て（1次調査とする。浜松市教育委員会2012『平成22年度浜松市埋蔵文化財調査概要』）、2012年に浜松市史跡に指定された。

調査経緯 2015年、浜松市を襲った大雨の影響で、4代当主、大澤基恒の墓石が倒壊した。この墓石は粗製の安山岩を用いたもので、2011年の調査時においても今後の保存が懸念されていた。墓石は基壇とその下部の土台が雨水の流出によって脆弱となり、過重に耐えられなくなって倒壊したものである。この墓石については、基壇を新材に置き換え、土台の補強、脆弱な石材の強化薬剤の含浸など経て、2017年5月から7月にかけて修復工事を行った。土砂の流出は5代基隆墓、7代定寧墓も顕著であったため、倒壊した4代墓とともに、石材を解体し、土台の補強工事を行い、石材の積み直しを行った。また、この際に混乱がみられた3代墓と4代墓の相輪部分も当初のものと考えられる部材に積み替え直している。以下、この解体修理の際に実施した4、5、7代墓の調査結果（2次調査とする）を報告する。

(2) 調査の詳細

調査の方法と経過 石塔にかかる調査は、2017年5月15日から7月11日かけて、解体修復工事の工程にあわせて随時実施した。3基の石塔からはそれぞれに、埋納品やこれまでの修理にかかる情報が得られた。

4代墓（大澤基恒墓） 粗製安山岩を用いた江戸形式の宝篋印塔である。4代大澤基恒は元禄10年（1697）に没している。この石塔の石材解体中、反花に充填されていたモルタル内において白磁の蔵骨器が確認できた。蔵骨器は現代のものとみられる。遺物は取り上げずに現地において保存している。4代墓は粗製の安山岩を用いており、過去も何度かの倒壊を経験している。前住職からの聞き取りによると、4代墓は昭和東南海地震（1944年）の際にも倒壊したことである。倒壊した石塔はその後、修復され、石材が積み直しされたとみられるが、その際に反花を中心にモルタルで破損部分を修復したと考えられる。蔵骨器の中には何も確認できなかった。

4代大澤基恒は江戸駒込の吉祥寺に葬られたとされており、遺骨や遺灰などが、領地である大澤家墓所に分けられたと証明は得られない。どのような意味をもって現代の蔵骨器が石材の中に埋め込まれたかは不明といわざるを得ない。

5代墓（大澤基隆墓） 安山岩を用いた江戸形式の五輪塔である。5代大澤基隆は享保15年（1730）に没している。この石塔の解体工事中に地輪と反花の間から、寛永通宝4枚が確認できた。5代墓

は、両隣の墓石と接して建てられており、当初の造立位置を保っているとはみなしがたい。宿蘆寺大澤家墓所のうち、初代～5代および7代墓は、19世紀初頭頃に再整備されたものと考えられるので、確認できた銭貨も、この際に入れられたものである可能性が高いであろう。

7代墓（大澤定寧墓） 花崗岩を用い在地形式の五輪塔である。7代大澤定寧は安永5年（1776）に没している。この石塔を解体していたところ、基壇中に半胴甕が埋納されていることが判明した。基壇内には褐色粘土が充填されており、中央部に甕が正位置で設置されていた。甕の開口部には白色系のチャートを蓋石として載せられており、口縁部を封じていた状態が確認できた。甕の内部には褐色系粘質土が3分の1程度まで流入していた。流入度を部分的に掘削したが、遺骨などが入れられていた痕跡は確認できなかった。甕は原位置を保ったまま保存し、再構築した基壇の中に入れ込み、復元した。

出土遺物 4代墓で確認できた蔵骨器（第55図）は最大径6.4cm、高さ5.3cmのもので、蓋と印籠被せにされた身とで構成される。厚さは0.4cmの薄いつくりで、現代のものと考えられる。この製品は破損が著しい反花を修復したモルタルの中に塗り込められており、石材解体中に破損している。モルタルから完全に離反させることが難しいため、現地に保存した反花の旧材の中に残してある。

5代墓から確認できた寛永通宝は合計4枚である。この銭貨（第57図）は、宿蘆寺の承諾のもと、取り上げ、浜松市地域遺産センターで保管している。

7代墓の基壇中において確認できた半胴甕は完形品であり、2017年に確認した原位置から移動せずに復元修復工事において基壇中に再埋納した。以下の所見は、現地での観察結果によるものである。この甕の口径は19.0cm、高さは15.0cm程度である。外反する口縁をもち、比較的広い底部をもつ。赤褐色に焼きあがるものであり、瀬戸美濃産のものと推定できる。製作時期は登窯8～10小期に相当するとみられる。

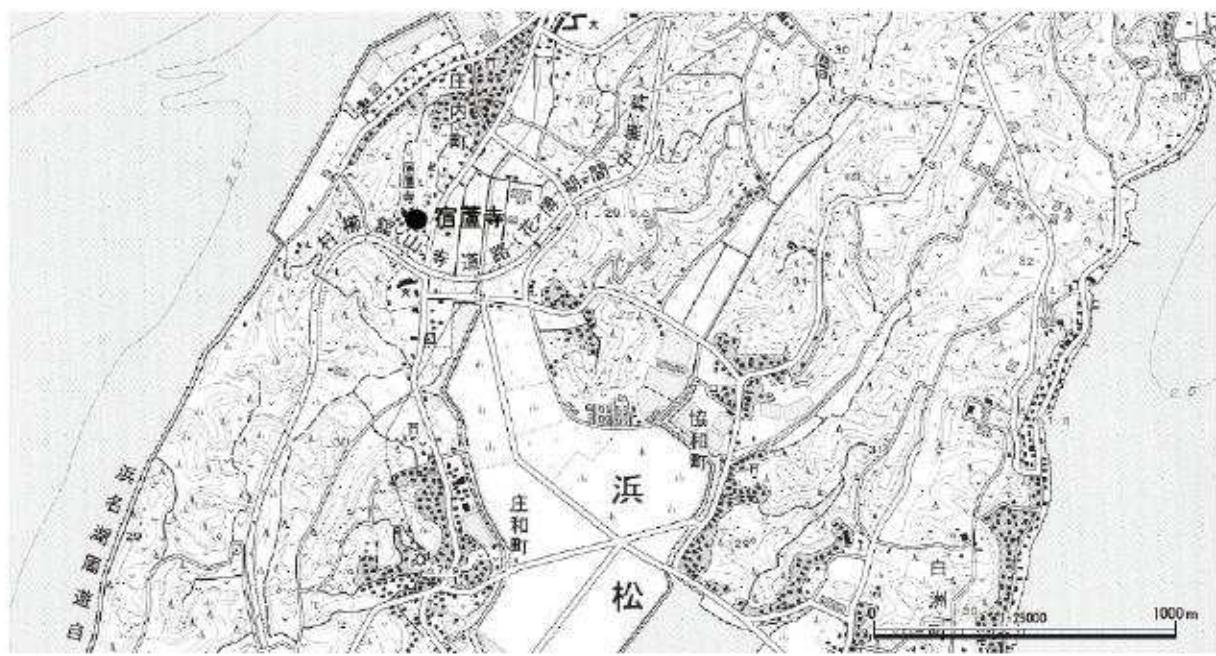
（3）結語

7代墓の基壇で確認した瀬戸美濃産の半胴甕は登窯8～10小期の製品とみられ、その実年代としては、18世紀後葉～19世紀前半に相当する。7代大澤定寧は安永5年（1776）に没している。半胴甕の年代とも整合性があり、7代墓の当初の造営から伴っていた可能性が高いだろう。大澤定寧の葬地は江戸駒込の吉祥寺であり、遺骨や遺灰が分納されたかの確証は得られない。ただし、蓋石をもつ本格的な施設を構築していることから、遺存が困難な遺灰や遺髪などが納められていた可能性が考えられる。

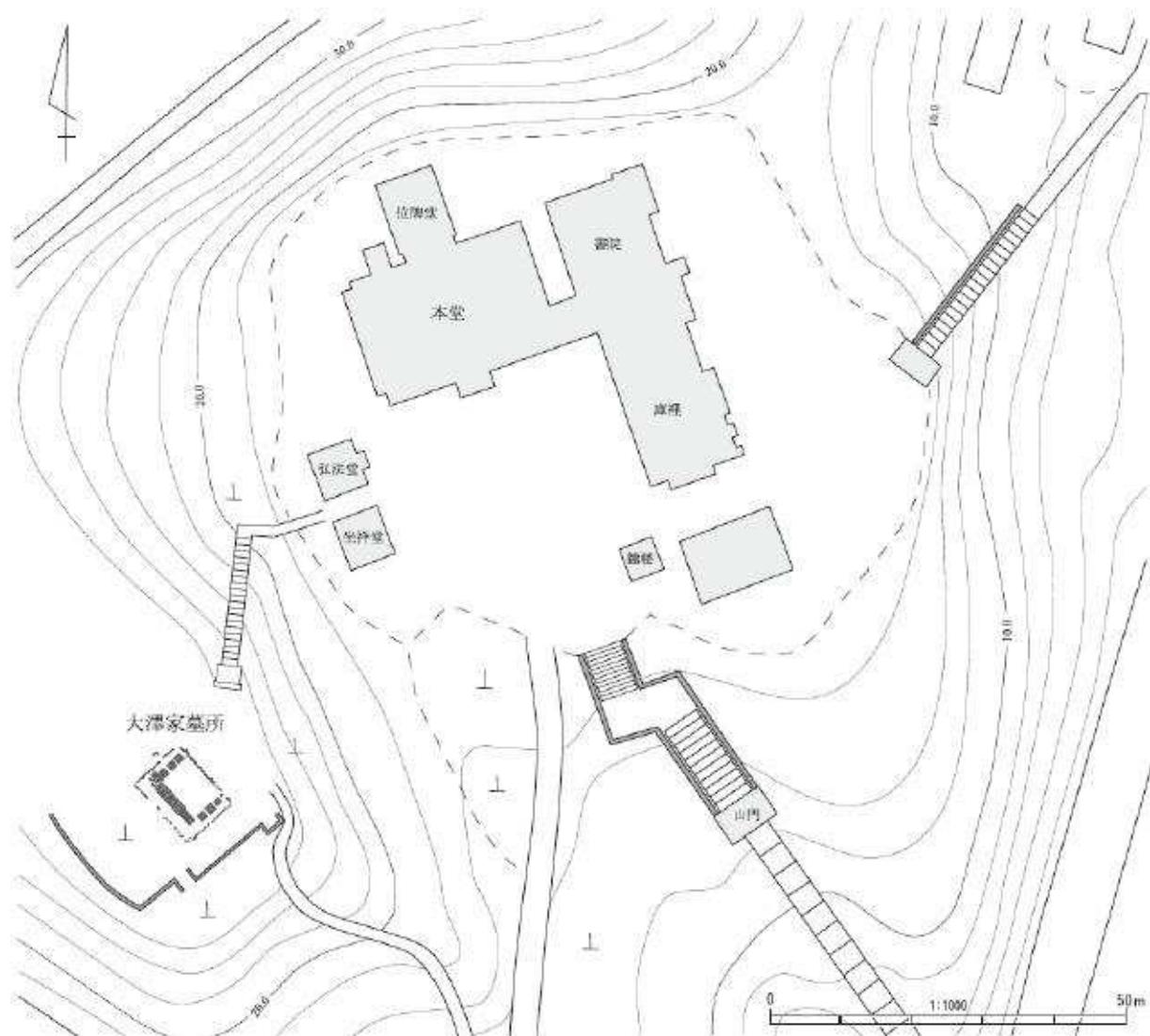
大澤家墓所にかかる2017年の調査（2次調査）において、墓塔基壇内の埋納物が確認できたことの意義は大きい。大澤家当主は2代基重以降、代々江戸において葬られたとみられるが、7代墓の基壇に蔵骨器を想定させる構造物が確認できたことから、遺骨や遺灰、遺髪などが分納されていたとも考えられる。従来、宿蘆寺大澤家墓所のうち、2代以降の石塔は供養塔とみられていたが、7代墓基壇における構造物は領地における帰葬の概念があった可能性を示す遺構として注目できるだろう。

また、4代墓の修復されたモルタルの中に現代の蔵骨器が塗りこめられていたことも興味深い。現代の修復においても、単なる供養塔としてではなく擬似的にせよ墓として認識していたことを示す事例として捉えることができるだろう。

（鈴木一有）



第50図 宿蘆寺位置図



第51図 宿禰寺側壁配置図

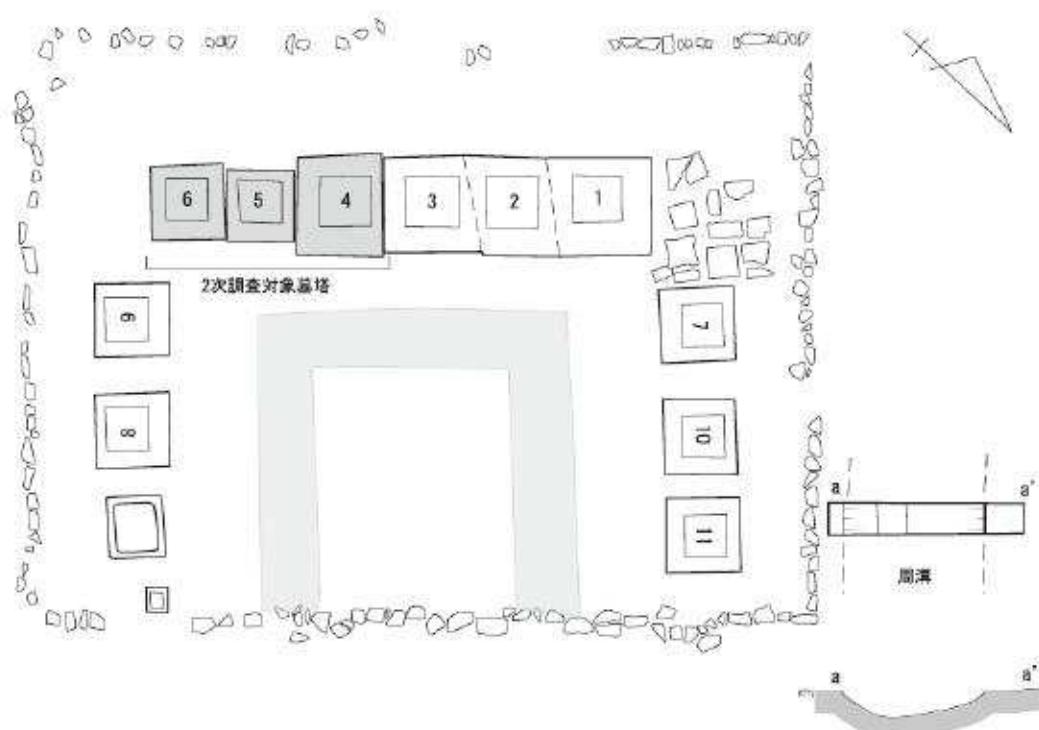
第2表 大塚家石塔一覧

墓塔番号	高家 旗本			或名	没年(西暦)	卒年	塔形	石材	総高(cm)	葬地	官位	石高
1 初代	基宿 (宥)	もといえ	高徳寺殿 龍山真休大居士		寛永十七年正月二十五日 (1640年)	76	五輪塔	花崗岩	372	宿蓮寺	左中将 正四位下 ※2	1550石余
2 2代	基重	もとしげ	康庵寺殿 雄山勝美大居士		寛安三年五月二十六日 (1650年)	49	宝鏡院塔	安山岩	290 ※1	駒込吉祥寺	侍従 従四位下	2550石余
3 3代	基将	もとまさ	真光院殿 瑞巖性實大居士		延宝六年七月二十日 (1678年)	60	宝鏡院塔	安山岩	303 ※1	駒込吉祥寺	左少将 従四位上	〃
4 4代	基恒	もとつね	英輝院殿 天慶連翠大居士		元禄十年閏二月(三月) 二十九日(1697年)	42	宝鏡院塔	粗質 安山岩	304 ※1	駒込吉祥寺	左少将 従四位上	〃
5 5代	基隆	もとたか	鳳月院殿 廣裕大居士神儀		享保十五年七月二十五日 (1730年)	43	五輪塔	安山岩	249	駒込吉祥寺	侍従 従四位下	3550石余
6 7代	定寧	さだやす	體露院殿 一如了玄大居士神祇		安永五年九月十一日 (1776年)	36	五輪塔	花崗岩	247	駒込吉祥寺	侍従 従五位下	〃
7 6代	基朝	もととも	現成院殿 笠翁實心大居士神儀		寛政三年六月十八日 (1791年)	74	五輪塔	花崗岩	270	駒込吉祥寺	侍従 従四位下	〃
8 基之 嫡子	基栄	もとよし	大智院殿 蘆光澤源大居士神儀		文政二年七月五日 (1819年)		五輪塔	花崗岩	253	駒込吉祥寺か	侍従 従五位下	〃
9 8代	基之	もとゆき	祥雲院殿 篠峯道隆大居士神儀		文政五年六月十八日 (1822年)	60 ?	五輪塔	花崗岩	263	駒込吉祥寺か	侍従 従四位上	〃
10 9代	基昭	もとあき	徳院院殿 恭道良溫大居士神儀		嘉永六年十月十六日 (1853年)		五輪塔	花崗岩	250	駒込吉祥寺か	侍従 従四位下	〃
11 10代	基暢	もとのぶ	清源院殿 歸藏宗光大居士神儀		文久二年十月四日 (1862年)		五輪塔	花崗岩	217	駒込吉祥寺か	侍従 従五位下	〃

※1塔高

※2墓塔は「前三位」とする

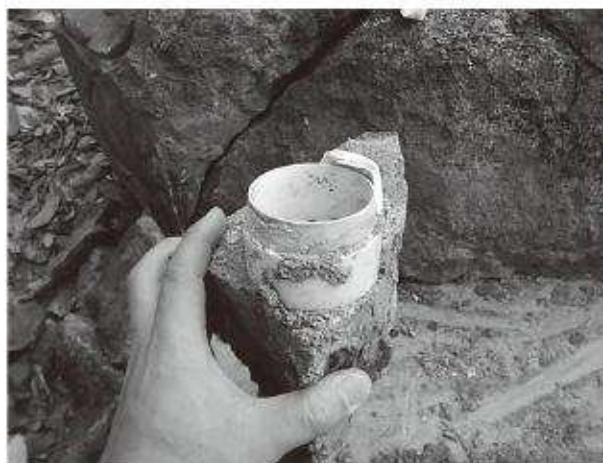
4~6(4・6・7代)が2次調査対象墓塔



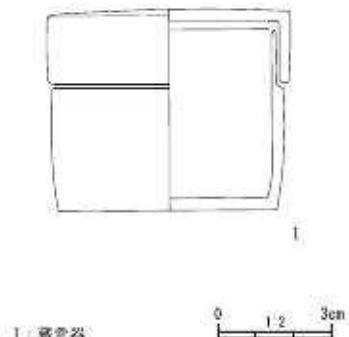
第52図 墓所構造模式図及び調査位置図



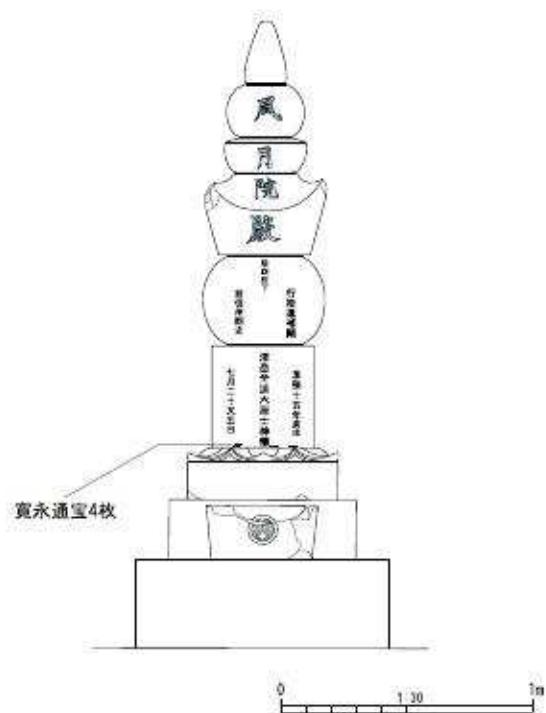
第53図 4代大澤基恒墓



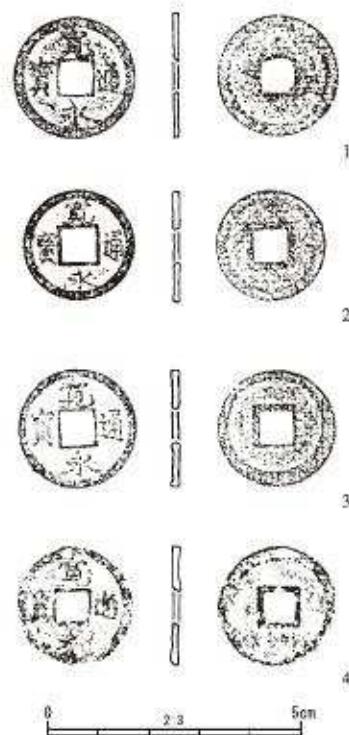
第54図 藏骨器検出状況



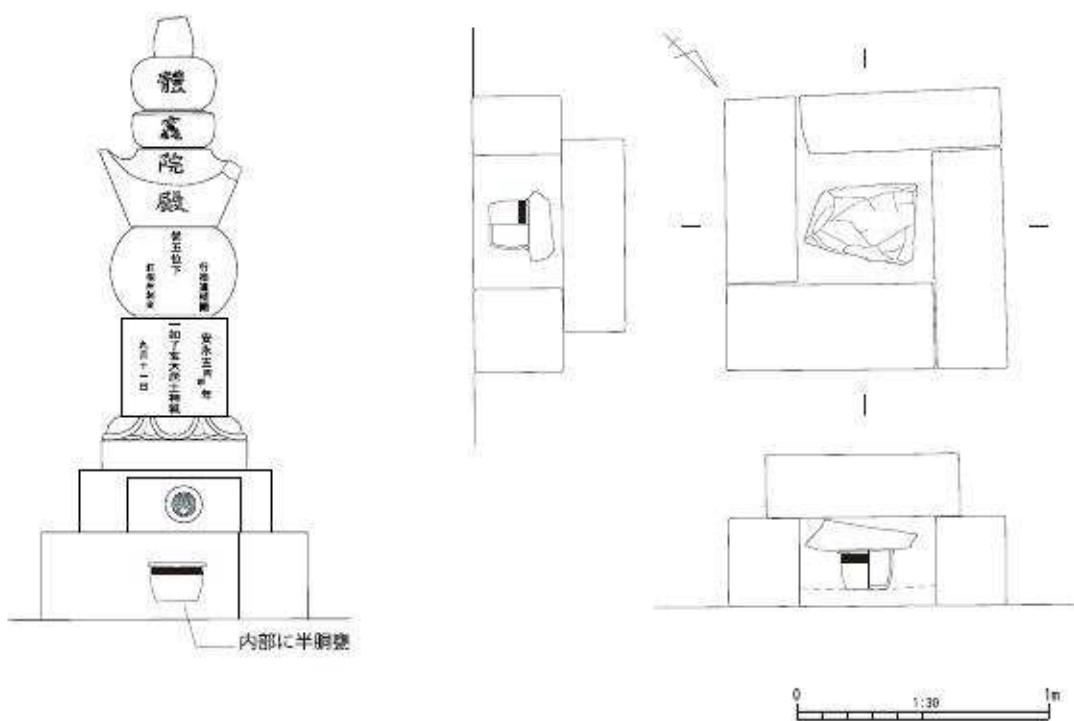
第55図 藏骨器実測図



第56図 5代大澤基隆墓



第57図 寛永通宝実測図



第58図 7代大澤定寧墓及び基壇半胸甕出土状態図



第59図 石基3基の基壇調査状況



第60図 基壇半胸甕出土状況(1)



第61図 基壇半胸甕出土状況(2)

9 浜松市北区三ヶ日町佐久米沖浜名湖内「高屋の瀬」第1次水中考古学調査報告 木村淳

(1) 遺跡の概要と踏査の経緯

調査地の立地と概要 以下本論では、静岡県浜松市北区三ヶ日町佐久米沖浜名湖内「高屋の瀬」における水中考古学調査の報告を行う。湖底の浅瀬部「高屋の瀬」は、かつては陸地であったが、明応7年8月25日（1498年9月11日）の地震で水没した地形との指摘がある。我が国における水中遺跡把握では「自然の営力により陸上の遺跡が水没した場合」を想定しているが（水中遺跡調査検討委員会2017, 3頁）、地震と関連津波による水没地形の形成については、尚、詳細な検討が必要な状況にある。汽水湖十三湖西岸の史跡十三湊の事例では、水面下に遺跡が確認されるが、津波との関連性に関しては、その信憑性について慎重な検討が加えられている（長谷川1995）。一方で、琵琶湖の水中遺跡を中心に、葛籠尾崎湖底遺跡や湖岸の千軒遺跡の研究や調査においては、局所的な地形変化や地震被害が水没遺跡形成要因の検討対象に加えられてきた（小江1950:1966:1977:1982; 林他2012; 中川2016）。

静岡県西部太平洋岸に面する浜名湖は約65kmの面積を有する汽水湖である。現在の汽水湖は、海進期の遠州灘の海面上昇と浜名湖の沈降による入り江の出現、その後の海退期に運ばれた土砂堆積による入り江口の一部塞がりによって形成された。さらに現浜名湖形成には、有史時代以降の少なくとも十数回に及ぶ地震による地形変化が大きく影響しているとされる。1498年の明応の大地震により、浜名湖と海を隔ていた地面が決壊し現在の浜名湖に近い形となった。地震発生時、東海地方の太平洋岸を大津波が襲ったことが、記録されている（文部省震災予防評議会1943, 446頁）。津波の高さは、海岸近く浜名湖口で6~8mあるいは10m近く、浜名湖奥部の北部地域においても数メートルに達したとの試算がある（静岡県1996; 都司他2013）。大地震は、浜名湖湖岸の佐久米から大崎弘法鼻までの広大な田畠、新居町・舞阪町北部の田畠を陥没させるとともに、津波で浜名湖と海を隔ていた地面が決壊して、浜名湖を汽水湖へと変えたと一般に伝えられる。決壊した部分は今切口と呼ばれており、江戸時代後期の「遠江国浜名湖今切港口俯瞰図」には、浜名湖今切口と周辺の新居町・舞阪町の地形の変遷が描かれている。



第62図 浜松市北区三ヶ日町佐久米沖浜名湖内「高屋の瀬」調査地点周辺図(地理院地図電子国土Web)

浜名湖北部の三ヶ日佐久米と新田の湖岸沖の350 m付近には、水深が浅い湖底があり、「高屋の瀬」と呼ばれている。当該水域は、かつて陸上で、集落があったとの伝承があり、明応大地震の被害で、住居の大変が消失したとされる。浜名湖には水準面の変動など自然の営力や地形の変化による水没遺跡の存在が確認されている。昭和42年（1967年）と昭和50年（1975年）の2回の発掘調査が行われた縄文～古墳時代の弁天島遺跡では、満潮時には水没する湖底部分で、かつての陸上生活の痕跡を物語る遺物が検出されている（舞阪町教育委員会1972：1984）。弁天島周辺の遺跡群など、浜名湖南部で水没遺跡が確認されているのと比較して、北部にはそのような例がみられない。一方で、北部においては、地震災害時に被害を受けたとされる湖岸集落や橋（渡し）の伝承が複数残されている。浜名湖北部の湖底で、特に水深が浅くなる「高屋の瀬」の湖底で、伝承の証左となる痕跡があるかを検証するべく、平成29年（2017年）に浜松市地域遺産センター及び東海大学海洋学部海洋文明学科による水中考古学調査が実施された。調査に際して、明応の大地震と「高屋の瀬」伝承の整理を行い、湖岸の踏査及び湖底での潜水調査を実施した。本報告では、水中考古学手法による調査の内容と結果を示し、災害に伴う水没遺跡の所在の可能性についての考察をおこなう。

調査経緯 『三ヶ日町史』に記載のある当該地の水没地形記述と関連伝承は以下となる（三ヶ日町史編さん委員会1976：1979）。

①高屋の瀬と宝田：現在の浜名湖北部、三ヶ日市の湖岸から沖合300メートルほどの地点に数百戸の集落があったという。東北部を宝田といい、そこに宝田寺があったからだという。「高屋の瀬」には、数百戸程の民家があり、明応7年（1498年）8月25日午前8時頃の大地震で陥没し、残れる民家は7戸」と伝えられる。

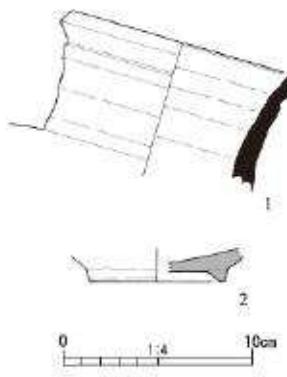
②沖の瀬御殿：現在の浜名湖北西津々崎の沖合数百メートルの湖中に周囲を石垣で巡らせた屋敷跡のような浅い場所がある。地元の人々はそれを沖の瀬御殿と呼び、次のように伝えられている。「昔、この地方の長者に美しい娘がいた。それは気の優しい娘さんであったので、何にもまして可愛がっていた。ところがこの娘さんが胸の病気となり、長者は種々の手段を尽くしたが治らない。浜名湖の岸に御殿を造り、綺麗な景色を眺めながら生活をさせたらというわけで、津々崎の岸に御殿を造り住まわせた。しかし、娘の病気は治らず遂に帰らぬ人となった。その後、御殿は朽ちてなくなり、屋敷跡も海中に没してしまったが、娘の化身の美しい魚がこのところに住んでいて、漁師など時たまそれを見るということである。」

③長橋・七かいの渡し：大崎弘法鼻より庄内の内山に長橋がかかっていたが、「渡し明応大地震大津波により陥没し消失」と伝えられる。また佐久米の高瀬から庄内に七かいの渡しがかけられていたという。この七かいは橋の櫓と思われるが七かい櫓を漕げば渡れるほど狭かったものと思われる。

以上の記載がある「高屋の瀬」とされる浅い湖底付近では、過去に現地調査が試みられている。以下に過去の調査における概要を記す。

①平成4（1992）年3月29日：中日新聞社が郷土史家の大野利治氏、漁師の豊田倉一氏の協力を得て、ダイバー6人で潜水して高屋の瀬の調査を行った。調査結果は、高屋の瀬からは何も発見できなかったが、瀬の広さは東西南北500-600mあり、およそ30町歩の広大な台地の瀬であった。また、深さは2.5-4mであり、石と砂の上に藻が生えている状態であった。周囲の深みはヘドロが堆積していた。（中日新聞）

②平成9（1997）年4月25日：文部省の基盤研究プロジェクトの湖沼研究者（鳥根大学、高安克己教授等）が、静岡県水産試験場浜名湖分場の調査船により、当該地で音波調査とコアリング（柱状サンプル採取）調査を実施。その結果、ヘドロの堆積がひどくて、グランド状の平坦な地形と、



第63図 採集遺物

それに続く断層しか確認できなかつたが、断層は大地震によりできた可能性が高く、今後発生する大規模な地殻変動を予測する上で貴重な資料を得たとされる。(中日新聞)

③平成25(2013)年6月8日：静岡県浜松市の中村次郎氏が、「湖水中遺構調査隊」として数人での調査を実施。ソナー(艇の測深器)を使っての浅瀬の探索、水中眼鏡による目視(船尾から)、錐と糸の測深器による浅瀬の探索
“上記による観測をしながら高屋の瀬周囲をジグザグに移動した。Aによる調査で一瞬ではあるが21mの深いポイントがあった。BとCにおいては成果なし。水の透明度が増す

秋以降に期待したい。測深器の感触から湖底は泥質だと思われる。また、浅瀬は確実に存在すると思われる。”

いずれの調査も「高屋の瀬」湖底での集落の痕跡の特定には至っていない。このような状況の中、2017年に市民から「高屋の瀬」に面した湖岸において土器を採集したとの報告があり、浜松市地域遺産センターへ持ち込まれた。採集品の多くは、近世以降の瓦や陶器片であるが、須恵器と灰釉陶器も含まれており、第63図に図示した。1は須恵器の大型平瓶で、古墳時代後期の遺物である。2は平安時代の灰釉陶器の碗底部である。採集地の近傍に埋蔵文化財包蔵地は存在せず、湖岸において採集された状況から、「高屋の瀬」との関連が想起され、今回の調査を実施する契機ともなった。

(2) 調査の詳細

調査の方法と経過 潜水調査に先立ち、平成29(2017)年8月29日に浜松市地域遺産センター職員及び東海大学海洋学部海洋文明学学生で、遺物採集が行われた三ヶ日町の湖岸、ホテルグリーンプラザ浜松から西へ4km程の範囲で踏査を行った。湖岸の環境と遺物漂着の目視調査、また本調査に使用するボートの離着岸に適した場所があるかの確認を行った。湖岸は貝殻片混じりの砂浜で、ところどころに岩盤の露出がみられた。1時間半ほどの踏査を行った結果、近世の瓦・陶磁器片の散布状況を確認できた。当日は晴天だったが、強風で、湖岸から1m沖では透明度が悪く、海底面の状況は目視できなかった。秋季までは透明度が悪く、透明度が高くなると思われる冬季に踏査を行えば、湖岸からの目視調査状況は改善すると考えられる。



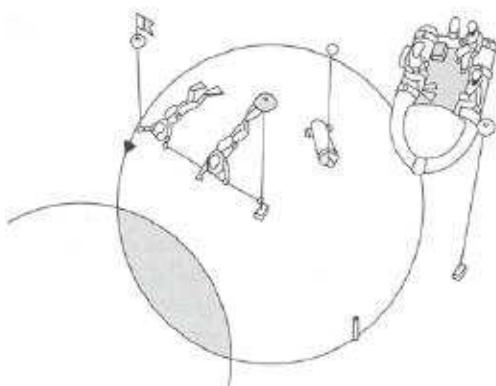
三ヶ日町佐久米沖浜名湖内（高屋の瀬）における潜水調査を、平成29（2017）年9月14日に実施した。調査範囲の設定にあたっては、国土地理院発行の1万分1湖沼図及び国土地理院地図w.e.b版に記載される水深を参照し、2～3mの浅い水域を「高屋の瀬」と推定し、G P S座標（北緯 $34^{\circ} 46' 50.7''$ 、東経 $137^{\circ} 35' 41.3''$ ）を任意の調査基準地点とした。基準地点は、湖岸から375mの水域に位置していたため、静岡県立三ヶ日青年の家より船外機付き小型艇の傭船協力を得て調査を実施した。調査では湖岸からボートに乗船し、G P Sを利用して、調査基準地点まで移動し、基準地点にマーカープイを設置した。調査は、潜水者4名（東海大学教員1名、学生3名）を主体に、サーキュラーサーチ法による湖底面確認、水中金属探知機調査及び水中写真撮影を行った。

サーキュラーサーチ法は、水底面での基準点を基点に、周囲水底を円形に探索する方法で、平坦な水底での遺構・遺物の検出と、その位置関係を把握するのに最も効果的な方法のひとつである（木村他2018）。調査基準地点のマーカープイは、水底でウェイトに固定されるが、そこに長さ50mの測量用テープメジャーの一端を繋げる（第67図）。潜水調査者は、互いに視認できる範囲でテープメジャーに沿って数m間隔に一定の距離を保つようにし、各自が海底面を目視調査する。テープメジャーの保持者は、メジャーが張るようにし、コンパスで自分の位置を把握しながら円形に水中探索を行う。テープメジャーを徐々に伸ばし、調査範囲を拡大する。これを目標範囲の探索が終わるまで繰り返していく。テープメジャー30mの各々75m間隔でサーキュラーサーチを開始し、さらに50mまで伸ばし125m間隔でサーチを行い、約3時間で100m範囲の湖底面目視調査を行った。さらに、基準点から南側に直線で100m距離を目視調査した。80m地点あたりから地形図通り緩やかに水深が深くなる状況が確認できた。しかしながら、遺物等の検出には至らなかった。水底面上あるいは面下に埋没する金属遺物の検出を目的に、目視以外に、水中金属探知機による調査も実施した。しかしながら、遺物検出には至らなかった。

土層堆積状況 サーキュラーサーチの調査範囲での平坦な湖底面は、貝殻片混じりの茶褐色のシルト質の砂で覆われている状況であった。また、湖底面には多数のホヤが分布していた。水草等の繁茂は無く、マゴチ等の底性魚類が数匹見られた。湖底面には、現代の陶磁器片ほか、金属探知機での調査では、近代の鉛製の釣鐘が発見された。現湖底面のシルト質砂層には、近世の遺物が散布している様子は確認できなかった。堆積様相を確認するため、調査範囲を南側直線上に100m延長した湖底で手掘りをおこなった。南側の堆積層は現湖底面から20cm程の深さで、砂混じりの灰色



第65図 静岡県立三ヶ日青年の家調査船と湖面待機



第66図 サーキュラーサーチ法模式図



第67図 湖底の貝殻片とシルト質の砂の堆積状況写真



第68図 湖底面上のホヤ

察を目的に、今回の潜水調査の範囲と同じエリアで調査を行った場合、湖底状況の観察から新たな成果が得られる可能性は低いと思われる。現湖底面上はシルト質砂層で、水深が深くなる調査範囲南側では、湖底面下20cmで堆積層が変化することが確認された。地形が水没することで形成される水中遺跡には、水準面の変動や陸上地形の陥没等が考えられるが、本調査では、津波被害あるいは陸上地形が水没するような災害の痕跡は確認できなかった。本調査の成果として、深度が極めて浅い水域の存在の特定とその湖底面上の環境の把握があげられる。今後の調査においては、当該水域での局所的なコアリング等により、湖底面下の堆積状況などから、水没地形であるのかを判断する必要があるとも考えられる。

本報告は、東海大学海洋学部海洋文明学科提出の中野光太郎による学位論文研究の成果を踏まえて、執筆したものである。調査の実施にあたっては、浜松市地域遺産センターの鈴木一有氏、井口智博氏により指導・助言を賜った。また静岡県教育委員会文化財保護課の河合修氏に協力を頂いた。静岡県立三ヶ日青年の家より調査支援へ快諾頂き、調査船・警戒船の提供があり、職員の方々の湖面上での安全管理において多大な協力を賜った。また気賀漁協より、調査実施への理解のうえで、安全上の配慮を賜った。調査前及び期間中には、浜松市の中村次郎氏ほか、地域の方から、貴重な情報提供をうけた。末筆ながら、感謝申し上げる次第である。

(東海大学 木村淳)

粘土層に変わることが認められた。周囲の地形と比べて水深が浅い「高屋の瀬」湖底は、堆積様相第67図 湖底の貝殻片とシルト質の砂の堆積状況写真

が砂層から粘土層に変わるが、固く締まった底質をしていることが確認された。先行研究では、「高屋の瀬」周囲の湖底にはヘドロが堆積していることが報告されていたが、今回の調査で目視した限りでは、ヘドロのような軟質の底質は確認できなかった。

(3) 結語

本報告は、明応の大地震による水没地形とされる浜松市北区三ヶ日町佐久米沖浜名湖内「高屋の瀬」の考古学的検証を目的に行なった調査の概要と結果である。当該水域には、水深2~3mの湖底面が広がっており、この範囲を「高屋の瀬」と想定し、水中考古学手法による潜水調査を実施した。調査では最も浅い湖底箇所に基準点を設置、その周囲、直径100mの円形範囲で目視調査を行うも、比較的起伏変化の少ない地形が拡がっているのみで、かつての陸地であったことを示唆する遺物は確認できなかった。

今後、本調査と同じ目視による湖底面の観

参考文献

- 小江慶雄 1950『琵琶湖底先史土器序説』学而堂書店
- 小江慶雄 1966「Deep-Water Archaeology の課題：琵琶湖深湖底遺跡の調査を中心として」『京都学芸大学紀要 A 文科』28, 49-65 頁
- 小江慶雄 1977『琵琶湖水底の謎』講談社。
- 小江慶雄 1982『水中考古学入門』NHK ブックス 421 日本放送出版協会
- 木村淳・小野林太郎・丸山 真史（編） 2018『海洋考古学入門：方法と実践』東海大学出版部
- 静岡県 1996『静岡県史 別編2 自然災害誌』静岡県
- 水中遺跡調査検討委員会 2017『水中遺跡保護の在り方について：報告』文化庁
- 都司嘉宣・矢沼隆・細川和弘・岡部隆宏・堀池泰三・小網 汪世 2013『明応東海地震（1498）による静岡県沿岸の津波被害、および浸水標高について』『津波工学研究報告』第30号, 123-141 頁
- 中川永 2016『西浜千軒遺跡・琵琶湖湖底遺跡の調査・研究』滋賀県立大学琵琶湖水中考古学研究会
- 文部省震災予防評議会（編） 1943『大日本地震史料：増訂、第1巻 自懿德天皇御宇 至元祿7年』震災予防協会
- 長谷川成一 1995『近世十三湊に関する基礎的考察』『国立歴史民俗博物館研究報告』64, 237-255 頁
- 林博通・原口強・釜井俊孝 2012『地震で沈んだ湖底の村：琵琶湖湖底遺跡を科学する』サンライズ出版
- 舞阪町教育委員会 1972『浜名湖弁天島海底遺跡発掘調査概報』舞阪町教育委員会
- 舞阪町教育委員会 1984『浜名湖弁天島海底遺跡第2次発掘調査概報』舞阪町
- 三ヶ日町史編さん委員会 1976『三ヶ日町史上巻』三ヶ日町
- 三ヶ日町史編さん委員会 1979『三ヶ日町史 下巻』三ヶ日町

10 浜松市内採集の陶馬

(1) 報告の経緯と遺跡の概要

報告の経緯 2016年6月に浜松市内に存在するかわら塚遺跡の範囲内で、陶馬が1点、市民により採集された。採集された地点は国道1号線沿いにある水田の間を通る通路である。また、2014年12月には浜松市南区楊子町にある楊子橋の工事中に陶馬が1点採集された。

浜松市内において馬形土製品である土馬、陶馬は数多く出土、採集されており、古代の祭祀を考察する上で重要な遺物である。今まで未報告であったため、採集された2点の陶馬について報告する。

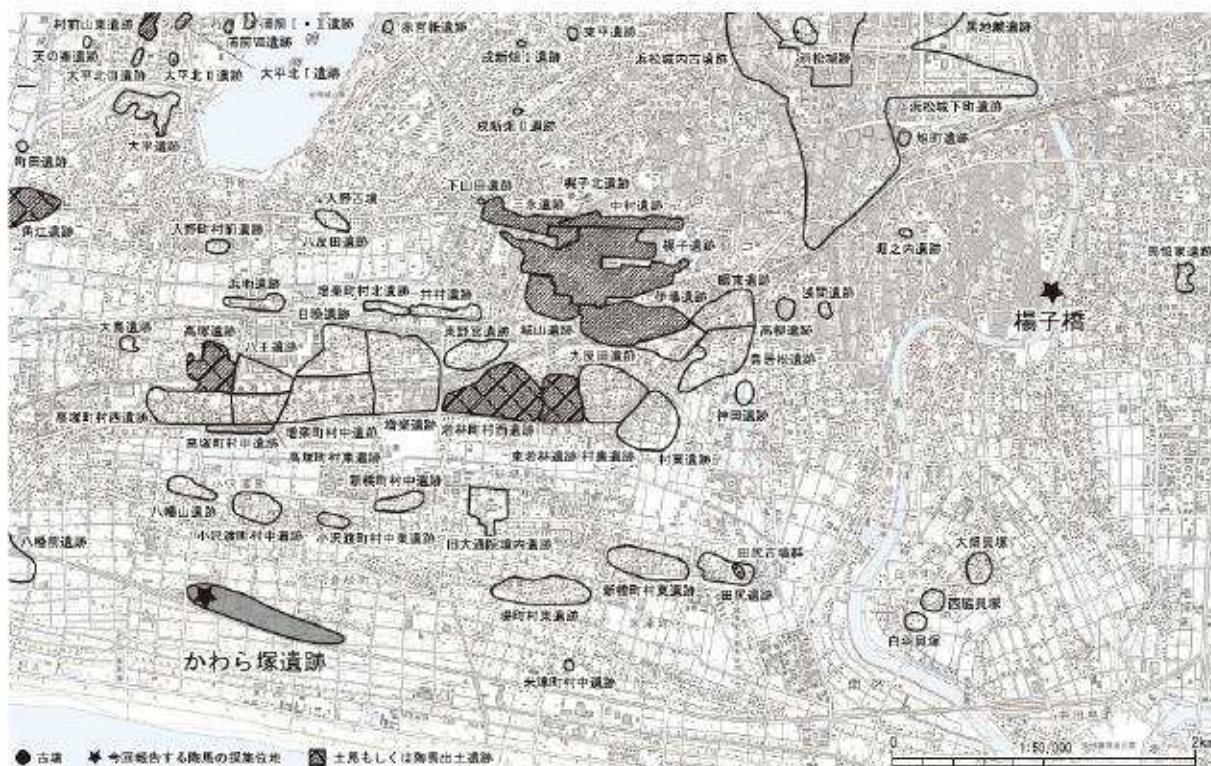
遺跡の概要 かわら塚遺跡は南区倉松町に所在する。当遺跡では、発掘調査が行われていないため、遺跡の詳細は不明だが、市民より奈良時代の土師器の甕や須恵器の甕の破片が博物館に持ち込まれている（浜松市博物館1993）。

楊子橋は南区楊子町にある馬込川に架かる橋である。周辺において埋蔵文化財包蔵地として登録されている遺跡は存在しない。

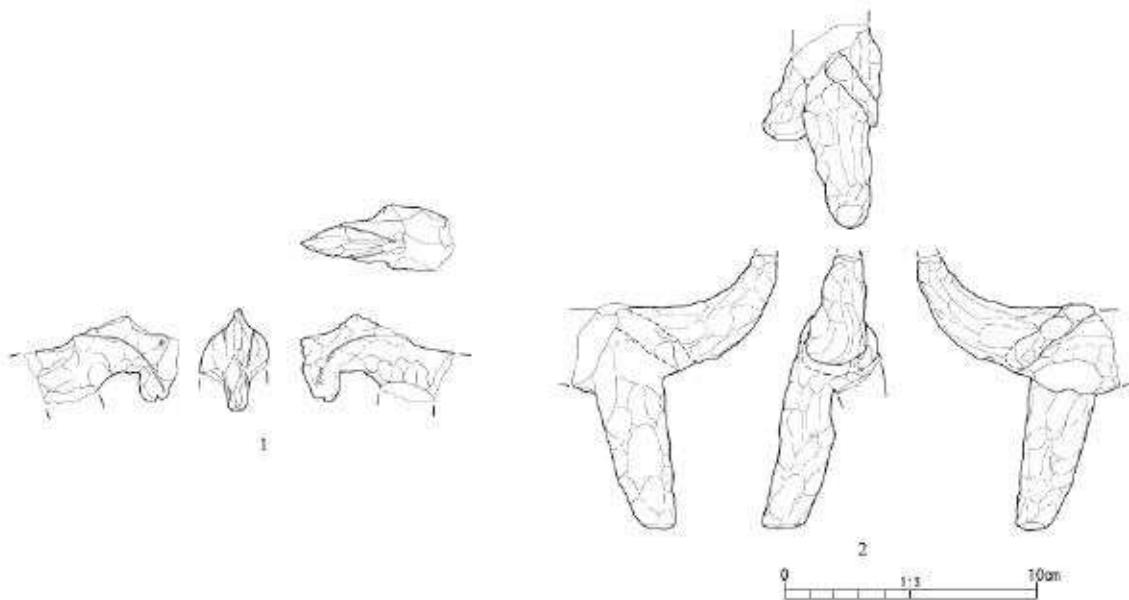
(2) 採集遺物

かわら塚遺跡採集遺物 1の陶馬は胴体の後半部と前脚を欠いている。たてがみはつまみだし、頭部は胴部から折り曲げて作っている。口と手綱を表現しており、口は棒状のものでへこませ、手綱は口元からたてがみにかけて線刻で表している。いわゆる飾馬である。脚は胴体に貼り付けた痕跡が見られる。右側面のたてがみ部分には刺突した表現がみられる。目ではなく耳を表現しているように見える。

手綱を線刻で表現している陶馬は、浜松市内では東区の恒武西浦遺跡や西区の東前遺跡、北区の川久保遺跡において出土している。



第69図 かわら塚遺跡と楊子橋の位置と周辺の遺跡



第70図 市内採集陶馬実測図

楊子橋採集遺物 2は陶馬の左脚と尾部である。尾部ははね上がり、尻繁が貼り付けて表現されている飾馬である。脚は胴部に貼り付けている。馬具を貼り付けて表現している陶馬は、浜松市内では中区の梶子北遺跡、伊場遺跡、中村遺跡、南区の上組遺跡、東区の山の神遺跡、浜北区の篠場瓦窯跡、北区の川久保遺跡で出土している。



第71図 市内採集陶馬

(3) 結語

古代において祭祀に用いられたとされる馬形土製品は、台地上や井戸、窯跡などから採集、出土することもあるが、河川跡や溝、湿地などといった遺構内で出土する事例が多い。今回報告した2点の陶馬については、発掘されていないので遺構は不明であるが、採集された場所は現代の水田や河川といった水辺の付近であった。

馬形土製品が祭祀においてどのように使われたのか、明確ではない。土師質の土馬はまとまって大量に出土する例として浜松市内では東区の西畠屋遺跡があげられる。しかし、須恵質の陶馬は窯跡以外では少量もしくは単体で出土することが多い。土馬と陶馬では出土する量に差異があり、今まで陶馬がまとまって大量に出土した事例がないため、古代の祭祀において土馬と陶馬は使用方法が異なった可能性がある。
(北澤志穂)

引用・参考文献

財団法人浜松市文化協会 1999『西畠屋遺跡 1999』

財団法人浜松市文化振興財団 2009『舞阪町天白遺跡』

浜松市博物館 1993「浜松最南端の遺跡発見—浜松市かわら塚遺跡—」『浜松市博物館情報』第19号

平成 29 年度 浜松市文化財調査報告

2019年 3月 29日

発行 浜 松 市 教 育 委 員 会
(浜松市文化財課が補助執行)

印刷 株 式 会 社 川 島 商 会